公立沖縄北部医療センター新築工事（建築）
構造図面リスト（病院棟）

図面番号	図　面　名　称	図面番号	図　面　名　称	図面番号	図　面　名　称	図面番号	図　面　名　称
	（構造図）						
S－00	図面リスト	S－31	PH2階柱梁・PH2階梁床伏図、R階梁床伏図	S－62	擁壁配筋詳細図（3）	S－93	PH2階・R階スリーブ図
S－01	構造特記仕様書（1）	S－32	柱芯線図	S－63	擁壁配筋詳細図（4）	S－94	PC梁貫通孔補強材設計・施工標準仕様書
S－02	構造特記仕様書（2）	S－33	軸組図（1）	S－64	配筋詳細図	S－95	梁貫通孔補強材設計・施工標準仕様書
S－03	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（1）	S－34	軸組図（2）	S－65	屋内鉄骨階段詳細図		
S－04	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（2）	S－35	軸組図（3）	S－66	屋外鉄骨階段詳細図		
S－05	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（3）	S－36	軸組図（4）	S－67	架構配筋図（1）		
S－06	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（4）	S－37	軸組図（5）	S－68	架構配筋図（2）		
S－07	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（5）	S－38	軸組図（6）	S－69	－		
S－08	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（6）	S－39	軸組図（7）	S－70	鉄筋トラス付捲型枠工法標準図		
S－09	鉄骨構造標準図（1）	S－40	軸組図（8）	S－71	機械式定着工法　標準書		
S－10	鉄骨構造標準図（2）	S－41	軸組図（9）	S－72	機械式継手工法　標準書		
S－11	鉄骨構造標準図（3）	S－42	軸組図（10）	S－73	プレストレストコンクリート工事特記仕様書		
S－12	鉄骨構造標準図（4）	S－43	軸組図（11）	S－74	PC梁各階KEYPLAN		
S－13	鉄骨構造標準図（5）	S－44	軸組図（12）	S－75	PC梁断面リスト1・配線図1		
S－14	免震構造特記仕様書（1）	S－45	軸組図（13）	S－76	PC梁断面リスト2・配線図2		
S－15	免震構造特記仕様書（2）	S－46	軸組図（14）	S－77	PC梁断面リスト3		
S－16	免震構造特記仕様書（3）	S－47	杭リスト	S－78	配線図3		
S－17	免震構造特記仕様書（4）	S－48	基礎・免震基礎リスト	S－79	PC梁断面リスト4・配線図4		
S－18	ボーリング柱状図（1）	S－49	免震材料リスト（1）	S－80	PC梁断面リスト5・配線図5・詳細図1		
S－19	ボーリング柱状図（2）	S－50	免震材料リスト（2）	S－81	詳細図2		
S－20	杭伏図	S－51	基礎梁リスト	S－82	杭頭半固定工法基準図（1）		
S－21	基礎ピット伏図	S－52	柱リスト（1）	S－83	杭頭半固定工法基準図（2）		
S－22	免震ピット伏図	S－53	柱リスト（2）	S－84	杭頭半固定工法基準図（3）		
S－23	免震装置配置図	S－54	大梁リスト（1）	S－85	ピットスリーブ図		
S－24	1階柱梁・1階梁床伏図	S－55	大梁リスト（2）	S－86	1階スリーブ図		
S－25	2階柱梁・2階梁床伏図	S－56	大梁リスト（3）	S－87	2階スリーブ図		
S－26	3階柱梁・3階梁床伏図	S－57	大梁リスト（4）	S－88	3階スリーブ図		
S－27	4階柱梁・4階梁床伏図	S－58	小梁・床版・壁リスト	S－89	4階スリーブ図		
S－28	5階柱梁・5階梁床伏図	S－59	鉄骨部材リスト	S－90	5階スリーブ図		
S－29	6階柱梁・6階梁床伏図	S－60	擁壁配筋詳細図（1）	S－91	6階スリーブ図		
S－30	PH1階柱梁・PH1階梁床伏図	S－61	擁壁配筋詳細図（2）	S－92	PH1階スリーブ図		

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）			図面名称	構造図面リスト（病院棟）		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9			縮　尺	【A1】 －　【A3】 －	図面番号	S － 00
発注機関	沖縄県北部医療組合			設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度				代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号　福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘　要					所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検　印	管理建築士	設　計	製　図		一級建築士	山田　剛	登録番号　登録第310062号
					一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号　登録第335522号 第9280号
					一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号　登録第173320号 第1058号

建築物の構造概要

（１）工事名称　公立沖縄北部医療センター
建築場所　沖縄県名護市大北1丁目15-9 他
（２）設計年月　令和６年９月
（３）工事種別　■新築　□増築　□増改築　□改築
（４）構造種別　鉄筋コンクリート造（ＲＣ造）
（５）構造形式　基礎免震構造（上部構造はラーメン構造）
（６）基礎形式　杭基礎
（７）階数
地上 6 階　地下 ___ 階　塔屋 2 階
（８）主要用途　病院
（９）構造計算ルート
□ルート１（　□ルート１－１　□ルート１－２　）　□限界耐力計算又は同等以上の構造計算
□ルート２（　□ルート２－１　□ルート２－２　）　■時刻歴応答解析
□ルート３　□その他
（１０）重要度係数等の考慮の有無
□無
■有（□１．５（Ⅰ類）　□１．２５（Ⅱ類）　□１．０（Ⅲ類）　）
（■その他：免震構造　）

特記仕様書の適用

１．標準仕様
図面及び特記仕様に記載されていない事項は，国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和４年版）」（以下，標仕という。）による。
２．特記仕様
(1) 項目は，番号に◯ 印の付いたものを適用する。
特記事項は，◯ 印の付いたものを適用する。
◯ 印の付かない場合は，※印の付いたものを適用する。
◯ 印と ⊗ 印の付いた場合は，共に適用する。
(2) 各章の章，節，項の番号は，標仕の当該番号に対応する。
(3) （表　）（図　）の番号は標仕の当該表または図の番号を表す。
(4) G 印は「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）」の特定調達品目を示す。
(5) 図中の「付加」は，標仕にない特記事項を示す。

４章　地業工事

２節　試験及び報告書

⊙4.2.2 試験杭
(1) 試験杭の位置及び本数　※ 最初の１本　⊙ 設計図による
試験杭の杭長は本杭と同じとする。

・4.2.3 杭の載荷試験
(1) 鉛直載荷試験　※ 行わない　・ 行う　（ 次による）
水平載荷試験　※ 行わない　・ 行う　（ 次による）
鉛直載荷試験：　杭径（　φ）　個所数（　ヵ所）　最大載荷荷重（　ｋＮ）
水平載荷試験：　杭径（　φ）　個所数（　ヵ所）　最大載荷荷重（　ｋＮ）
(2)(3) 試験位置・試験方法及び報告書の記載事項は設計図による。

・4.2.4 地盤の載荷試験
(1) 平板載荷試験　※ 行わない　・ 行う　（次による）
(2) 個所数（　ヵ所）　試験深さ（ＳＧＬ－　m）
対象地盤（　）　最大載荷荷重（　ｋＮ/m²）
(4) 試験位置・試験方法及び報告書の記載事項は設計図による。

３節　既製コンクリート杭地業

・4.3.3 材料
(1) 杭径・杭長・種別・長期許容支持力　※ 設計図による
(2) 先端部形状　※ 開放型　・ 閉塞平たん形

・4.3.4 セメントミルク工法
(1) 根固め液の使用　※ あり　・ なし
杭周固定液の使用　※ あり　・ なし
(6) アースオーガーの支持地盤への掘削深さ　１．５m　程度
※ 杭先端深さ　支持層より　１．０m以上
※ 杭の高止まり　０．５m以下

・4.3.5 特定埋込杭工法
(1) 工法　・ プレボーリング拡大根固め工法
・ 中掘り拡大根固め工法
・ その他（　）
杭周固定液　※ 使用する　・ 使用しない

・4.3.6 継手
(1) 杭の継手　・ 建築基準法に基づく指定機関において性能評定を受けた無溶接継手
・ 溶接継手

・4.3.8 杭頭の処理等
(1) 杭頭処理　※ 切断しない　・ 切断する
ネガティブフリクション対策　※ 無　・ 有（設計図による）
付加 杭頭補強筋は，設計図による。

４節　鋼杭地業

・4.4.1 一般事項
工法　・ 特定埋込杭工法　（　工法）

・4.4.3 材料
(1) 杭径・杭長・種別・長期許容支持力　※ 設計図による

・4.4.5 継手
(1) 杭の継手　・ 建築基準法に基づく指定機関において性能評定を受けた無溶接継手
・ 溶接継手

・4.4.6 杭頭の処理等
4.3.8 による

５節　場所打ちコンクリート杭地業

⊙4.5.1 一般事項
(2) 工法　⊙ アースドリル工法　・ リバース工法
・ オールケーシング工法　・ その他（　）

⊙4.5.4 材料その他
(1) 鉄筋　５章による
(2) コンクリート　※ 高炉セメント　・ その他（　）
設計基準強度　３６　N/mm²
・ Ａ種　※ Ｂ種
コンクリートの強度補正　設計基準強度を満足させるよう定める
付加 杭径・杭長・長期許容支持力　※ 設計図による
付加 鋼管の使用　※ なし　⊙ あり

⊙4.5.5 アースドリル工法、リバース工法及びオールケーシング工法
(3) 超音波測定器による孔壁測定　・ 行う　⊙ 行わない

６節　砂利，砂，捨コンクリート地業等

⊙4.6.2 材料
(1) 砂利地業の材料　※ 再生クラッシャラン　・ 切込み砂利及び切込み砕石

⊙4.6.3 砂利及び砂地業
(1) ・ 直接基礎床板下　※ ６０mm　・ １００mm　・ １５０mm
⊙ 杭基礎床板下　※ ６０mm
⊙ 基礎梁下　※ ６０mm
⊙ 土間スラブ下(注)　⊙ ６０mm　・ １００mm　・ １５０mm
注）「土間スラブ」は，土に接する構造スラブのことをいう。
⊙ 土間コンクリート下　・ １５０mm　⊙ １００mm

⊙4.6.4 捨コンクリート地業　付加
(1) 厚さ　※ ５０mm　・ その他（　）
(2) (1)以外の項目は６章１４節による。
・ 土間スラブ下(注)　（　mm）　・ 土間コンクリート下　（　mm）
注）「土間スラブ」は，土に接する構造スラブのことをいう。

・ 付加 置換コンクリート地業
コンクリートの種別　※ 普通コンクリート
※ 設計基準強度　１８N/mm²　（ 構造体強度補正は行わない）

・ 付加 地盤改良地業
工法　工法名：（ 設計図による ）
・ 浅層混合処理工法　適用範囲，仕様及び計測，試験は設計図による
・ 深層混合処理工法　適用範囲，仕様及び計測，試験は設計図による
六価クロム溶出試験　※ 行う　・ 行わない
本節による，直接基礎，置換コンクリート地業及び地盤改良地業の支持層，長期許容支持力は下記による
・長期設計支持力度は設計図による。
・支持地盤は設計図による。

５章　鉄筋工事

２節　材料

⊙5.2.1 鉄筋
異形鉄筋ＳＤはＤ３８以下，丸鋼ＳＲ２３５及びＳＲ２９５は１３mm以下に適用する。
鉄筋の種類

規格名称	種類の記号	使用箇所	呼び径（mm）	備　考
異形鉄筋（鉄筋コンクリート用棒鋼）JIS G 3112	⊙ＳＤ２９５	設計図による	Ｄ１０～Ｄ１６	
	⊙ＳＤ３４５	設計図による	Ｄ１９～Ｄ２５	
	⊙ＳＤ３９０	設計図による	Ｄ２９～Ｄ３８	
	⊙ＳＤ４９０	設計図による	Ｄ４１	
溶接閉鎖型せん断補強筋（大臣認定品または性能評価取得品）	・ＳＤ２９５Ａ			
	・ＳＤ２９５Ｂ			
高強度せん断補強筋（大臣認定品または性能評価取得品）	⊙ＳＰＲ７８５	設計図による	Ｔ１３	
	・			

閉鎖型補強筋及び高強度せん断補強筋は材料の品質・加工方法ともに建築基準法に基づく性能評価の条件を満足するものとする。

⊙5.2.2 溶接金網
(1) 溶接金網、鉄筋格子の寸法、径　JIS G 3551

種　類	記　号	使用箇所	呼び径・寸法・形状	備　考
溶接金網	ＷＦＰ	鉄骨階段踏面	φ6-100x100	ＪＩＳ規格品
		防水層保護コンクリート		
		配管埋設用コンクリート		
		スラブ内埋設管の集密部分		
鉄筋格子	ＳＤ２９５Ａ	壁・スラブ開口補強	Ｄ１０、Ｄ１３	

３節　加工及び組立

⊙5.3.4 継手及び定着
(1) 継手の工法　（設計図による）

部位など	継手工法と適用径の範囲	
柱主筋	※ 重ね継手（　）	⊗ ガス圧接（ Ｄ１９～Ｄ４１ ）
	・ 溶接継手（　）	⊙ 機械式継手（ Ｄ１９～Ｄ４１ ）
梁主筋	※ 重ね継手（　）	⊗ ガス圧接（ Ｄ１９～Ｄ４１ ）
	・ 溶接継手（　）	⊙ 機械式継手（ Ｄ１９～Ｄ４１ ）
スラブ、壁筋	※ 重ね継手（ Ｄ１０～Ｄ１６ ）	・ ガス圧接（　）
	・ 溶接継手（　）	・ 機械式継手（　）
杭主筋	※ 重ね継手（　）	※ ガス圧接（　）
	・ 溶接継手（　）	・ 機械式継手（　）

付加 定着板の有無　※ 無　⊙ 有（設計図による）
使用箇所については、最上階柱頭部柱主筋及びD32以上の梁主筋とする。

⊙5.3.5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔
(1) コンクリートのかぶり厚さ
※ 最小かぶり厚さに１０mm加える
耐久性上不利な個所のかぶり厚は次による。

施工個所	最小かぶり厚さに加える寸法　（ mm ）
外気に接する打放し面	※　１０

付加 かぶり厚さは目地底から算定する
付加 設計図にて寸法指定個所を除き，設計図に示す鉄筋本数を等間隔に割り付ける。
付加 特殊な鉄筋継手のあき　※ 設計図による。

４節　ガス圧接

⊙5.4.10 圧接完了後の圧接部の試験　付加
検査及び試験の要領は（公社）日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書　ガス圧接継手工事」による。
(4) 抜取試験の方法
※ 超音波探傷試験　・ 引張試験
付加 引張試験の試験機関は原則として公的試験所とする。
付加 超音波探傷試験の試験従事者は当該工事のガス圧接作業に従事しない者とし，技量及び経験の証明となる資料により監理者の承諾をうける。超音波試験の検査ロットは引張試験と同様とする。試験方法・判定基準は、JIS Z 3062によるものとし、試験の要領は（公社）日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書　ガス圧接継手工事」による。

付加 継手が溶接その他の特殊な工法による場合の試験は，前２号に準ずる抜取試験を行う。
付加 超音波探傷試験の試験技術者は（公社）日本鉄筋継手協会による鉄筋継手部検査技術資格者1G種、2種あるいは3種とする。
圧接完了後の試験の抜取率及び判定基準

試験方法	ロット区分及び試料数	ロット当たりの抜取本数及び抜取り率	判定基準
引張試験	同一作業班が一日に施工した圧接個所かつ２００ヵ所程度以下を１ロットとする	引張試験抜取本数（※ ３本　・　）	引張試験では試料のすべてが，「最大引張強さが母材規格強度以上」を満足すること。超音波探傷試験ではJIS Z 3062に示す判定基準にてすべての個所が合格すること。不合格の場合は，5.4.11による。
超音波探傷試験		超音波探傷試験の抜取率（※ ３０本　・　）	

５節　機械式継手

・5.5.1 一般事項
特殊な機械式継手の使用については，設計図にない場合は監理者に相談の上，設計者の了解を得ること。
告示１４６３号に示す（※ Ａ級　・　）工法：（　）

６節　溶接継手

・5.6.1 一般事項
特殊な溶接継手の使用については，設計図にない場合は監理者に相談の上，設計者の了解を得ること。
告示１４６３号に示す（※ Ａ級　・　）工法：（　）

付加　その他配筋
⊙ 付加 帯筋の組立て
⊙ Ｈ形　・（スパイラル）ＳＰ形　・ 溶接閉鎖形

⊙ 付加 梁貫通孔の補強
※ Ｈ形　・ ＨＭ形　・ Ｍ形　※ 既製品
・ スリーブ図に無い貫通孔が，必要な場合においても補強対象とし，本工事に含むものとする。
・ 施工者側の理由により貫通孔が追加となる場合は，増減対象とみなさない。

６章　コンクリート工事

２節　コンクリートの種類及び品質

⊙6.2.1 コンクリートの種類
⊙6.2.2 コンクリートの強度
⊙6.2.4 ワーカビリティー及びスランプ

コンクリートの種類

番号	コンクリート種別	設計基準強度 Ｆｃ（N/mm²）	所要スランプ（ｃｍ）	単位水量の上限値（kg/m³）	構造体強度補正値の有無	使用箇所
1	高強度コンクリート	Ｆｃ３６	１５	１８５	有	免震下部基礎・基礎梁・擁壁
2	高強度コンクリート	Ｆｃ３６	１５	１８５	有	2階地中梁、2階擁壁
3	高強度コンクリート	Ｆｃ３６	１８	１８５	有	1階床～3階柱・4階床
4	普通コンクリート	Ｆｃ３３	１８	１８５	有	4階柱・5階床以上
5	普通コンクリート	Ｆｃ２１	１５	１８５	無	土間コン・押えコン
6						
7						
8						
9						
１０						

(1) レディーミクストコンクリートの種別
※ Ⅰ類(JIS Q 1001 及び JIS Q 1011 に基づき、JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート)
・ Ⅱ類(Ⅰ類以外のJIS A 5308に適合したコンクリート)
(3) 建築基準法第37条第二号に規定する国土交通大臣の認定を受けたコンクリートの使用　※ 無　・ 有

特殊な要求性能	適用範囲	措　置

⊙6.2.3 気乾単位容積質量
(1) 普通コンクリートの気乾単位容積質量
※ ２．３ t/m³　・（　）t/m³

⊙6.2.5 構造体コンクリートの仕上り
(2) 合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げの種別
※ 建築特記による。

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9
発注機関	沖縄県北部医療組合
工事年度	令和　7　年度
摘　要	

検　印	管理建築士	設　計	製　図

図面名称	構造特記仕様書（１）		
縮　尺	【A1】 －　【A3】 －	図面番号	Ｓ － 01

設計者			
JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体		
代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録第 1-12326 号
所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16		
一級建築士	山田　剛	登録番号	登録第310062号
一級建築士 株式会社内藤建築事務所	末吉　謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9280号
一級建築士 株式会社内藤建築事務所	丸山　茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号

３節　コンクリートの材料及び調合

⊙6.3.1
コンクリートの材料

(1) セメントの種類

種　類	使用箇所（コンクリート番号）
※ 普通ポルトランドセメント	１，２，３，４，５
・ 高炉セメントＢ種	

(2) 骨材

細骨材及び混合細骨材

・ フェロニッケルスラグ細骨材 G 使用部位（　　）

・ 銅スラグ細骨材 G 使用部位（　　）

・ 電気炉酸化スラグ細骨材 G 使用部位（　　）

砂利及び砂のアルカリシリカ反応性による区分　※ Ａ　・ Ｂ

砕石及び砕砂のアルカリシリカ反応性による区分　※ Ａ　・ Ｂ

(4) 混和材料

(a) 混和剤の種類及び適用（下記のものを使用可とする）

種　類	備　考
・ ＡＥ剤	
・ 高性能減水剤	
・ 減水剤	
⊙ ＡＥ減水剤	
⊙ 高性能ＡＥ減水剤	単位水量の上限値を守れない場合
・ 流動化剤	

付加　促進型のものは原則として使用しない。

付加　現場にて使用する流動化剤については，施工性及び品質を考慮の上，決定すること。

(b) 混和材の種類及び適用（下記のものを使用可とする）

種　類	備　考
・ 高炉スラグ	
⊙ 防水材	擁壁
・ 膨張剤	合成スラブ

付加　上記の混和材を用いる場合には、品質及び供給の安定性を確認すること。

⊙6.3.2
コンクリートの調合

(7) 調合管理強度は，設計基準強度Ｆｃに，下表に示す構造体強度補正値（Ｓ）を加えた値以上，かつ，品質に関する規定を満たすものとする。
構造体強度補正値（Ｓ）は下表により，セメントの種類及びコンクリートの打ち込みから材齢28日までの予想平均気温に応じて定める。

表6.3.2 構造体強度補正値（Ｓ）の標準値

セメントの種類	コンクリートの打ち込みから材齢28日までの予想平均気温θの範囲（℃）	
普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種 フライアッシュセメントA種	0≦θ＜ 8	8≦θ
早強ポルトランドセメント	0≦θ＜ 5	5≦θ
中庸熱ポルトランドセメント	0≦θ＜11	11≦θ
低熱ポルトランドセメント	0≦θ＜14	14≦θ
高炉セメントB種	0≦θ＜13	13≦θ
フライアッシュセメントB種	0≦θ＜ 9	9≦θ
普通エコセメント	0≦θ＜ 6	6≦θ
構造体強度補正値(S) (N/mm²)	6	3

８節　型枠

⊙6.8.1
型枠一般

(4) 外部に面するコンクリート打放し仕上げの場合の打増し厚さ
※ ２０mm　・ ２５mm　・ １０mm　・　mm

(5) ひび割れ誘発目地
位置　※ 意匠図による
寸法　※ 標仕 〔9．7．3（1）(ア)〕 による　・ 設計図による

付加　内部に面するコンクリート打放し仕上げの場合の打増し厚さ
仕上げの無い内壁・柱型　※ １０mm　・（　）mm
免震，配管ピット壁・柱型，ＥＬＶシャフト　※ ０mm　・（　）mm
床　※ １０mm　・ １５mm　・（　）mm

⊙6.8.2
材料

(1) せき板の材料
※ 合板　・ 断熱材を兼用した型枠材　・ 鋼製型枠パネル
・ ラワン代替合板　・ 針葉樹複合合板　・ その他（　　）

(2) 合板の厚さ
※ １２mm　・ １５mm（使用箇所：　　）

⊙6.8.4
型枠の存置期間及び取外し

(2) せき板及び支柱の最小存置期間は下表による。

表6.8.2 せき板の最小存置期間

施工箇所	基礎、梁側、柱、壁			
セメントの種類 / 存置期間中の平均気温	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント，高炉セメントＡ種，シリカセメントＡ種，フライアッシュセメントＡ種	高炉セメントＢ種 シリカセメントＢ種，フライアッシュセメントＢ種	中庸熱ポルトランドセメント，低熱ポルトランドセメント
コンクリートの材齢による場合（日）　１５℃以上	2	3	5	6
５℃以上	3	5	7	8
０℃以上	5	8	１０	１２
コンクリートの圧縮強度による場合	―	圧縮強度が 5N/mm²以上となるまで。		

（注）圧縮強度を圧縮強度試験により確認する場合は、6.9.3(1)(ｲ)による工事現場における水中養生供試体又は封かん養生供試体の圧縮強度とする。

表6.8.3 支柱の最小存置期間

施工箇所	スラブ下			梁下
セメントの種類 / 存置期間中の平均気温	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント，高炉セメントＡ種，シリカセメントＡ種，フライアッシュセメントＡ種	中庸熱ポルトランドセメント，低熱ポルトランドセメント，高炉セメントＢ種，シリカセメントＢ種，フライアッシュセメントＢ種	左記のすべてのセメント
コンクリートの材齢による場合（日）　１５℃以上	8	１７	２８	２８
５℃以上	１２	２５		
０℃以上	１５	２８		
付加　コンクリートの圧縮強度による場合	―	監理者との協議による		

付加　片持梁，庇，長大スパンの梁，大型スラブ等の型枠を支持する支柱，または施工荷重が著しく大きい場合の支柱等は，存置期間の延長・２層受け等を行う事。

９節　試　験　等

⊙6.9.3
コンクリートの強度試験

(1) 試験体の養生方法
・ 標準養生　※ 工事現場における水中養生　・ 工事現場における封かん養生

１０節　軽量コンクリート

・ 6.10.2 付加
種類及び品質

常時土あるいは水に直接接する部分
※ 使用しない　・ 使用する（使用箇所：　　）

(1) 軽量コンクリートの種別
・ １種　気乾単位容積質量　（　　）t/m³
２種　気乾単位容積質量　（　　）t/m³

１１節　寒中コンクリート

⊙6.11.1
一般事項

(2) 寒中コンクリートの適用期間は，（ JASS5による ）。

１２節　暑中コンクリート

⊙6.12.2
材料及び調合

(3) 構造体強度補正値（S）は、6 N/mm² とする。

１３節　マスコンクリート

⊙6.13.1
一般事項　付加

(2) マスコンクリートの適用場所　⊙ 設計図による
設計図に記載がない場合でも，現場にて施工性を考慮の上，断面が大きくなるような処置を行う場合は，本項に従うこととする。目安として，壁状部材で８００mm以上，マット状・柱状部材で１０００mm以上を目安とする。

⊙6.13.2
材料及び調合

(1) セメントの種類　※表6.13.1に，適用するセメントの種類を示す。
(2) 混和剤 の種類　※ ＡＥ減水剤または高性能ＡＥ減水剤　・ その他（　　）
混和材を使用する場合は、6.13.2 (2) (ｲ)を適用すること。
(5) スランプ　※ １５ｃｍ　・　ｃｍ
(6) コンクリートの打込みから材齢２８日までの期間の予想平均養生温度によるコンクリート強度の補正値は下表による。

表6.13.1 マスコンクリートの構造体強度補正値(S)の標準値

セメントの種類	コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲（℃）			
・ 普通ポルトランドセメント	0≦θ＜8	8≦θ	―	暑中期間＊
⊙ 中庸熱ポルトランドセメント	―	0≦θ	―	―
・ 低熱ポルトランドセメント	―	―	0≦θ	―
・ 高炉セメントＢ種	―	0≦θ	―	暑中期間＊
・ フライアッシュセメントＢ種	―	0≦θ	―	暑中期間＊
構造体強度補正値(S) (N/mm²)	6	3	0	6

＊暑中期間とは，日平均気温の平年値が25℃を超える期間をいう。

１４節　無筋コンクリート

⊙6.14.1
一般事項

⊙6.14.2
材料及び調合

(2) コンクリートの種類

コンクリート種別	設計基準強度 Ｆｃ (N/mm²)	所要スランプ (ｃｍ)	粗骨材の最大寸法 (mm)	使用箇所
※ 普通コンクリート	※ Ｆｃ１８	※ １５・１８	※ ２５ ⊙２０	捨てコン，押えコン
※ 軽量コンクリート	※ Ｆｃ１８	※ １８・２１・２０		

付加　セメントの種類
※ 普通ポルトランドセメント　・ 高炉セメントB種 G （捨コンクリート）

付加　呼び強度は設計基準強度以上とする。（構造体強度補正は行わない）

７章　鉄骨工事

１節　共通事項

⊙7.1.3　付加
鉄骨製作工場

※ 建築基準法第77条の45第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた（株）日本鉄骨評価センター又は（社）全国鐵構工業協会の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める（ Ｍ ）グレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場

２節　材料

⊙7.2.1
鋼材

表7.2.1 鋼材の種類等

適用	規格番号	種類の記号	規格名称等
○	JIS G 3101	SS400、SS490、SS540	一般構造用圧延鋼材
	JIS G 3106	SM400、SM490、SM520	溶接構造用圧延鋼材
	JIS G 3114	SMA400、SMA490	溶接構造用耐候性熱間圧延鋼材
○	JIS G 3136	SN400、SN490	建築構造用圧延鋼材
	JIS G 3138	SNR400、SNR490	建築構造用圧延棒鋼
	JIS G 3350	SSC400	一般構造用軽量形鋼
	JIS G 3444	STK400、STK490	一般構造用炭素鋼鋼管
	JIS G 3466	STKR400、STKR490	一般構造用角形鋼管
	JIS G 3475	STKN400、STKN490	建築構造用炭素鋼鋼管
	国土交通大臣認定	BCR295	―
	国土交通大臣認定	BCP235	―
	国土交通大臣認定	BCP325	―

付加　※ 炭素当量などによる鋼材の区分は特記による。

付加　※ 鋼材は、原則として高炉材もしくは不純物を適正に管理された電炉材を使用する。ただし、溶接を伴わない小梁等の材料については、一般的な電炉材の使用も可とする。

⊙7.2.2
高カボルト

(1) 高カボルト　※ トルシア形高力ボルト　Ｓ１０Ｔ(国土交通大臣認定)
⊙ JIS形高力ボルト　Ｆ１０Ｔ　２種
※ 溶融亜鉛めっき高力ボルト　Ｆ８Ｔ　１種

⊙7.2.4
アンカーボルト

⊙ 構造用アンカーボルト　（ ※ 種類は図示による ）
・ 建方用アンカーボルト　（ ※ 種類は図示による ）

・ 7.2.8
スタッド

(1) 呼び名等

呼び名	呼び長さ (mm)	適用箇所
・ 16	100	設計図による
・ 19	100	設計図による
・ 22		設計図による

⊙7.2.9
柱底均しモルタル

(2) 無収縮モルタル　※ 材料，調合等は，標仕7.2.9 (2) (ｱ)～(ｴ)による。

３節　工作一般

⊙7.3.10
仮組

(1) 仮組の実施　※ 行わない　・ 行う

４節　高力ボルト接合

⊙7.4.2
摩擦面の性能及び処理

(3) すべり係数試験
※ 行わない　・ 行う（試験方法等：　　）

６節　溶接接合

⊙7.6.3　付加
溶接作業を行う技能資格者

技量付加試験
※ 否　ただし，溶接技能者は，溶接条件に応じた JIS Z 3801及び JIS Z 3841 の資格者であること。
・ 要　ただし，建築鉄骨溶接技量検定の合格者，又は，同等の技量を有すると工事監理者が認めた者は免除する。

⊙7.6.4
溶接の準備

(1) 開先の形状
※ 鉄骨構造標準図による　・ その他（　　）

⊙7.6.7
溶接施工

(1) (ｶ) 鋼製エンドタブの切除　※ 行わない　⊙ 行う
切除する場合は溶接完了後10mm程度残して切除し、グラインダー仕上げとする。
(2) (ｴ) スカラップの形状
※ 鉄骨構造標準図による　・ その他（　　）

⊙7.6.12
溶接部の試験

(1) (ｲ) (b) 超音波探傷試験　※ 行う　・ 行わない
工場溶接の場合　AOQL（%）　※ 4.0　・ 2.0

節	※ すべて			
検査水準	※ 第6水準			

８節　錆止め塗装

⊙7.8.4
塗料種別

(1) ※ 標仕の表18.3.1のＡ種　・ 標仕の表18.3.1のＢ種　・ 塗装を行わない
(2) 耐火被覆面への錆止め塗装　※ 行わない　⊙ 行う（耐火被覆の付着性を損なわない仕様とする）

９節　耐火被覆

⊙7.9.3　付加
耐火被覆の性能、品質等

耐火被覆材の使用　※ 有　・ 無
※ 所要性能及び適用箇所は建築特記による。

１０節　工事現場施工

⊙7.10.3
アンカーボルトの設置等

(2) 構造用アンカーボルト及びアンカーフレームの形状，寸法　※ 図示による
(3) 建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法の種別　※ Ａ種　・ Ｂ種
(5) 柱底均しモルタル　厚さ：※ 図示による
種別：※ Ａ種　・ Ｂ種

⊙付加
既製品柱脚

既製品柱脚の使用　※ 有（設計図による）　・ 無

１２節　溶融亜鉛めっき工法

⊙7.12.5
溶融亜鉛めっき高力ボルト摩擦接合

溶融亜鉛めっき処理　※ 有（設計図による）　・ 無
(1) 摩擦面の処理
※ ブラスト処理（表面粗度50μmRz以上）
・ りん酸塩処理
すべり耐力等の確認方法　※ すべり耐力試験方法等　・ 図示
すべり係数試験
付加　※ 行わない　・ 行う（試験方法等：　　）

⊙付加
その他

施行令第１２９条の２の３の事項
・ 建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。
(ｲ) 建築設備（昇降機を除く。）、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食または腐朽のおそれがないものとすること。
(ﾛ) 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するもの（以下「屋上水槽等」という。）は、支持構造部又は構造物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。
(ﾛ) 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、９０ｃｍ以下とすること。
(ﾛ) 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを５ｃｍ以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが２５ｃｍ以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。
(ﾛ) 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備（建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備（屋上水槽等のうち給湯設備に該当するものは除く。以下単に「給湯設備」という。）を除く。）は、
(ﾛ) 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
(ﾛ) 建築物の部分を貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
(ﾛ) 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
(ﾛ) 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃緩和のための措置を講ずること。
(ﾛ) 給湯設備は、第1の規定によるほか、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
(ﾛ) 法第２０条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものにあっては、建設省告示第１３８９号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとすること。
(ﾛ) 給湯器等の転倒防止についての告示1447号を遵守すること。

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	構造特記仕様書（２）		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮　尺	【A1】 －　【A3】 －	図面番号	S － 02
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号　福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘　要			所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検　印	管理建築士 / 設　計 / 製　図		一級建築士	山田　剛	登録番号　登録第310062号
			一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号　登録第335522号 第9280号
			一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号　登録第173320号 第1058号

免震構造特記仕様書（１）

１．　適用範囲・用語

本特記仕様書は、免震材料の製作・製品管理及び免震層の施工管理に適用する。

＜用語＞

点検マニュアル　：「免震建物の維持管理規準　-2022-」（日本免震構造協会編）の維持管理点検マニュアルを示す。
上記は、工事監理者の承諾を得て最新版にすることができる。

免震層　：免震材料を設置した層

免震材料　：免震材料を構成する積層ゴム支承（錫プラグ入りを含む）、各種ダンパー及び各部材のベースプレートを含む総称

ベースプレート　：積層ゴムアイソレーター及びダンパーを上部、下部躯体に緊結する部材

維持管理仕様書　：維持管理仕様書（別冊）による。

免震建物点検技術者：ＪＳＳＩ（日本免震構造協会）の定める資格者、以後 点検技術者と呼称する。

基準面圧　：材料認定取得時の基準面圧を示す。

設計面圧　：⊙ 基準面圧　・ 長期最大面圧　・ 長期推奨面圧

積層ゴム　：天然ゴム系積層ゴム支承、錫プラグ入り積層ゴム支承及び各積層ゴムアイソレーターを含む呼称

各免震材料における名称、記号、評価項目、評価方法等で以下に解説のないものは、「免震材料ＪＳＳＩ規格（日本免震構造協会編）」による。

２．　免震材料一般

（１）免震材料製作者

免震材料製作者の決定には、工事監理者の承諾を受けること。

免震材料は、大臣認定を受けたものとし、認定内容と本特記仕様とが異なる場合は、工事監理者と協議すること。

（２）製作要領書

免震材料製作者は、製作工程での品質管理体制・管理基準や製作要領等を記した製作要領書を工事監理者に提出し、承諾を受けること。

（３）製品検査等

免震材料製作者は、製作工程での性能・品質等の検査を実施し、それらの結果を検査成績書としてまとめ工事監理者の承諾を得ること。

判定規準は各免震材料毎の仕様書に定めた規準とする。

（４）製品及び材料の仕様の変更

免震材料製作者は、製品製作上の問題等で仕様の変更が生じるおそれがある場合は、製作要領書の作成に先立ち工事監理者とと協議すること。

（５）製品製作と検査用テンプレート

免震材料製作者は、ベースプレートボルト穴位置の検査に必要なテンプレートを製作して、製品検査時にそのテンプレートで工事監理者の検査を受ける。

（６）材料証明書

免震材料製作者は朱印のある材料証明書を使用し、製作会社検査官の確認印を押したものを工事監理者に提出する。

やむを得ず当該証明書のない材料を使用する場合は、製作者側で検査を行って材質を確認するかまたは、あらかじめ工事監理者の承諾を受ける。

（７）免震エキスパンションジョイント

施工者は、「設計図書」に示される以下の免震エキスパンションジョイントに対する要求性能を理解し、「設計図書」に示される製品を発注する。

・製品詳細図（または、既製品の製品型番）　・設計荷重
・各部位の免震エキスパンションジョイント性能指標　・許容想定残留変位量
・設計可動量　・メンテナンス方法

ここで、免震エキスパンションジョイント性能指標とは「免震エキスパンションジョイントガイドライン」（日本免震構造協会編）による。

施工者は、免震エキスパンションジョイントに関し、製品検査の検査成績書の提出を制作者に求め、所定の仕様を満足していることを確認する。実績のない免震エキスパンションジョイントを使用する場合は、求められる性能指標に従い性能確認試験を行う。試験方法は「免震エキスパンションジョイントガイドライン」を参照すること。

・Ａ種　：　振動台試験　・Ｂ種　：　加振台試験　・Ｃ種　：　シミュレーション図

（８）設備配管継手

免震用の設備配管継手等は［表３－１］に示す設計値に対して十分に機能するか確認すること。

構造担当の工事監理者が設備担当の工事監理者を補佐する場合は、免震用の設備継手も他の免震材料と同様に構造担当者の承諾を受ける。

さらに、「免震建物の建築・設備標準 －2020－」（日本免震構造協会編）を参照すること。

３．　使用材料とクリアランス

３．１ 使用材料

使用している免震材料は〇印を付したものであり、（　）内は認定番号・特記事項を示す。

⊙ 天然ゴム系積層ゴム支承　（ MVBR-0305-1,MVBR-0509,MVBR-0518,MVBR-0615　）
・ 高減衰積層ゴム支承　（　）
⊙ 錫プラグ挿入型積層ゴム支承（ MVBR-0644,MVBR-0645　）
⊙ 弾性すべり支承　（ MVBR-0563　）
・ 直動転がり支承　（　）
・ 流体系ダンパー　（　）
・ 耐火被覆　（　）

３．２ 免震層の設計値

免震における躯体のクリアランスを表３－１に示す。

［表３－１　クリアランス］

		水平方向	鉛直方向
クリアランス	施工	650	50
	設計	600	30
	（最小）	(550)	(20)

施工クリアランスは、設計値に施工誤差等を加えた値で、施工時の目標値とする。図面上の免震層クリアランスは施工クリアランスを示す。

設計クリアランスは、竣工時に確保する必要のある限界許容値とする。

（最小クリアランスは、最小限確保すべき値で、維持管理における点検時の管理値とする。）

４．　施工管理要領

４．１ 施工管理一般

（１）免震工事責任者の配置

施工者は、免震工事に関する免震工事責任者を配置し、施工品質の確保に努める。

免震工事責任者は、ＪＳＳＩ「免震部建築施工管理技術者」の有資格者とする。

（２）施工要領書

施工者は、免震材料の設置に関して工程表、施工計画、所定の精度を確保しうる設置要領、品質管理体制等を記した施工計画書を工事監理者に提出し、承諾を受ける。

（３）施工検査等

施工者は、施工過程での品質管理の検査及び完成検査の結果を検査成績書として工事監理者に提出し、検査を受ける。

（４）免震材料の責任範囲

施工者と免震材料製作者で協議の上、責任範囲を明確にし、工事監理者の承諾を受ける。

（５）受け入れ検査

製品確認は施工者による荷下ろし後の確認検査とする。受け入れ検査は、以下の項目を確認する。

１）検査済みの製品であることを確認する。
２）品番、個数を確認する。
３）亀裂、傷、錆等の損傷の無い事を確認する。

なお、不具合がある場合、施工者は工事監理者・免震材料製作者と協議の上補修・取り替え工事を行い、工事監理者に報告する。

（６）免震材料の現場内運搬・保管

免震材料の運搬に際しては免震材料に損傷を与えないように配慮すること。免震材料の保管は、屋内保管を原則とする。やむを得ず屋外に保管する場合は、落下物や車両による衝突等により損傷を受ける危険性のない場所に平坦な設置台を用意して、直接日光を避けシート等で養生する。又、下記注意事項を徹底する。

１）直射日光にさらされないこと。　４）火気の使用に注意すること。
２）長期間に渡って高温にしないこと。　５）風雨にさらされないこと。
３）油・薬品に汚染させないこと。　６）積み重ねをしないこと。

４．２ 免震層の施工

（１）下部ベースプレートの設置及びコンクリート打設（無収縮モルタル充填を含む）

下部ベースプレートの設置に際しては、所定の精度が確保でき且つ、コンクリート打設時にも移動が生じないようにアンカーフレーム等で固定する。コンクリートの打設に際しては、ベースプレート下部に空隙が生じないように打設する。

コンクリートの打設に際しては、実物大モデルにより事前確認試験を工事監理者の立会の上、実施する。（このときの空隙率は10%以内であることを確認する。）但し、施工実績がありかつ、工事監理者が同等の能力があると判断した場合は、事前確認試験を行わなくてもよい。

（２）免震材料の設置

ベースプレート上部の清掃後、免震材料の製造番号を確認し所定の位置に設置する。設置後、積層ゴムアイソレーターは、上下フランジの内法寸法を４箇所（Ａ，Ｂ，Ｃ，Ｄ）を点検マニュアルにより計測して、計測位置をマークしておく。

取付ボルトは、［表４－１］の所定のトルク値で締め付ける。免震材料は設置後、合板等により養生する。

［表４－１　ボルトの締め付けトルク(Nm)］

固定ボルトサイズ	M20	M22	M24	M27	M30	M33	M36	M39	M42
積層ゴム系支承					400	500	600	800	1,000
すべり支承・直動転がり支承	120	150	200	300	400				
流体系ダンパー					800		1,330		2,000

なお、免震材料の配置は製品検査の結果を基に重心と剛心が極力一致するよう計画し、工事監理者の承諾を受けること。

（３）免震層の水平拘束

施工者は免震層上部の工事に際し、施工中の上部構造の移動を拘束するかしかないかを決定した上で仮設計画を行い、工事監理者に提出し確認を受ける。なお、水平移動を拘束する場合は、擁壁等への反力の影響について事前に検討すること。

（４）免震材料の計測

免震材料の鉛直変位を施工期間中に測定する。測定頻度は１回／１カ月程度とする。測定箇所は全体の10%程度かつ10箇所程度以上とし、測定する免震材料は工事監理者の指示による。

（５）施工精度基準

［表４－２－１］及び［表４－２－２］に示す基準により、施工管理を行う。

（測定に使用した機器類は報告書に明記する。）

［表４－２－１　施工精度管理基準］

管理項目		管理詳細	管理値	検査確認内容 検査箇所	検査方法
積層ゴム	下部ベースプレート据え付け	水平精度	傾き　1／500	直交する２方向	レベルによる測定
		位置精度	Ｘ，Ｙ，Ｚ±5mm	中心部１ヶ所	定規による測定
滑り支承	すべり板据え付け	水平精度	傾き　1／500	直交する２方向	レベルによる測定
		位置精度	Ｘ，Ｙ，Ｚ±5mm	中心部１ヶ所	定規による測定
転がり支承	下部ベースプレート据え付け	水平精度	傾き　1／500	直交する２方向	レベルによる測定
		位置精度	Ｘ，Ｙ，Ｚ±5mm	４辺の各中央点	定規による測定
		ねじれ角度	1／200	位置精度測定値から計算	
減衰こま	下部ベースプレート据え付け	水平精度	傾き　1／300	直交する２方向	レベルによる測定
			反り　1／400かつ4mm	及び中央	
		位置精度	Ｘ，Ｙ，Ｚ±5mm	中心部１ヶ所	スケールによる測定
クリアランス	擁壁と躯体との隙間	水平精度	設計値以上※1)	境界すべて	定規による測定
	擁壁と犬走りとの隙間	鉛直精度	設計値以上※1)	境界すべて	定規による測定

※1）　工事監理者と協議の上決定する。

［表４－２－２　施工精度管理基準（ベ-スプレートに鉄骨が直に据え付けられる場合）］

管理項目		管理詳細	管理値	検査確認内容 検査箇所	検査方法
転がり支承 積層ゴム	下部ベースプレート据え付け	水平精度	傾き　1／500	直交する２方向	レベルによる測定
			反り　1／500かつ3mm	中心部１ヶ所	
		位置精度	Ｘ，Ｙ，Ｚ±3mm	直交する２方向	定規による測定
		ねじれ	ねじれ　1／500	中心部１ヶ所	定規による測定

ダンパ-とクリアランスの項目は、［表４－２－１］にならう。

（６）設置後の養生・管理

免震材料の設置後は、損傷を与えないよう［表４－３］に示す養生をすること。

また、４．２（３）に示す注意事項も徹底すること。

［表４－３　養生］

積層ゴム	機械的損傷及びコンクリートのアルカリに侵されないようにビニールでゴム部を覆う。周囲に可燃物を置かないようにする
鋼製ダンパー	~~機械的損傷を与えない~~
滑り支承・転り支承	機械的損傷及びコンクリートのアルカリに侵されないようにビニールでゴム部を覆う。周囲に可燃物を置かないようにする 滑り面に傷をつけないように養生する
流体系ダンパー	~~機械的損傷を与えない~~

４．３ 免震建物に付随する付属物の設置

特記事項は、〇印のものを適用する。

（１）別置き積層ゴム

別置試験体を設置する場合は各製作者毎に１台設置することとし、その他の仕様は工事監理者と協議する。

設置の有無　⊙ 無　・ 有
ゴム径　・ φ300　・ φ500　・ 使用最小径
設置場所　・ 免震層内　・ その他（　　）
加　圧　・ 10N/mm²　・ 15N/mm²　・ 基準面圧　・ 設計面圧（　　N/mm²）

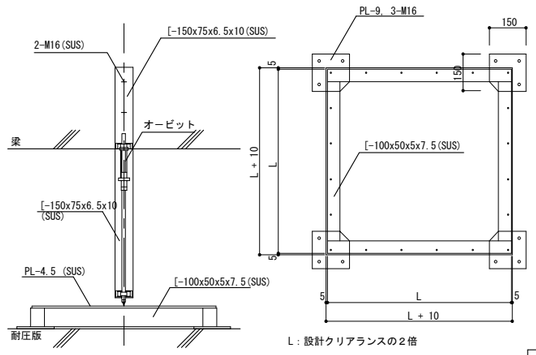
（２）別置き流体系ダンパー

設置の有無　⊙ 無　・ 有

（３）ケガキ板

地震時の移動量及び移動方向を記録できるように、ケガキ板（［図４－１］参照）を設置すること。

設置箇所数　・ 無　・ 3ヶ所　⊙ 5ヶ所　・ その他（　　）
設置位置　・ 伏図に図示　⊙ 建物四隅と中央　・ その他（　　）



L：設計クリアランスの２倍

［図４－１　ケガキ板（案）］

（４）注意書きの設置

平成12年建設省告示第2009号第4の4「出入口その他の見やすい場所に免震建築物であることその他必要な事項を表示すること」に準じて免震層出入り口部及びその周辺部に、本建物が免震建物であり、地震時に建物が移動すること、及び可動部分に物を置かないことを示した注意書き板（［図４－２］参照）を４ヶ所に設置する。

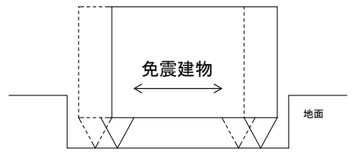
設置場所は、設計図書又は監督職員の指示による。

（Ａ２版程度、アクリル版等）

免震建物

「建物名」は、免震建物です。

地震時には左右にゆっくり揺れ、地震に対して安全性の高い建物になっています。



以下のことに注意して建物を使用してください。

・大地震時には地面と建物が最大〇〇cmずれることがあります。
・出入り口や建物周囲では、建物の動きにより人がけがをしないよう十分ご注意ください。
・建物周辺には、この動きを妨げるような物を置かないでください。
・新たに設置する物は、建物の動きに追従できるようにしてください。

［図４－２　注意書き板（案）］

（５）銘板の設置

免震層の見易い位置に設計者・施工者・免震材料製作者の名前と完成検査日を刻んだ銘板を１ヶ所に設置する。

設置場所は、設計図書又は工事監理者の指示による。

（Ａ３版程度、ステンレス版等）

５．　免震建物の維持管理

免震建物の維持管理基準が建築基準法第８条及び１２条に基づいて制定されており、建築物の所有者、管理者または占有者は、その建築物の敷地、構造及び建築設備を常時適法な状態に維持するよう努めなければならない。

５．１ 免震建物点検技術者

免震点検技術者はＪＳＳＩ（日本免震構造協会）の講習を受講した有資格者とする。

建物竣工時検査・竣工時点検においては、本技術者を有する点検業者や第三者機関と読み替えることができる。

契約は下記の者と免震建物点検技術者との間で行うこと。

１）竣工時完成検査　※　施工者　・　建築主
２）竣工時完成検査　※　建築主　・　（　　）

５．２ 管理体制

免震建物の管理体制は表５による。

［表５　品質管理、維持管理、保全の管理体制］

		建物管理者	点検技術者（維持管理受託者）	設計者	工事監理者	施工者	免震装置製造者
竣工時・完成検査		○	○ ※２	(○)	○	◎※１	○
竣工後	１年点検	○	◎	(○)	(○)	○	(○)
	通常点検	○	◎ ※３	－	－	(○)	－
	定期点検	○	◎	－	－	(○)	－
	応急点検	○	◎	(○)	(○)	(○)	(○)
	詳細点検	○	◎	(○)	(○)	(○)	(○)
	更新工事後点検　※４	○	○	(○)	○	◎※５	(○)

表中、◎印は主たる実施者、〇印はその確認者または協力者を示す。

（　）印は必要（要請）に応じて確認協力することを示す。

※１　竣工時検査は、施工者の責任において、今後の点検に必要な初期値を計測する重要な検査であり、建物の竣工時に工事監理者の立会いのもとに実施し、記録を保管する。

※２　竣工時に立会う点検技術者は、施工会社の点検技術者も可とする。

※３　通常点検は、建物管理者が点検技術者と同等の技量を有している場合は、建物管理者による点検でも可とする。

※４　更新工事後点検は、定期点検を前倒しして併せて実施しても可とする。

※５　更新工事を行った施工者とする。

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	免震構造特記仕様書（１）		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮　尺	【A1】　－　【A3】　－	図面番号	Ｓ－ 14
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号 福岡県知事登録第 1-12326 号
摘　要			所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検　印	管理建築士 / 設　計 / 製　図		一級建築士	山田　剛	登録番号 登録第310062号
			一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号 登録第335522号 第9280号
			一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号 登録第173320号 第1058号

免震構造特記仕様書（２）

６．　竣工時検査（更新工事後点検）

竣工時検査（更新工事後点検）の立ち会い者は、施工者・工事監理者・免震建物点検技術者とする。

竣工時検査（更新工事後点検）の仕様を［表６］に示す。又、下記に示す測定点のマーク及び下げ振りを設置する。

１）建物と免震層外壁（隅部四箇所以上）等、主要な位置のクリアランスの計測点をマークする。

２）建物四隅と中央部１箇所、計５箇所の下げ振りと十字を刻んだ位置指示板をボルト等を用いて固定し、０点としてマークする。

３）鉛直変位は、上下フランジの内法寸法を４箇所とし、その計測位置をマークする。

４）水平変位は、上下フランジの内法での水平変位の２箇所　（Ｘ，Ｙ）とし、その計測位置をマークする。

５）測定は、点検マニュアルによる。

６）耐火被覆がある場合は、耐火被覆で覆う前に計測を実施する。竣工検査時には協議により耐火被覆を取り外して検査を行うこと。

７）初期値計測は、通常点検・定期点検・応急点検・詳細点検時の基になるための計測。

８）管理値を超えた場合は施工者、工事監理者、設計者、免震建物点検技術者が協議して最終的な処置を決定するものとする。

［表６　竣工時検査（更新工事後点検）の項目、調査方法、管理値及び処置等］

位置			点検項目		点検方法	計測精度	管理値	処置	竣工時検査及び更新工事後点検
免震材料	支承	積層ゴム系支承 すべり系支承 *2 転がり系支承 *2	外観	汚れ・異物付着	目視		汚れ･異物付着無し	付着物の除去	○
				傷	目視(計測)		傷なし,被覆ゴム(長さ･深さ共10mm以内)	補修あるいは交換 *4	○
			鋼材部(取付部)	腐食（発錆）	目視		浮き錆、赤錆、塗装の浮き・はがれ	錆除去・補修	○
				ボルト・ナット	目視(打音)		視認できるマーキングのずれ	締め直し、再マ-キング	○
			変位	鉛直変位　*3	計測	1mm	竣工時からの増分 積層ゴム系 5mm以内 すべり系 浮き上がりなし,かつ,2mm以内 転がり系 2mm以内	―――	○ M
				水平変位	計測	1mm	竣工時からの増分Ｘ・Ｙ方向各50mm以内	―――	○ M
	被覆がある支承	耐火被覆の場合	外観	損傷･支承への影響	目視		破れ・はずみ・凹み	補修あるいは交換	○
		防塵カバーの場合	外観	支承への影響	目視		破れ・はずみ	補修あるいは交換	○
	ダンパー	履歴系ダンパー	外観	大きな変形	目視		外観上の大きな水平変形	補修あるいは交換	○
				亀裂(鋼材ダンパー)	目視		ダンパー本体の外観上の亀裂	補修あるいは交換	○
				亀裂(鉛ダンパー)	目視・計測		鉛部分の亀裂がある場合、計測	補修あるいは交換	○
			鋼材部(取付部)	腐食（発錆）	目視		浮き錆、赤錆、塗装の浮き・はがれ	錆除去・補修	○
				ボルト・ナット	目視(打音)		視認できるマーキングのずれ	締め直し、再マ-キング	○
			主要寸法	メーカー値による	計測	1mm	メーカー管理値による	補修あるいは交換	-
			変位	水平変位	計測	1mm	竣工時からの増分Ｘ・Ｙ方向各50mm以内	―――	○ M
			可動範囲	躯体他と接触	目視(計測)	1mm	鋼材ダンパーの上下変位で躯体接触	―――	○
		流体系ダンパー	外観	大きな変形	目視		ダンパー本体の外見上の変形	補修あるいは交換	○
				損傷	目視		減衰性能に影響を与える損傷	補修あるいは交換	○
			鋼材部(取付部)	腐食（発錆）	目視		浮き錆、赤錆、塗装の浮き・はがれ	錆除去・補修	○
				ボルト・ナット	目視(打音)		視認できるマーキングのずれ	締め直し、再マ-キング	○
			変位	取付け長･可動長さ	計測	1mm	竣工時からの増分Ｘ・Ｙ方向各50mm以内	―――	○ M
			粘性体・ｵｲﾙ	液漏れ	目視		様々な要因による流体の漏出	補修あるいは交換	○
			減衰性能	製品型番	目視		型番を図面と照合	―――	○
設備配管 *1	可撓継手(追加工事)	上水道 下水道 ガス その他配管	設置位置	適正位置	目視		可撓が必要な部位に配置	補修あるいは交換	○
			劣化状況	配管・可撓継手	目視		有害な傷・亀裂	補修あるいは交換	○
				吊り金具	目視		吊り金具の発錆・破断	補修あるいは交換	○
				周辺躯体	目視		吊り金具周辺や固定部の躯体の亀裂	補修あるいは交換	○
				液漏れ	目視		配管周辺からの液漏れ	補修あるいは交換	○
電気設備 *1	余長(追加工事)	電気配線 通信ケーブル他	設置位置	適正配置	目視		余長が必要な部位に配置	補修あるいは交換	○
				変位追従性	目視		免震層を跨ぐ部分の追従性	補修あるいは交換	○
	避雷設備(追加工事)	避雷針・アース	設置状況	適正配置	目視		設置されている	補修あるいは交換	○
免震層	障害物可燃物	各種設置物	存在	物品確認	目視		図面に記載がない物品の配置 *5	整備・除去	○
	排水状況	漏水･吹込･帯水･結露	湿潤状況	有無	目視		乾燥状態になっている	調査の上対処　*6	○
	建物位置	初期値からの変位	変位	変位量	計測	1mm	竣工時検査からの増分50mm以内	―――	○
建物外周部	障害物	工作物･配管･樹木･車両	存在	有無	目視(計測)	1cm	上部構造周辺の接触可能性物品	整備・除去	○
	周辺環境	隙間	存在	危険性の有無	目視		安全上の配慮	調査の対処	○
		建物外周部	建物外周部の状況	不同沈下	必要に応じ初期値計測		―――	―――	○
クリアランス	測定部位･測定方法	躯体･配管･ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ, 仕上げ他･外周部	間隔	水平ｸﾘｱﾗﾝｽ	計測	1mm	大地震時に衝突しない	整備・除去	○
				鉛直ｸﾘｱﾗﾝｽ	計測	1mm	上部・下部構造が接触していない	整備・除去	○
				相互ｸﾘｱﾗﾝｽ	目視(計測)	1mm	大地震時に衝突しない	整備・除去	○ M
耐火被覆	外観点検	外れ･めくれ･水漏れ	外観状況	乱れ	目視		耐火機能に影響する乱れがない	補修あるいは交換	○
		破れ･亀裂･折れ･欠損	損傷状況	損傷	目視		耐火機能に影響する損傷がない	補修あるいは交換	○
		がたつき	留付ボルト	緩み	触診		固定する部位に緩みがない	補修あるいは交換	○
		建物周辺隅部・角部	水平方向	ずれ量	目視(計測)	1mm	ずれ量がない又は少ない	―――	-
		竣工時点検で指定箇所	鉛直方向	隙間	目視(計測)	1mm	隙間がない又は少ない	―――	-
エキスパンションジョイント	竣工時検査	竣工時検査以降の改変	物品設置	可動域内を確認	目視		可動域に物品の設置がない　*5	整備・除去	○
			シールなど	可動部を確認	目視		可動域に動きを妨げるシールがない	整備・除去	○
	各種点検	免震EXP. Jの位置	図面の存在	図示など確認	図書確認		位置・機構が管理要領に図示	―――	○
		可動状況	障害物	可動域内を確認	目視(計測)	1cm	可動域内に障害物がない　*5	整備・除去	○
		損傷･劣化状況	作動機構	取り付け状況確認	目視		本体取付部に有害な変状がない	補修あるいは交換	△
			仕上げ･シール	劣化状況確認	目視		仕上げやシールに有害な変状がない	補修あるいは交換	△
			鋼材の発錆	赤錆･浮錆	目視		鋼材に有害な発錆がない	錆除去・補修	△
			取付部の躯体	亀裂など確認	目視		取付躯体にひび割れなどがない	補修	△
			残留変形	変形状況確認	目視(計測)	1mm	残留変位で、一方向への偏りなど	調査の上対処	△
			免震Exp. Jパネル状況	損傷、がたつきなし	目視		変形がない、取付の緩みなし	補修あるいは交換	△
		密閉状況	漏水	有無確認	目視		劣化を促進する漏水がない	補修あるいは交換	△
維持管理用マーキング	支承の水平変位計測点 支承の鉛直変位計測点 躯体のｸﾘｱﾗﾝｽ計測点	マーキング	適正位置	実施	目視		ﾏｰｷﾝｸﾞが適正位置にある	ﾏｰｷﾝｸﾞ：再設置	○ M
			存在	確認	目視		ﾏｰｷﾝｸﾞがされている	ﾏｰｷﾝｸﾞ：再設置	○ M
			薄れ･剥離	補修	目視		ﾏｰｷﾝｸﾞの薄れ･剥離がない	ﾏｰｷﾝｸﾞ：再設置	○ M
	建物位置計測点	下げ振りとﾏｰｷﾝｸﾞ	適正位置	確認	目視		下げ振りの有無・０点の設置	設置	○ M
その他	取付躯体	ｺﾝｸﾘｰﾄなど躯体	取付部の躯体	亀裂などを確認	目視		取付躯体にひび割れなどがない	補修	-
	免震建物の表示	免震建物ほか必要事項	存在	確認	目視		免震告示に沿った掲示がある	適正位置に設置	○
	けがき式変位計	設置状況･劣化状況	存在･記録機能	確認･不具合の有無	目視		存在と記録機能が健全である	―――	○
	別置き試験体	設置状況･加圧状況	存在･加圧力	確認･記録	目視		存在と加圧力の低下がない	―――	○
	その他	その他不具合	著しい不具合	記録	目視		免震機能以外の不具合がない	調査の上対処	○

*1 設備担当工事監理者が問題ないことを事前に確認済みとする。

*2 防塵カバーを取外して検査を行う。

*3 鉛直変位の計測は、竣工時検査は全て実施する。

*4 竣工時検査は、管理値以下の場合も処置を行うこと。

*5 設計者が安全上必要と判断して設置した金物等は除く。

*6 雨水貯留槽へ排出することを基本とする。

○印：検査、点検を実施する
M印：竣工時検査でﾏｰｷﾝｸﾞを実施する
△印：メーカーによる点検項目

７．　通常点検・定期点検・応急点検・詳細点検

・通常点検：免震機能の異常や不具合の早期発見を目的として、目視を主体とした点検を毎年実施する。

・定期点検：計測を含めた総合的な点検は、建物竣工後5年後、10年後、以後10年毎に実施する。

・応急点検：震度５弱以上の地震および強風、水害および火災が免震層に及んだ場合、異常の場合行う。緊急のため目視を原則とする。

　　ただし、応急点検にて損傷等が見当たらない場合、半年以内に限り前回を超えない震度や風速での応急点検は省略できるものとする。

・詳細点検：定期点検で異常が認められた場合および応急点検後必要に応じて行う。異常が認められた場合は、設計者の指示に従い計測を含めて実施する

各点検時の検査の立ち会い者は、免震建物点検技術者とする。

各点検時の検査の仕様を［表７］に示す。又、下記に示す測定点のマーク及び下げ振りを設置する。

１）測定は点検マニュアルによる。

２）管理値を超えた場合は建物所有者・建物管理者・建物設計者・免震建物点検技術者が協議する。なお耐火被覆の着脱は、その専門業者が実施することとする。

［表７　通常点検・定期点検・応急点検・詳細点検時検査の項目、調査方法及び管理値］

位置			点検項目		点検方法	計測精度	管理値	処置	通常点検	定期点検	応急点検	詳細点検 地震	詳細点検 強風	詳細点検 火災	詳細点検 水害
免震材料	支承	積層ゴム系支承 すべり系支承 *2 転がり系支承 *2	外観	汚れ・異物付着	目視		汚れ･異物付着無し	付着物の除去	○	○	○	-	-	◇	◇
				傷	目視(計測)		傷なし,被覆ゴム(長さ･深さ共10mm以内) すべり板(長さ10mm以内、深さ0.5mm以内)	補修あるいは交換	○	○	○	◇	◇	◇	◇
			鋼材部(取付部)	腐食（発錆）	目視		浮き錆、赤錆、塗装の浮き・はがれ	錆除去・補修	○	○	○	-	-	◇	◇
				ボルト・ナット	目視(打音)		視認できるマーキングのずれ	締め直し、再マ-キング	○	○	○	◇	◇	-	-
			変位	鉛直変位　*1	計測	1mm	竣工時からの増分 積層ゴム系 5mm以内 すべり系 浮き上がりなし,かつ,2mm以内 転がり系 2mm以内	調査の上対処　*2	-	○	-	○	○	-	-
				水平変位	計測	1mm	竣工以降増分Ｘ・Ｙ方向各50mm以内　*3	調査の上対処　*4	-	○	-	○	○	-	-
	被覆がある支承	耐火被覆の場合	外観	損傷･支承への影響	目視		破れ・はずみ・凹み	補修あるいは交換	○	○	○	◇	◇	◇	◇
		防塵カバーの場合	外観	支承への影響	目視		破れ・はずみ	補修あるいは交換	○	○	○	◇	◇	◇	◇
	ダンパー	履歴系ダンパー	外観	大きな変形	目視		外観上の大きな水平変形	補修あるいは交換	○	○	○	◇	◇	◇	◇
				亀裂(鋼材ダンパー)	目視		ダンパー本体の外観上の亀裂	補修あるいは交換	○	○	○	○	○	○	-
				亀裂(鉛ダンパー)	目視・計測		鉛部分の亀裂がある場合、計測	補修あるいは交換	○	○	○	○	○	○	-
			鋼材部(取付部)	腐食（発錆）	目視		浮き錆、赤錆、塗装の浮き・はがれ	錆除去・補修	○	○	○	-	-	◇	◇
				ボルト・ナット	目視(打音)		視認できるマーキングのずれ	締め直し、再マ-キング	○	○	○	◇	◇	-	-
			主要寸法	メーカー値による	計測	1mm	メーカー管理値による	補修あるいは交換	-	-	-	○	○	-	-
			変位	水平変位	計測	1mm	竣工以降増分Ｘ・Ｙ方向各50mm以内　*3	調査の上対処　*4	-	○	-	○	○	-	-
			可動範囲	躯体他と接触	目視(計測)	1mm	鋼材ダンパーの上下変位で躯体接触	調査の上対処　*4	-	○	-	-	-	-	-
		流体系ダンパー	外観	大きな変形	目視		ダンパー本体の外見上の変形	補修あるいは交換	-	○	○	◇	◇	◇	◇
				損傷	目視		減衰性能に影響を与える損傷	補修あるいは交換	○	○	○	◇	◇	◇	◇
			鋼材部(取付部)	腐食（発錆）	目視		浮き錆、赤錆、塗装の浮き・はがれ	錆除去・補修	○	○	○	-	-	◇	◇
				ボルト・ナット	目視(打音)		視認できるマーキングのずれ	締め直し、再マ-キング	-	○	○	◇	◇	◇	◇
			変位	取付け長･可動長さ	計測	1mm	竣工以降増分Ｘ・Ｙ方向各50mm以内　*3	調査の上対処　*4	-	○	-	○	○	-	-
			粘性体・ｵｲﾙ	液漏れ	目視		様々な要因による流体の漏出	補修あるいは交換	○	○	○	◇	◇	◇	◇
			減衰性能	製品型番	目視		型番を図面と照合	調査の上対処	-	(○)	-	-	-	-	-
設備配管	可撓継手(追加工事)	上水道 下水道 ガス その他配管	設置位置	適正位置	目視		可撓が必要な部位に配置	補修あるいは交換	-	(○)	-	-	-	-	-
			劣化状況	配管・可撓継手	目視		有害な傷・亀裂	補修あるいは交換	○	○	○	-	-	◇	-
				吊り金具	目視		吊り金具の発錆・破断	補修あるいは交換	○	○	○	-	-	◇	-
				周辺躯体	目視		吊り金具周辺や固定部の躯体の亀裂	補修あるいは交換	○	○	○	-	-	◇	-
				液漏れ	目視		配管周辺からの液漏れ	補修あるいは交換	○	○	○	-	-	◇	-
電気設備	余長(追加工事)	電気配線 通信ケーブル他	設置位置	適正配置	目視		余長が必要な部位に配置	補修あるいは交換	-	(○)	-	-	-	-	-
				変位追従性	目視		免震層を跨ぐ部分の追従性	補修あるいは交換	-	(○)	-	-	-	-	-
	避雷設備(追加工事)	避雷針・アース	設置状況	適正配置	目視		設置されている	補修あるいは交換	-	(○)	○	-	-	◇	-
免震層	障害物可燃物	各種設置物	存在	物品確認	目視		図面に記載がない物品の配置　*5	整備・除去	○	○	-	-	-	-	-
	排水状況	漏水･吹込･帯水･結露	湿潤状況	有無	目視		乾燥状態になっている	調査の上対処　*6	○	○	○	-	◇	◇	◇
	建物位置	初期値からの変位	変位	変位量	計測	1mm	竣工時検査からの増分50mm以内	調査の上対処　*4	-	○	-	○	○	-	-
建物外周部	障害物	工作物･配管･樹木･車両	存在	有無	目視(計測)	1cm	上部構造周辺の接触可能性物品	整備・除去	○	○	○	-	-	-	-
	周辺環境	隙間	存在	危険性の有無	目視		安全上の配慮	調査の対処	-	(○)	-	-	-	-	-
		建物外周部	建物外周部の状況	不同沈下	必要に応じ初期値計測		傾斜（計測点間で竣工時+1／500以下）	調査の上対処　*7	※	※	※	※	※	※	※
クリアランス	測定部位･測定方法	躯体･配管･ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ, 仕上げ他･外周部	間隔	水平ｸﾘｱﾗﾝｽ	計測	1mm	大地震時に衝突しない	整備・除去	-	○	-	○	○	-	-
				鉛直ｸﾘｱﾗﾝｽ	計測	1mm	上部・下部構造が接触していない	整備・除去	-	○	-	○	○	-	-
				相互ｸﾘｱﾗﾝｽ	目視(計測)	1mm	大地震時に衝突しない	整備・除去	-	○	-	○	○	-	-
耐火被覆	外観点検	外れ･めくれ･水漏れ	外観状況	乱れ	目視		耐火機能に影響する乱れがない	補修あるいは交換	○	○	○	◇	◇	◇	◇
		破れ･亀裂･折れ･欠損	損傷状況	損傷	目視		耐火機能に影響する損傷がない	補修あるいは交換	○	○	○	◇	◇	◇	◇
		がたつき	留付ボルト	緩み	触診		固定する部位に緩みがない	補修あるいは交換	-	○	○	◇	◇	◇	◇
		建物周辺隅部・角部	水平方向	ずれ量	目視(計測)	1mm	ずれ量がない又は少ない	補修あるいは交換	-	-	○	○	○	○	-
		竣工時点検で指定箇所	鉛直方向	隙間	目視(計測)	1mm	隙間がない又は少ない	補修あるいは交換	-	-	○	○	○	○	-
エキスパンションジョイント	各種点検	免震EXP. Jの位置	図面の存在	図示など確認	図書確認		位置・機構が管理要領に図示	補修あるいは交換	-	○	-	-	-	-	-
		可動状況	障害物	可動域内を確認	目視(計測)	1cm	可動域内に障害物がない　*5	整備・除去	○	○	-	-	-	-	-
		損傷･劣化状況	作動機構	取り付け状況確認	目視		本体取付部に有害な変状がない	補修あるいは交換	-	○	○	◇	◇	◇	◇
			仕上げ･シール	劣化状況確認	目視		仕上げやシールに有害な変状がない	補修あるいは交換	○	○	○	-	-	◇	◇
			鋼材の発錆	赤錆･浮錆	目視		鋼材に有害な発錆がない	錆除去・補修	○	○	○	-	-	◇	◇
			取付部の躯体	亀裂など確認	目視		取付躯体にひび割れなどがない	補修	○	○	○	◇	◇	-	-
			残留変形	変形状況確認	目視(計測)	1mm	残留変位で、一方向への偏りなど	調査の上対処	○	○	○	○	○	-	-
			免震Exp. Jパネル状況	損傷、がたつきなし	目視		変形がない、取付の緩みなし	補修あるいは交換	○	○	○	◇	◇	-	-
		密閉状況	漏水	有無確認	目視		劣化を促進する漏水がない	補修あるいは交換	○	○	○	-	-	-	-
維持管理用マーキング	支承の水平変位計測点 支承の鉛直変位計測点 躯体のｸﾘｱﾗﾝｽ計測点	マーキング	適正位置	実施	目視		ﾏｰｷﾝｸﾞが適正位置にある	ﾏｰｷﾝｸﾞ：再設置	-	(○)	-	-	-	-	-
			存在	確認	目視		ﾏｰｷﾝｸﾞがされている	ﾏｰｷﾝｸﾞ：再設置	-	(○)	-	-	-	-	-
			薄れ･剥離	補修	目視		ﾏｰｷﾝｸﾞの薄れ･剥離がない	ﾏｰｷﾝｸﾞ：再設置	-	○	-	-	-	-	-
	建物位置計測点	下げ振りとﾏｰｷﾝｸﾞ	適正位置	確認	目視		下げ振りの有無・０点の設置	設置	-	○	-	-	-	-	-
その他	取付躯体	ｺﾝｸﾘｰﾄなど躯体	取付部の躯体	亀裂などを確認	目視		取付躯体にひび割れなどがない	補修	○	○	○	○	○	○	-
	免震建物の表示	免震建物ほか必要事項	存在	確認	目視		免震告示に沿った掲示がある	適正位置に設置	-	(○)	-	-	-	-	-
	けがき式変位計	設置状況･劣化状況	存在･記録機能	確認･不具合の有無	目視		存在と記録機能が健全である	補修あるいは交換	-	○	○	◇	◇	◇	◇
	別置き試験体	設置状況･加圧状況	存在･加圧力	確認･記録	目視		存在と加圧力の低下がない	―――	-	○	-	-	-	○	-
	その他	その他不具合	著しい不具合	記録	目視		免震機能以外の不具合がない	調査の上対処	○	○	○	○	○	○	○

*1 鉛直変位の計測は、定期点検は積層ゴム系支承のみとする。

*2 交換を含め処置を行う。

*3 温度により躯体の伸縮による影響を考慮する。

*4 ジャッキ等で元の位置に復元することを基本とし、エキスパンションジョイントの取替え等を含め処置を行う。

*5 設計者が安全上必要と判断して設置した金物等は除く。

*6 雨水貯留槽へ排水することを基本とする。

*7 ジャッキ等で元の位置に復元することを基本とする。

*8 記録板･記録用紙の回収または撮影等にて点検を行うこと。

○ 印：点検を実施する
(○)印：竣工時検査・更新工事後点検で実施されている事を条件に定期点検では省略可とする
◇ 印：応急点検で実施されていることを条件に詳細点検では省略可とする
※ 印：必要に応じて実施する

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	免震構造特記仕様書（２）
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮　尺	【A1】　－　【A3】　－
発注機関	沖縄県北部医療組合	図面番号	Ｓ－ 15
工事年度	令和　7　年度		
摘　要			

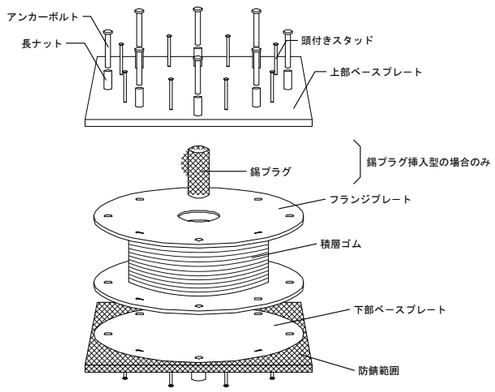
検印	管理建築士	設　計	製　図

設計者				
	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体		
	代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録 第 1-12326 号
	所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16		
	一級建築士	山田　剛	登録番号	登録第310062号
	一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9280号
	一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号

免震構造特記仕様書（３）　【天然ゴム系積層ゴム支承・錫プラグ挿入型積層ゴム支承】

天然ゴム系積層ゴム支承・錫プラグ挿入型積層ゴム支承

１．材料



［図１－１　積層ゴムアイソレータとベースプレート］

１）免震材料

使用する免震材料（積層ゴム支承）は、大臣認定品とする。

（１）天然ゴム系積層ゴム支承

・オイレス工業株式会社

せん断弾性係数 G (N/mm²)	ゴム外径 φ(mm)	二次形状係数 S2	基数	備　考
	免震材料リストによる。			

・株式会社ブリヂストン

せん断弾性係数 G (N/mm²)	ゴム外径 φ(mm)	二次形状係数 S2	基数	備　考
	免震材料リストによる。			

・SWCC株式会社

せん断弾性係数 G (N/mm²)	ゴム外径 φ(mm)	二次形状係数 S2	基数	備　考
	免震材料リストによる。			

（２）錫プラグ入り積層ゴム支承

せん断弾性係数 G (N/mm²)	ゴム外径 φ(mm)	錫　径 (mm)	二次形状係数 S2	基数	備　考
	免震材料リストによる。				

２）鋼材

免震材料以外で使用する材料を［表１－１］、その加工精度を［表１－２］に示す。

［表１－１　使用材料］

部　材	材　質　・　規　格	備　考
ベースプレート	SS400　JIS G 3101	
長ナット	SNR400B SNR490B JIS G 3138	
頭付きスタッド	JIS B 1198	
アンカーボルト	SNR400B SNR490B JIS G 3138	
取付ボルト	強度区分6.8　JIS B 1180	

［表１－２　使用材料加工精度］

部　位	詳　細	精　度	規　格
ベースプレート	板厚呼称	JIS規格呼び寸法	JIS G 3193
	板厚公差	材料JISによる	JIS G 3193
	取り付け穴	ボルト径	JIS B 1001　１級準拠
	頭付きスタッド	±1.0mm	JIS B 0405　中級
	辺長	±2.5mm	JIS B 0417　B級

部材の切断・加工は、自動ガス切断機により正確に行うものとし、切断によるゆがみは矯正、かえりはグラインダーで除去する。

２．防錆、塗装

１）防錆、塗装

ベースプレートの防錆、塗装は下記による。

ボルトは、下塗・中塗・上塗を行う。

ベースプレートの中塗りと上塗りは、端面、フランジ側は、フランジ外径より内に20mm程度までとする。

［表２－１　防錆、塗装］

仕　様	塗　装　材　料	標準膜厚
下地処理	ブラストにより除錆する	－
下　塗	ジンクリッチプライマー	75μm
中　塗	エポキシ樹脂系塗料	60μm
上　塗	エポキシ樹脂系塗料	35μm
合計膜厚		170μm以上

２）色調

上塗り塗装の色調は、工事監理者の指示による。

３．設計値

積層ゴム支承の設計値は［表３－１］による。また，設計時に考慮したばらつきは［表３－２］である。

［表３－１　設計値］

（１）天然ゴム系積層ゴム支承

・オイレス工業株式会社

積層ゴム外径 φ (mm)	基数	せん断弾性率 G (N/mm²)	水平剛性 Kn (kN/mm)	鉛直剛性 Kv (kN/mm)	長期最大面圧 (N/mm²)
			免震材料リストによる。		

・株式会社ブリヂストン

積層ゴム外径 φ (mm)	基数	せん断弾性率 G (N/mm²)	水平剛性 Kn (kN/mm)	鉛直剛性 Kv (kN/mm)	長期最大面圧 (N/mm²)
			免震材料リストによる。		

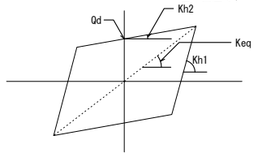
・SWCC株式会社

積層ゴム外径 φ (mm)	基数	せん断弾性率 G (N/mm²)	水平剛性 Kn (kN/mm)	鉛直剛性 Kv (kN/mm)	長期最大面圧 (N/mm²)
			免震材料リストによる。		

（２）錫プラグ入り積層ゴム支承

積層ゴム外径 φ (mm)	基数	錫径 (mm)	せん断弾性率 G (N/mm²)	一次剛性 Kh1 (kN/mm)	二次剛性 Kh2 (kN/mm)	切片荷重 Qd (kN)	鉛直剛性 Kv (kN/mm)	長期最大面圧 (N/mm²)
				免震材料リストによる。				

基準面圧でγ＝100%のときの規格値を示す。



［図３－１　復元力モデル］

（１）天然ゴム系積層ゴム支承

	水平剛性	備　考
製品誤差（製品個々）	－ 15 %～＋ 15 %	
製品誤差（全体）	－ 10 %～＋ 10 %	
経年変化（60年担当）	0 %～＋ 10 %	
温　度(0℃～35℃)	－ 4.0 %～＋ 6.0 %	
合　計（全　体）	-14.0 %～+26.0%	

（２）錫プラグ入り積層ゴム支承

	降伏後剛性 Kd	切片荷重 Qd	備　考
製品誤差（製品個々）	-15.0 %～+15.0%	-20.0 %～+20.0%	
製品誤差（全体）	-10.0 %～+10.0%	-15.0 %～+15.0%	基数の合計が8基以上の場合
	-15.0 %～+15.0%	-20.0 %～+20.0%	基数の合計が8基未満の場合
経年変化（60年担当）	0 %～+10.0%	0 %～+5.0%	
温度(0℃～35.0℃)	-4.0 %～+5.0%	-11.0 %～+15.0%	
合　計（全　体）	-14.0 %～+25.0%	-26.0 %～+35.0%	

４．製品検査

１）積層ゴム支承

製品検査は［表４－１］による。

［表４－１　積層ゴムの製品検査規格］

検査項目	検査内容	判定基準	数　量
材料検査	ゴムの基本物性値（ゴム材料検査成績証明書）	仕様に相違ないこと	ロット毎 ※1
	鋼材のミルシート照合	仕様に相違ないこと　※2	全数
外観検査	完成品の外観目視	有害な欠点がないこと ［表４－２］による	全数
防錆・塗装	塗装膜厚を測定する	２．１）によること	全数
寸　法	製品総高さ：直交する４ヶ所測定	高さの±1.25%以内　※3 かつ　±6mm以内	全数
	製品傾斜　：上記４ヶ所の高さ測定値による	δ1＜4mm かつ　θ＜1／400	
	水平変形：最大位置ずれ部分測定 δ2（直交する２ヶ所）	δ2＜±5mm	
	ゴム直径（被覆ゴム含む）	±0.5%以内かつ±4mm以内　※4	
	ボルト穴位置	±1.2mm	
	ボルト穴径	±0.5mm	
	フランジ外形	±3mm	

※1　「ロット毎」とは、１日の連続した圧延毎を意味する。

※2　ミルシートが無い場合はそれに代わる資料。

※3　高さは温度補正を行っても良い。

※4　金型の内径を測定する。

・製品名等の表示：ゴム外面には、製作会社社章及び製造番号の表示を行う。

・製品の保護：ゴム外面は、出荷時にビニール等で覆って養生を行う。

［表４－２　欠陥区分および補修方法］

場　所	検査項目	判定基準	処　置
ゴム表面	側面部縦傷、横傷	製品のゴム表面に実用上有害な傷、エアー異物混入がないこと	再製作
	擦れ傷	深さ3mm以内且つせん断変形で進行しない	接着剤補修
		深さ3mmを超える又はせん断変形で進行する	再製作
鋼材部	鋼板の変形	鋼板のそりが1／500を越える	再製作
	塗装	塗装の浮き、剥がれ等有害な欠点がない	塗装補修

２）ベースプレート

製品検査は［表４－３］による

［表４－３　ベースプレートの製品検査規格］

検査項目	検査方法	判定基準	検査数量
材料検査	鋼材のミルシート照合	仕様に相違ないこと ※1	全数
外観検査	完成品の外観目視	有害な欠点がないこと ［表４－４］による	全数
防錆、塗装	塗装膜厚を測定する	２．１）によること	全数
頭付きスタッド	JIS B 1198 による溶接部外観検査	異常がない	全数
	溶接部の15°曲げ試験	溶接部が破断しないこと	抜取 ※2
寸　法	そり：中央部の直交する2方向（４ヶ所測定）	δ1～3＜1.5mm （積層ゴム径φ900 未満）	全数
	そり：中央部と４隅（５ヶ所測定）	δ1～3＜2.0mm （積層ゴム径φ900 以上）	
	ボルト穴位置	±1.2mm	
	ボルト穴径	±0.5mm	
	フランジ外形	±3mm	

※1　ミルシートが無い場合はそれに代わる資料。

※2　抜き取りの数は、工事監理者の指示による。特に指定のない場合は抜き取り率１０%とし、１台当たり１本以上とする。

・下部ベースプレートの上面にセンターラインを打刻する。

・揚重は，吊りフックを用いて行う。

［表４－４　外観検査項目及び処置］

場　所	検査項目	判定基準	処　置
長ナット部	溶接	溶接脚長が製作要領書以上	再製作
鋼材部	塗装	塗装の浮き。剥がれ等有害な欠点がない	塗装補修

５．製品性能検査

製品性能検査は、［表５－１］による。測定方法は、［表５－３］による。

［表５－１　積層ゴムの製品性能検査規格］

実施	検査項目	検査規格	判定基準	数量
○	(等価)水平剛性	せん断歪度　γ＝100% 面圧：基準面圧（ＭＰａ）	［表３－２］に示す製品誤差以内	全数
○	鉛直剛性	面圧：基準面圧±30%（ＭＰａ）	設計値の±20%以内	全数
	水平方向変形性能 ※1	せん断歪度　γ＝200% 面圧：設計面圧（ＭＰａ）	設計者が定めた範囲以内異常のないこと　※3	抜取 ※2
	水平方向面圧依存歪み依存 ※1	せん断歪度 γ＝50、100、200% 面圧：設計面圧±5（ＭＰａ）	設計者が定めた範囲以内異常のないこと　※3	抜取 ※2

※1　性能検査は水平及び鉛直バネ定数を測定後行う。また、水平方向変形性能試験を兼ねることが出来る。
　　順序は、［表５－２］による。

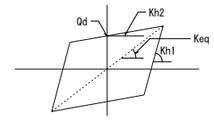
※2 抜き取り率は、特に指定のない場合は、径及び高さの異なる種別毎に抜き取り率２０%かつ３台以上とする。

※3　異常のないとは、接着剥離、破断、損傷がないことをいう。

［表５－２　試験順序］

試験荷重（面圧ＭＰａ）	水平試験順序 せん断歪γ（%） ±50	±100	±200
設計面圧 -5	(1)	(4)	(7)
設計面圧	(2)	(5)	(8)
設計面圧 +5	(3)	(6)	(9)

（ ）内は試験順序



［図５－１復元力モデル］

［表５－３　測定方法］

性能項目	測定方法
等価水平剛性基準	基準面圧の状態で、水平方向にせん断歪み度±100%で４サイクル以上加力し、３サイクル目の履歴特性よりばね定数を算出
降伏後剛性(Kh2) 切片荷重(Qd)	基準面圧の状態で、水平方向にせん断歪み度±100%で４サイクル以上加力し、３サイクル目の降伏後剛性、切片荷重を算出
水平方向変形性能	設計面圧の状態で、水平方向にせん断歪み度±200%で４サイクル以上加力し、３サイクル目の履歴特性よりばね定数を算出、また異常のないことを確認する
鉛直剛性	鉛直方向に基準面圧±30%を４サイクル以上加力し、３サイクル目の履歴特性よりばね定数を算出
水平方向平面依存歪み依存	設計面圧±5MPaの状態で、水平方向にせん断歪み度±50%、±100%、±200%それぞれ４サイクル以上加力し、３サイクル目の履歴特性より各サイクルにおけるばね定数 ※1 を算出

※1　ＳｎＲＢは降伏後剛性と切片荷重。

・等価剛性・等価減衰定数の求め方は大臣認定の中で規定されたものとする。

６．提出資料

工事監理者に提出する書類は、次のとおりとする。

・製作要領書（製作図を含む）

・主要鋼材材料検査証明書

・錫材料検査証明書（ＳｎＲＢの場合）

・ゴム材料検査成績証明書

・製品検査成績書（主要寸法、膜厚、外観検査記録など）

・製品性能検査成績書

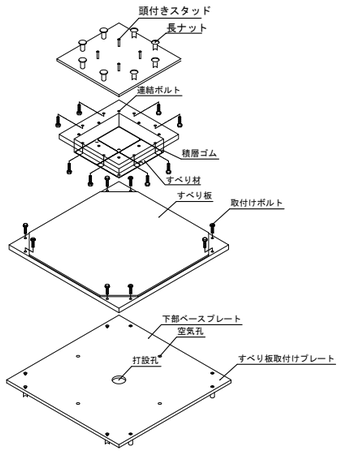
・完成品記録写真（工事監理者と打合わせの上決定）

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	免震構造特記仕様書（３）		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮　尺	【A1】　－　【A3】　－	図面番号	Ｓ－ 16
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号 福岡県知事登録第 1-12326 号
摘　要			所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検　印	管理建築士 / 設　計 / 製　図		一級建築士	山田　剛	登録番号 登録第310062号
			一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号 登録第335522号 第9280号
			一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号 登録第173320号 第1058号

免震構造特記仕様書（４）　【弾性すべり支承】

弾性すべり支承

１．　材料



・使用する免震材料は大臣認定品とする。

２．　防錆・塗装

１）防錆、塗装

防錆・塗装は、大臣認定に表記された仕様もしくは、［表２－１］による。

［表２－１　防錆、塗装］

免震材料	仕　様	塗　装　材　料	標準膜厚
ベースプレート ブラケット アンカーボルト	下地処理	ブラストにより除錆する	－
	下　塗	ジンクリッチペイント	75μｍ
	中　塗	エポキシ樹脂系塗料	60μｍ
	上　塗	エポキシ樹脂系塗料	35μｍ
	合計膜厚		170μｍ以上

２）色調

上塗り塗装の色調は、工事監理者の指示による。

３）塗装部位

塗装部位は、工事監理者の指示による。

ブラケットは、端面より内に20mm程度までとする。

３．　設計値

弾性すべり支承の設計値は［表３－１］による。

［表３－１　設計値］

弾性すべり支承	基数	設計荷重 σ（N/mm²）	鉛直剛性 Kv（kN/mm）	一次剛性 K1（kN/mm）	動摩擦係数 *1 μ
			免震材料リストによる。		

*1　静的定格荷重による値とする。

［表３－２　設計に考慮したばらつき］

	一次剛性	摩擦係数 μ	備　考
製品誤差（製品個々）	-30%≦～≦+30%	-50%≦～≦+50%	
製品誤差（全体）	-30%≦～≦+30%	-50%≦～≦+50%	
経年変化（60年担当）	0%≦～≦+15%	－	
温度(0℃～35℃)	-4.5%≦～≦+6%	－	
繰り返し依存	－	－	
合　計（全　体）	-34.5%≦～≦51%	-50%≦～≦+50%	

４．　製品検査

１）弾性すべり支承

製品検査は［表４－１］による。

［表４－１　弾性すべり支承の製品検査規格］

検査項目	検査内容	判定基準	数　量
材料検査	鋼材のミルシート照合 ゴムの基本物性値 （工場検査成績書）	仕様に相違ないこと ※1	全数
外観検査	完成品の外観目視	有害な欠点がないこと ［表４－２］による	全数
防錆･塗装	塗装膜厚を測定する	２．１）によること	全数
寸法	測定する	［表４－４］による	全数

※1 ミルシートが無い場合はそれに代わる資料。

・製品名等の表示：ベースプレートの隅角部に製作会社社章及び製造番号の表示を行う。

［表４－２　弾性すべり支承の外観検査項目および処置］

検査項目	判定基準	処　置
側面部 縦傷･横傷･擦れ傷	深さが被覆ゴム層厚の半分未満で 傷の総延長／ゴム部全集<1／10	接着剤補修
	深さが被覆ゴム層厚の半分未満で 傷の総延長／ゴム部全集≧1／10 上記の傷の深さおよび長さ判定基準を 原則とするが、他の損傷が認められたとき	再製作 施工者（または製作者）と 協議の上、工事監理者が判断
コーナー部欠陥	鋼板に達しない場合	接着剤補修
コーナー部亀裂	鋼板に達する場合	加硫補修
鋼板の変形	変形の有無	再製作

［表４－３　弾性すべり支承の寸法検査および精度］

項　目	精　度　・　等　級	検査数
積層ゴム高さ　200mm以下	±3.0 mm	全　数
200mmを超える	±5.0 mm	
取付ボルト位置	±1.0 mm（0.5mm）	
上下フランジの平行度　δ／φ1	1／500以下	
ゴム部外形（外形）寸法	±4 mm	
ボルト穴径	±0.5 mm	

（ ）内は管理許容差を示す。

［表４－４　弾性すべり支承の組立精度規定］

項　目	寸法許容差
すべり板のそり	1／500以下
取付けボルト位置	±1.0mm
すべり板の辺長	設計値±3mm
ベース鋼板の辺長	設計値±3mm

２）ベースプレート

製品検査は［表４－５］による

［表４－５　ベースプレートの製品検査規格］

検査項目	検査方法	判定基準	検査数量
材料検査	鋼材のミルシート照合	仕様に相違ないこと ※1	全数
外観検査	完成品の外観目視	有害な欠点がないこと ［表４－６］による	全数
防錆、塗装	塗装膜厚を測定する	２．１）によること	全数
頭付き スタッド	JIS B 1198 による溶接部外観検査	異常がない	全数
	溶接部の15°曲げ試験	溶接部が破断しないこと	抜取 ※2
寸　法	そり：中央部の直交する2方向（４ヶ所測定） δ1　δ2 そり：中央部と４隅（５ヶ所測定） δ3	δ1～3<2.0mm	全数
	ボルトＰ．Ｃ．Ｄ及び穴径	テンプレートによる確認	

※1　ミルシートが無い場合はそれに代わる資料。

※2　抜き取りの数は、工事監理者の指示による。特に指定のな場合は抜き取り率１０％とし、１台当たり１本以上とする。

・下部ベースプレートの上面にセンターラインを打刻する。

・搬重は，吊りフックを用いて行う。

［表４－６　ベースプレートの外観検査項目及び処置］

場　所	検査項目	判定基準	処　置
長ナット部	溶接	溶接脚長が製作要領書以上	再製作
鋼材部	塗装	塗装の浮き。剥がれ等有害な欠点がない	塗装補修

５．　製品性能検査

製品性能検査は、［表５－１］による。

［表５－１　弾性すべり支承の製品性能検査規格］

実施	検査項目	検査規格	判定基準	数量
○	初期剛性　K1 動摩擦係数　μ	加振速度15mm/secにて振幅200mm ×4サイクルの水平加力を行い、 3サイクル目のすべり発生時の 水平荷重・水平変位およびすべり 発生時の水平荷重を算出する。 面圧：基準面圧（Mpa）	初期剛性：設計値の±30%以内 動摩擦係数： 製品個々:設計値の±50%以内 全体　　:設計値の±30%以内	全数
○	鉛直剛性 Kv	面圧：基準面圧±30%(Mpa)	製品個々:設計値の±30%以内 全体　　:設計値の±20%以内	全数

６．　施工中の検査

・施工中次にあげる時期に装置の設置（すべり面の接地）状況を記録し工事監理者に報告する。

① 弾性すべり支承直上階の型枠建込が完了、または弾性すべり支承直上階の鉄骨建て方が完了したとき

② ①の型枠脱型完了したとき

③ 上棟したとき

④ 竣工前

７．　提出資料

工事監理者に提出する書類は、次のとおりとする。

・製作要領書（製作図を含む）

・主要寸法検査成績書

・主要鋼材材料検査証明書

・製品検査成績書

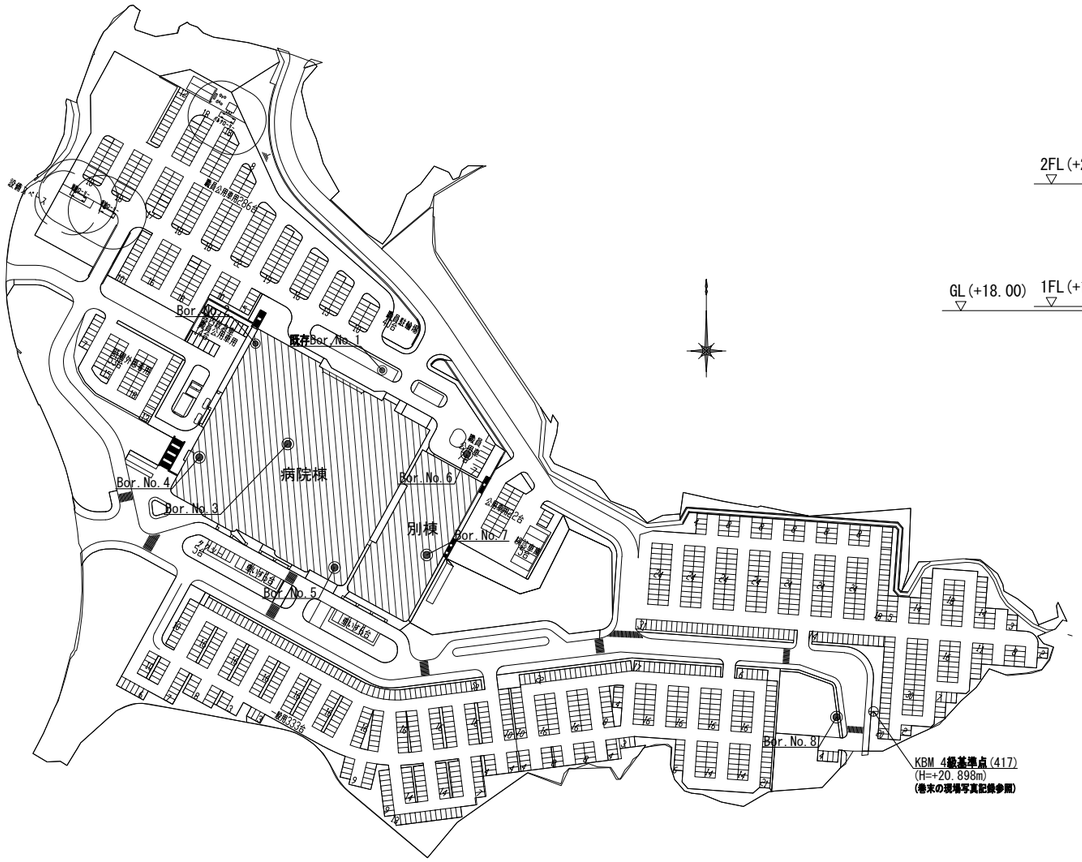
・製品性能検査成績書

・完成品記録写真（工事監理者と打合わせの上決定）

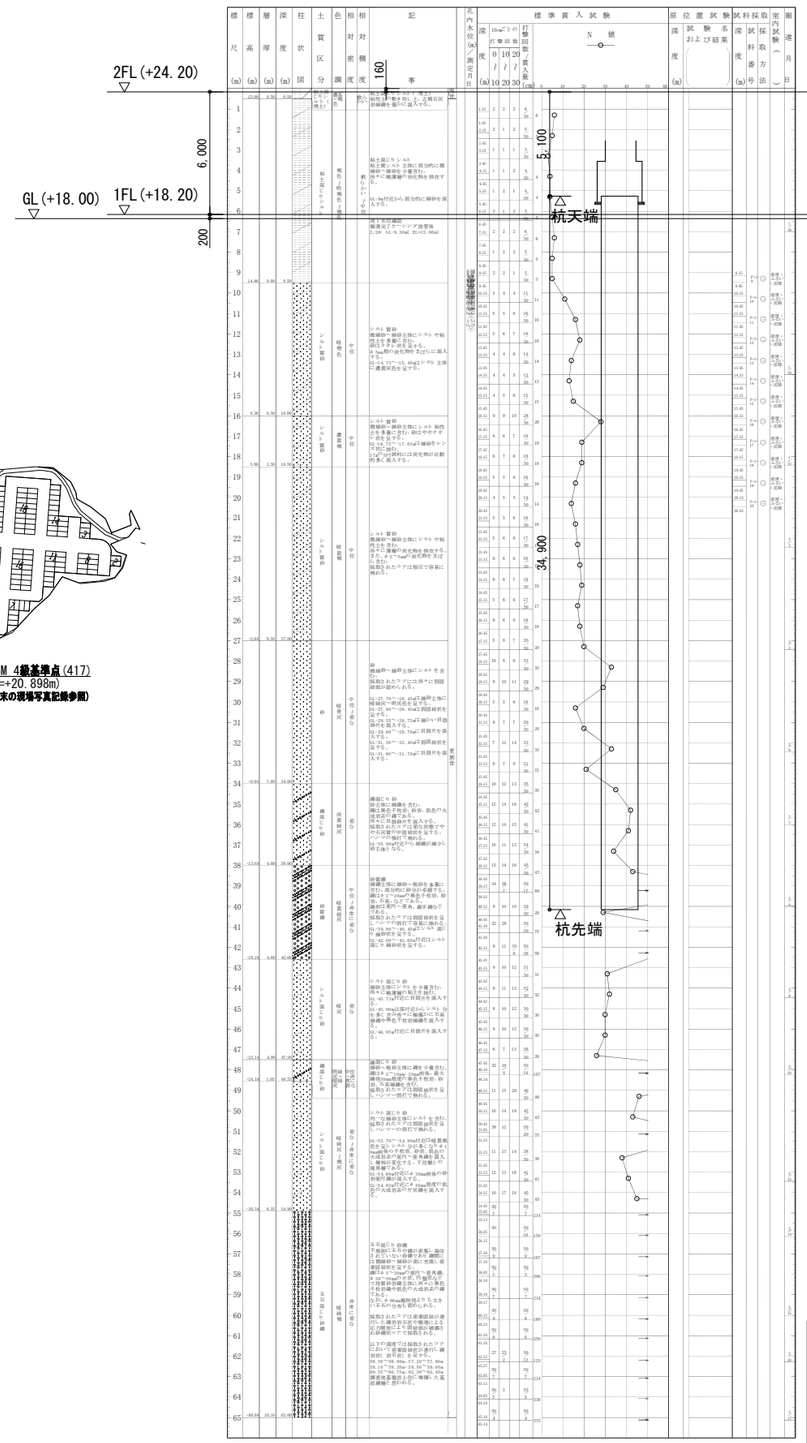
・保証書（工事監理者と打合わせの上決定）

・設置完了報告書

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	免震構造特記仕様書（４）		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮　尺	【A1】　－　【A3】　－	図面番号	Ｓ－ 17
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号　福岡県知事登録第 1-12326 号
摘　要			所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検　印	管理建築士 / 設　計 / 製　図		一級建築士	山田　剛	登録番号　登録第310062号
			一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号　登録第335522号 第9280号
			一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号　登録第173320号 第1058号

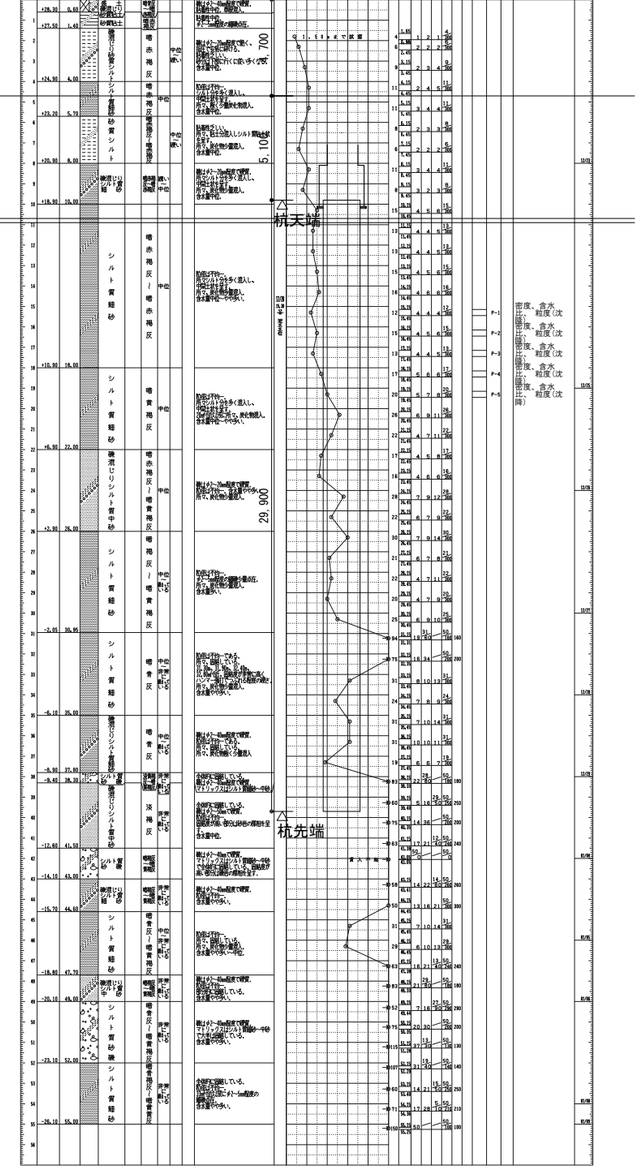


ボーリング名	2	調査位置	沖縄県名護市大北1丁目15-9	北緯	26°36'04.48"
発注機関	株式会社 内藤建築事務所	調査期間	2023年12月22日～2024年 1月 9日	東経	127°59'15.62"
調査業者名	株式会社 東京ソイルリサーチ 沖縄営業所 電話(098-878-6299)	主任技師	比嘉 大樹 第20733号 / 高橋 孝幸 第20228号	ボーリング責任者	知花 央 第13874号
孔口標高	+28.90m	角度	90° 方向	地質技師	比嘉 大樹 第20733号
総掘進長	55.00m	使用機械	エンジン ヤンマー NFD-13	ポンプ	共立 HP503



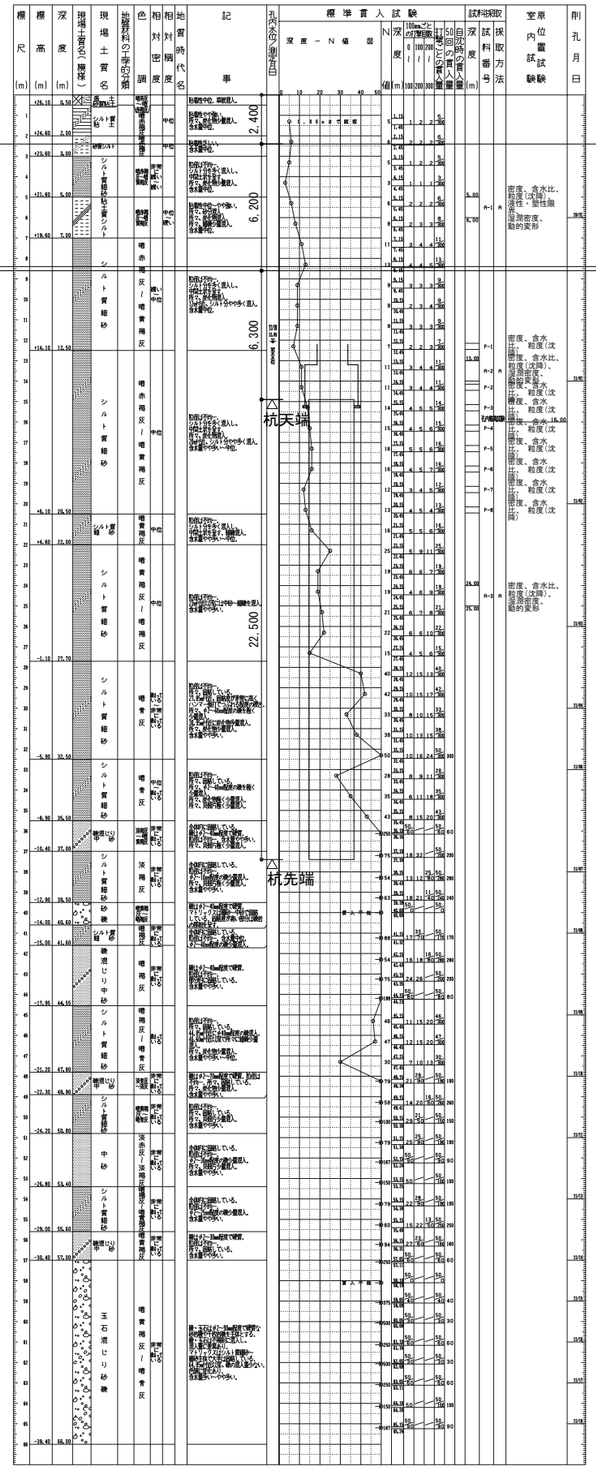
ボーリング名	B-1	調査位置	沖縄県名護市大北1丁目15－9（現県立農業大学校用地）	北緯	
発注機関	沖縄県保健医療部医療政策課	調査期間	令和 5年 1月 26日 ～ 5年 2月 17日	東経	
調査業者名	株式会社内外地質電事商所九州事務所 電話(092-541-6331)	主任技師	島川 裕介	現代理人 / 現場代理人	桐村 陸美 / コア鑑定者 山崎 住博
孔口標高	EL= 24.30m	角度	90° 方向	試錐機	TOHO D-1 / ハンマー落下用具 半自動落下式
総掘進長	65.00m	使用機械	エンジン NFD10-K / ポンプ YS450DX	地質技師 / ボリング責任者	宇留嶋 正孝

ボーリング名	2	調査位置	沖縄県名護市大北1丁目15-9	北緯	26°36'04.48"
発注機関	株式会社 内藤建築事務所	調査期間	2023年12月22日～2024年 1月 9日	東経	127°59'15.62"
調査業者名	株式会社 東京ソイルリサーチ 沖縄営業所 電話(098-878-6299)	主任技師	比嘉 大樹 第20733号 / 高橋 孝幸 第20228号	現代理人 / 現場代理人	比嘉 大樹 第20733号 / コア鑑定者 高橋 孝幸 第20228号
孔口標高	+28.90m	角度	90° 方向	試錐機	比嘉 大樹 第20733号 / ハンマー落下用具 半自動落下式
総掘進長	55.00m	使用機械	エンジン ヤンマー NFD-13	地質技師 / ボリング責任者	知花 央 第13874号

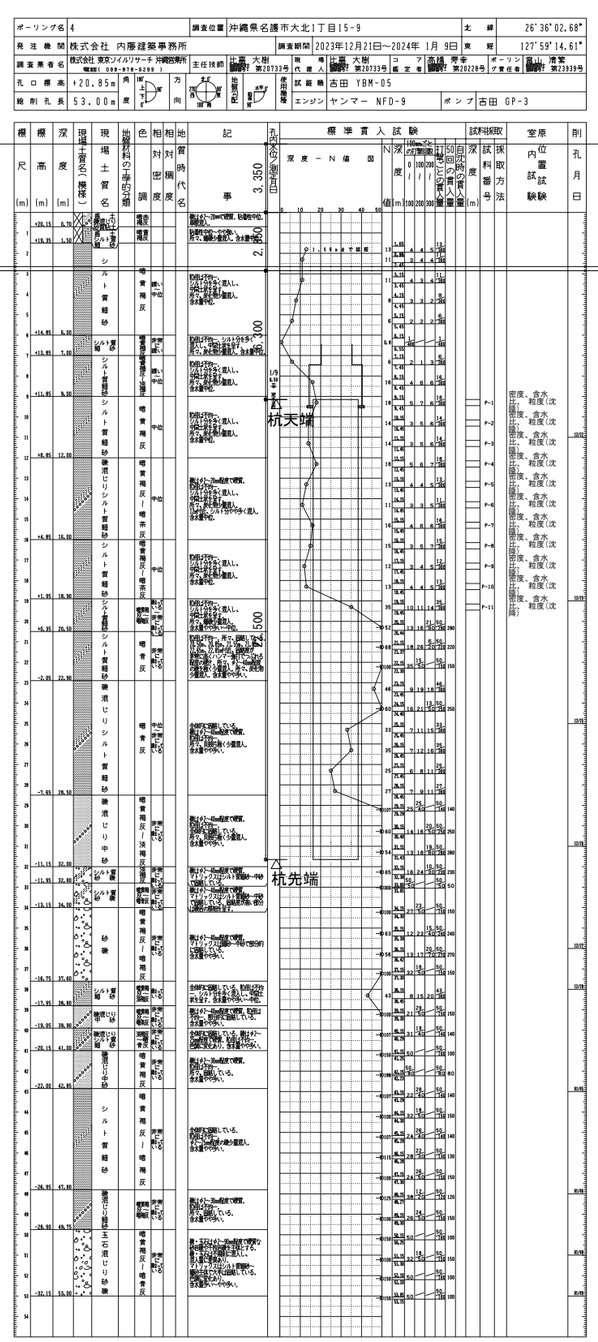


工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	ボーリング柱状図（１）		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	【A1】1/150 【A3】 1/300	図面番号	S － 18
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和 7 年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号 福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘要			所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検印	管理建築士 / 設計 / 製図		一級建築士	山田 剛	登録番号 登録第310062号
			一級建築士 構造設計一級建築士	末吉 謙太郎	登録番号 登録第335522号 第9280号
			一級建築士 設備設計一級建築士	丸山 茂義	登録番号 登録第173320号 第1058号

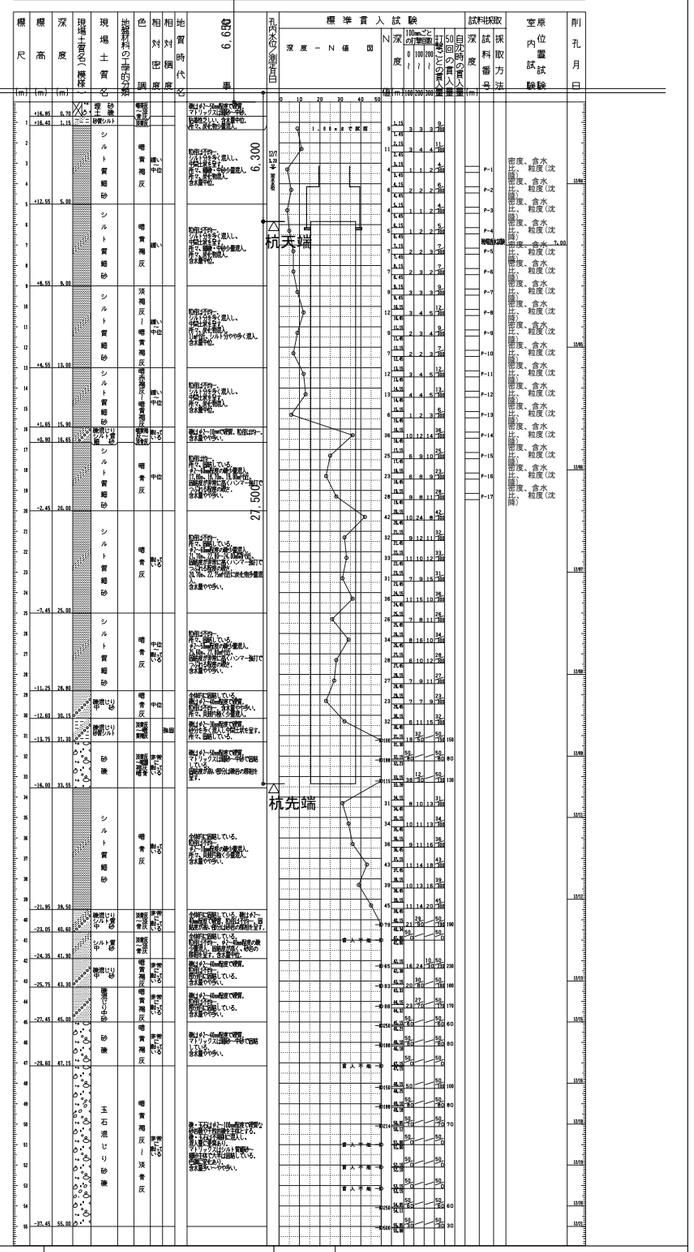
ボーリング名 3	調査位置 沖縄県名護市大北1丁目15-9	北緯	26°36'02.88"
発注機関 株式会社 内藤建築事務所	調査期間 2023年10月30日～2023年11月20日	東経	127°59'16.18"
調査業者名 株式会社 東京ソイルリサーチ 沖縄営業所（電話(098-878-6299)）	主任技師 比嘉 大樹 第20733号	現場代理人 比嘉 大樹 第20733号	コア採取者 高橋 琴幸 第20228号	ボーリング責任者 知元 央 第13874号
孔口標高 +26.60m	角度 90°	方向 北	地質区分	参照標高
総削孔長 66.00m	試錐機 古田 YSO-1HA		
	エンジン ヤンマー NFD-13	ポンプ 共立 HP503	



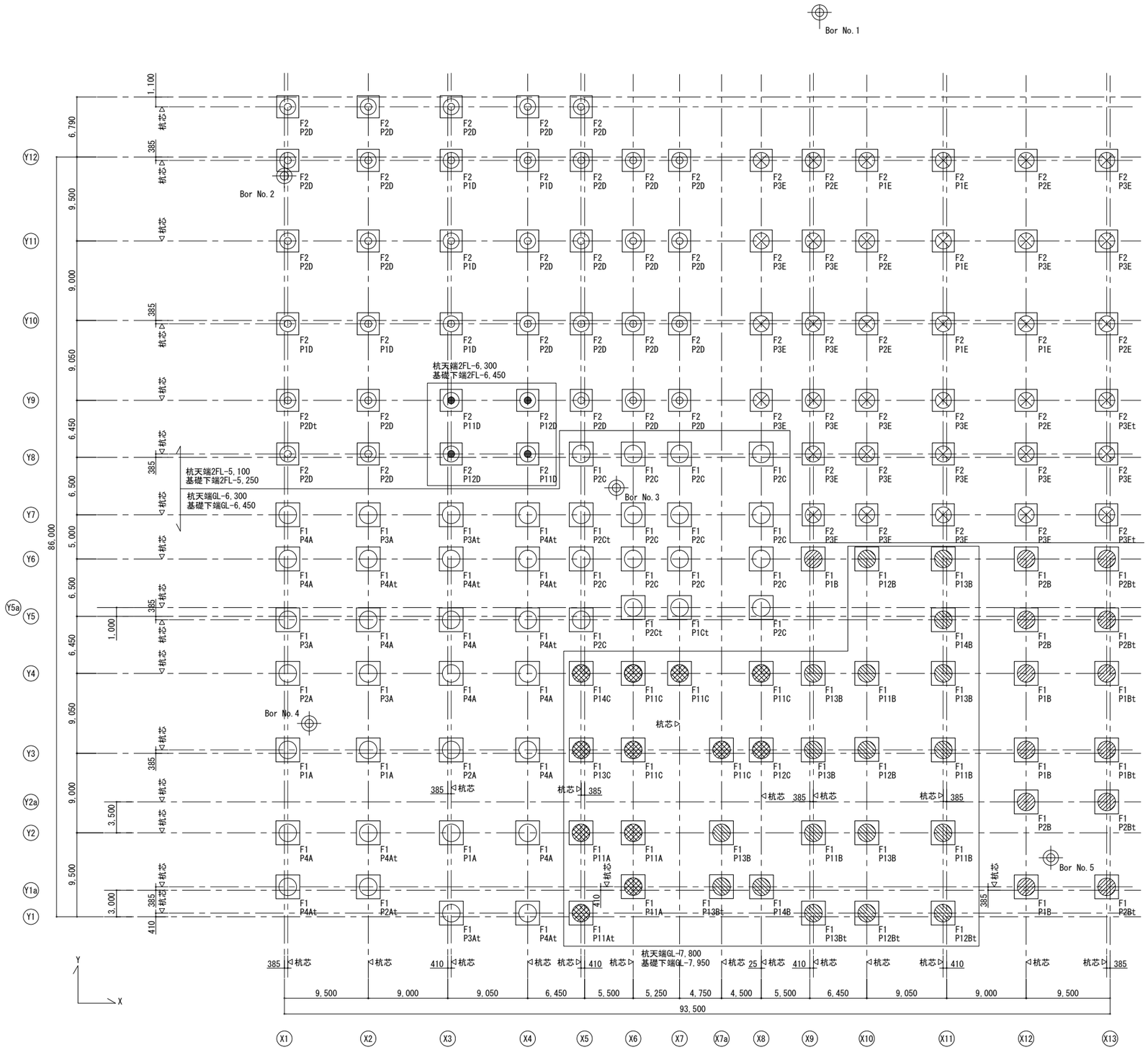
ボーリング名 4	調査位置 沖縄県名護市大北1丁目15-9	北緯	26°36'02.68"
発注機関 株式会社 内藤建築事務所	調査期間 2023年12月21日～2024年 1月 9日	東経	127°59'14.61"
調査業者名 株式会社 東京ソイルリサーチ 沖縄営業所（電話(098-878-6299)）	主任技師 比嘉 大樹 第20733号	現場代理人 比嘉 大樹 第20733号	コア採取者 高橋 琴幸 第20228号	ボーリング責任者 名山 清繁 第23939号
孔口標高 +20.85m	角度 90°	方向 北	地質区分	参照標高
総削孔長 53.00m	試錐機 古田 YBM-05		
	エンジン ヤンマー NFD-9	ポンプ 古田 GP-3	



ボーリング名 5	調査位置 沖縄県名護市大北1丁目15-9	北緯	26°36'00.92"
発注機関 株式会社 内藤建築事務所	調査期間 2023年12月 4日～2023年12月21日	東経	127°59'17.00"
調査業者名 株式会社 東京ソイルリサーチ 沖縄営業所（電話(098-878-6299)）	主任技師 比嘉 大樹 第20733号	現場代理人 比嘉 大樹 第20733号	コア採取者 高橋 琴幸 第20228号	ボーリング責任者 知元 央 第13874号
孔口標高 +17.55m	角度 90°	方向 北	地質区分	参照標高
総削孔長 55.00m	試錐機 古田 YSO-1HA		
	エンジン ヤンマー NFD-13	ポンプ 共立 HP503	



工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	ボーリング柱状図（２）
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	【A1】 1/150 【A3】 1/300	図面番号	S － 19
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体
工事年度	令和 7 年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘要			所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16
検印	管理建築士 / 設計 / 製図		一級建築士	山田 剛	登録番号	登録第310062号
			一級建築士 構造設計一級建築士	末吉 謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9280号
			一級建築士 設備設計一級建築士	丸山 茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号



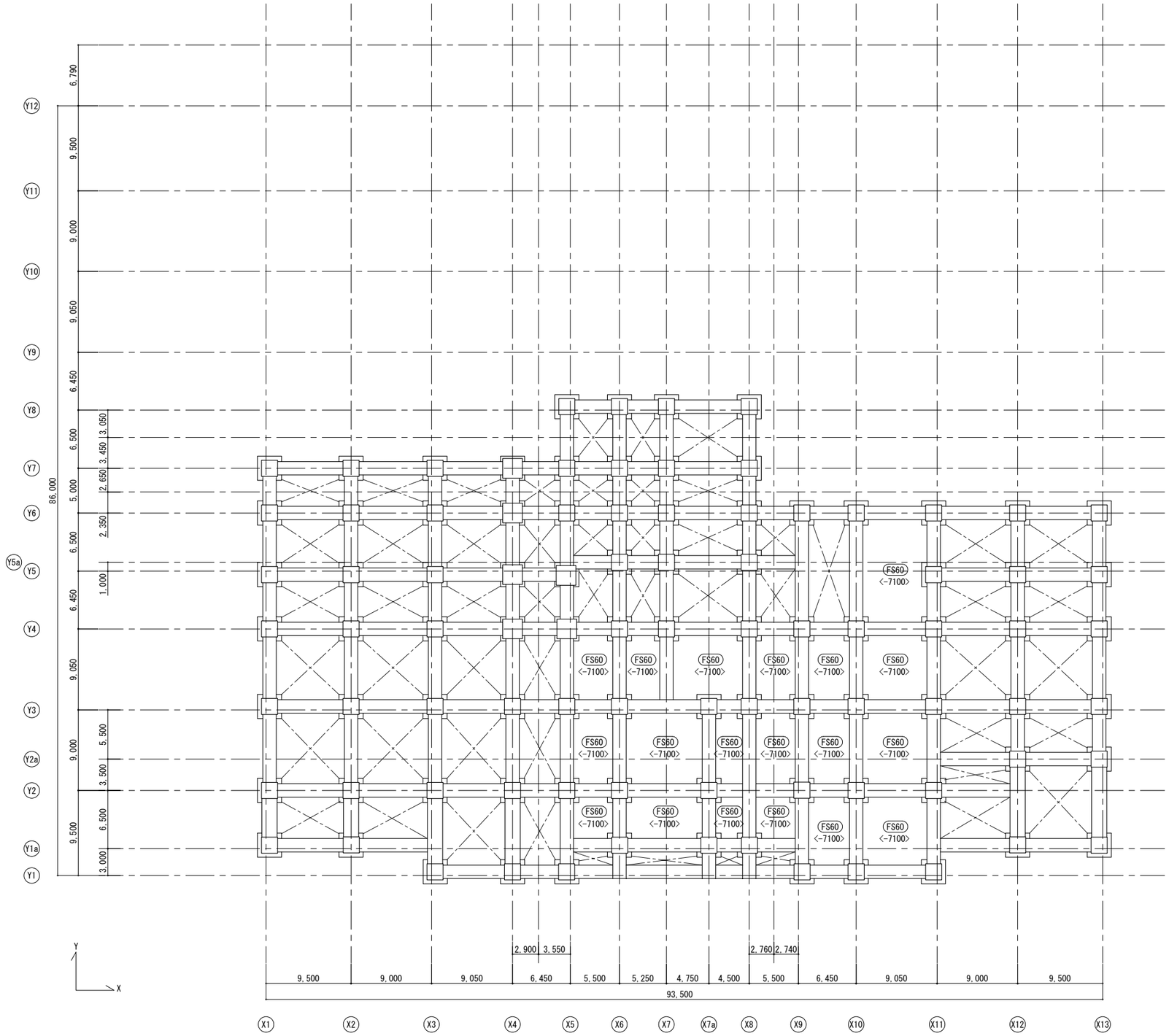
特記なき限り下記による

1. 杭天端レベル：図示による
2. 基礎下端レベル：図示による
3. ⊕ ボーリング調査位置を示す。
4. 試験杭は２箇所とし、位置は監理者と協議して決定する。
5. 杭長・杭先端位置は現地で支持層確認の上最終決定すること。

符号	杭長（m）	本数（本）
⊗	21.0	12
○	22.5	44
⊗	26.0	18
⊗	27.5	13
◉	28.7	5
⊙	29.9	33
⊗	34.9	34

杭伏図　1/250

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	杭伏図		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮　尺	【A1】1/250 【A3】 1/500	図面番号	S － 20
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号 福岡県知事登録第 1-12326 号
摘　要			所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検　印	管理建築士 / 設　計 / 製　図		一級建築士	山田　剛	登録番号 登録第310062号
			一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号 登録第335522号 第9280号
			一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号 登録第173320号 第1058号

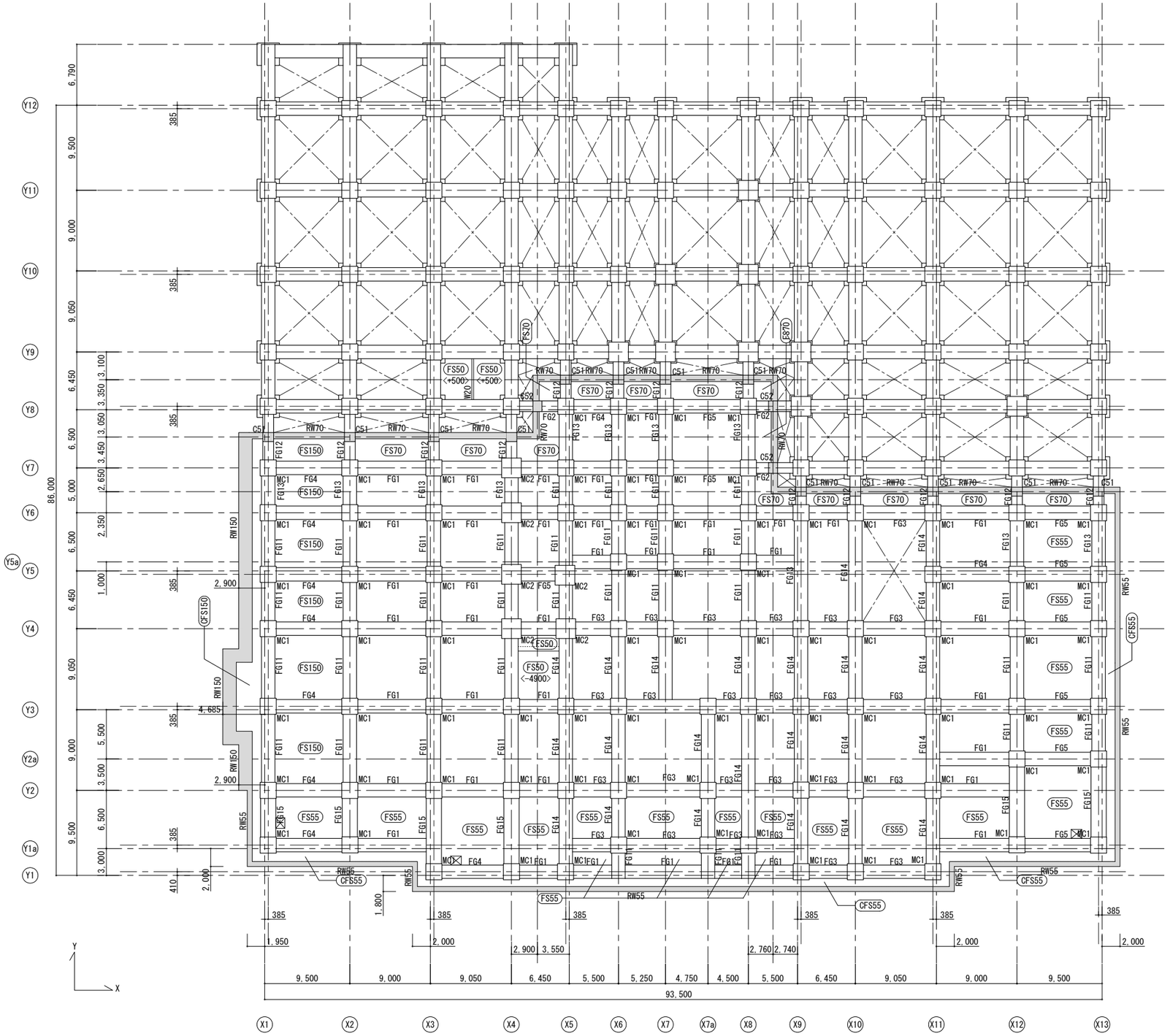


特記なき限り下記による

1. ▷-◁ ：埋め戻し範囲を示す。
2. ⊠ 釜場を示す。
3. < >内数値は、GLからのスラブ天端レベルを示す。

基礎ピット伏図 1/250

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）		図面名称	基礎ピット伏図	
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9		縮　尺	【A1】1/250 【A3】1/500	図面番号 S - 21
発注機関	沖縄県北部医療組合		設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体
工事年度	令和 7 年度			代表企業	株式会社内藤建築事務所　登録番号 福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘　要				所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16
検　印	管理建築士	設　計	製　図	一級建築士	山田　剛　登録番号 登録第310062号
				一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎　登録番号 登録第335522号 第9280号
				一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義　登録番号 登録第173320号 第1058号

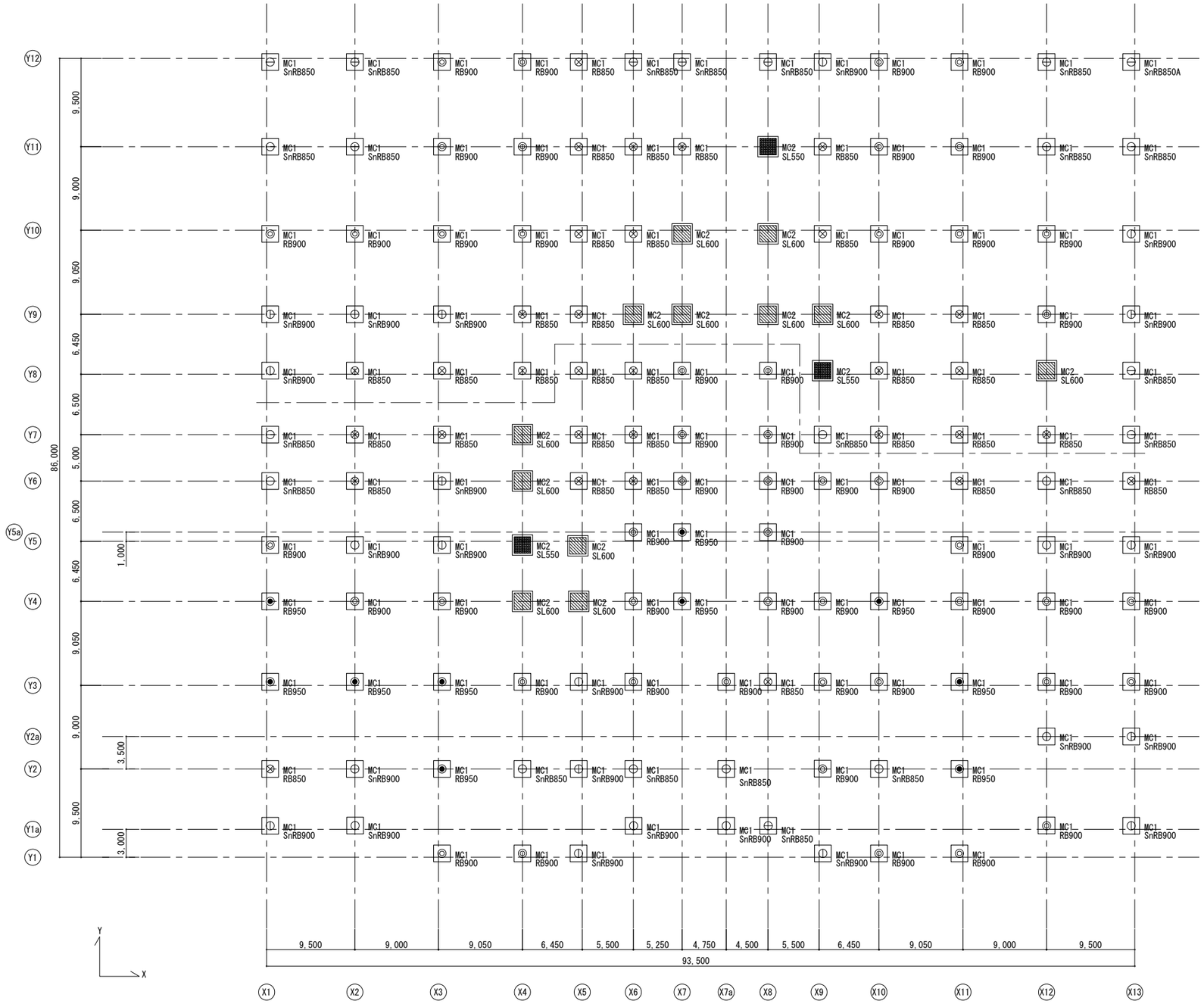


特記なき限り下記による

1. 一般スラブ：FS35
2. 一般スラブ天端：GL-3200
   < >内数値は、GLからのスラブ天端レベルを示す。
3. 基礎梁天端：GL-3200
4. ▷-◁ ：埋め戻し範囲を示す。
5. ⊠ 釜場を示す。

基礎・免震層伏図 1/250

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	免震ピット伏図		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮　尺	【A1】1/250 【A3】 1/500	図面番号	S - 22
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和 7 年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号 福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘　要			所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検　印	管理建築士 / 設　計 / 製　図		一級建築士	山田　剛	登録番号 登録第310062号
			一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号 登録第335522号 第9280号
			一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号 登録第173320号 第1058号



免震装置配置図 1/250

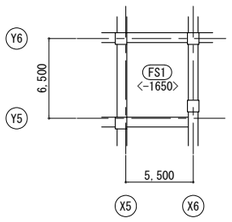
特記なき限り下記による

1.免震装置芯=柱芯とする。

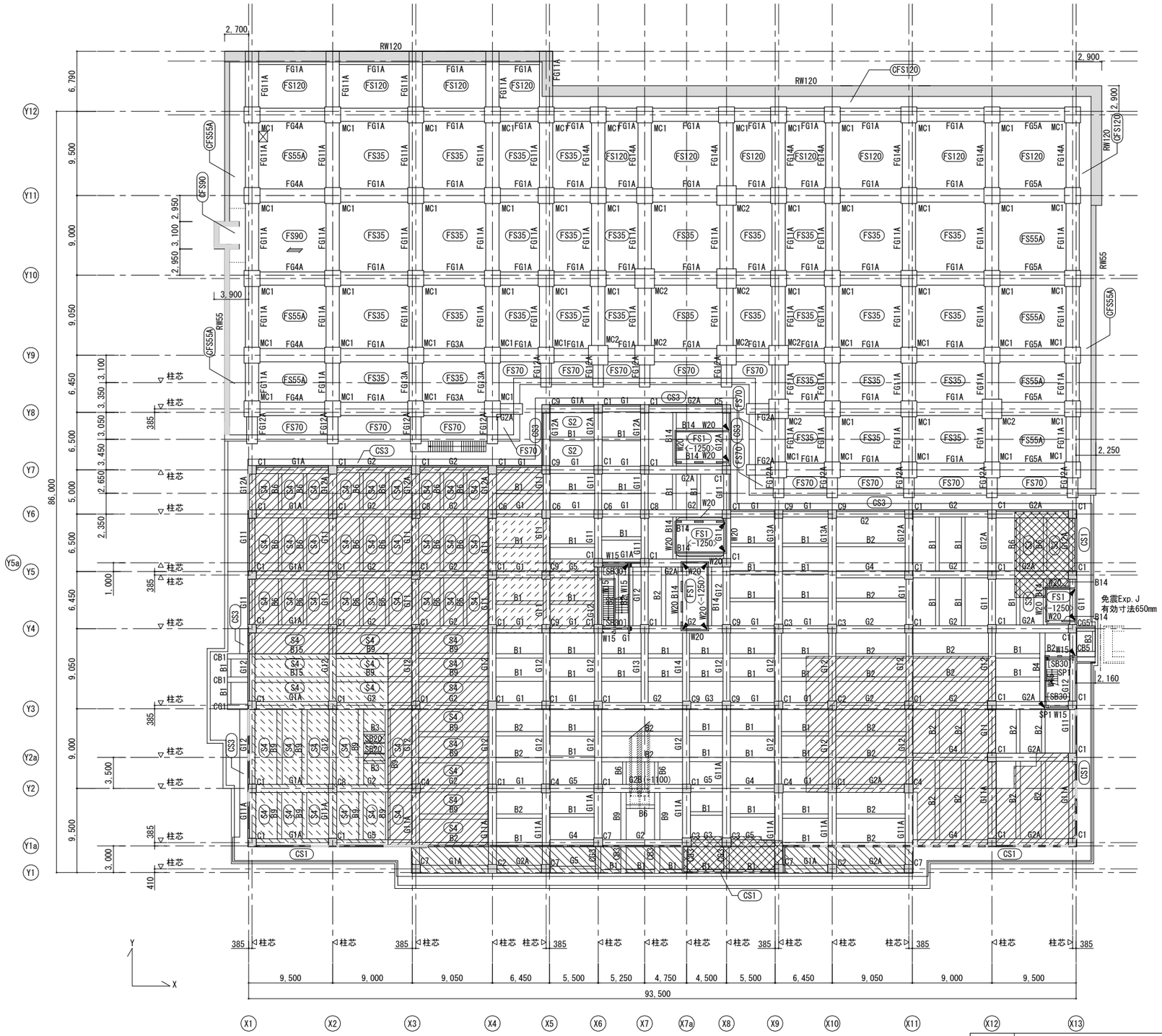
免震材料リスト

免震材料	符号		免震材料径	基数
天然ゴム系 積層ゴム支承	⊗	RB850	φ850	33
	◎	RB900	φ900	49
	◉	RB950	φ950	10
錫プラグ入り 積層ゴム支承	⊖	SnRB850(SnRB850A)	φ850	22
	⦶	SnRB900	φ900	24
弾性すべり支承	■	SL550	□550	3
	▨	SL600	□600	12

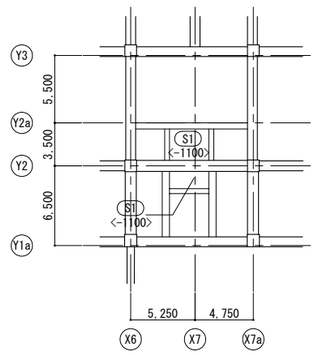
工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 （建築工事）			図面名称	免震装置配置図
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9			縮　尺	【A1】1/250 【A3】 1/500
発注機関	沖縄県北部医療組合			図面番号	S － 23
工事年度	令和　7　年度			設計者	JV名称：内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体
摘　要					代表企業：株式会社内藤建築事務所　登録番号：福岡県知事登録 第 1-12326 号
検　印	管理建築士	設　計	製　図		所 在 地：福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16
					一級建築士：山田　剛　登録番号：登録第310062号
					一級建築士 構造設計一級建築士：末吉　謙太郎　登録番号：登録第335522号 第9280号
					一級建築士 設備設計一級建築士：丸山　茂義　登録番号：登録第173320号 第1058号



1階床下部ピット伏図　1/250



1階柱壁・1階梁床伏図　1/250

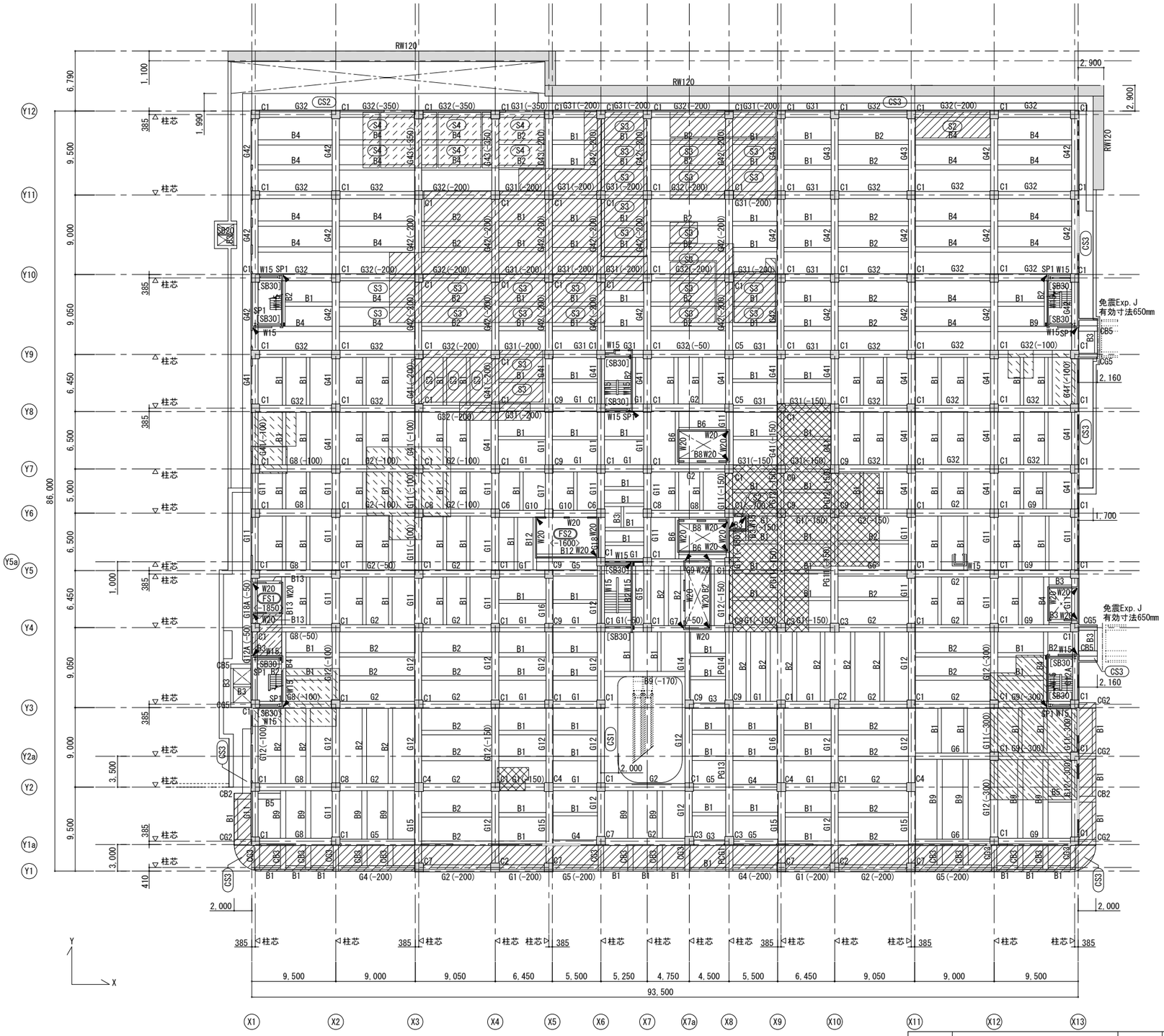


1階床下部ピット伏図　1/250

特記なき限り下記による

1. 1FL=GL+200
2. 一般スラブ S1
   < >内数値は、1FLからのスラブ天端レベルを示す。
3. 一般壁 W18
4. 基礎梁天端　1FL-400
   FG1A～FG5A, FG11A～FG14A　1FL+3,000
   ( )内数値は、1FLからの梁天端レベルを示す。
   小梁天端は床レベルによる。
5. 一般スラブ天端　1FL-10
   FS, CFS符号は　1FL+3,000
   - 1FL-50
   - 1FL-100
   - 1FL-150
   - 1FL-300
   - 1FL-400
6. 増打コンクリートを示す。
7. 鉛直スリットを示す。
   フレーム内のスリットは軸組図による。
8. スラブの主筋方向を示す。
9. 二重スラブを示す。

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	1階柱壁・1階梁床伏図		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮　尺	【A1】1/250 【A3】1/500	図面番号	S - 24
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号　福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘　要			所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検　印	管理建築士 / 設　計 / 製　図		一級建築士	山田　剛	登録番号　登録第310062号
			一級建築士 監理技術者・一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号　登録第335522号 第9280号
			一級建築士 監理技術者・一級建築士	丸山　茂義	登録番号　登録第173320号 第1058号



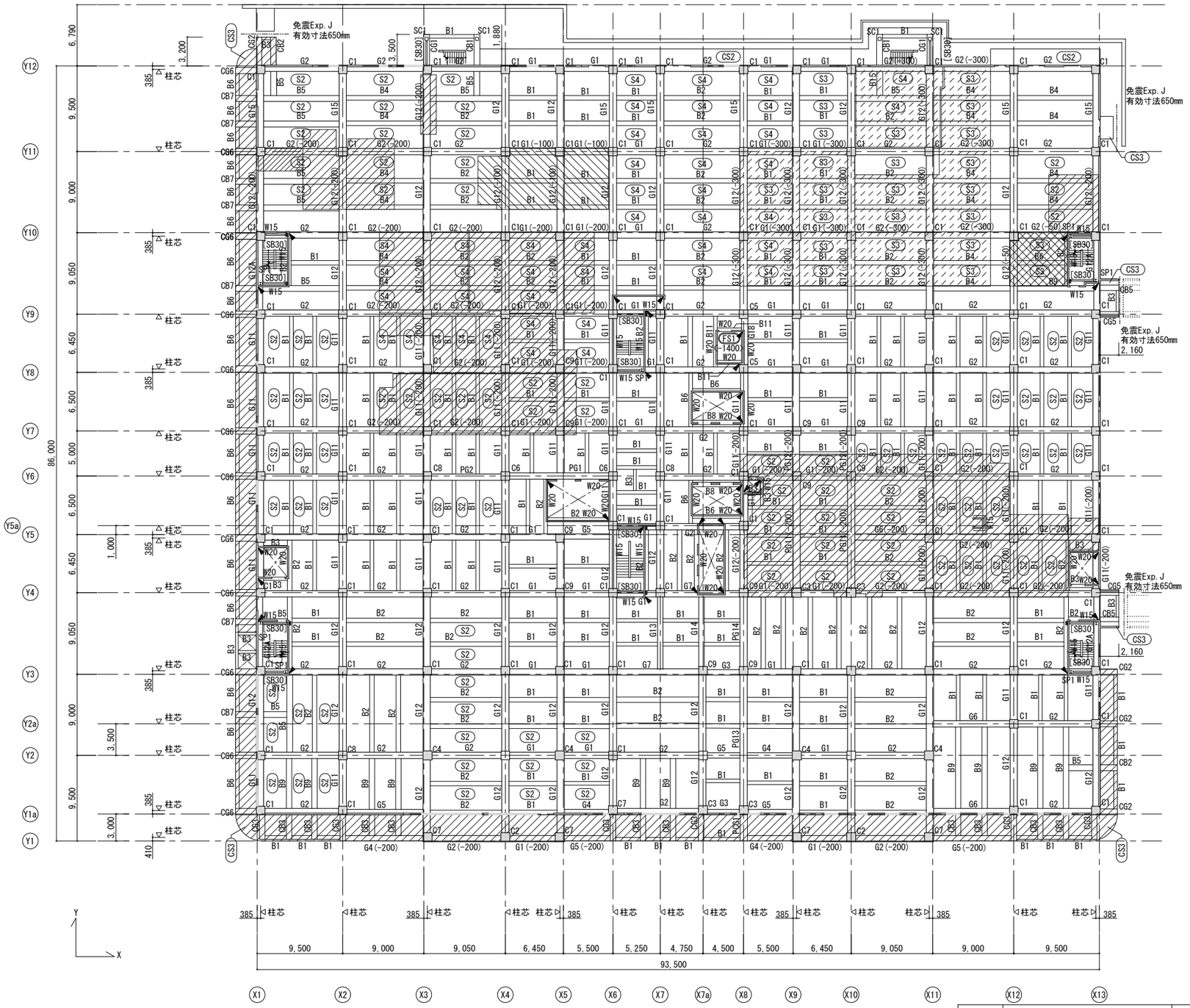
2階柱壁・2階梁床伏図　1/250

特記なき限り下記による

1. 一般スラブ S1
2. 一般壁 W18
3. 梁天端　2FL-10
（　）内数値は、2FLからの梁天端レベルを示す。
小梁天端・片持ち梁天端及び勾配方向の梁天端は
床レベルによる。
4. 一般スラブ天端　2FL-10
2FL-50
2FL-100
2FL-150
2FL-200
2FL-300
2FL-350
5. ☒ は、床開口を示す。
6. ▩ 増打コンクリートを示す。
7. ➢ 鉛直スリットを示す。
フレーム内のスリットは軸組図による。
8. ⬭ 二重スラブを示す。

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）			図面名称	2階柱壁・2階梁床伏図
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9			縮　尺	【A1】1/250 【A3】1/500
発注機関	沖縄県北部医療組合			図面番号	S － 25
工事年度	令和　7　年度				
摘　要					
検　印	管理建築士	設　計	製　図		

設計者				
JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体			
代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録 第 1-12326 号	
所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16			
一級建築士	山田　剛	登録番号	登録第310062号	
一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9280号	
一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号	

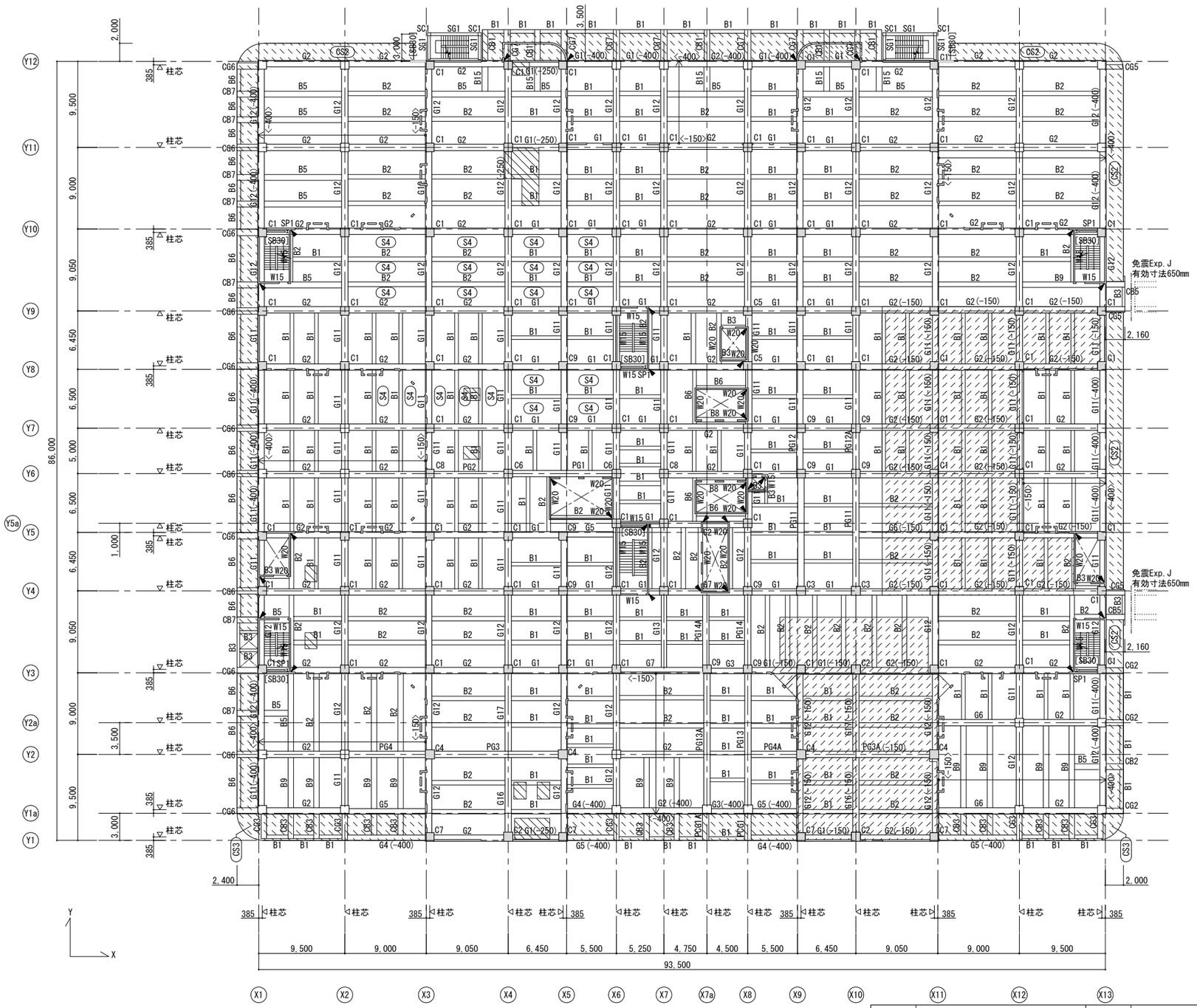


3階柱壁・3階梁床伏図　1/250

特記なき限り下記による

1. 一般スラブ S1
2. 一般壁 W18
3. 梁天端　3FL-10
( )内数値は、3FLからの梁天端レベルを示す。
小梁天端・片持ち梁天端及び勾配方向の梁天端は
床レベルによる。
[ ]内符号は、踊場受けレベルの梁を示す。
4. 一般スラブ天端　3FL-10
3FL-50
3FL-100
3FL-200
3FL-300
5. ☒ は、床開口を示す。
6. 増打コンクリートを示す。
7. ▶ 鉛直スリットを示す。
フレーム内のスリットは軸組図による。
8. ⬭ 二重スラブを示す。

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	3階柱壁・3階梁床伏図		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮　尺	【A1】1/250 【A3】 1/500	図面番号	S - 26
発注機関	沖縄県北部医療組合				
工事年度	令和　7　年度				
摘　要					
検　印	管理建築士 / 設　計 / 製　図	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
			代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号 福岡県知事登録 第 1-12326 号
			所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
			一級建築士	山田　剛	登録番号 登録第310062号
			一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号 登録第335522号 第9280号
			一級建築士 構造設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号 登録第173320号 第1058号

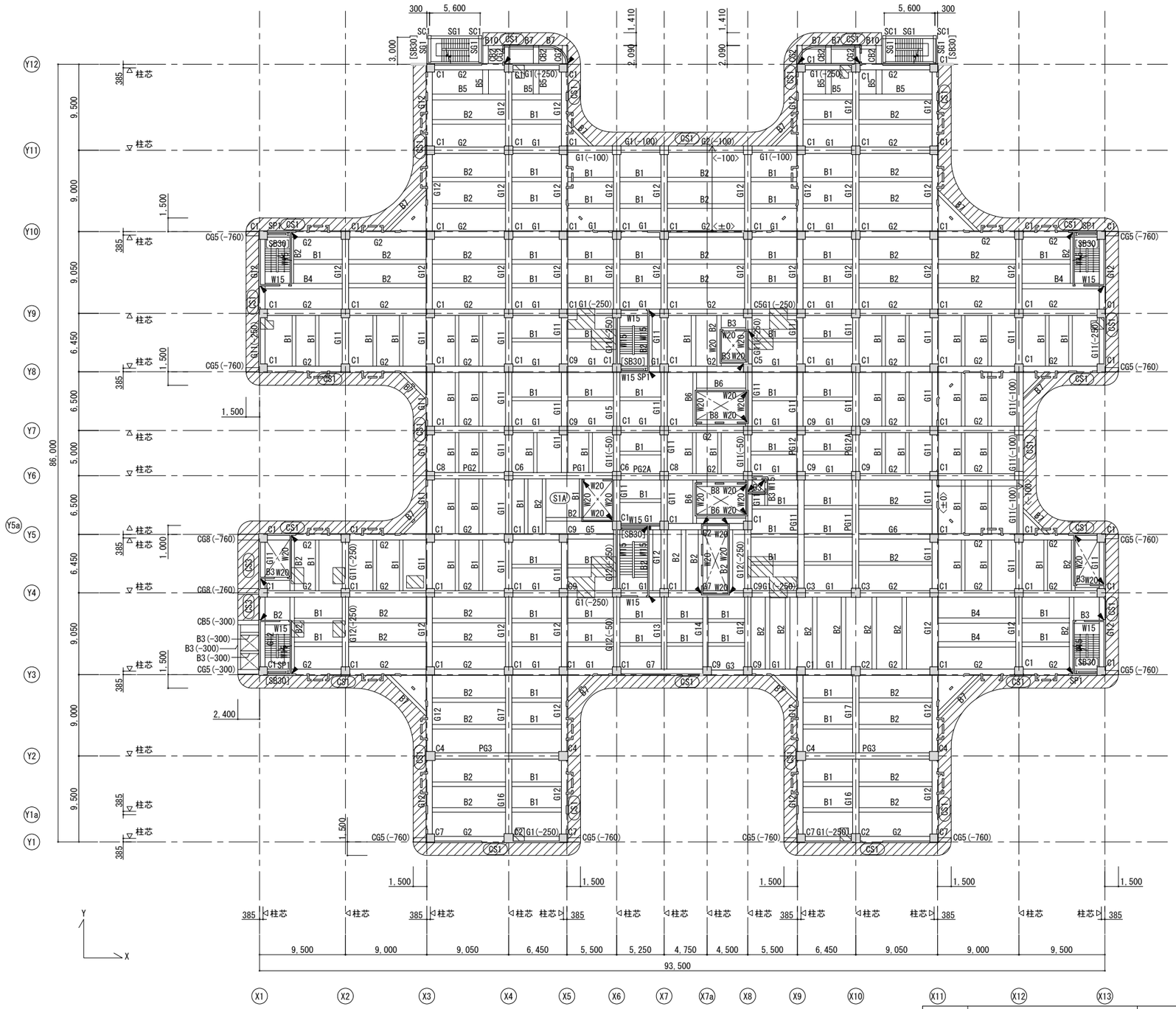


特記なき限り下記による

1. 一般スラブ S1
2. 一般壁 W18
3. 梁天端 4FL-10
( )内数値は、4FLからの梁天端レベルを示す。
小梁天端・片持ち梁天端及び勾配方向の梁天端は
床レベルによる。
[ ]内符号は、踊場受けレベルの梁を示す。
4. 一般スラブ天端 4FL-10
4FL-150
4FL-250
4FL-400
5. ⟶ は、スラブ勾配を示す。
< >内数値は、4FLからのスラブ天端レベルを示す。
6. ☒ は、床開口を示す。
7. 増打コンクリートを示す。
8. ▶ 鉛直スリットを示す。
フレーム内のスリットは軸組図による。

4階柱壁・4階梁床伏図 1/250

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	4階柱壁・4階梁床伏図		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	【A1】1/250 【A3】 1/500	図面番号	S - 27
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和 7 年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号 福岡県知事登録第 1-12326 号
摘要			所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検印	管理建築士 / 設計 / 製図		一級建築士	山田 剛	登録番号 登録第310062号
			一級建築士	末吉 謙太郎	登録番号 登録第335522号 第9280号
			一級建築士	丸山 茂義	登録番号 登録第173320号 第1058号

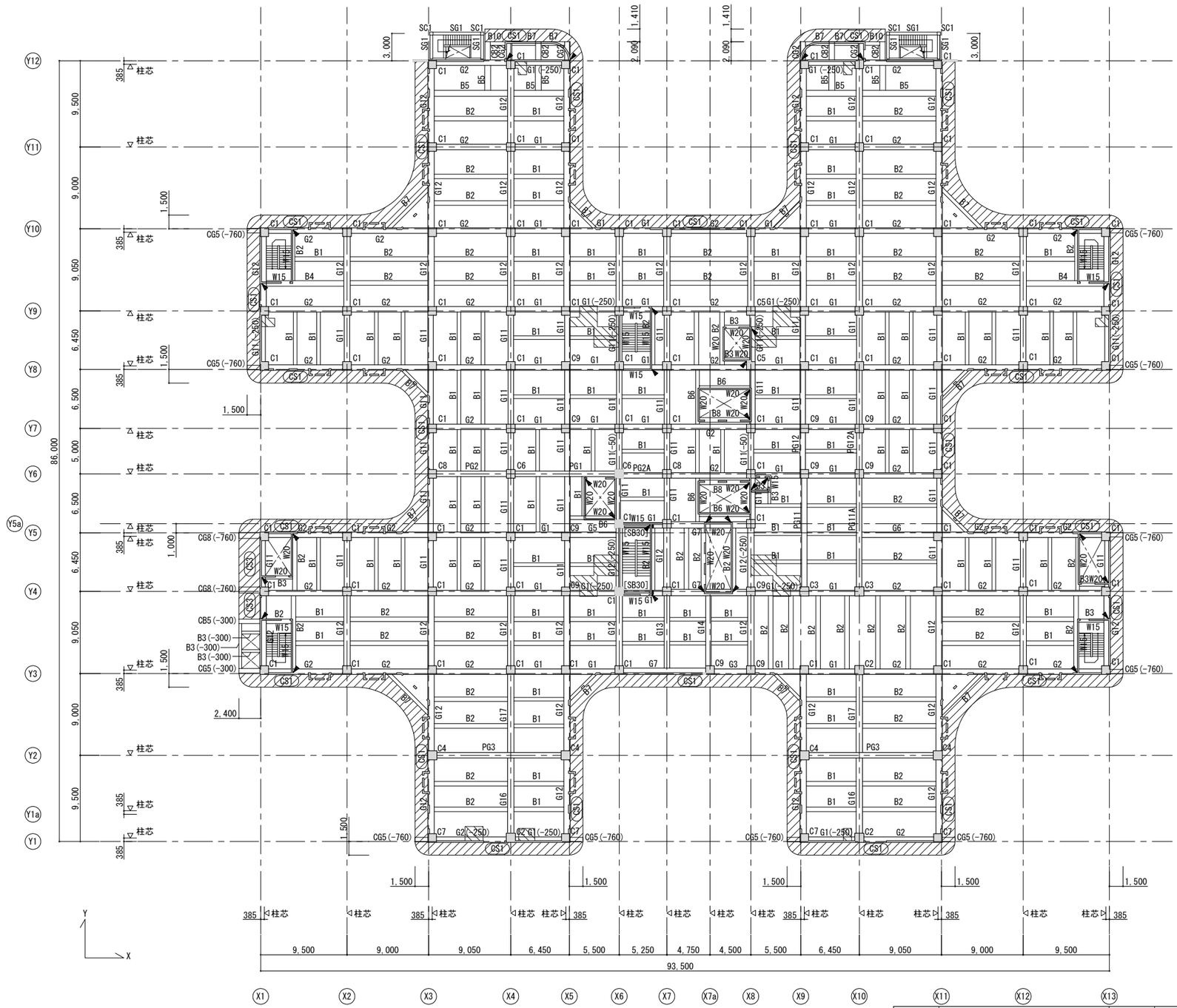


5階柱壁・5階梁床伏図　1/250

特記なき限り下記による

1. 一般スラブ S1
2. 一般壁 W18
3. 梁天端　5FL-10
( )内数値は、5FLからの梁天端レベルを示す。
小梁天端・片持ち梁天端及び勾配方向の梁天端は
床レベルによる。
[ ]内符号は、踊場受けレベルの梁を示す。
4. 一般スラブ天端　5FL-10
5FL-250
5FL-760
5. ☒ は、床開口を示す。
6. ▩ 増打コンクリートを示す。
7. ▶ 鉛直スリットを示す。
フレーム内のスリットは軸組図による。

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）			図面名称	5階柱壁・5階梁床伏図
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9			縮　尺	【A1】1/250　【A3】1/500　図面番号　S － 28
発注機関	沖縄県北部医療組合			設計者	JV名称：内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体
工事年度	令和　7　年度				代表企業：株式会社内藤建築事務所　登録番号：福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘　要					所 在 地：福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16
検　印	管理建築士	設　計	製　図		一級建築士：山田　剛　登録番号：登録第310062号
					一級建築士 構造設計一級建築士：末吉　謙太郎　登録番号：登録第335522号 第9280号
					一級建築士 設備設計一級建築士：丸山　茂義　登録番号：登録第173320号 第1058号



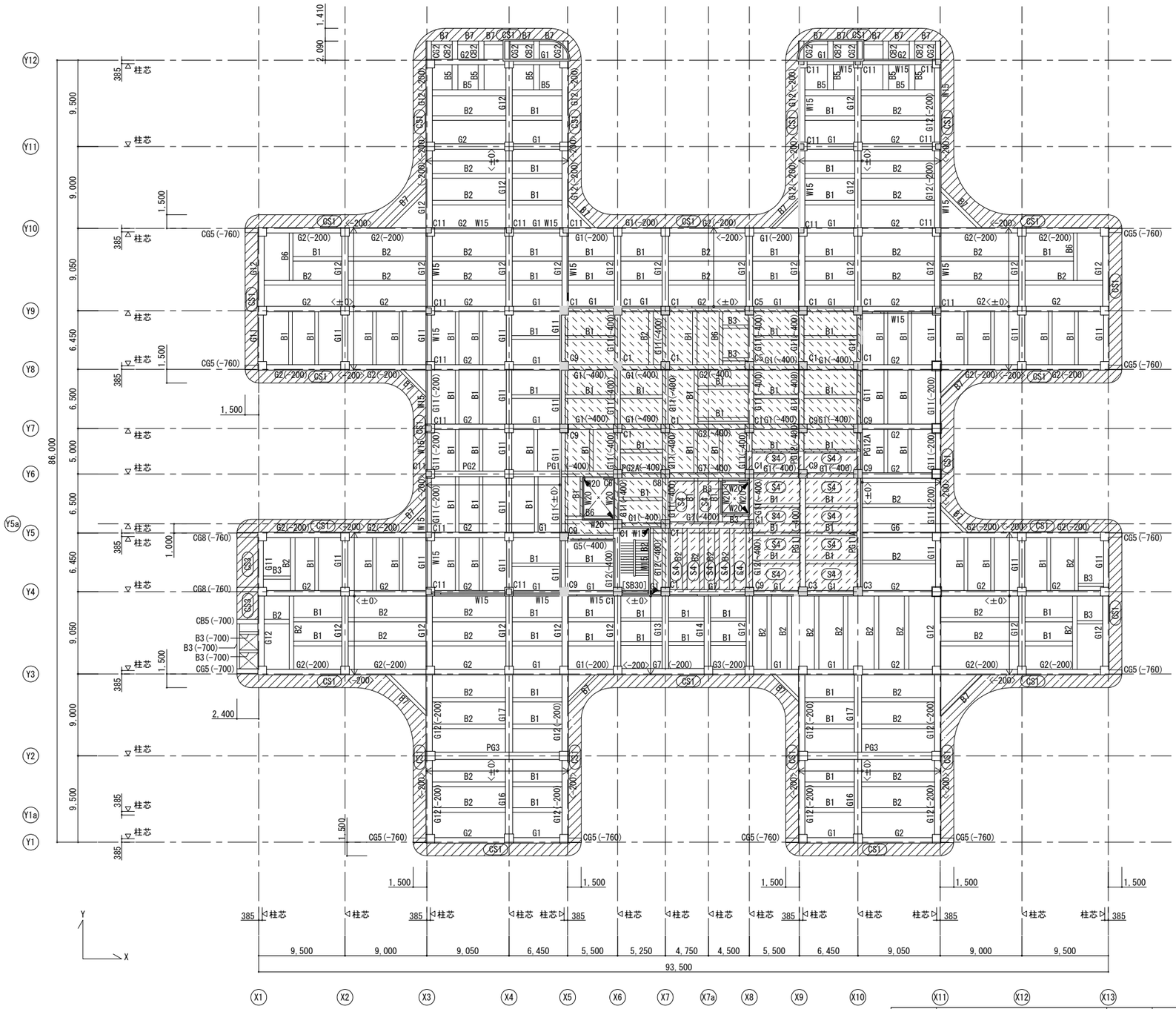
6階柱壁・6階梁床伏図　1/250

特記なき限り下記による

1. 一般スラブ S1
2. 一般壁 W18
3. 梁天端　6FL-10
   ( )内数値は、6FLからの梁天端レベルを示す。
   小梁天端・片持ち梁天端及び勾配方向の梁天端は
   床レベルによる。
   [ ]内符号は、踊場受けレベルの梁を示す。
4. 一般スラブ天端　6FL-10
   6FL-250
   6FL-760
5. ☒ は、床開口を示す。
6. 増打コンクリートを示す。
7. ▶ 鉛直スリットを示す。
   フレーム内のスリットは軸組図による。

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）			図面名称	6階柱壁・6階梁床伏図
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9			縮　尺	【A1】1/250 【A3】1/500
発注機関	沖縄県北部医療組合			図面番号	S － 29
工事年度	令和　7　年度				
摘　要					
検　印	管理建築士	設　計	製　図		

設計者				
	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体		
	代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録第 1-12326 号
	所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16		
	一級建築士	山田　剛	登録番号	登録第310062号
	一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9280号
	一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号

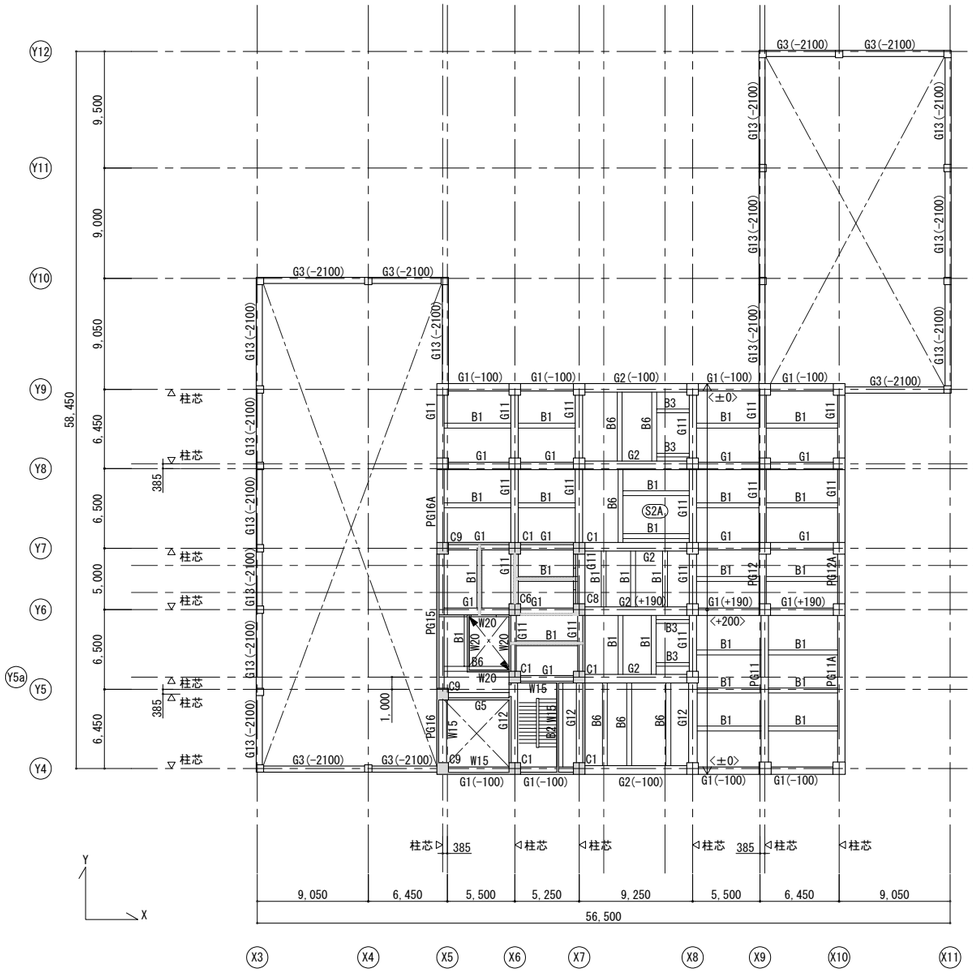


PH1階柱壁・PH1階梁床伏図　1/250

特記なき限り下記による

1. 一般スラブ S2
2. 一般壁 W18
3. 梁天端　PH1FL-10
( )内数値は、PH1FLからの梁天端レベルを示す。
小梁天端・片持ち梁天端及び勾配方向の梁天端は
床レベルによる。
[ ]内符号は、踊場受けレベルの梁を示す。
4. 一般スラブ天端　PH1FL-10
5　PH1FL-400
　PH1FL-500
　PH1FL-760
6. ⟷ は、スラブ勾配を示す。
< >内数値は、PH1FLからのスラブ天端レベルを示す。
7. ☒ は、床開口を示す。
8. 増打コンクリートを示す。
9. ▶ 鉛直スリットを示す。
フレーム内のスリットは軸組図による。

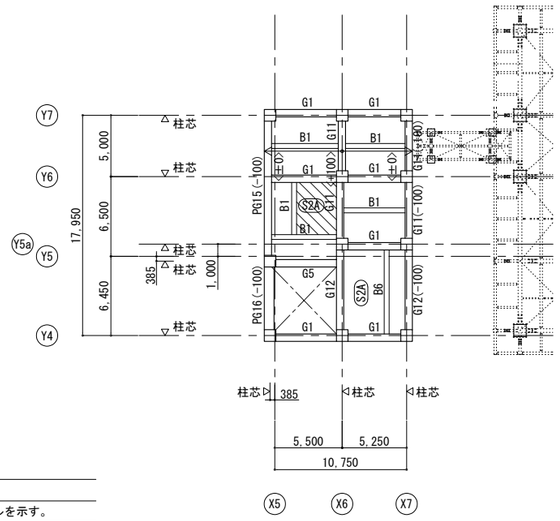
工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	PH1階柱壁・PH1階梁床伏図		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮　尺	【A1】1/250 【A3】1/500	図面番号	S - 30
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号　福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘　要			所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検　印	管理建築士 / 設　計 / 製　図		一級建築士	山田　剛	登録番号　登録第310062号
			一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号　登録第335522号 第9280号
			一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号　登録第173320号 第1058号



PH2階柱壁・PH2階梁床伏図　1/250

特記なき限り下記による

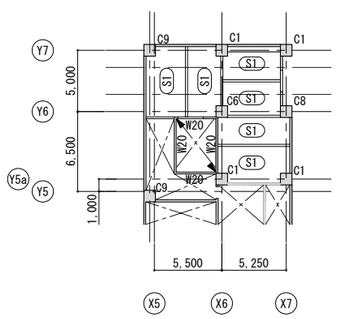
1. 一般スラブ S1
2. 一般壁 W18
3. 梁天端　PH2FL-10
　( )内数値は、PH2FLからの梁天端レベルを示す。
4. 一般スラブ天端　PH2FL-10
5. ⟷ は、スラブ勾配を示す。
　< >内数値は、PH2FLからのスラブ天端レベルを示す。
6. ☒ は、床開口を示す。
7. ▨ 増打コンクリートを示す。
8. ▶ 鉛直スリットを示す。
　フレーム内のスリットは軸組図による。



R階梁床伏図　1/250

特記なき限り下記による

1. 一般スラブ S1
2. 梁天端　屋根勾配による
　( )内数値は、RFLからの梁天端レベルを示す。
3. 一般スラブ天端　屋根勾配による
　▨ RFL+500
4. ⟷ は、スラブ勾配を示す。
　< >内数値は、RFLからのスラブ天端レベルを示す。
5. ▨ 増打コンクリート範囲を示す。

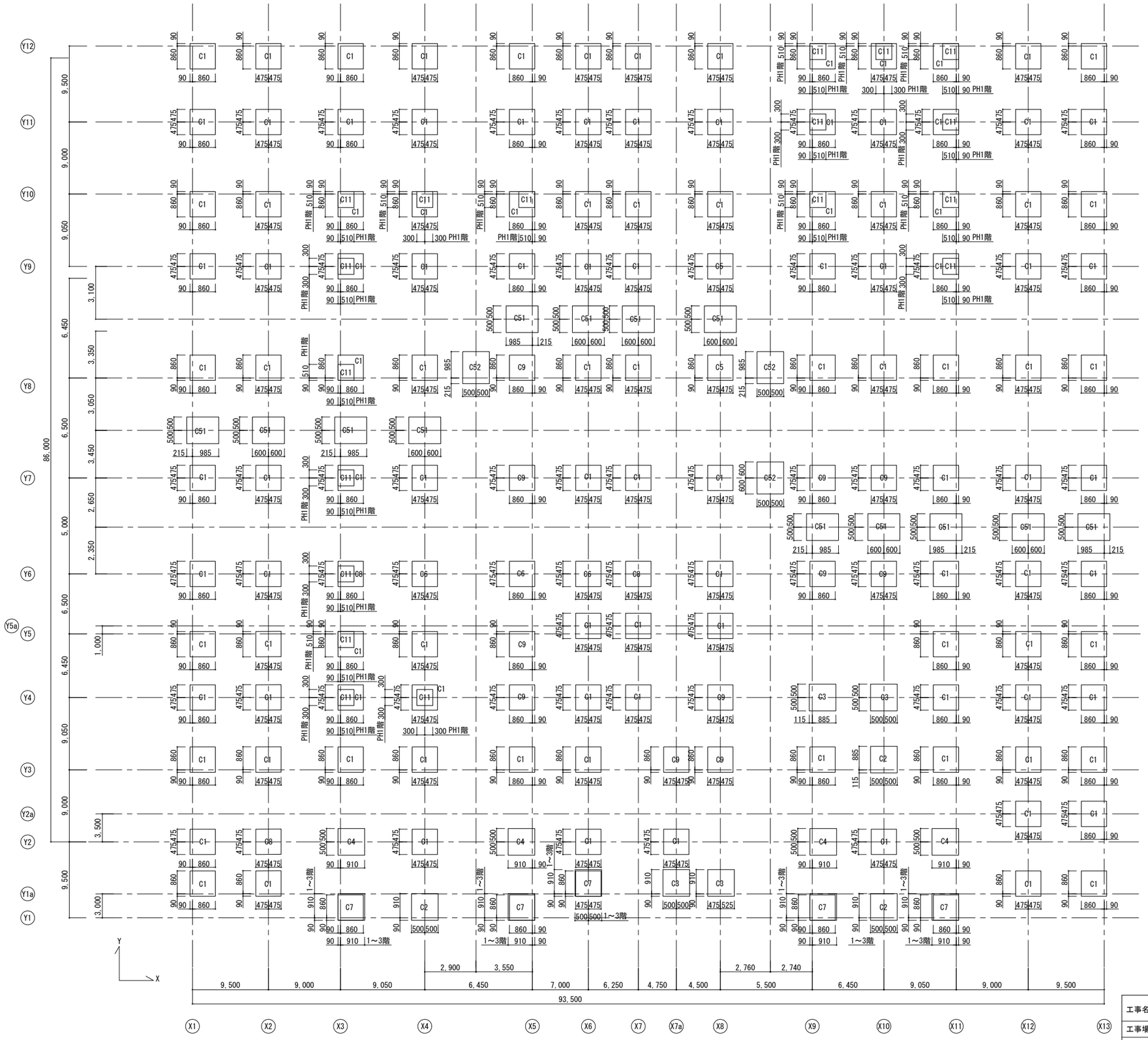


PH2+1600梁床伏図　1/250

特記なき限り下記による

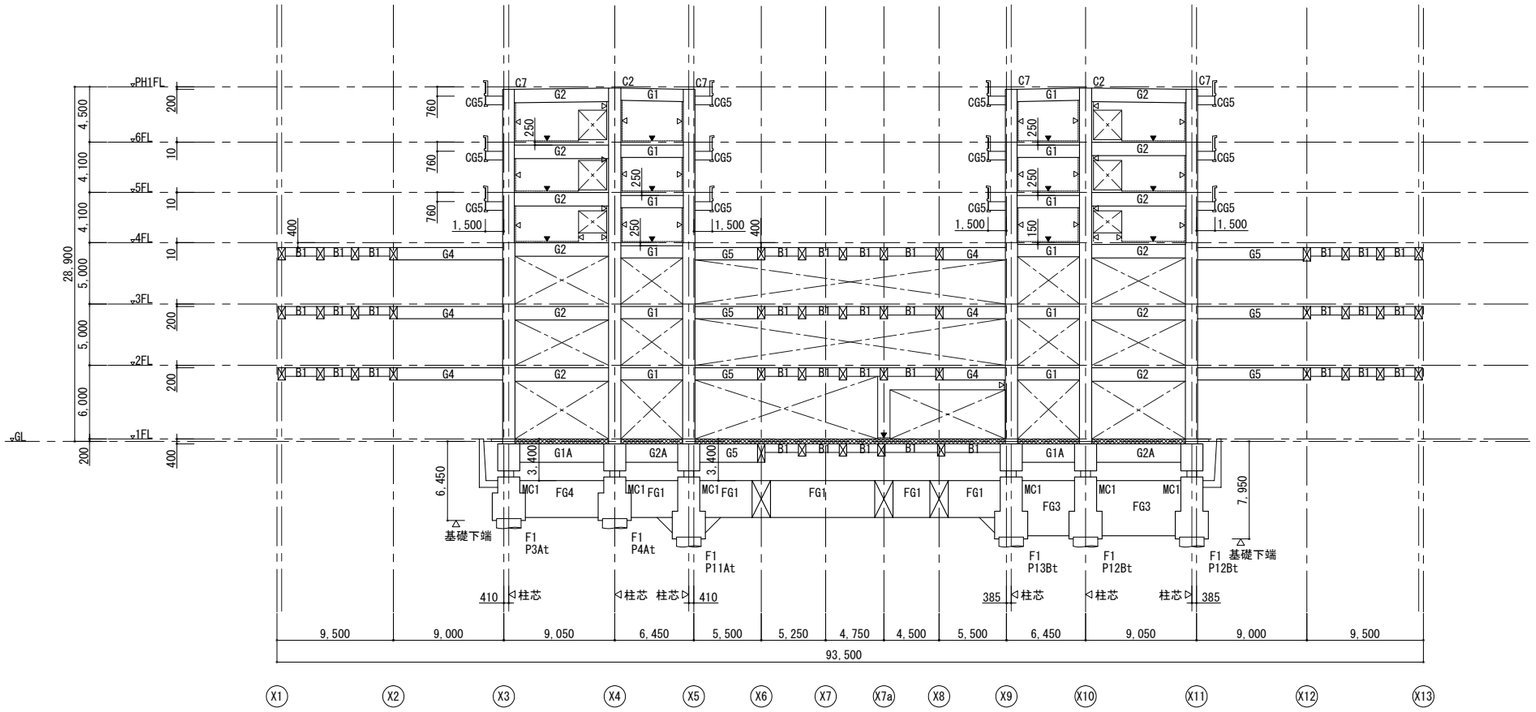
1. 一般壁 W18
2. 一般スラブ天端　PH2FL+1600
3. ☒ は、床開口を示す。
4. ▶ 鉛直スリットを示す。
　フレーム内のスリットは軸組図による。

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）			図面名称	PH2階柱壁・PH2階梁床伏図、R階梁床伏図		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9			縮　尺	【A1】1/250 【A3】1/500	図面番号	S - 31
発注機関	沖縄県北部医療組合			設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度				代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号　福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘　要					所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検　印	管理建築士	設　計	製　図		一級建築士	山田　剛	登録番号　登録第310062号
					一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号　登録第335522号 第9280号
					一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号　登録第173320号 第1058号

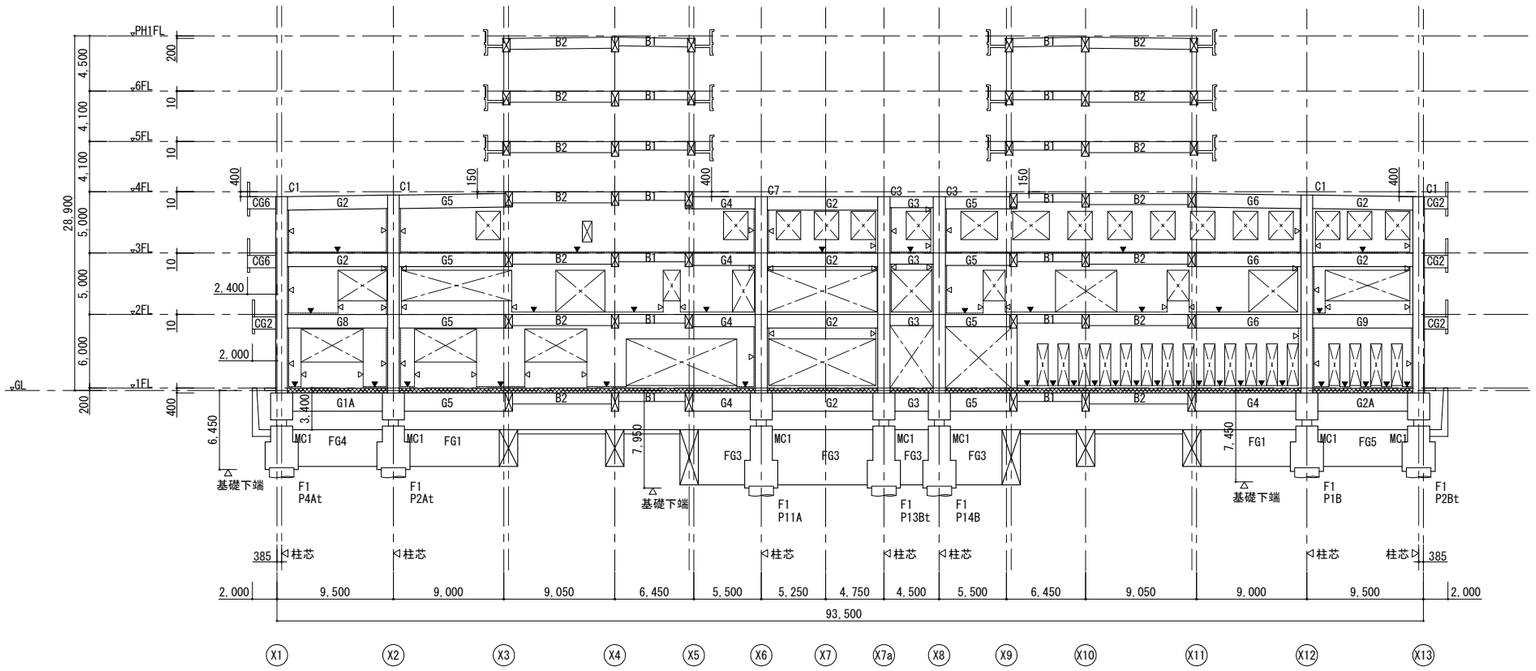


柱芯線図　1/250・1/100

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	柱芯線図		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮　尺	【A1】1/250 【A3】 1/500	図面番号	S － 32
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号　福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘　要			所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検　印	管理建築士 / 設　計 / 製　図		一級建築士	山田　剛	登録番号　登録第310062号
			一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号　登録第335522号 第9280号
			一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号　登録第173320号 第1058号



Y1通軸組図

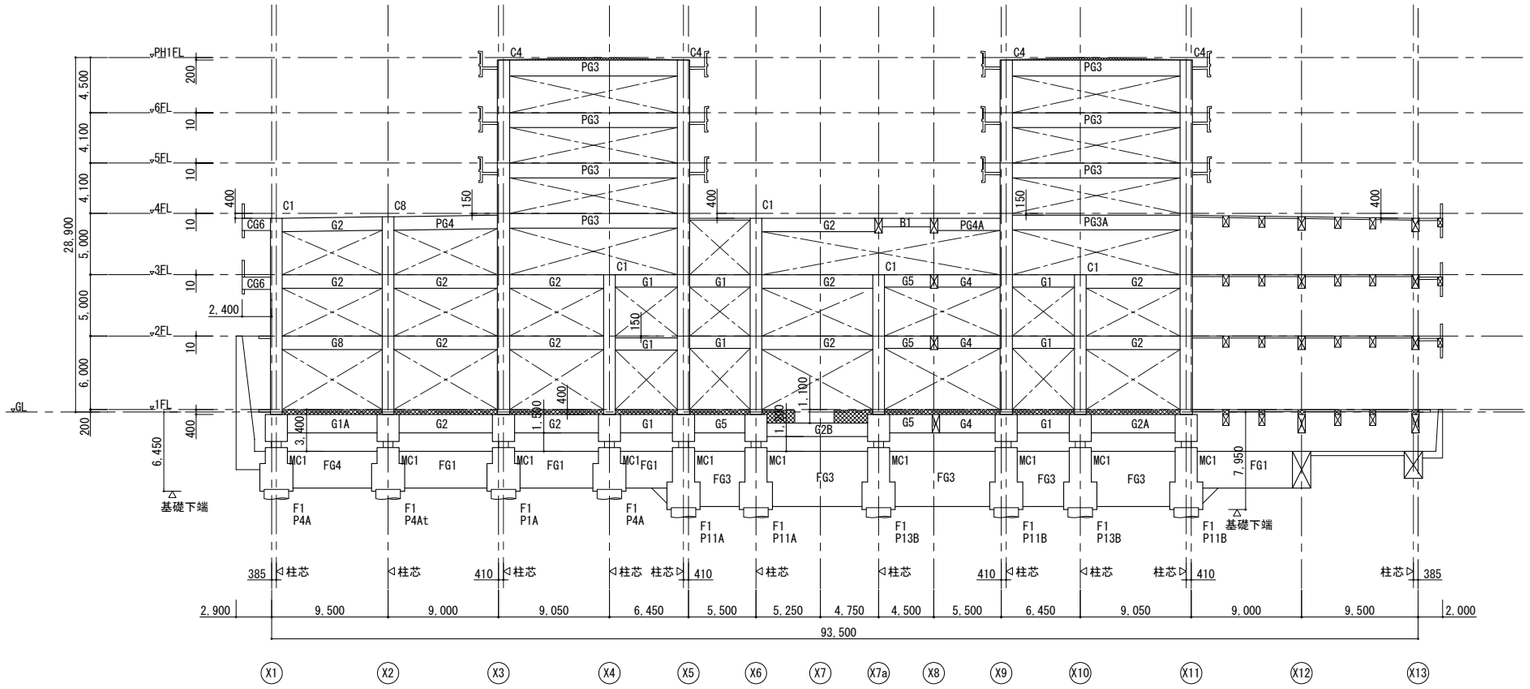


Y1a通軸組図

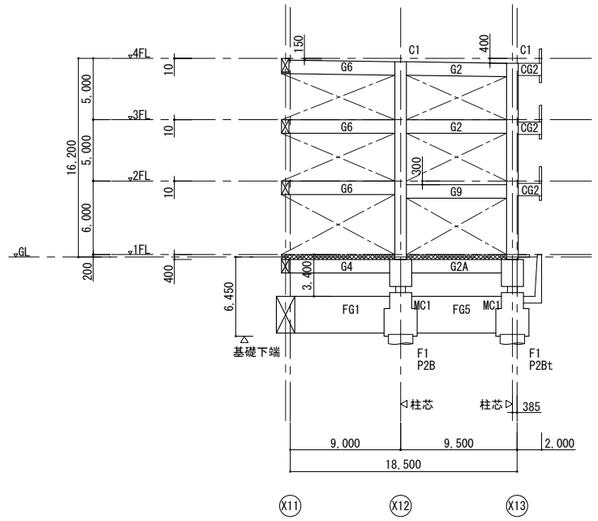
特記なき限り下記による

1. 一般壁　W18
2. ◁ 鉛直スリットを示す。
   ▼ 水平スリットを示す。
3. 柱符号は上階に倣う。
4. ▩ 増打コンクリートを示す。

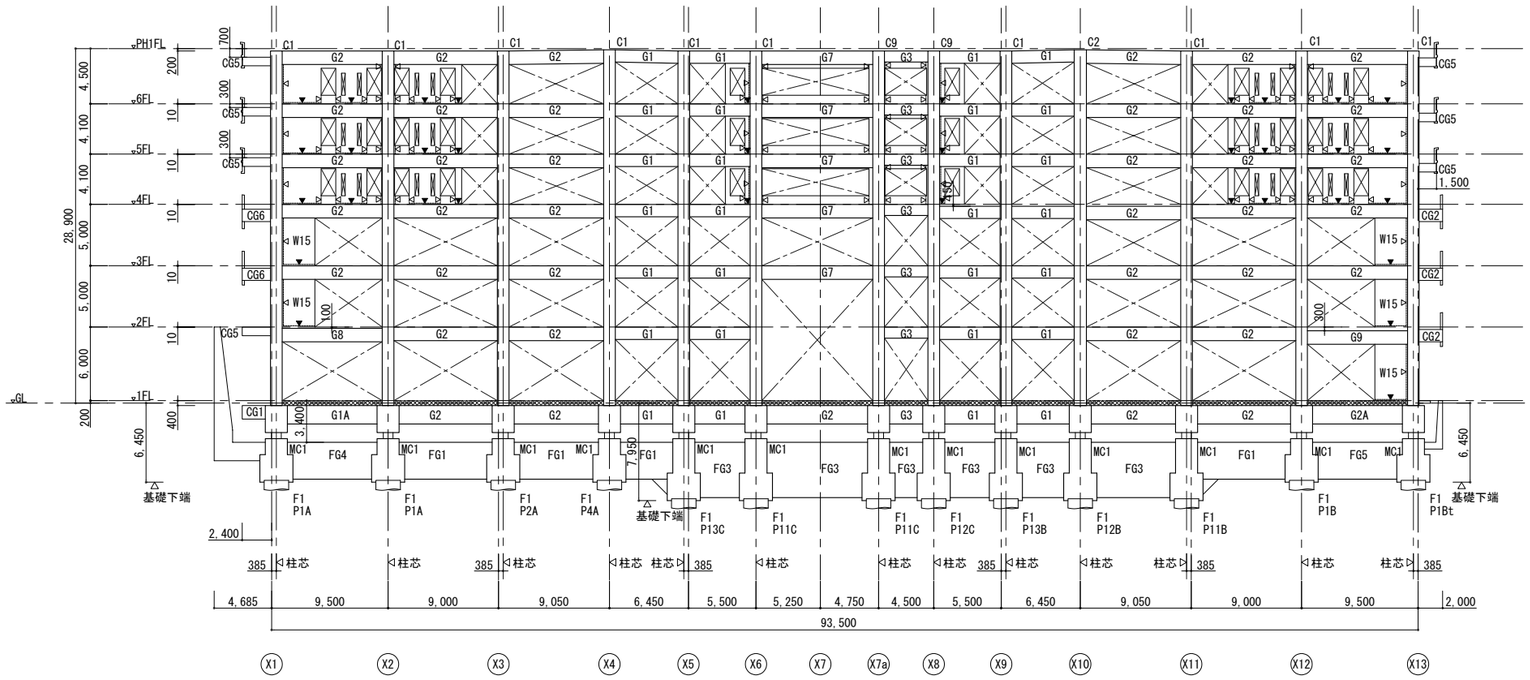
工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	軸組図（１）		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮　尺	【A1】1/250 【A3】 1/500	図面番号	S － 33
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号 福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘　要			所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検　印	管理建築士 / 設　計 / 製　図		一級建築士	山田　剛	登録番号 登録第310062号
			一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号 登録第335522号 第9280号
			一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号 登録第173320号 第1058号



Y2通軸組図



Y2a通軸組図

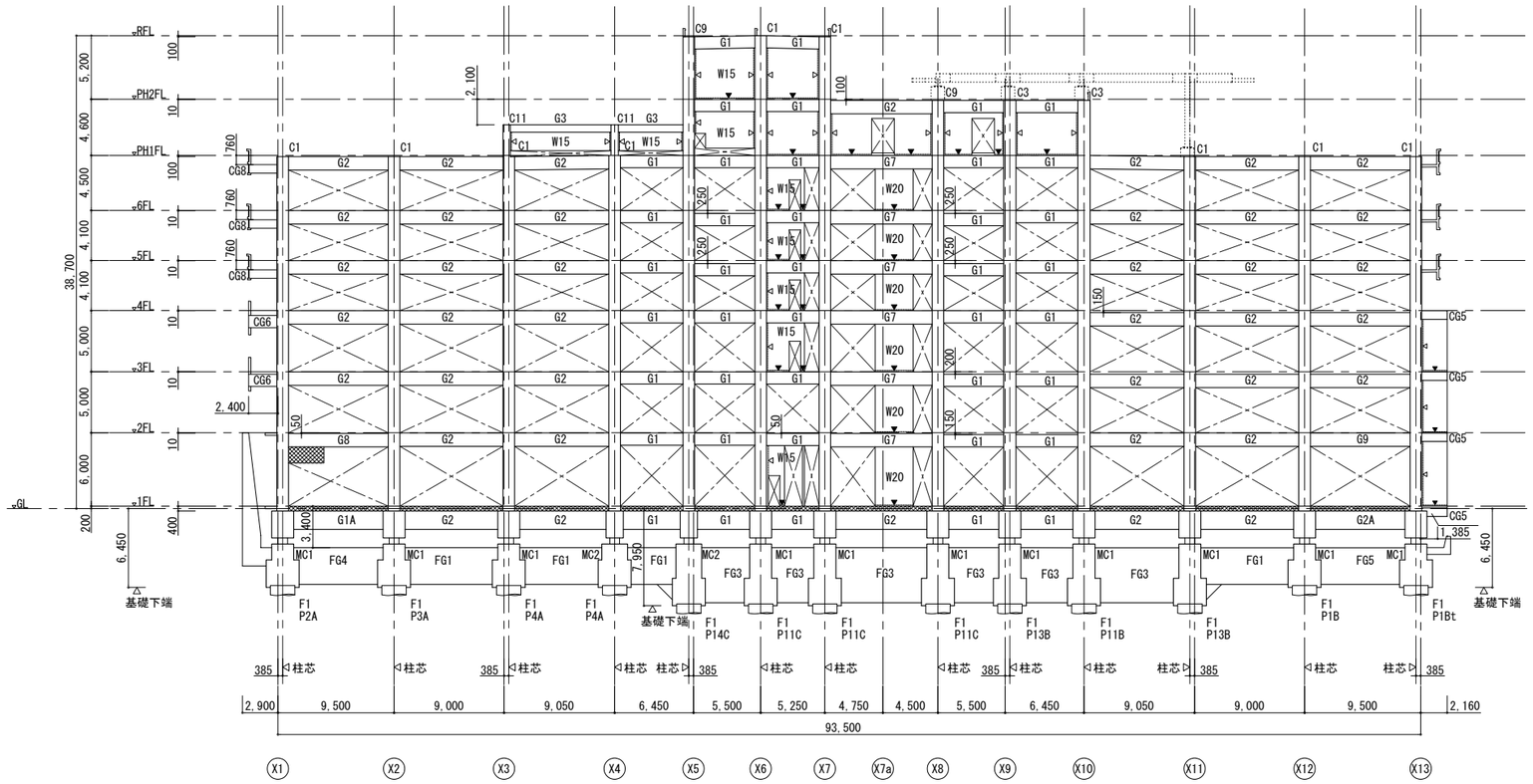


Y3通軸組図

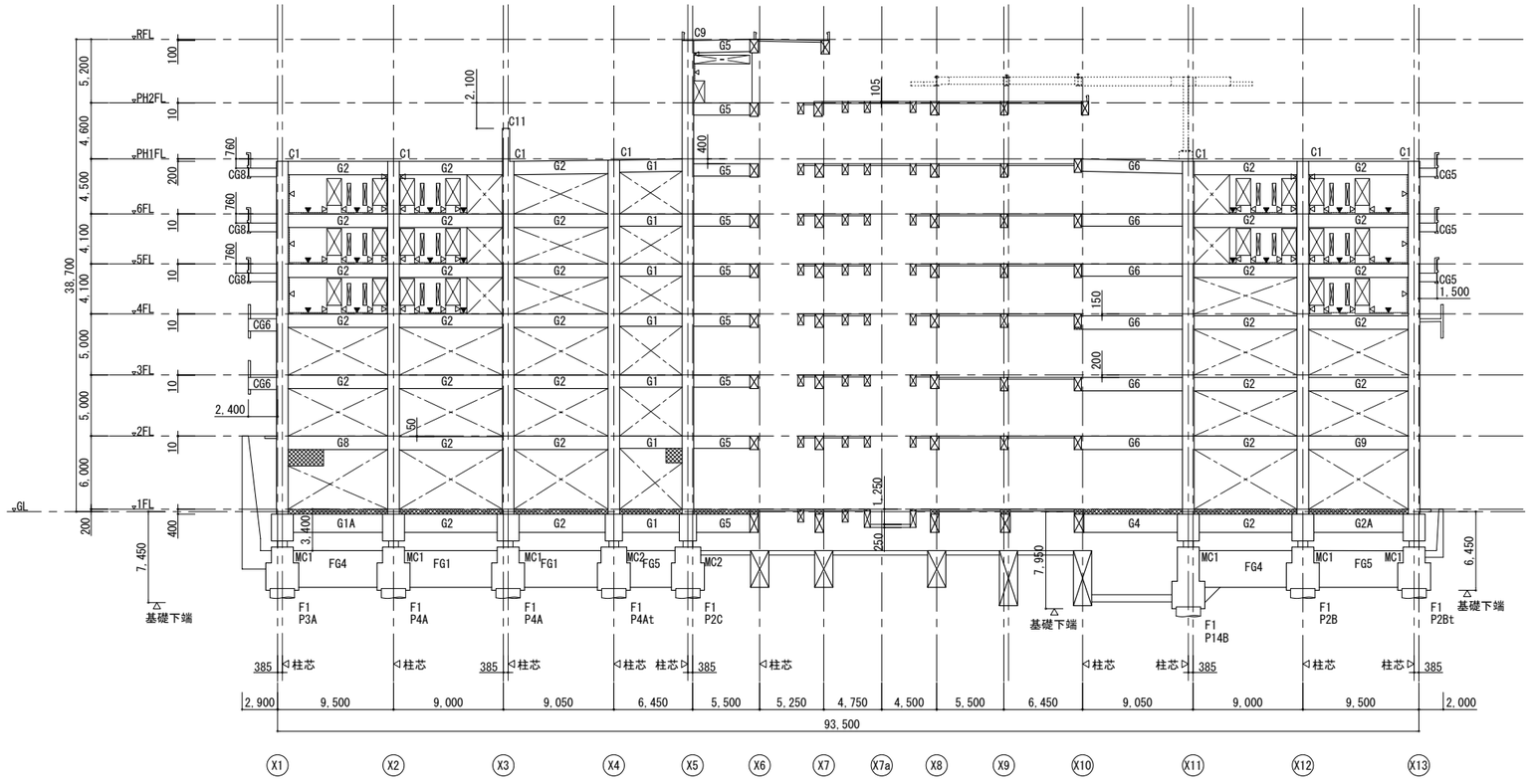
特記なき限り下記による

1. 一般壁　W18
2. ◁ 鉛直スリットを示す。
   ▼ 水平スリットを示す。
3. 柱符号は上階に倣う。
4. ▩ 増打コンクリートを示す。

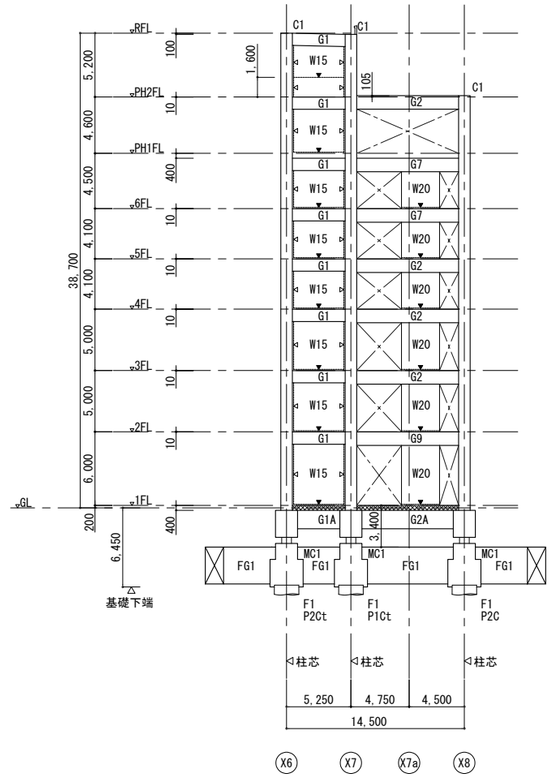
工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	軸組図（２）		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮　尺	【A1】1/250 【A3】 1/500	図面番号	S － 34
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号 福岡県知事登録第 1-12326 号
摘　要			所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検　印	管理建築士 / 設　計 / 製　図		一級建築士	山田　剛	登録番号 登録第310062号
			一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号 登録第335522号 第9280号
			一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号 登録第173320号 第1058号



Y4通軸組図



Y5通軸組図

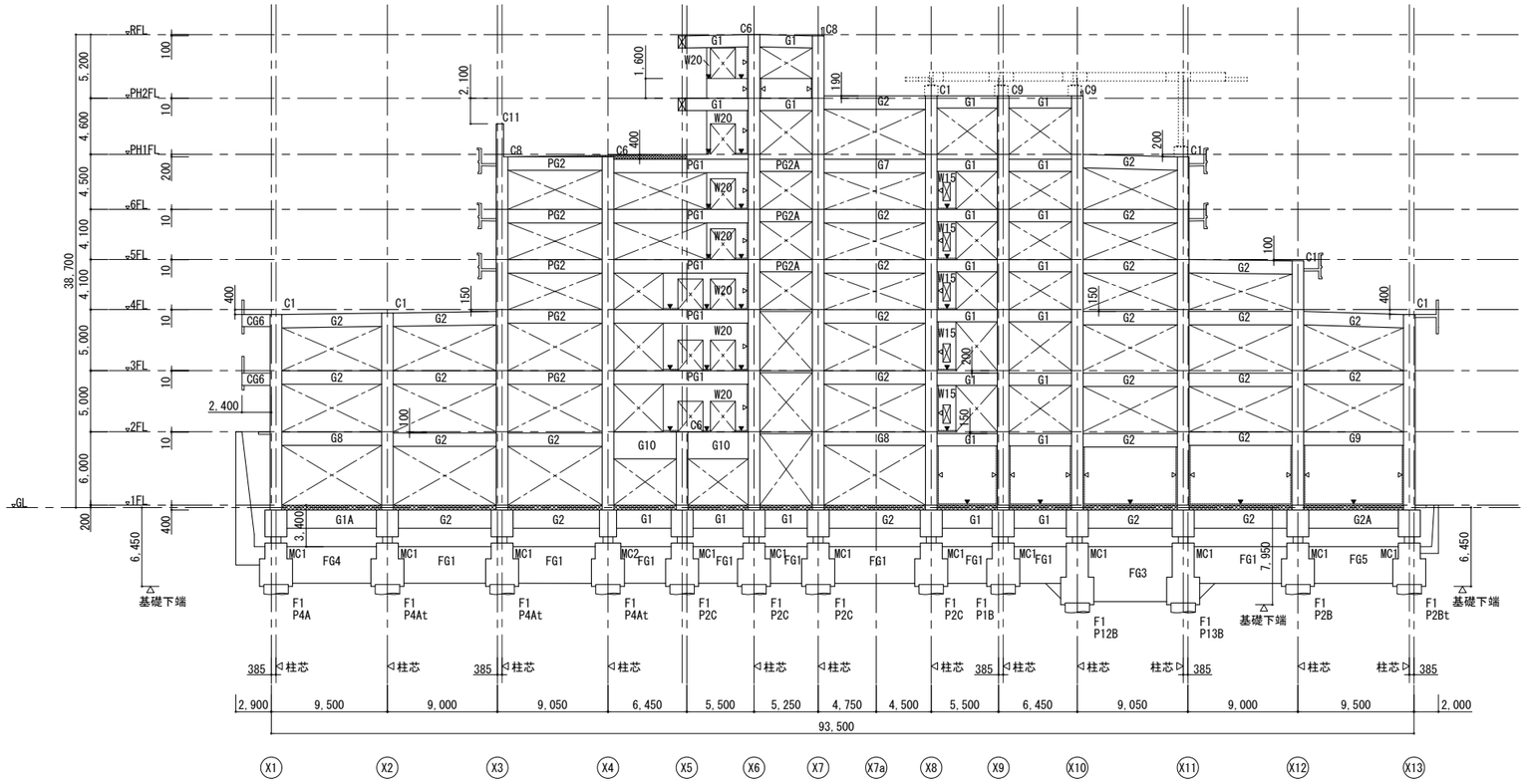


Y5a通軸組図

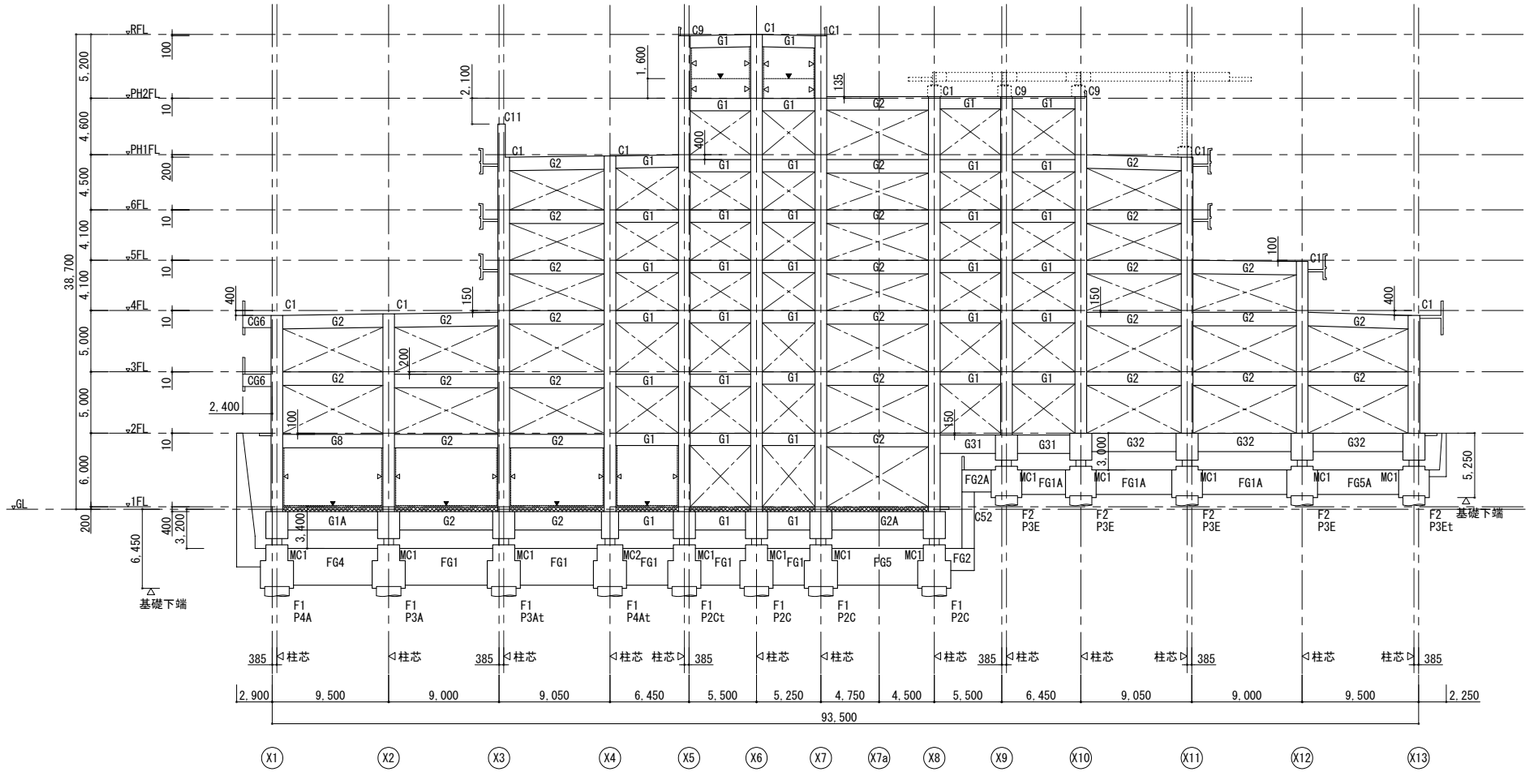
特記なき限り下記による

1. 一般壁　W18
2. ◁ 鉛直スリットを示す。
   ▼ 水平スリットを示す。
3. 柱符号は上階に倣う。
4. ▩ 増打コンクリートを示す。

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	軸組図（３）		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮　尺	【A1】1/250 【A3】1/500	図面番号	S － 35
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号　福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘　要			所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検　印	管理建築士 / 設　計 / 製　図		一級建築士	山田　剛	登録番号　登録第310062号
			一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号　登録第335522号 第9280号
			一級建築士	丸山　茂義	登録番号　登録第173320号 第1058号



Y6通軸組図

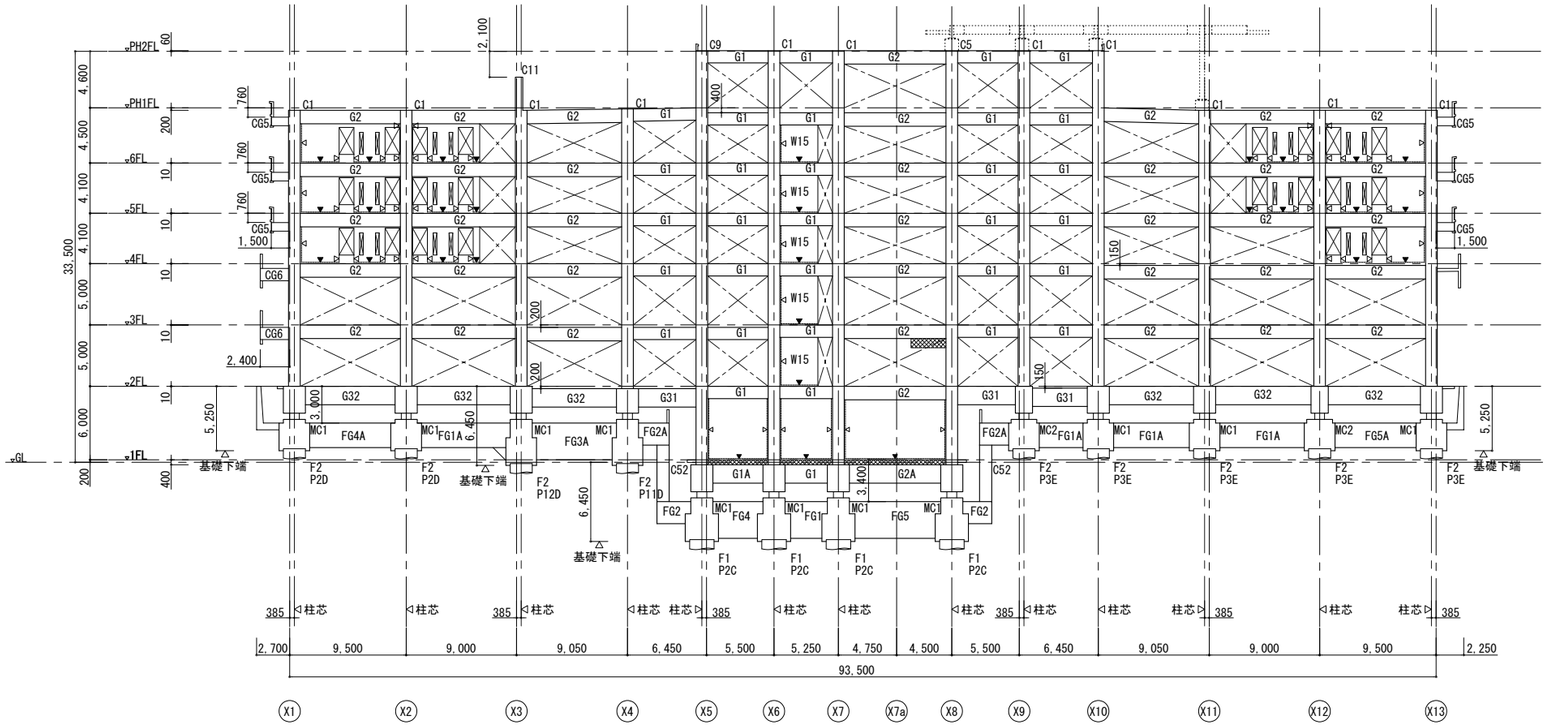


Y7通軸組図

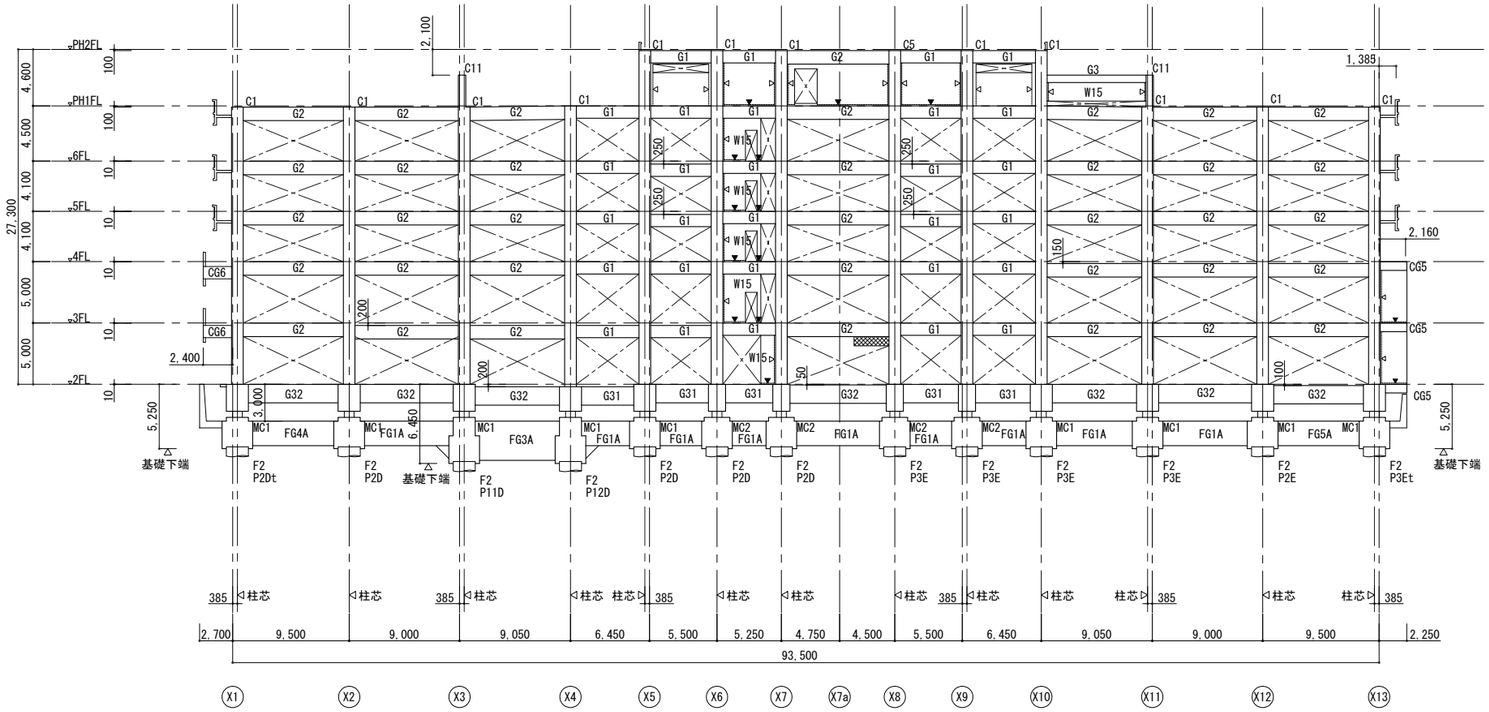
特記なき限り下記による

1. 一般壁　W18
2. ◁ 鉛直スリットを示す。
   ▼ 水平スリットを示す。
3. 柱符号は上階に倣う。
4. ▩ 増打コンクリートを示す。

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	軸組図（４）		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮　尺	【A1】1/250 【A3】 1/500	図面番号	S － 36
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号 福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘　要			所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検　印	管理建築士　設　計　製　図		一級建築士	山田　剛	登録番号 登録第310062号
			一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号 登録第335522号 第9280号
			一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号 登録第173320号 第1058号



Y8通軸組図

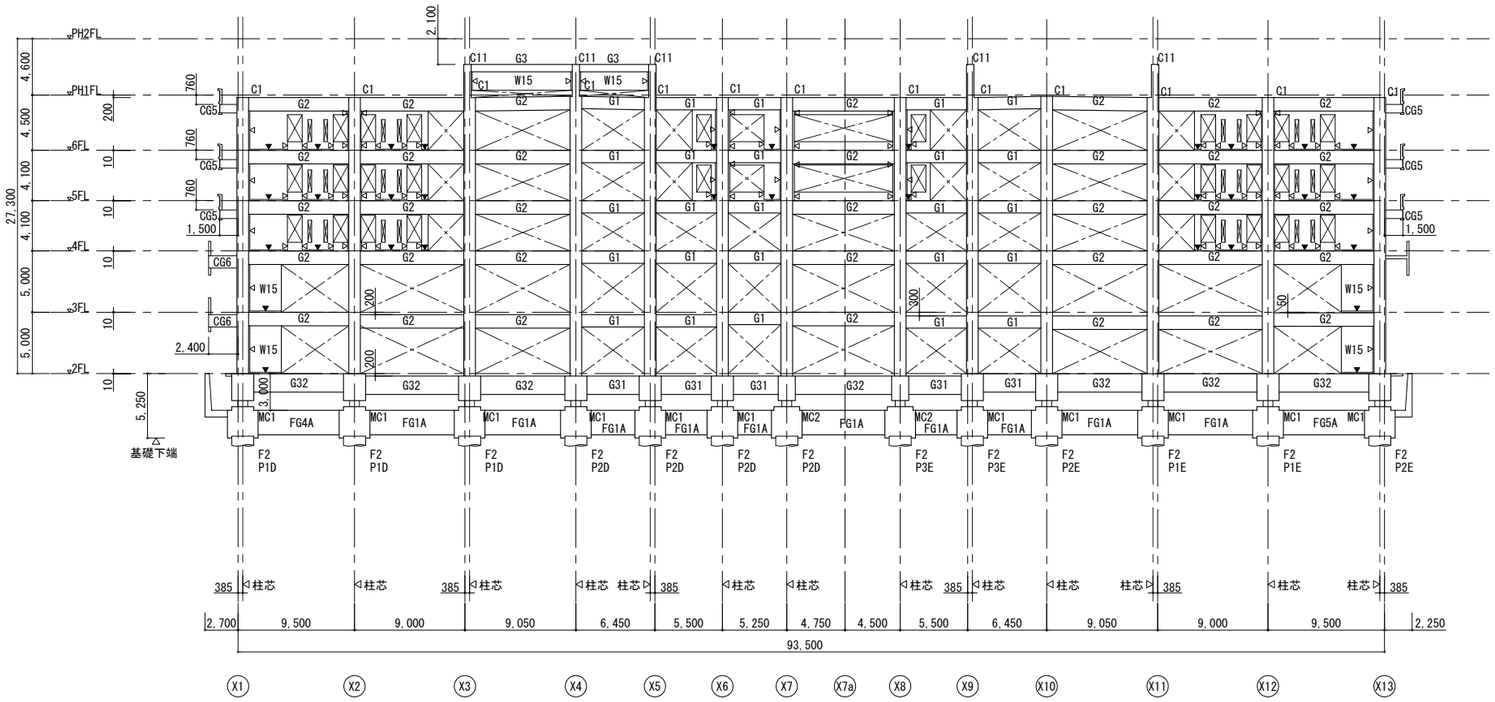


Y9通軸組図

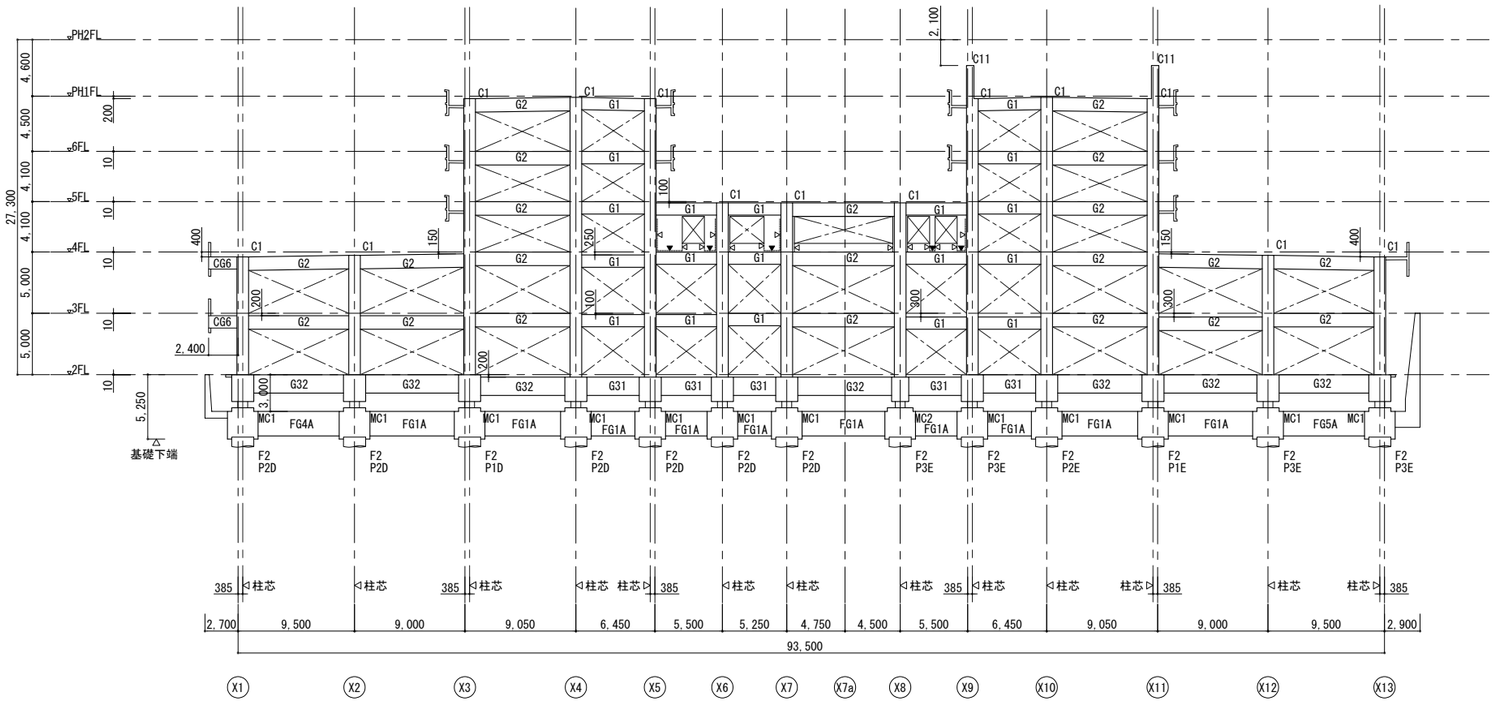
特記なき限り下記による

1. 一般壁　W18
2. ◁ 鉛直スリットを示す。
   ▼ 水平スリットを示す。
3. 柱符号は上階に倣う。
4. ▩ 増打コンクリートを示す。

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	軸組図（５）		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮　尺	【A1】1/250 【A3】 1/500	図面番号	S － 37
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号　福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘　要			所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検　印	管理建築士 / 設　計 / 製　図		一級建築士	山田　剛	登録番号　登録第310062号
			一級建築士 建築設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号　登録第335522号 第9280号
			一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号　登録第173320号 第1058号



Y10通軸組図

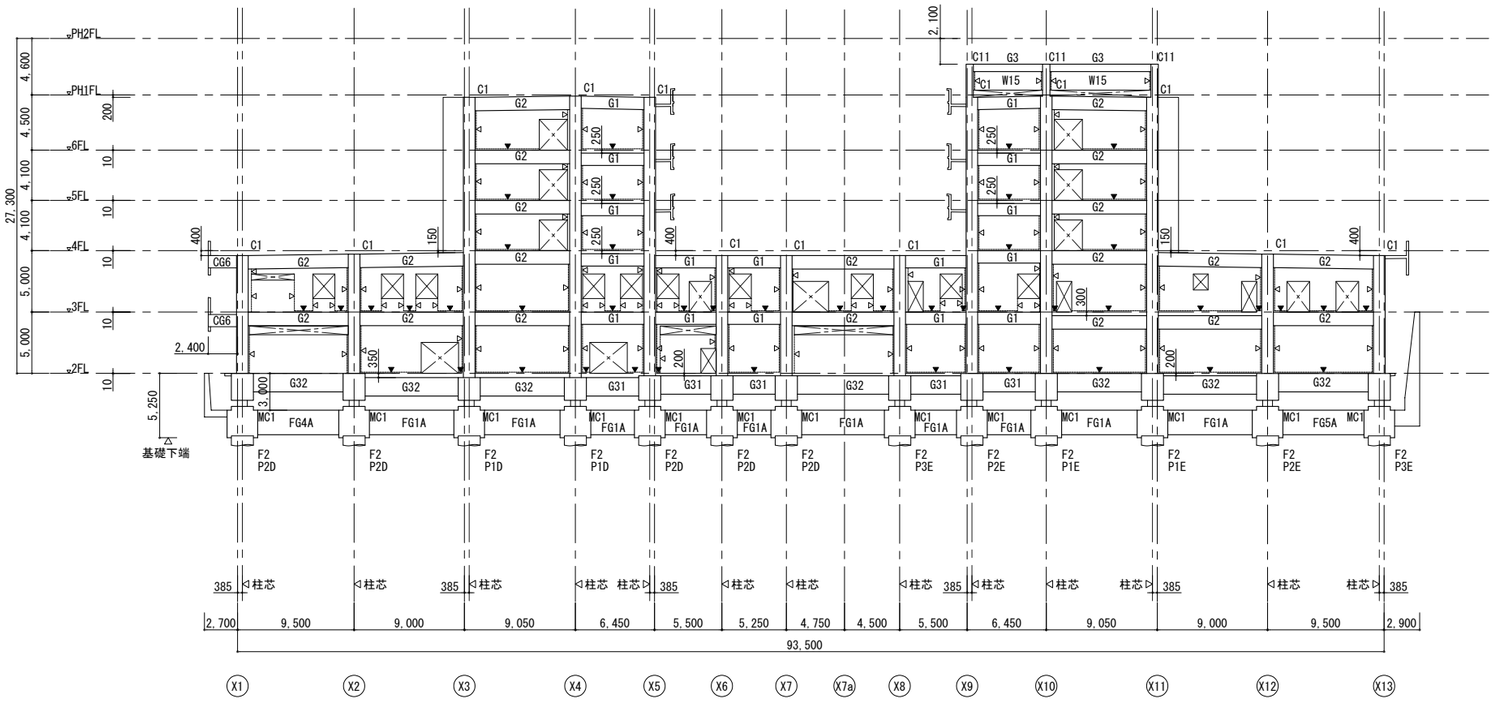


Y11通軸組図

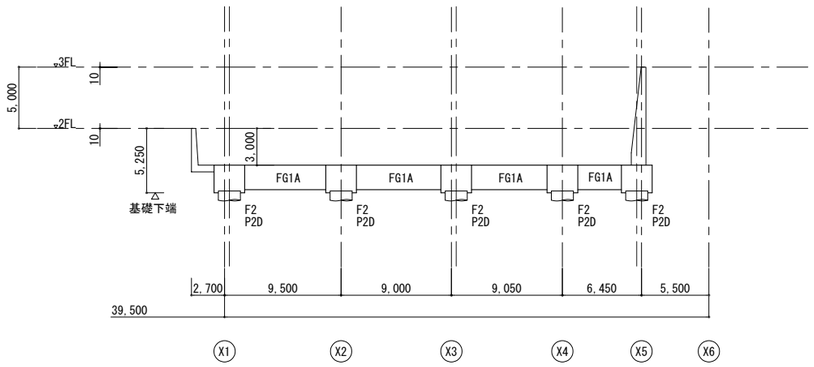
特記なき限り下記による

1. 一般壁　W18
2. ◁ 鉛直スリットを示す。
   ▼ 水平スリットを示す。
3. 柱符号は上階に倣う。
4. ▩ 増打コンクリートを示す。

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	軸組図（６）				
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮　尺	【A1】1/250 【A3】 1/500		図面番号	S － 38	
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体			
工事年度	令和　7　年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録第 1-12326 号	
摘　要			所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16			
検　印	管理建築士 / 設　計 / 製　図		一級建築士	山田　剛	登録番号	登録第310062号	
			一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9280号	
			一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号	



Y12通軸組図

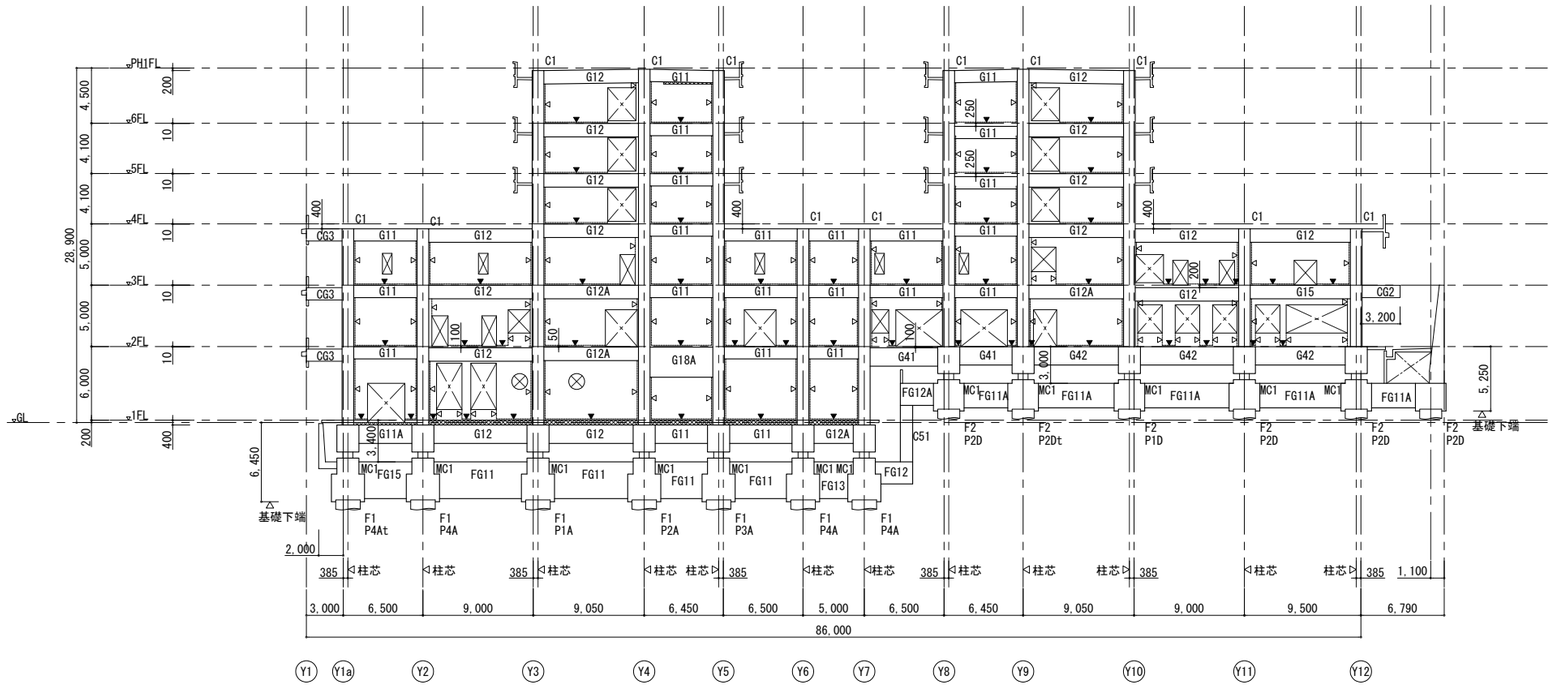


Y12a通軸組図

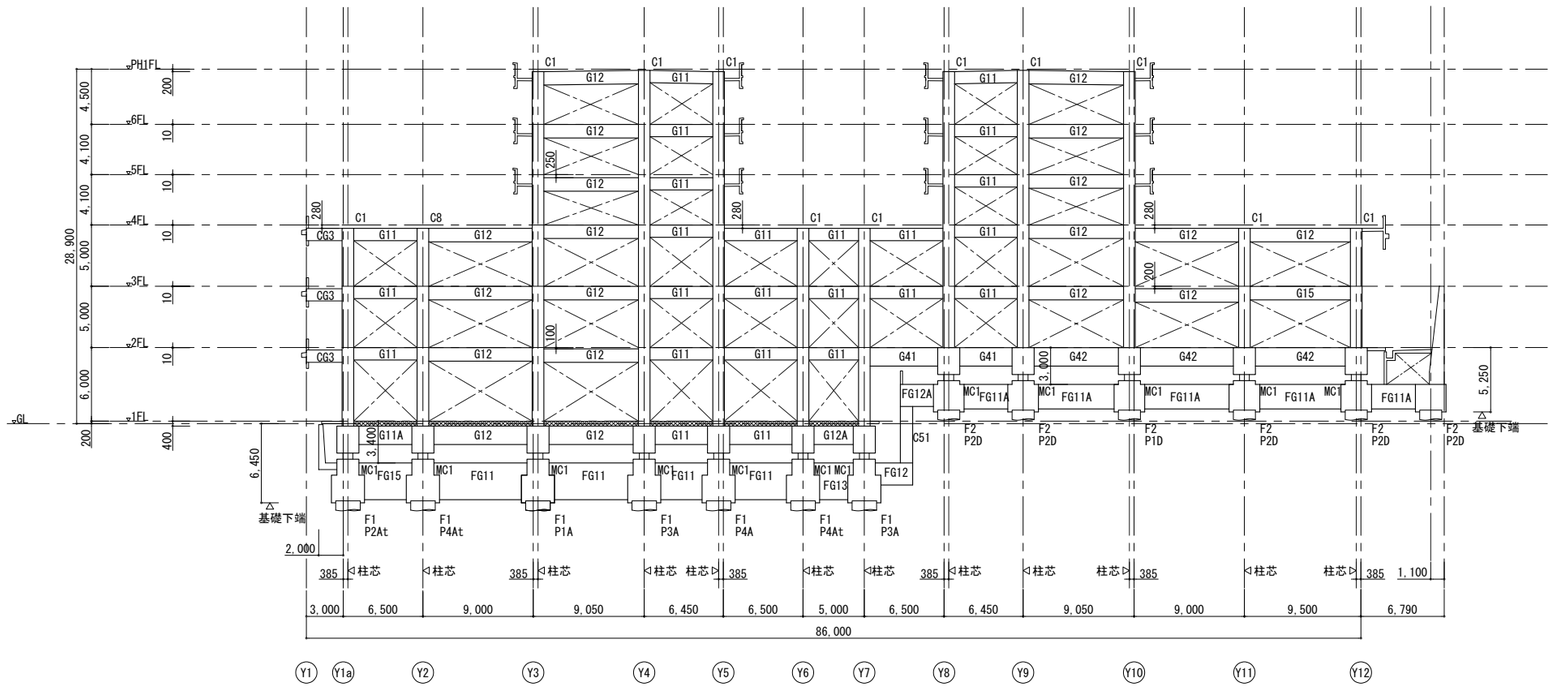
特記なき限り下記による

1. 一般壁　W18
2. ◁ 鉛直スリットを示す。
   ▼ 水平スリットを示す。
3. 柱符号は上階に倣う。
4. ▩ 増打コンクリートを示す。

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）			図面名称	軸組図（７）		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9			縮　尺	【A1】1/250 【A3】 1/500	図面番号	S － 39
発注機関	沖縄県北部医療組合			設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度				代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号　福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘　要					所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検　印	管理建築士	設　計	製　図		一級建築士	山田　剛	登録番号　登録第310062号
					一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号　登録第335522号 第9280号
					一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号　登録第173320号 第1058号



X1通軸組図

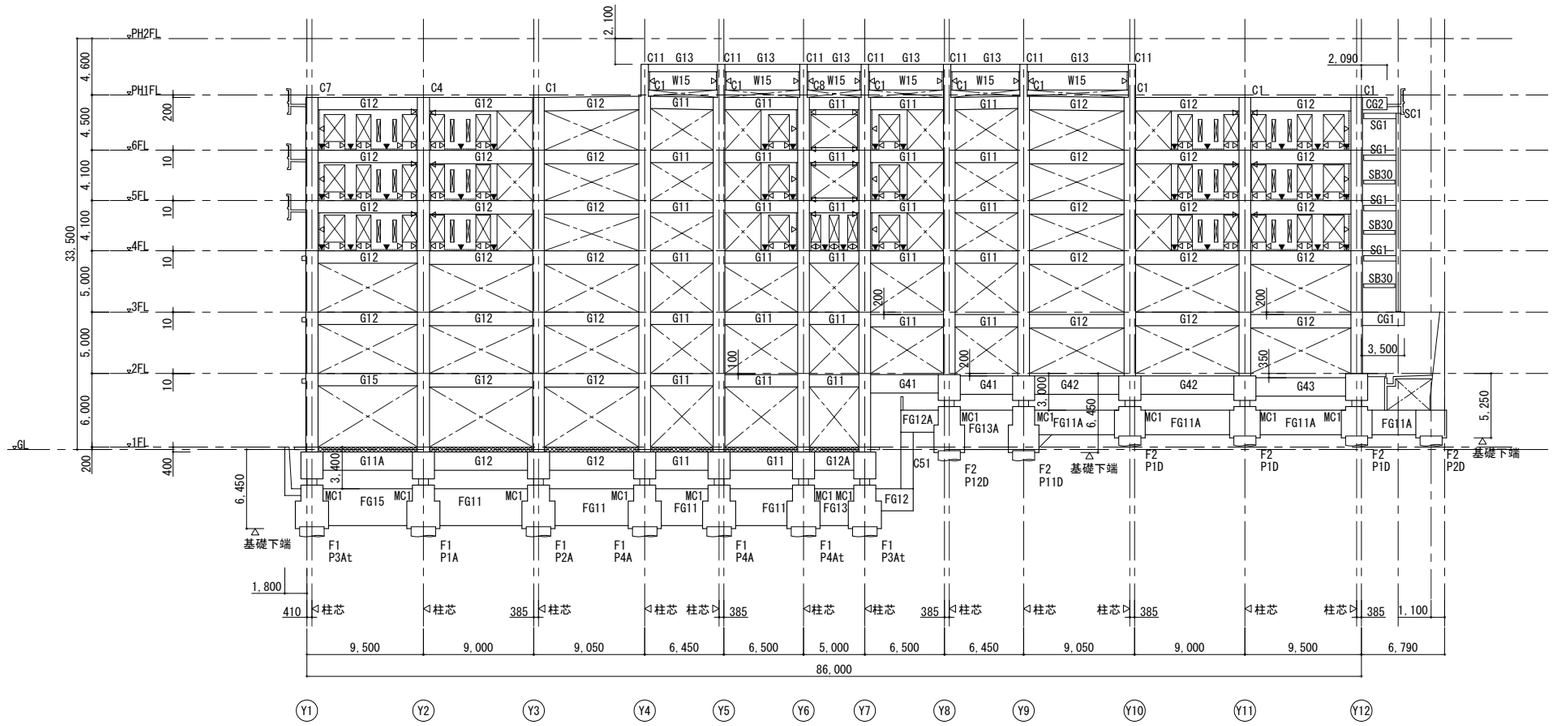


X2通軸組図

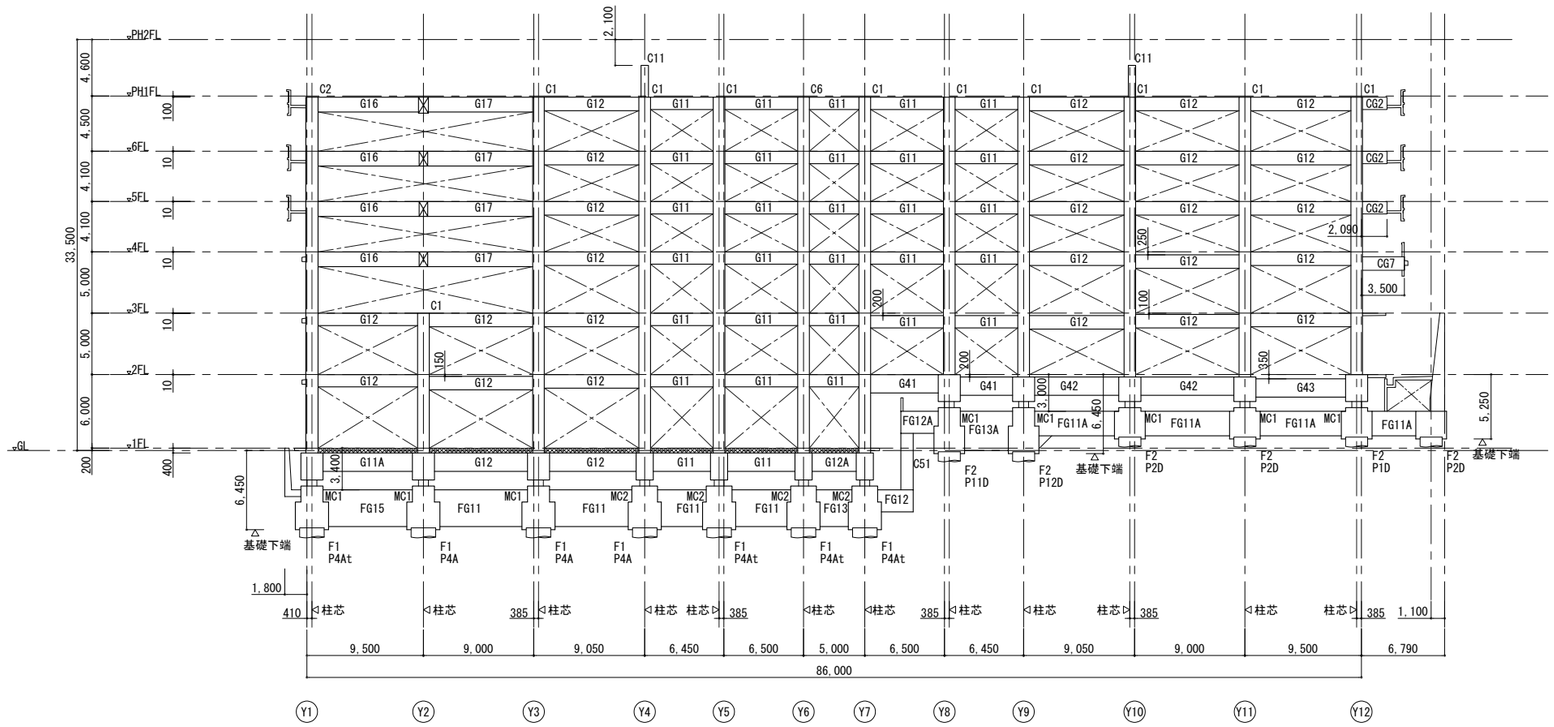
特記なき限り下記による

1. 一般壁　W18
2. ◁ 鉛直スリットを示す。
   ▼ 水平スリットを示す。
3. 柱符号は上階に倣う。
4. ▩ 増打コンクリートを示す。

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	軸組図（８）		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮　尺	【A1】1/250 【A3】 1/500	図面番号	S － 40
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号　福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘　要			所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検　印	管理建築士 / 設　計 / 製　図		一級建築士	山田　剛	登録番号　登録第310062号
			一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号　登録第335522号 第9280号
			一級建築士	丸山　茂義	登録番号　登録第173320号 第1058号



X3通軸組図

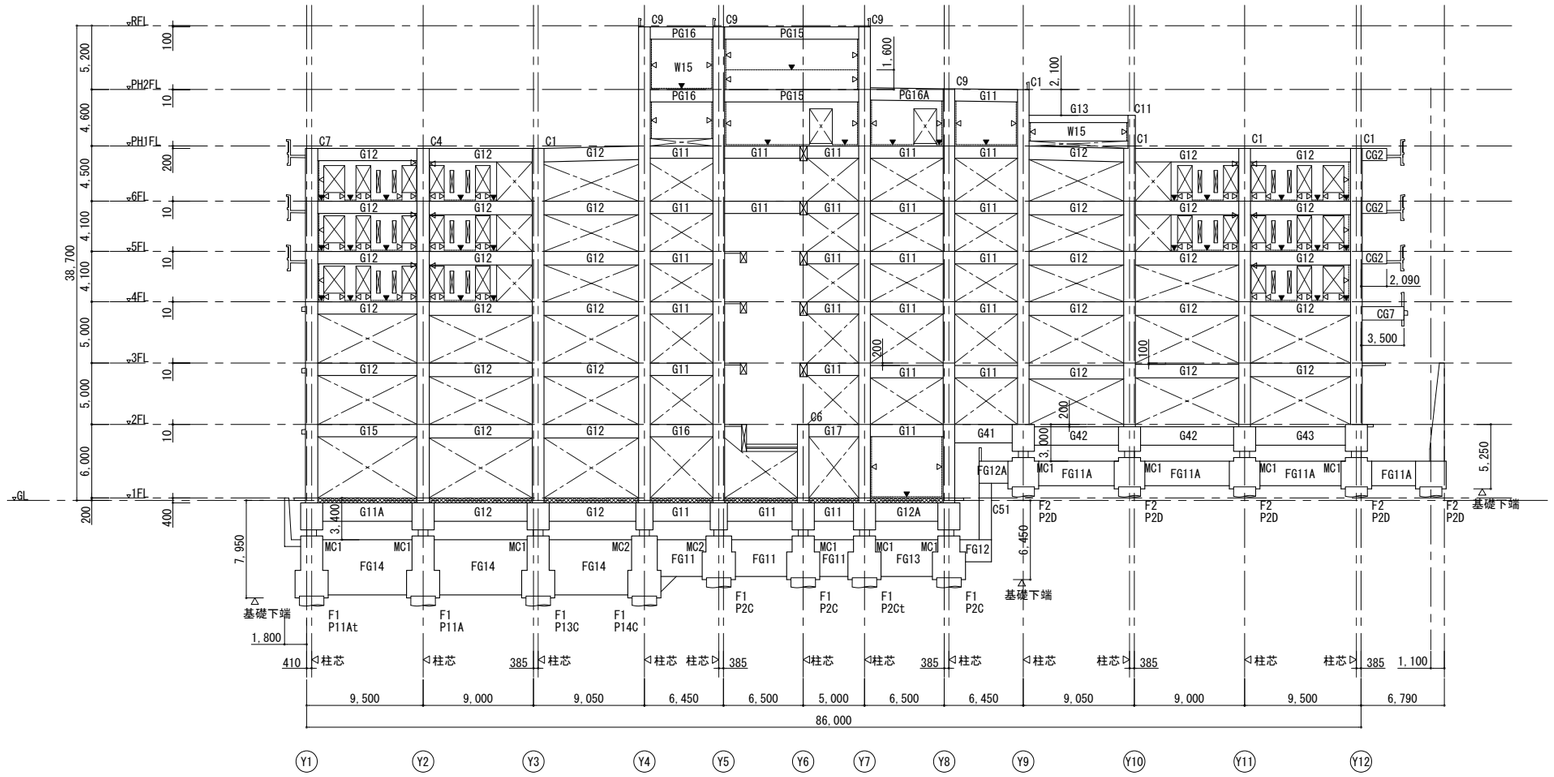


X4通軸組図

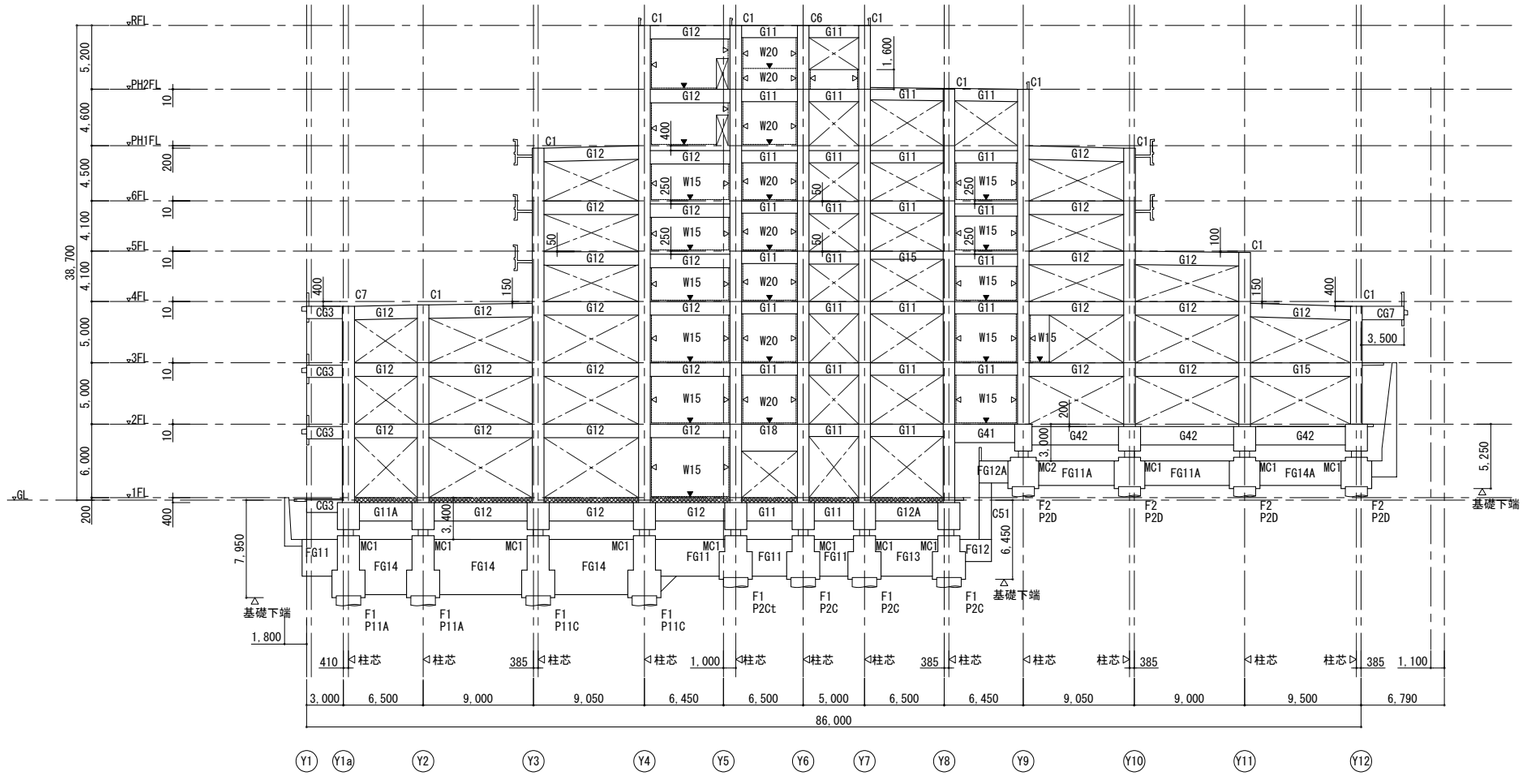
特記なき限り下記による

1. 一般壁　W18
2. ◁ 鉛直スリットを示す。
   ▼ 水平スリットを示す。
3. 柱符号は上階に倣う。
4. ▩ 増打コンクリートを示す。

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）			図面名称	軸組図（９）		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9			縮　尺	【A1】1/250 【A3】 1/500	図面番号	S － 41
発注機関	沖縄県北部医療組合			設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度				代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号 福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘　要					所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検　印	管理建築士	設　計	製　図		一級建築士	山田　剛	登録番号 登録第310062号
					一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号 登録第335522号 第9280号
					一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号 登録第173320号 第1058号



X5通軸組図

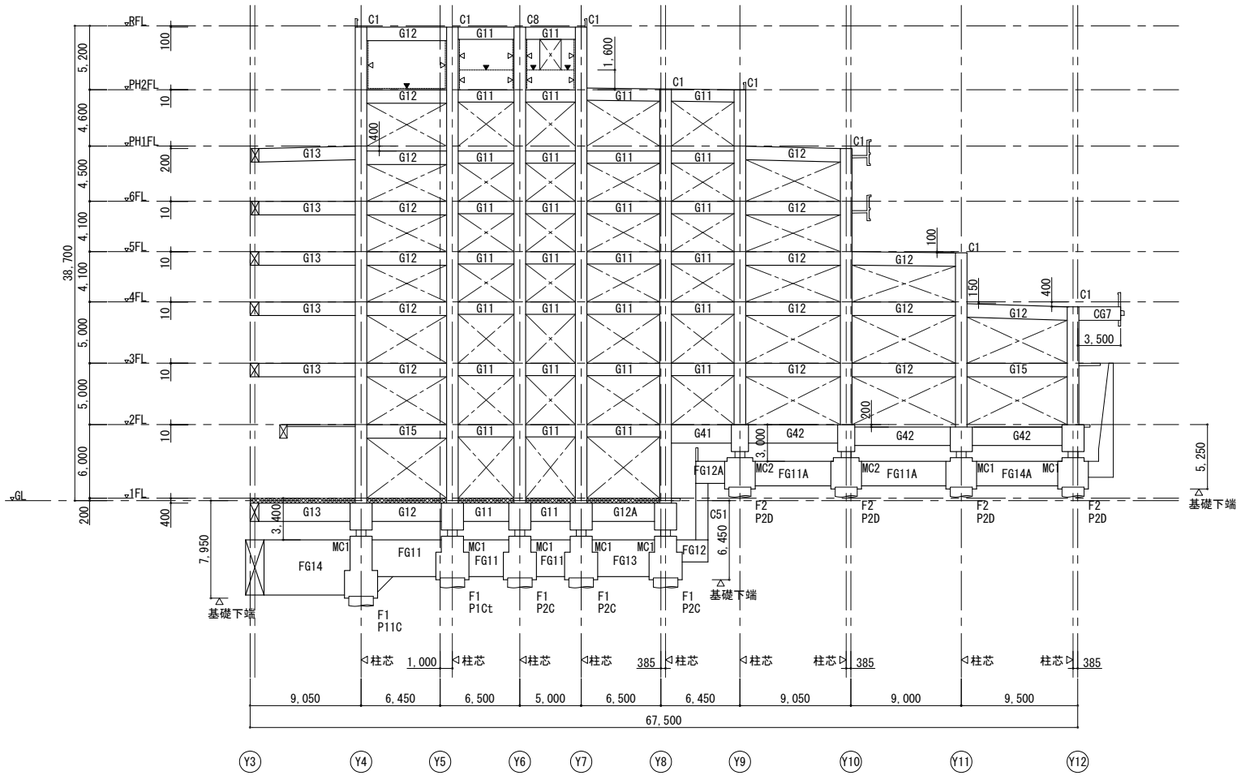


X6通軸組図

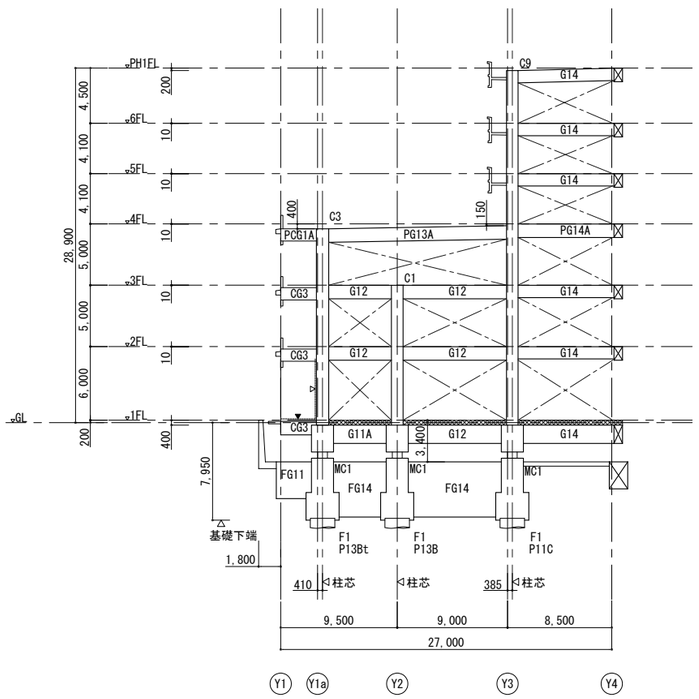
特記なき限り下記による

1. 一般壁　W18
2. ◁ 鉛直スリットを示す。
   ▼ 水平スリットを示す。
3. 柱符号は上階に倣う。
4. ▩ 増打コンクリートを示す。

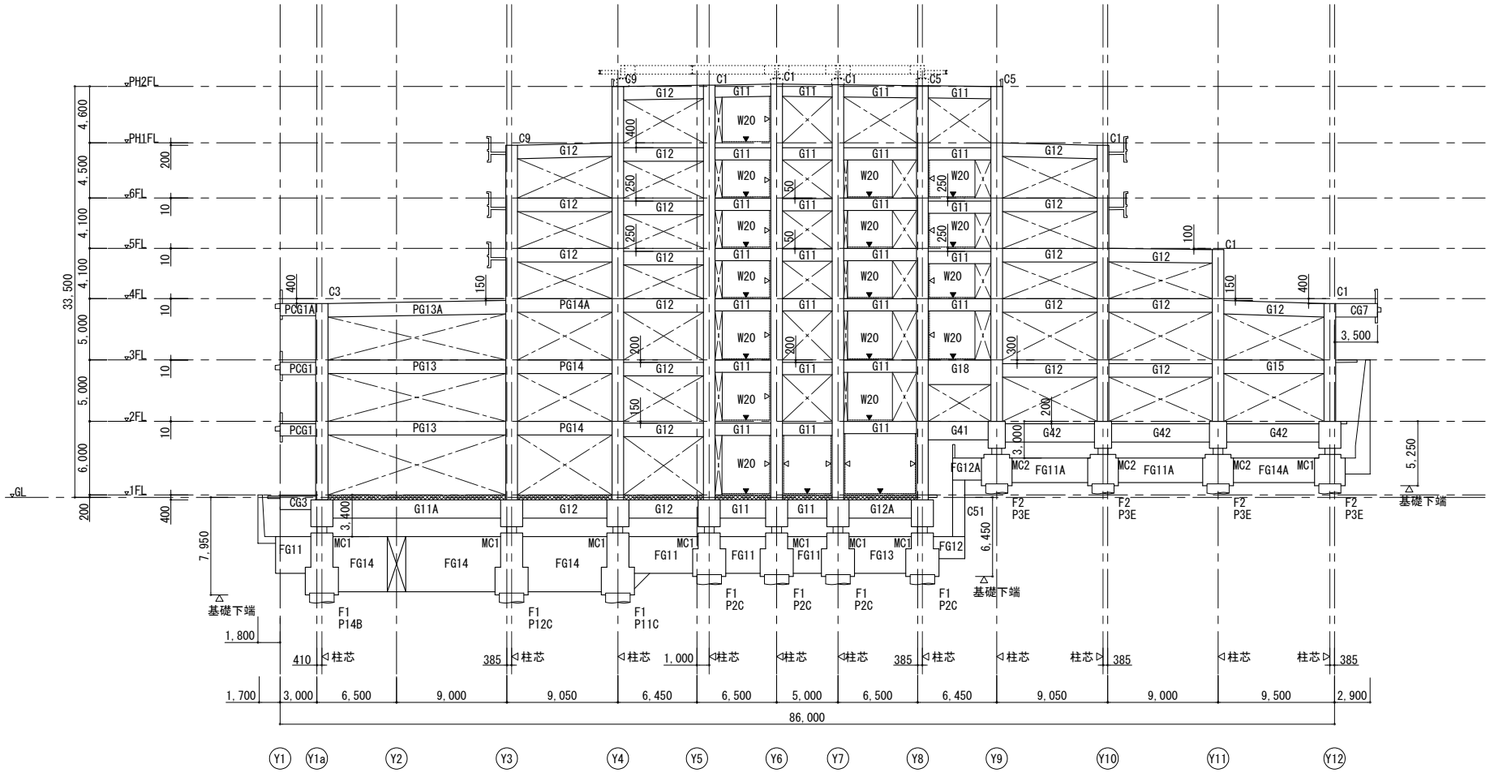
工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	軸組図（１０）		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮　尺	【A1】1/250 【A3】 1/500	図面番号	S － 42
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号 福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘　要			所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検　印	管理建築士 / 設　計 / 製　図		一級建築士	山田　剛	登録番号 登録第310062号
			一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号 登録第335522号 第9280号
			一級建築士 構造設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号 登録第173320号 第1058号



X7通軸組図



X7a通軸組図

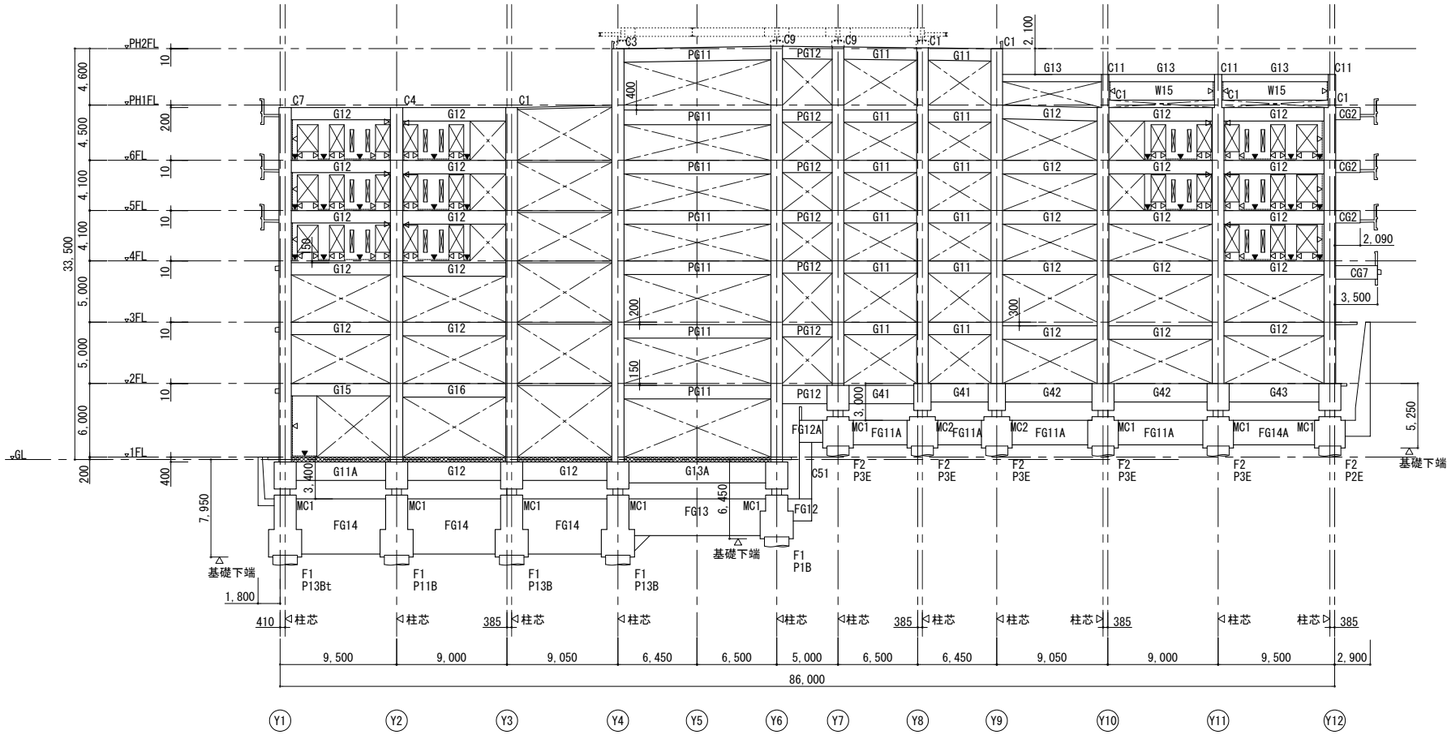


X8通軸組図

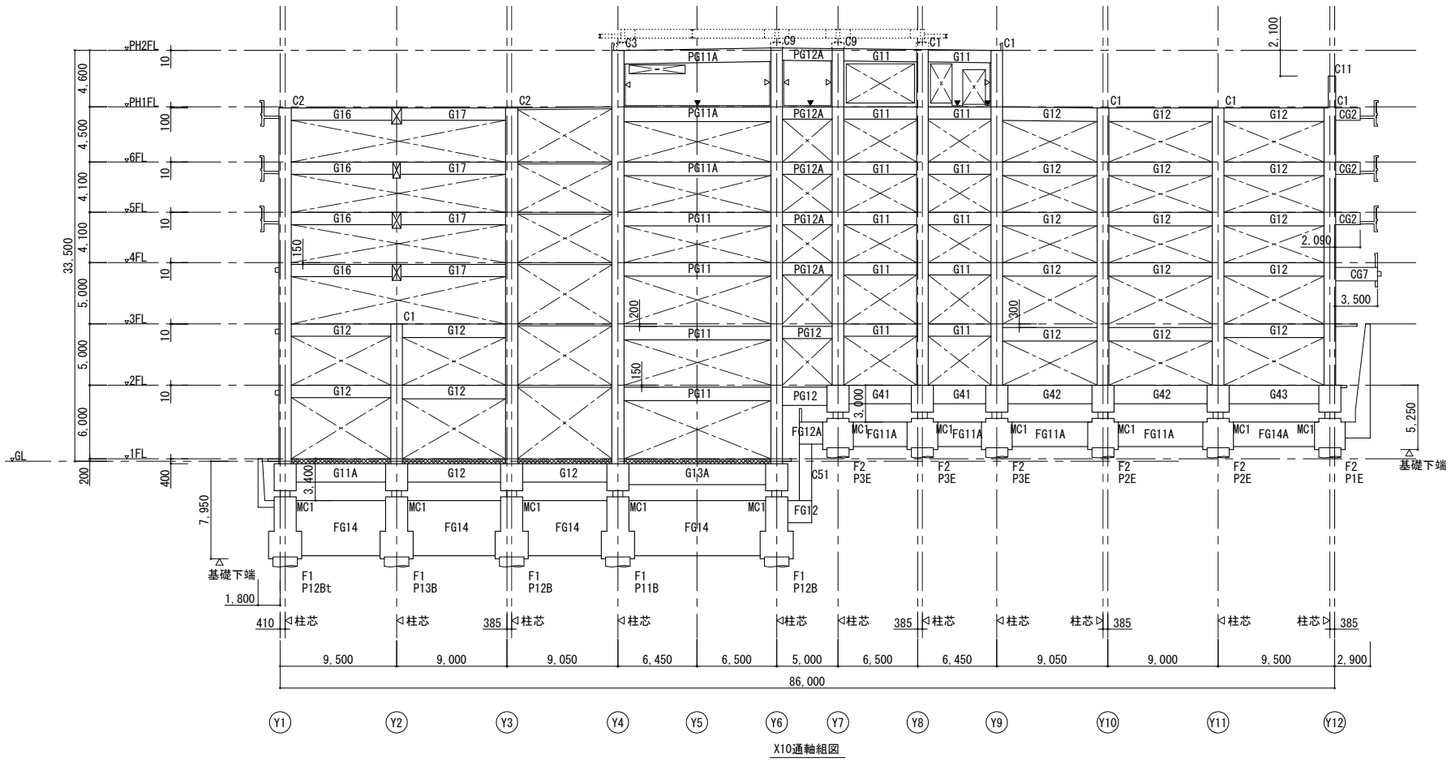
特記なき限り下記による

1. 一般壁　W18
2. ◁ 鉛直スリットを示す。
   ▼ 水平スリットを示す。
3. 柱符号は上階に倣う。
4. ▩ 増打コンクリートを示す。

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	軸組図（１１）		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮　尺	【A1】1/250 【A3】1/500	図面番号	S － 43
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号 福岡県知事登録第 1-12326 号
摘　要			所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検　印	管理建築士 / 設　計 / 製　図		一級建築士	山田　剛	登録番号 登録第310062号
			一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号 登録第335522号 第9280号
			一級建築士	丸山　茂義	登録番号 登録第173320号 第1058号



X9通軸組図

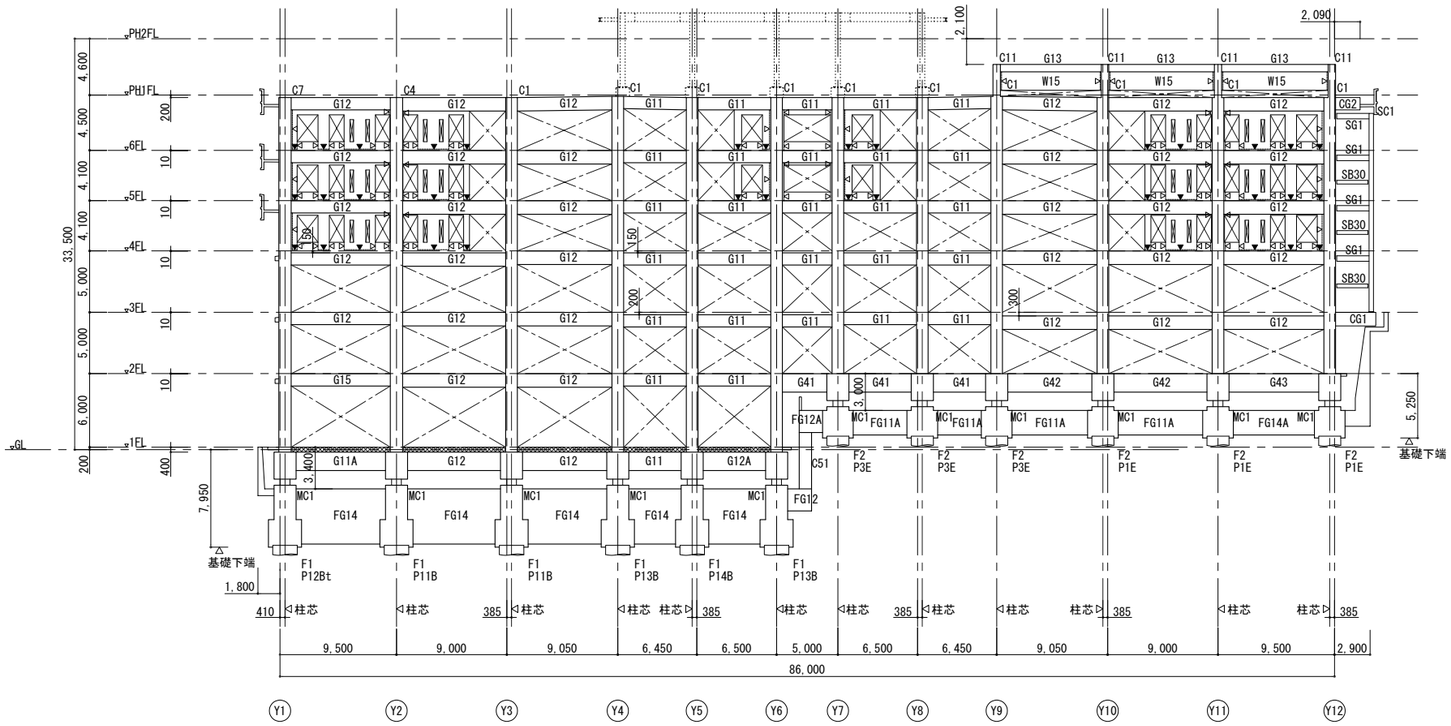


X10通軸組図

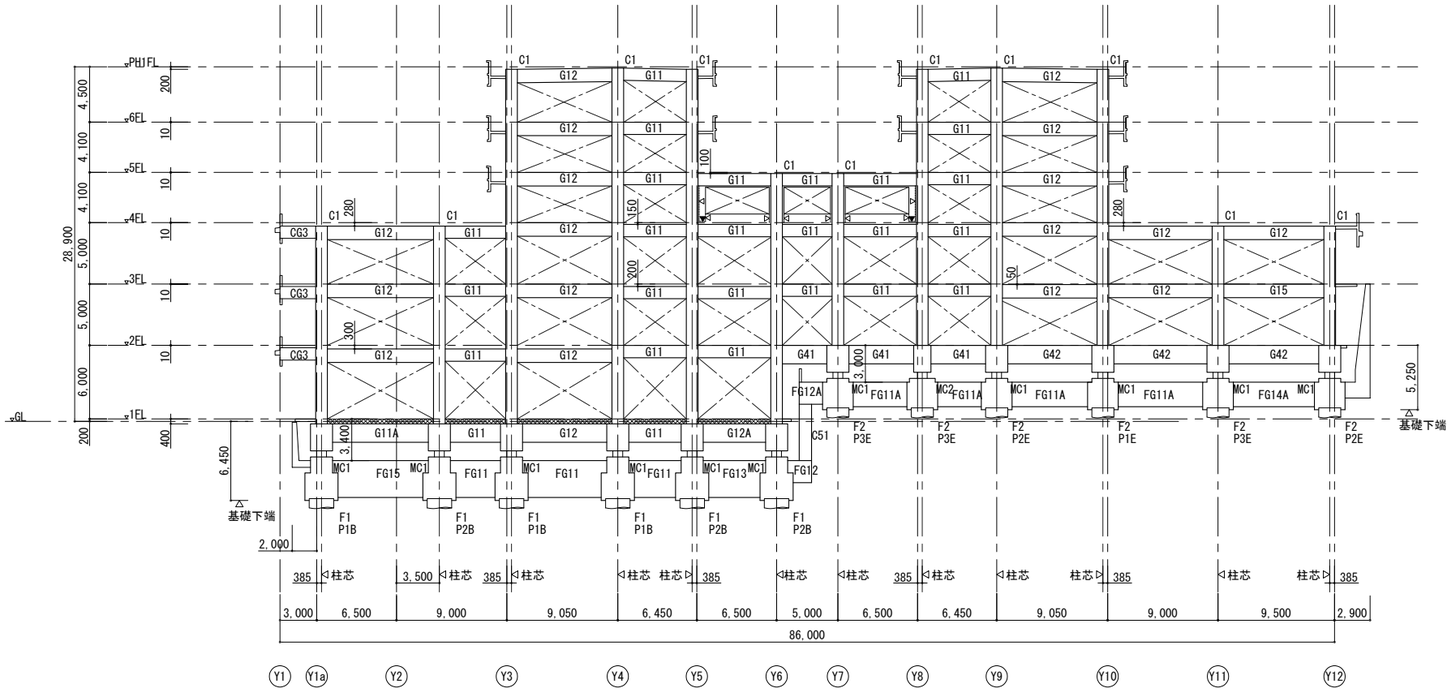
特記なき限り下記による

1. 一般壁　W18
2. ◁ 鉛直スリットを示す。
   ▼ 水平スリットを示す。
3. 柱符号は上階に倣う。
4. ▩ 増打コンクリートを示す。

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）			図面名称	軸組図（１２）		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9			縮　尺	【A1】1/250 【A3】 1/500	図面番号	S － 44
発注機関	沖縄県北部医療組合			設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度				代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号　福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘　要					所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検　印	管理建築士	設　計	製　図		一級建築士	山田　剛	登録番号　登録第310062号
					一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号　登録第335522号 第9280号
					一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号　登録第173320号 第1058号



X11通軸組図

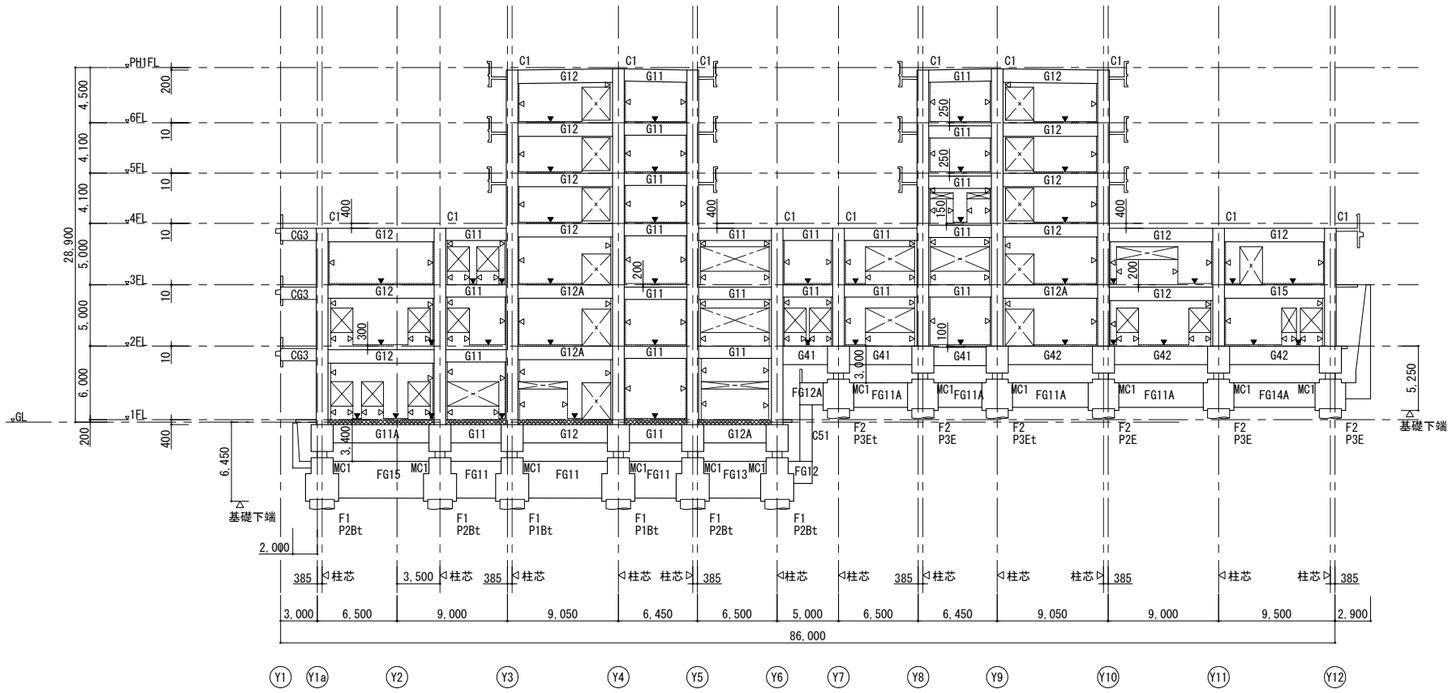


X12通軸組図

特記なき限り下記による

1. 一般壁　W18
2. ◁ 鉛直スリットを示す。
   ▼ 水平スリットを示す。
3. 柱符号は上階に倣う。
4. ▩ 増打コンクリートを示す。

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）			図面名称	軸組図（１３）		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9			縮　尺	【A1】1/250 【A3】 1/500	図面番号	S － 45
発注機関	沖縄県北部医療組合			設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度				代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号　福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘　要					所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検　印	管理建築士	設　計	製　図		一級建築士	山田　剛	登録番号　登録第310062号
					一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号　登録第335522号 第9280号
					一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号　登録第173320号 第1058号



X13通軸組図

特記なき限り下記による

1.一般壁　W18

2. ◁ 鉛直スリットを示す。

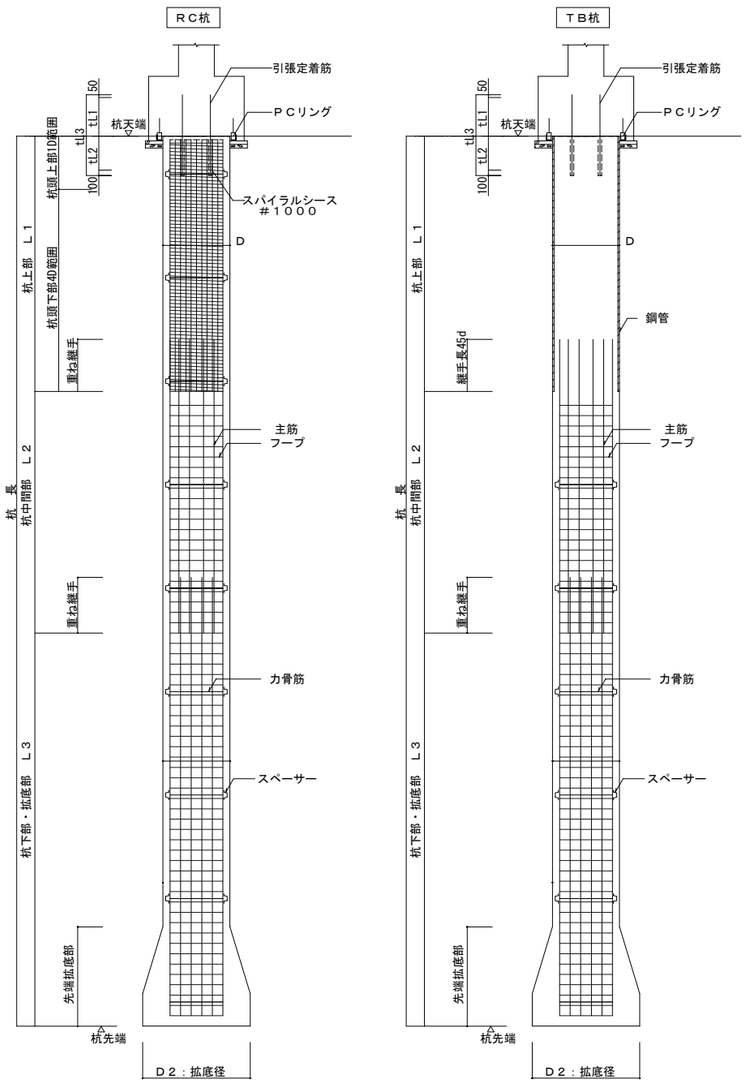
▼ 水平スリットを示す。

3.柱符号は上階に倣う。

4. ▩ 増打コンクリートを示す。

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）			図面名称	軸組図（１４）		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9			縮　尺	【A1】1/250 【A3】 1/500	図面番号	S － 46
発注機関	沖縄県北部医療組合			設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度				代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号 福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘　要					所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検　印	管理建築士	設　計	製　図		一級建築士	山田　剛	登録番号 登録第310062号
					一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号 登録第335522号 第9280号
					一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号 登録第173320号 第1058号

杭姿図



共通事項（例）

（１）杭体コンクリート	Ｆｃ＝３６N/mm^2 (単位セメント量330 kg/m^3 以上)
（２）パイルキャップコンクリート強度	Ｆｃ＝３６N/mm^2
（３）杭頭部モルタル	圧縮強度３６N/mm^{2}以上、かつ杭体コンクリートとパイルキャップの設計基準強度のうち小さいほうを上回る値以上
（４）シースグラウト材	圧縮強度３６N/mm^{2}以上 (無収縮高強度モルタル)
（５）鉄筋	ＳＤ２９５（Ｄ１６以下） ＳＤ３４５（Ｄ１９以上） ＳＤ３９０（Ｄ２９以上） ＳＤ４９０（Ｄ３５以上）
ウルボン筋	SBPD1275／1420（U15）
（６）かぶり厚	１００mm
（７）スペーサー	ＦＢ-４．５x５０（４箇所以上）@３０００
（８）力骨筋	Ｌ-９x７５x７５@３０００
（９）杭主筋重ね継手長さ	５０d
（１０）鋼管	ＳＫＫ４９０

工　法：アースドリル拡底工法　　杭 頭 ： 杭頭半固定工法

杭 仕 様 （ 例 ）

（1）施工者は本杭の築造の全数に立会い、必要な検査、観測を行い杭一本ごとの堀削深さ、支持層の土質、支持層への貫入量、杭底の状況、スライム処理、コンクリートの品質、鉄筋の加工組立かぶり等の確認、溶接部の管理及び所定の施工精度が得られるように、品質管理、施工記録を行う。
（2）拡底工法は（財）日本建築センターの一般評定を取得した工法とする。
（3）杭の施工精度傾斜は 1/100 以下、水平方向のずれは100mm かつ杭径の 1/10 以下とする。
（4）砂層のある場合は、回収液で砂分の測定を行い、３%以下で管理する。
（5）鉄筋カゴ
　1）溶接棒は現場にて乾燥機に保管する。
　2）主筋とウルボン筋とは結束線により接合する。（ウルボン筋溶接処理不可）
3）次の溶接箇所について、現場員が良否の確認を行う。
　・フープ(D13)同士の溶接（スラグを除去する）
　・主筋と力骨筋の溶接　　・フープ(D13)とスペーサーの溶接
4）スペーサーはフラットバーとし、力骨筋に溶接する。(ウルボンスパイラル筋への溶接は不可)
5）杭主筋の継手は主筋１本につき３ヶ所以上番線結束する。
6）一般フープSD材）の重ね継手長さは２０ｃｍ以上とし、溶接長さ１０ｄ以上の片面フレアグループ溶接とする。
7）溶接を行う場合は、溶接時の急冷急熱を避け、主筋にアンダーカット を生じさせないこと。
8）余盛り高さは８００ mm以上とする。

杭リスト

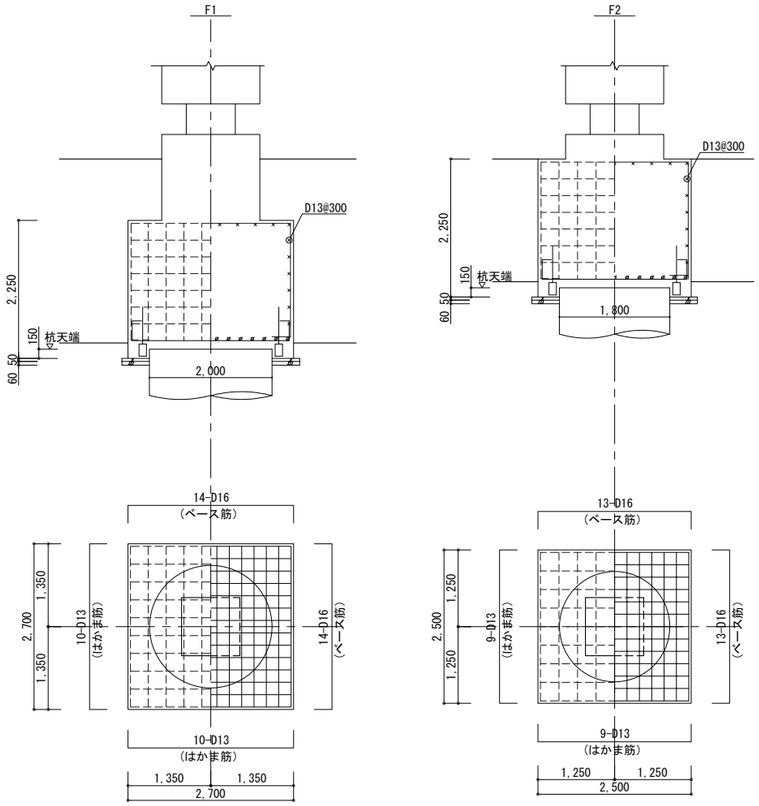
杭 符 号		P1A	P2A	P2At	P3A	P3At	P4A	P4At	P11A	P11At	P1B	P1Bt	P2B	P2Bt	P11B	P12B	P12Bt	P13B	P13Bt
杭頭接合部	軸　径	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000
	絞りの有無（絞り係数）	無し (1.00)	無し (1.00)	無し (1.00)	無し (1.00)	無し (1.00)	無し (1.00)	無し (1.00)	無し (1.00)	無し (1.00)	無し (1.00)	無し (1.00)	無し (1.00)	無し (1.00)	無し (1.00)	無し (1.00)	無し (1.00)	無し (1.00)	無し (1.00)
	引張定着筋	－	－	6-D41	－	6-D41	－	8-D41	－	6-D41	－	6-D41	－	6-D41	－	－	6-D41	－	6-D41
	tL1（mm）	－	－	1,350	－	1,350	－	1,350	－	1,350	－	1,350	－	1,350	－	－	1,350	－	1,350
	tL2（mm）	－	－	1,250	－	1,250	－	1,250	－	1,250	－	1,250	－	1,250	－	－	1,250	－	1,250
	引張定着筋配置径（mm）	－	－	1,530	－	1,530	－	1,530	－	1,530	－	1,530	－	1,530	－	－	1,530	－	1,530
	PCリングタイプ	2000-S1	2000-S1	2000-S1	2000-S1	2000-S1	2000-S1	2000-S1	2000-S1	2000-S1	2000-S1	2000-S1	2000-S1	2000-S1	2000-S1	2000-S1	2000-S1	2000-S1	2000-S1
杭上部	軸　径	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000
	鋼　管	－	－	t=12.0	－	t=12.0	－	t=12.0	－	t=12.0	－	t=12.0	－	t=12.0	－	－	t=12.0	－	t=12.0
	主　筋	20-D41	24-D41	－	24-D41	－	24-D41	－	24-D41	－	32-D41	－	32-D41	－	28-D41	20-D41	－	30-D41	－
	フープ（1D部）	U15@150-2	U15@150-2	－	U15@150-2	－	U15@150-2	－	U15@150-2	－	U15@150-2	－	U15@150-2	－	U15@150-2	U15@150-2	－	U15@150-2	－
	フープ（1D部以外）	U15@150	U15@150	－	U15@150	－	U15@150	－	U15@150	－	U15@150	－	U15@150	－	U15@150	U15@150	－	U15@150	－
	長さL1（m）	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
杭中間部	軸　径	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000
	主　筋	20-D41	24-D41	28-D41	24-D41	28-D41	24-D41	28-D41	24-D41	28-D41	32-D41	36-D41	32-D41	36-D41	28-D41	24-D41	36-D41	30-D41	40-D41
	フープ	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300
	長さL2（m）	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	6.0	6.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0
杭下部	軸　径	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000
	主　筋	20-D41	20-D41	20-D41	20-D41	20-D41	20-D41	20-D41	20-D41	20-D41	20-D41	20-D41	20-D41	20-D41	20-D41	20-D41	20-D41	20-D41	20-D41
	フープ	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300
	長さL3（m）	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.0	5.0	6.5	6.5	6.5	6.5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
拡　底　径（設計径）		φ2,700	φ2,400	φ2,400	φ2,200	φ2,200	φ2,000	φ2,000	φ2,200	φ2,200	φ2,200	φ2,200	φ2,000	φ2,000	φ2,700	φ2,400	φ2,400	φ2,200	φ2,200
杭　長（m）		22.5	22.5	22.5	22.5	22.5	22.5	22.5	21.0	21.0	27.5	27.5	27.5	27.5	26.0	26.0	26.0	26.0	26.0
長 期 支 持 力(kN)		17,480	13,920	13,920	12,410	12,410	11,220	11,220	12,410	12,410	12,760	12,760	10,790	10,790	17,050	14,350	14,350	12,760	12,760
杭本数（本）		3	2	1	3	2	9	8	3	1	4	2	3	4	4	2	2	6	2

杭 符 号		P14B	P1Ct	P2C	P2Ct	P11C	P12C	P13C	P14C	P1D	P2D	P2Dt	P11D	P12D	P1E	P2E	P3E	P3Et
杭頭接合部	軸　径	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ1,800	φ1,800	φ1,800	φ1,800	φ1,800	φ1,800	φ1,800	φ1,800	φ1,800
	絞りの有無（絞り係数）	無し (1.00)	無し (1.00)	無し (1.00)	無し (1.00)	無し (1.00)	無し (1.00)	無し (1.00)	無し (1.00)	無し (1.00)	無し (1.00)	無し (1.00)	無し (1.00)	無し (1.00)	無し (1.00)	無し (1.00)	無し (1.00)	無し (1.00)
	引張定着筋	－	6-D41	－	6-D41	－	－	－	－	－	－	6-D41	－	－	－	－	－	6-D41
	tL1（mm）	－	1,350	－	1,350	－	－	－	－	－	－	1,350	－	－	－	－	－	1,350
	tL2（mm）	－	1,250	－	1,250	－	－	－	－	－	－	1,250	－	－	－	－	－	1,250
	引張定着筋配置径（mm）	－	1,530	－	1,530	－	－	－	－	－	－	1,330	－	－	－	－	－	1,330
	PCリングタイプ	2000-S1	2000-S1	2000-S1	2000-S1	2000-S1	2000-S1	2000-S1	2000-S1	1800-S1	1800-S1	1800-S1	1800-S1	1800-S1	1800-S1	1800-S1	1800-S1	1800-S1
杭上部	軸　径	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ1,800	φ1,800	φ1,800	φ1,800	φ1,800	φ1,800	φ1,800	φ1,800	φ1,800
	鋼　管	－	t=12.0	－	t=12.0	－	－	－	－	－	－	t=12.0	－	－	－	－	－	t=12.0
	主　筋	30-D41	－	24-D41	－	20-D41	20-D41	20-D41	20-D41	28-D32	28-D32	－	28-D32	28-D32	28-D32	30-D32	30-D32	－
	フープ（1D部）	U15@150-2	－	U15@150-2	－	U15@150-2	U15@150-2	U15@150-2	U15@150-2	U15@150-2	U15@150-2	－	U15@150-2	U15@150-2	U15@150-2	U15@150-2	U15@150-2	－
	フープ（1D部以外）	U15@150	－	U15@150	－	U15@150	U15@150	U15@150	U15@150	U15@150	U15@150	－	U15@150	U15@150	U15@150	U15@150	U15@150	－
	長さL1（m）	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0
杭中間部	軸　径	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ1,800	φ1,800	φ1,800	φ1,800	φ1,800	φ1,800	φ1,800	φ1,800	φ1,800
	主　筋	30-D41	24-D41	24-D41	28-D41	20-D41	20-D41	20-D41	20-D41	28-D32	28-D32	28-D32	28-D32	28-D32	28-D32	30-D32	30-D32	36-D32
	フープ	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D13@300	D13@300	D13@300	D13@300	D13@300	D13@300	D13@300	D13@300	D13@300
	長さL2（m）	11.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0
杭下部	軸　径	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ2,000	φ1,800	φ1,800	φ1,800	φ1,800	φ1,800	φ1,800	φ1,800	φ1,800	φ1,800
	主　筋	20-D41	20-D41	20-D41	20-D41	20-D41	20-D41	20-D41	20-D41	20-D32	24-D32	28-D32	24-D32	24-D32	28-D32	30-D32	30-D32	36-D32
	フープ	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D16@300	D13@300	D13@300	D13@300	D13@300	D13@300	D13@300	D13@300	D13@300	D13@300
	長さL3（m）	5.0	6.5	6.5	6.5	5.0	5.0	5.0	5.0	11.9	11.9	11.9	10.7	10.7	16.9	16.9	16.9	16.9
拡　底　径（設計径）		φ2,000	φ2,200	φ2,000	φ2,000	φ2,700	φ2,400	φ2,200	φ2,000	φ2,200	φ1,800	φ1,800	φ2,200	φ1,800	φ2,500	φ2,200	φ1,800	φ1,800
杭　長（m）		26.0	22.5	22.5	22.5	21.0	21.0	21.0	21.0	29.9	29.9	29.9	28.7	28.7	34.9	34.9	34.9	34.9
長 期 支 持 力(kN)		10,790	11,640	11,140	11,140	15,550	13,080	11,640	11,140	11,660	9,180	9,180	11,660	9,180	12,330	10,390	8,860	8,860
杭本数（本）		2	1	13	2	5	1	1	1	6	26	1	2	2	5	6	21	2

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	杭リスト		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮　尺	【A1】 1/40 【A3】 1/80	図面番号	S － 47
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号 福岡県知事登録第 1-12326 号
摘　要			所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検　印	管理建築士 / 設　計 / 製　図		一級建築士	山田　剛	登録番号 登録第310062号
			一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号 登録第335522号 第9280号
			一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号 登録第173320号 第1058号

基礎リスト　1/50

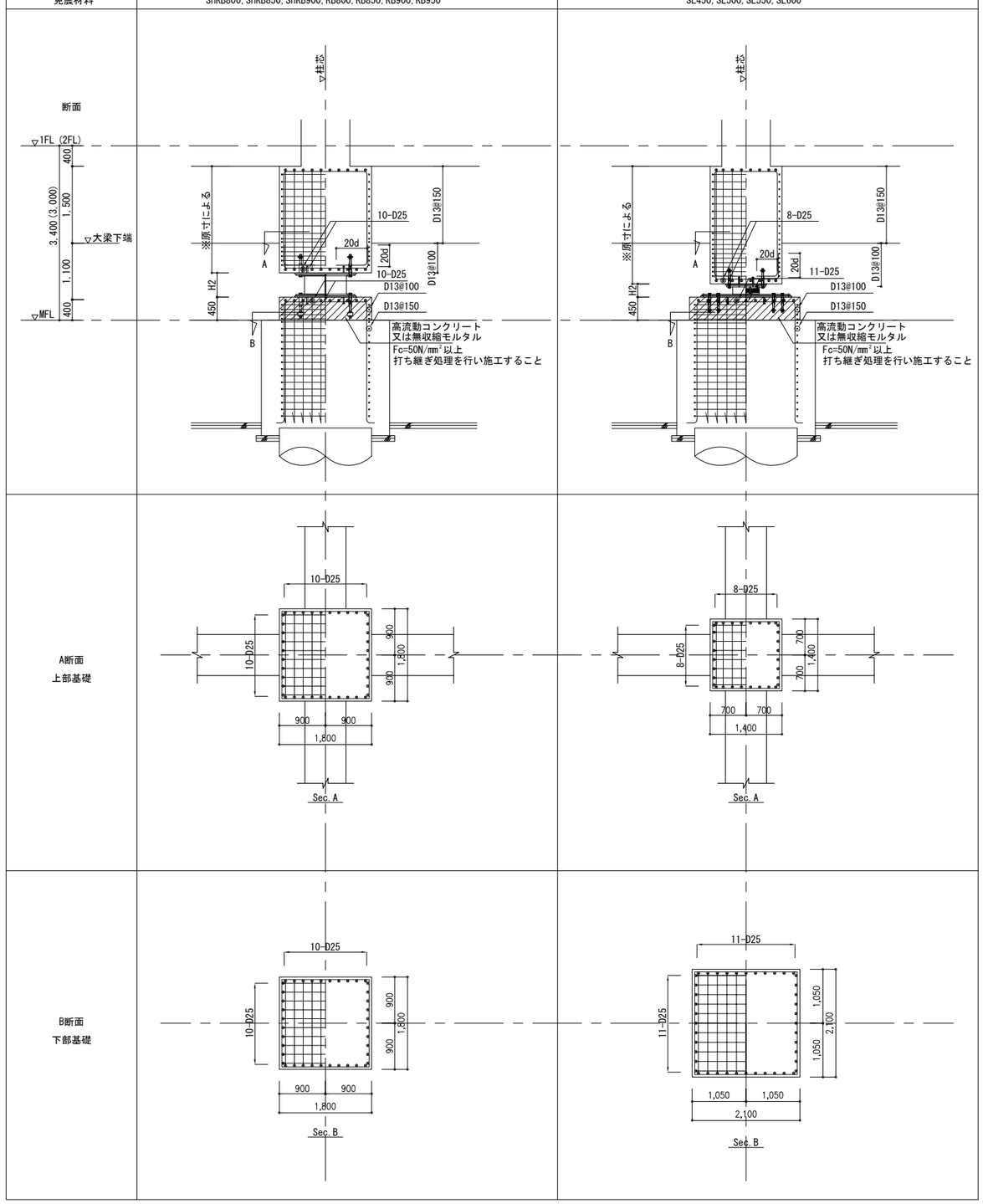
特記なき限り下記による
・フーチングの方向は基礎伏図による。



免震基礎リスト（1）　1/50

特記なき限り下記による
・H2は支承高さを示す。

免震基礎符号	MC1	MC2
免震材料	SnRB800, SnRB850, SnRB900, RB800, RB850, RB900, RB950	SL450, SL500, SL550, SL600



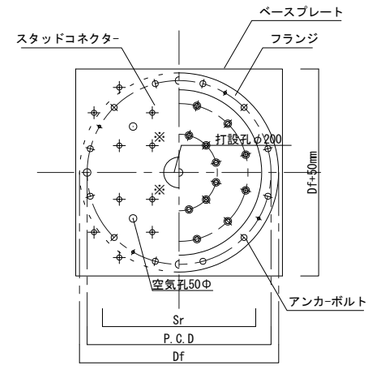
工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）			図面名称	基礎・免震基礎リスト
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9			縮　尺	【A1】1/50　【A3】1/100　　図面番号　S － 48
発注機関	沖縄県北部医療組合			設計者	JV名称：内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体
工事年度	令和　7　年度				代表企業：株式会社内藤建築事務所　登録番号　福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘　要					所 在 地：福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16
検　印	管理建築士	設　計	製　図		一級建築士：山田　剛　登録番号　登録第310062号
					一級建築士 構造設計一級建築士：末吉　謙太郎　登録番号　登録第335522号 第9280号
					一級建築士 設備設計一級建築士：丸山　茂義　登録番号　登録第173320号 第1058号

免震材料リスト（1）　1/50

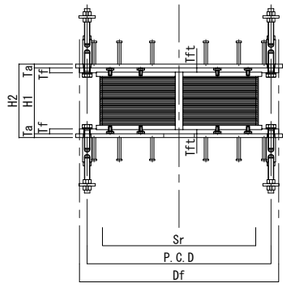
特記なき限り下記による
・数値は設計値を示す。許容する製品バラつきは免震構造仕様書による。

錫プラグ入り積層ゴム支承（SnRB）

姿図



※スタッドコネクター20本使用時設置位置を示す。



材料認定番号			MVBR-0644 MVBR-0645				
符号			SnRB850	SnRB900	SnRB850A		
基数			21	24	1		
ゴム寸法		Sr　mm	850	900	850		
錫プラグ径		Dp　mm	170	180	170		
錫プラグ本数		Np	1	1	1		
ゴム総厚		Hr　mm	198.4	197.2	198.4		
ゴム厚		mm	6.4	6.8	6.4		
ゴム層数			31	29	31		
支承高さ		H1　mm	451.4	441.2	469.4		
支承総高さ		H2　mm	489.4	479.2	507.4		
ゴムのせん断弾性率		Gr　N/mm²	0.39	0.39	0.39		
一次形状係数		S1	31.9	31.8	31.9		
二次形状係数		S2	4.3	4.6	4.3		
一次剛性		Kh1　kN/m	130,000	144,000	130,000		
二次剛性		Kh2　kN/m	1,164	1,286	1,164		
切片荷重		Qd　kN	336	377	336		
基準面圧		N/mm²	10.0	12.5	10.0		
圧縮限界強度		N/mm²	48	51	48		
引張限界強度		N/mm²	-1.0	-1.0	-1.0		
フランジ	外径	Df　mm	1,150	1,200	1,150		
	厚	Tf(Tft)mm	36	36	45		
	材質		SS400	SS400	SS400		
アンカーボルト	配置	P.C.D　mm	1,030	1,080	1,030		
	本数		12	12	12		
	径		M33	M33	M33		
ベースプレート	厚	Ta　mm	19	19	19		
	材質		SS400	SS400	SS400		
スタッドコネクター			16-φ22	16-φ22	16-φ22		

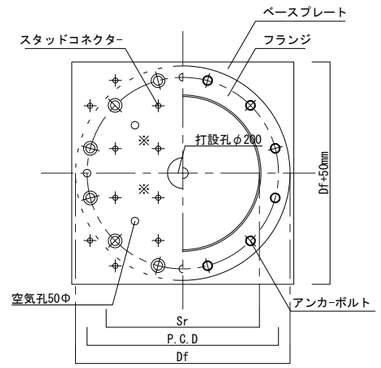
※　取付ボルトは「JIS B 1051」に定める機械的性質を満たす製品の内、JIS認証品とする。
※　アンカーボルトの材質はSNR400Bとする。
※　下部ベースプレートの打設孔及び空気孔は監督員と協議の上、適宜設置するとここしこの限りではない。

免震材料リスト（2）　1/50

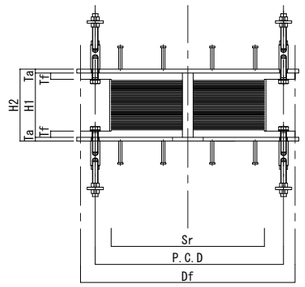
特記なき限り下記による
・数値は設計値を示す。許容する製品バラつきは免震構造仕様書による。

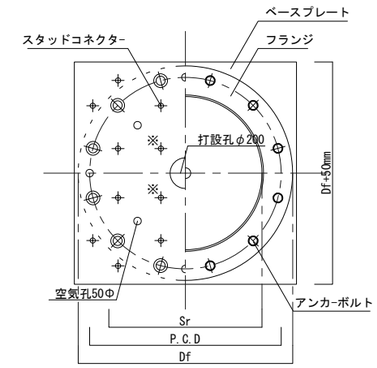
天然ゴム系積層ゴム支承（RB）

姿図

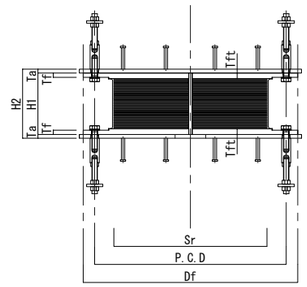


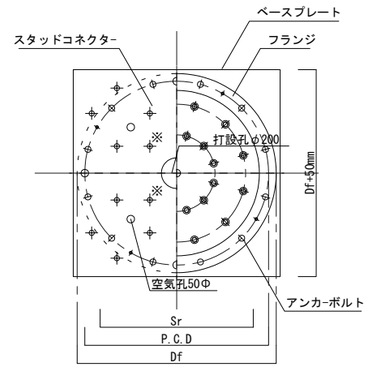
※スタッドコネクター20本使用時設置位置を示す。



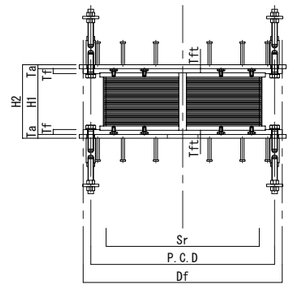


※スタッドコネクター20本使用時設置位置を示す。





※スタッドコネクター20本使用時設置位置を示す。



材料認定番号			MVBR-0305-1					MVBR-0509,0518					MVBR-0615				
符号			RB850	RB900	RB950			RB850	RB900	RB950			RB850	RB900	RB950		
基数			33	49	10			33	49	10			33	49	10		
ゴム寸法		Sr　mm	850	900	950			850	900	950			850	900	950		
ゴム総厚		Hr　mm	199.8	197.2	198.4			200	198	198			198.4	197.2	198.8		
ゴム厚		mm	5.4	5.8	6.4			5.7	6.0	6.4			6.4	6.8	7.1		
ゴム層数			37	34	31			35	33	31			31	29	28		
支承高さ		H1　mm	440.6	425.1	413.4			413.1	410.8	402.4			443.4	441.2	438.3		
支承総高さ		H2　mm	478.6	463.1	451.4			451.1	448.8	440.4			489.4	479.2	489.4		
ゴムのせん断弾性率		Gr　N/mm²	0.392	0.392	0.392			0.392	0.392	0.392			0.39	0.39	0.39		
一次形状係数		S1	36.1	35.8	34.4			36.4	36.7	36.3			31.5	31.4	31.8		
二次形状係数		S2	4.3	4.6	4.8			4.26	4.55	4.79			4.3	4.6	4.8		
水平剛性		Kh　kN/m	1.091	1.240	1.374			1.110	1.260	1.400			1.118	1.261	1.394		
基準面圧		N/mm²	10.0	12.0	14.0			10.8	12.0	13.0			11.9	12.6	13.2		
圧縮限界強度		N/mm²	51.2	54.4	54.8			51.0	56.0	60.0			48.0	51.0	53.0		
引張限界強度		N/mm²	-1.0	-1.0	-1.0			-1.0	-1.0	-1.0			-1.0	-1.0	-1.0		
フランジ	外径	Df　mm	1,250	1,300	1,350			1,200	1,250	1,300			1,150	1,200	1,250		
	厚	Tf(Tft)mm	36	36	36			24 (32)	28 (36)	28 (36)			32	36	36		
	材質		SS400	SS400	SS400			SS400	SS400	SS400			SS400	SS400	SS400		
アンカーボルト	配置	P.C.D　mm	1,100	1,150	1,200			1,050	1,100	1,150			1,030	1,080	1,150		
	本数		12	12	12			12	12	12			12	12	12		
	径		M30	M30	M36			M30	M30	M36			M30	M30	M36		
ベースプレート	厚	Ta　mm	19	19	19			19	19	19			19	19	19		
	材質		SS400	SS400	SS400			SS400	SS400	SS400			SS400	SS400	SS400		
スタッドコネクター			16-φ22	16-φ22	16-φ22			16-φ22	16-φ22	16-φ22			16-φ22	16-φ22	16-φ22		

※　取付ボルトは「JIS B 1051」に定める機械的性質を満たす製品の内、JIS認証品とする。
※　アンカーボルトの材質はSNR400Bとする。
※　下部ベースプレートの打設孔及び空気孔は監督員と協議の上、適宜設置するとここしこの限りではない。

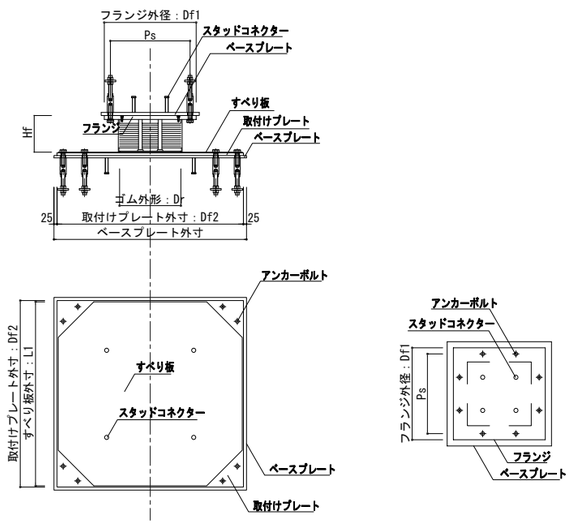
工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	免震材料リスト（1）		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮　尺	【A1】1/50　【A3】1/100	図面番号	S - 49
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号　福岡県知事登録第 1-12326 号
摘　要			所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検　印	管理建築士　設　計　製　図		一級建築士	山田　剛	登録番号　登録第310062号
			一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号　登録第335522号 第9280号
			一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号　登録第173320号 第1058号

免震材料リスト（3）　1/50

特記なき限り下記による
・数値は設計値を示す。許容する製品バラつきは免震構造仕様書による。

弾性すべり支承（SSR）

姿図

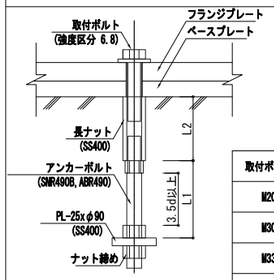


・有効ストロークは，±６００mmとする。
・ベースプレート外寸は，フランジ外径＋５０mm又は取付けプレート＋５０mmとする。

材料認定番号				MVBR-0563			
符号				SL550	SL600		
基数				3	12		
ゴム外形			Dr　mm	□-550	□-600		
支承高さ			Hf　mm	175.7	170.3		
ゴム総厚			Hr　mm	36.0	35.1		
ゴム厚			mm	3.6	3.9		
ゴム層数				10	9		
一次形状係数			S1	35.0	35.5		
二次形状係数			S2	15.3	17.1		
基準面圧（積層ゴム）			N/mm^2	20.0	20.0		
基準面圧（すべり材）			N/mm^2	20.0	20.0		
摩擦係数				0.014	0.014		
ゴム側	フランジ	外径	Df1　mm	800	850		
		厚	Tf1　mm	32	32		
		材質		SS400	SS400		
	アンカーボルト	配置	Ps　mm	700	750		
		本数		8	8		
		径		M20	M20		
	ベースプレート	厚	Tb1　mm	19	19		
		材質		SS400	SS400		
	スタッドコネクター			4-φ22	4-φ22		
すべり板側	すべり板	外径	L1　mm	1,755	1,805		
	取付けプレート	外径	Df2　mm	1,775	1,825		
		厚	Tf2　mm	22	22		
		材質		SS400	SS400		
	アンカーボルト	本数		8	8		
		径		M20	M20		
	ベースプレート	厚	Tb2　mm	19	19		
		材質		SS400	SS400		
	スタッドコネクター			4-φ22	4-φ22		

※　取付ボルトは「JIS B 1051」に定める機械的性質を満たす製品の内、JIS認証品とする。
※　アンカーボルトの材質はSNR400Bとする。
※　下部ベースプレートの打設孔及び空気孔は監督員と協議の上、適宜設置するとここしこの限りではない。

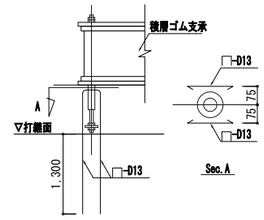
積層ゴム支承アンカー要領図



※取付けボルト
強度区分　：　6.8
基準強度Ｆ値（N/mm²）：　420
※取付ボルトは、JIS B 1051に定める機械的性質を満たす製品のうち、JIS認定品とする。

取付ボルト	長ナット (SS400)	L1	L2	アンカーボルト径 D
M20	φ45	150	150	M20
M30	φ45	150	150	M30
M33	φ50	170	165	M33
M36	φ55	185	180	M36

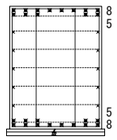
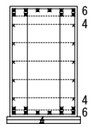
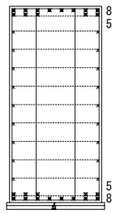
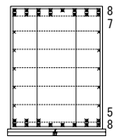
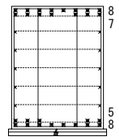
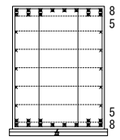
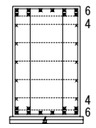
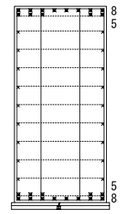
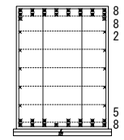
積層ゴム支承アンカー部補強要領図
（免震基礎リストのA.Bolt用補強筋）

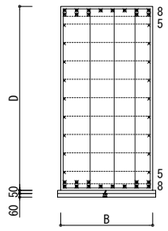
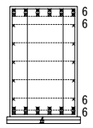
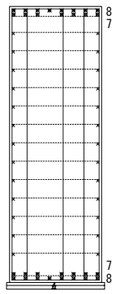
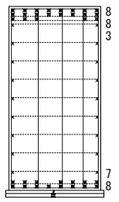
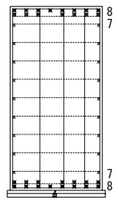
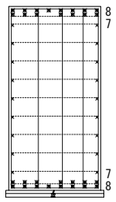
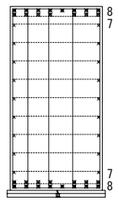
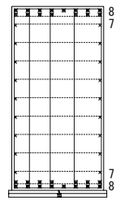
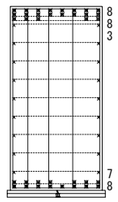


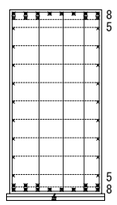
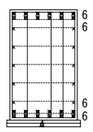
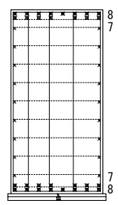
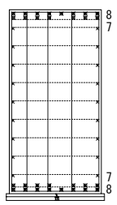
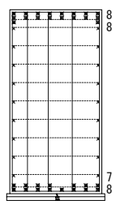
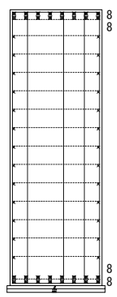
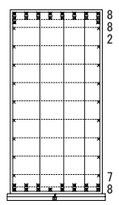
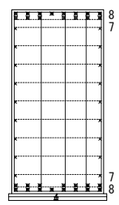
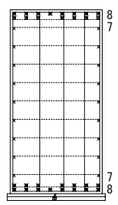
工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	免震材料リスト（２）		
縮　尺	【A1】1/50　【A3】1/100	図面番号	S － 50		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
発注機関	沖縄県北部医療組合		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号　福岡県知事登録 第 1-12326 号
工事年度	令和　7　年度		所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
摘　要			一級建築士	山田　剛	登録番号　登録第310062号
検　印	管理建築士 / 設　計 / 製　図		一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号　登録第335522号 第9280号
			一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号　登録第173320号 第1058号

基礎梁リスト　1/50

特記なき限り下記による
・巾止め筋はD10@1000とする。

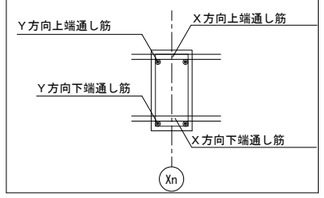
符号	FG1A	FG2A	FG3A	FG4A	FG5A	FG11A	FG12A	FG13A	FG14A
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面									
B×D	1,500×2,000	1,100×1,800	1,500×3,200	1,500×2,000	1,500×2,000	1,500×2,000	1,100×1,800	1,500×3,200	1,500×2,000
上端筋	13-D38	10-D38	13-D38	15-D38	15-D38	13-D38	10-D38	13-D38	18-D38
下端筋	13-D38	10-D38	13-D38	13-D38	13-D38	13-D38	10-D38	13-D38	13-D38
あばら筋	4-D13@100	4-D13@100	4-D13@100	4-D13@100	4-D13@100	4-D13@100	4-D13@100	4-D13@100	4-D13@100
腹筋	10-D13	10-D13	18-D13	10-D13	10-D13	10-D13	10-D13	18-D13	10-D13

符号	FG1	FG2	FG3	FG4			FG5		
位置	全断面	全断面	全断面	X1,X3,X5,X11	中央	X2,X4,X6,X12	X4,X7,X12	中央	X5,X8,X13
断面									
B×D	1,500×3,000	1,100×1,800	1,500×4,500	1,500×3,000			1,500×3,000		
上端筋	13-D41	12-D41	15-D41	19-D41	15-D41	15-D41	15-D41	15-D41	19-D41
下端筋	13-D41	12-D41	15-D41	15-D41	15-D41	15-D41	15-D41	15-D41	15-D41
あばら筋	5-D13@100	4-D13@100	5-D13@100	5-D13@100			5-D13@100		
腹筋	18-D13	10-D13	26-D13	18-D13			18-D13		

符号	FG11	FG12	FG13			FG14	FG15		
位置	全断面	全断面	Y5,Y6,Y7	中央	Y6,Y7,Y8	全断面	Y1,Y1a	中央	Y2,Y2a
断面									
B×D	1,500×3,000	1,100×1,800	1,500×3,000			1,500×4,500	1,500×3,000		
上端筋	13-D41	12-D41	15-D41	15-D41	16-D41	16-D41	18-D41	15-D41	15-D41
下端筋	13-D41	12-D41	15-D41	15-D41	15-D41	16-D41	15-D41	15-D41	15-D41
あばら筋	5-D13@100	5-D13@100	5-D13@100			5-D13@100	5-D13@100		
腹筋	18-D13	10-D13	18-D13			26-D13	18-D13		

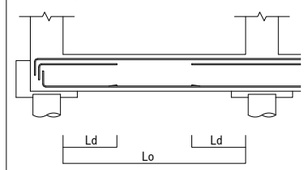
基礎梁主筋配筋要領

ＸＹ方向の梁主筋位置が同レベルになる
場合は、下記の通りとする。



地中梁カットオフ長さ

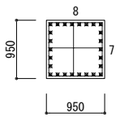
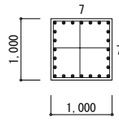
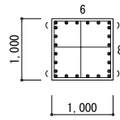
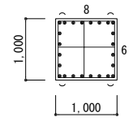
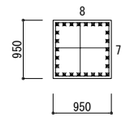
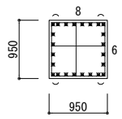
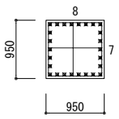
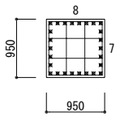
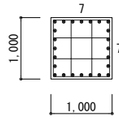
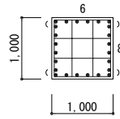
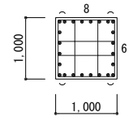
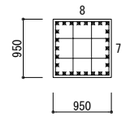
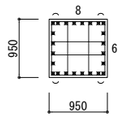
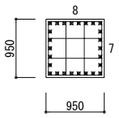
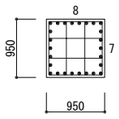
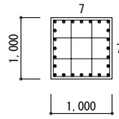
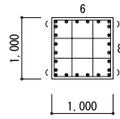
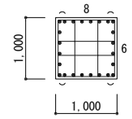
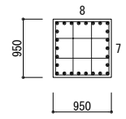
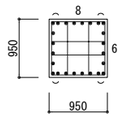
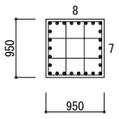
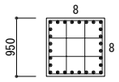
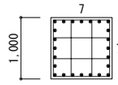
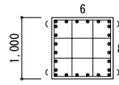
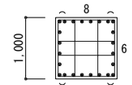
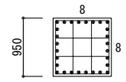
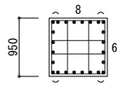
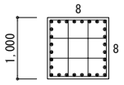
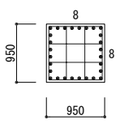
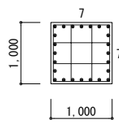
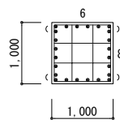
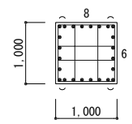
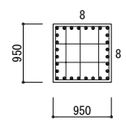
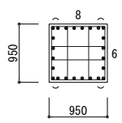
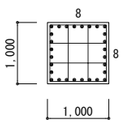
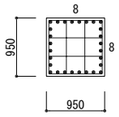
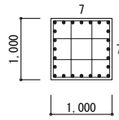
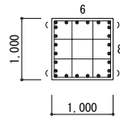
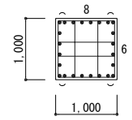
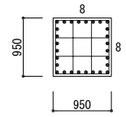
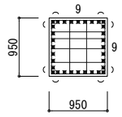
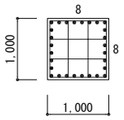
特記なき限りカットオフ長さ（Ld）は Lo/4+15dかつ
表中の数値以上とする。

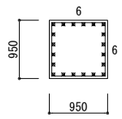
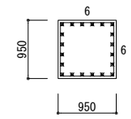
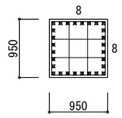
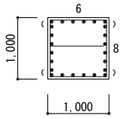
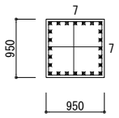
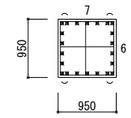


工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	基礎梁リスト		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮　尺	【A1】1/50　【A3】1/100	図面番号	S - 51
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号　福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘　要			所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検　印	管理建築士 / 設　計 / 製　図		一級建築士	山田　剛	登録番号　登録第310062号
			一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号　登録第335522号 第9280号
			一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号　登録第173320号 第1058号

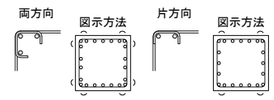
柱リスト（１）　1/50

特記なき限り下記による
・ﾌｰﾌﾟのTは高強度せん断補強筋785N/mm²級を示す。

階	符号	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7
6階	断面							
	Dx×Dy	950×950	1,000×1,000	1,000×1,000	1,000×1,000	950×950	950×950	950×950
	主筋	26-D29	24-D32	24-D32	24-D32	26-D29	24-D29	26-D29
	ﾌｰﾌﾟ	⊞-D13@100	⊞-D13@100	⊞-D13@100	⊞-D13@100	⊞-D13@100	⊞-D13@100	⊞-D13@100
5階	断面							
	Dx×Dy	950×950	1,000×1,000	1,000×1,000	1,000×1,000	950×950	950×950	950×950
	主筋	26-D29	24-D32	24-D32	24-D32	26-D29	24-D29	26-D29
	ﾌｰﾌﾟ	⊞-D13@100	⊞-D13@100	⊞-D13@100	⊞-D13@100	⊞-D13@100	⊞-D13@100	⊞-D13@100
4階	断面							
	Dx×Dy	950×950	1,000×1,000	1,000×1,000	1,000×1,000	950×950	950×950	950×950
	主筋	26-D32	24-D32	24-D32	24-D32	26-D32	24-D32	26-D32
	ﾌｰﾌﾟ	⊞-T13@100	⊞-T13@100	⊞-T13@100	⊞-T13@100	⊞-T13@100	⊞-T13@100	⊞-T13@100
3階	断面							
	Dx×Dy	950×950	1,000×1,000	1,000×1,000	1,000×1,000	950×950	950×950	1,000×1,000
	主筋	28-D32	24-D32	24-D32	24-D32	28-D32	24-D32	28-D32
	ﾌｰﾌﾟ	⊞-T13@100	⊞-T13@100	⊞-T13@100	⊞-T13@100	⊞-T13@100	⊞-T13@100	⊞-T13@100
2階	断面							
	Dx×Dy	950×950	1,000×1,000	1,000×1,000	1,000×1,000	950×950	950×950	1,000×1,000
	主筋	28-D32	24-D32	24-D32	24-D32	28-D32	24-D32	28-D32
	ﾌｰﾌﾟ	⊞-T13@100	⊞-T13@100	⊞-T13@100	⊞-T13@100	⊞-T13@100	⊞-T13@100	⊞-T13@100
1階	断面							
	Dx×Dy	950×950	1,000×1,000	1,000×1,000	1,000×1,000	950×950	950×950	1,000×1,000
	主筋	28-D32	24-D32	24-D32	24-D32	28-D32	32-D35	28-D32
	ﾌｰﾌﾟ	⊞-T13@100	⊞-T13@100	⊞-T13@100	⊞-T13@100	⊞-T13@100	⊞-T13@100	⊞-T13@100

階	符号	C1	C3	C5	C6
PH2階	断面				
	Dx×Dy	950×950			950×950
	主筋	20-D29			20-D29
	ﾌｰﾌﾟ	□-D13@100			□-D13@100
PH1階	断面				
	Dx×Dy	950×950	1,000×1,000	950×950	950×950
	主筋	28-D29	24-D32	24-D29	22-D29
	ﾌｰﾌﾟ	⊞-D13@100	⊟-D13@100	⊞-D13@100	⊞-D13@100

柱主筋の二段配筋

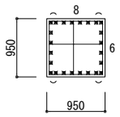
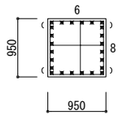
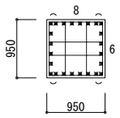
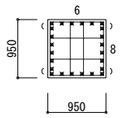
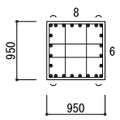
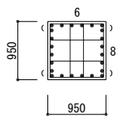
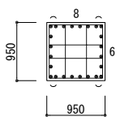
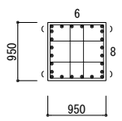
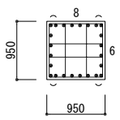
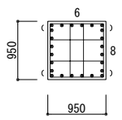
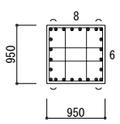
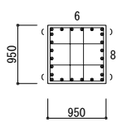


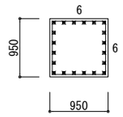
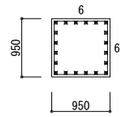
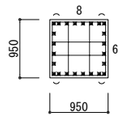
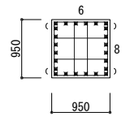
・二段配筋のあきは、鉄筋径の1.5倍とする。
・位置確保の鉄筋は、帯筋と同径、鉄筋材質はSD295Aとする。
・位置確保の鉄筋は、始点と終点は梁面とし、各階ごとに４箇所以上かつ@400 以内とする。

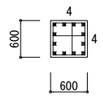
工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）			図面名称	柱リスト（１）		
				縮　尺	【A1】1/50　【A3】1/100	図面番号	S - 52
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9			設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
発注機関	沖縄県北部医療組合				代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号 福岡県知事登録 第 1-12326 号
工事年度	令和　7　年度				所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
摘　要					一級建築士	山田　剛	登録番号 登録第310062号
検　印	管理建築士	設　計	製　図		一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号 登録第335522号 第9280号
					一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号 登録第173320号 第1058号

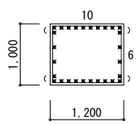
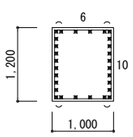
柱リスト　1/50

特記なき限り下記による
・ﾌｰﾌﾟのTは高強度せん断補強筋785N/mm²級を示す。

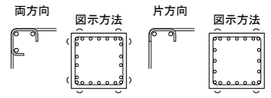
階	符号	C8	C9
6階	断面		
	Dx×Dy	950×950	950×950
	主筋	24-D29	24-D29
	ﾌｰﾌﾟ	⊞-D13@100	⊞-D13@100
5階	断面		
	Dx×Dy	950×950	950×950
	主筋	24-D29	24-D29
	ﾌｰﾌﾟ	⊞-D13@100	⊞-D13@100
4階	断面		
	Dx×Dy	950×950	950×950
	主筋	24-D32	24-D32
	ﾌｰﾌﾟ	⊞-T13@100	⊞-T13@100
3階	断面		
	Dx×Dy	950×950	950×950
	主筋	24-D32	24-D32
	ﾌｰﾌﾟ	⊞-T13@100	⊞-T13@100
2階	断面		
	Dx×Dy	950×950	950×950
	主筋	24-D32	24-D32
	ﾌｰﾌﾟ	⊞-T13@100	⊞-T13@100
1階	断面		
	Dx×Dy	950×950	950×950
	主筋	24-D32	24-D32
	ﾌｰﾌﾟ	⊞-T13@100	⊞-T13@100

階	符号	C8	C9
PH2階	断面		
	Dx×Dy	950×950	950×950
	主筋	20-D29	20-D29
	ﾌｰﾌﾟ	□-D13@100	□-D13@100
PH1階	断面		
	Dx×Dy	950×950	950×950
	主筋	24-D29	24-D29
	ﾌｰﾌﾟ	⊞-D13@100	⊞-D13@100

階	符号	C11
PH1階	断面	
	Dx×Dy	600×600
	主筋	12-D29
	ﾌｰﾌﾟ	⊞-D13@100

階	符号	C51	C52
1階	断面		
	Dx×Dy	1,200×1,000	1,000×1,200
	主筋	28-D35	28-D35
	ﾌｰﾌﾟ	□-D13@100	□-D13@100

柱主筋の二段配筋



・二段配筋のあきは、鉄筋径の1.5倍とする。
・位置確保の鉄筋は、帯筋と同径、鉄筋材質はSD295Aとする。
・位置確保の鉄筋は、始点と終点は梁面とし、各階ごとに４箇所以上かつ@400 以内とする。

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	柱リスト（２）		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	【A1】1/50　【A3】1/100	図面番号	S - 53
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号　福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘要			所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検印	管理建築士 / 設計 / 製図		一級建築士	山田　剛	登録番号　登録第310062号
			一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号　登録第335522号 第9280号
			一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号　登録第173320号 第1058号

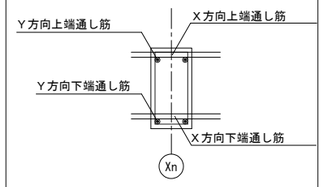
大梁リスト（1）　1/50

特記なき限り下記による
・巾止め筋はD10@1000とする。　・ﾌｰﾌﾟのTは高強度せん断補強筋785N/mm²級を示す。

階	符号	G1		G2		G3	G4	G5			G6			G7	
R階	位置	端部	中央					X5端	中央	X6端					
	断面	5 2 1 5	5 5					5 2 1 5	5 1 5	5 1 5					
	B×D	600×1,000						600×1,000							
	上端筋	7-D29	5-D29					7-D29	5-D29	5-D29					
	下端筋	6-D29	5-D29					6-D29	6-D29	6-D29					
	ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D13@150						□-D13@200							
	腹筋	4-D10						4-D10							
PH2階	位置	端部	中央	端部	中央	全断面		X5端	中央	X6端					
	断面	5 4 4 5	5 5	6 4 1 6	6 1 6	4 4		5 4 3 5	5 2 3 5	5 3 5					
	B×D	600×1,000		700×1,100		500×600		600×1,000							
	上端筋	9-D29	5-D29	10-D29	6-D29	4-D25		9-D29	7-D29	5-D29					
	下端筋	9-D29	5-D29	7-D29	7-D29	4-D25		8-D29	8-D29	8-D29					
	ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	◫-D13@100		□-D13@100		□-D13@200		□-D13@200							
	腹筋	4-D10		6-D10		2-D10		4-D10							
PH1階	位置	端部	中央	端部	中央	全断面		X5端	中央	X6端	X10端	中央	X11端	端部	中央
	断面	5 3 1 5	5 5	5 3 1 5	5 1 5	5 1 1 5		5 4 2 5	5 2 2 5	5 2 5	5 5	5 5	5 2 1 5	6 5 1 6	6 1 6
	B×D	600×1,000		600×1,100		600×900		600×1,000			600×1,000			700×1,100	
	上端筋	8-D29	5-D29	8-D29	5-D29	6-D29		9-D29	7-D29	5-D29	5-D29	5-D29	7-D29	11-D29	6-D29
	下端筋	6-D29	5-D29	6-D29	6-D29	6-D29		7-D29	7-D29	7-D29	5-D29	5-D29	6-D29	7-D29	7-D29
	ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D13@100		□-D13@100		□-D13@200		□-D13@200			□-D13@200			□-D13@100	
	腹筋	4-D10		6-D10		4-D10		4-D10			4-D10			6-D10	
6階	位置	端部	中央	端部	中央	全断面		X5端	中央	X6端	X10端	中央	X11端	端部	中央
	断面	5 3 1 5	5 5	5 3 1 5	5 1 5	5 1 1 5		5 4 2 5	5 2 2 5	5 2 5	5 5	5 5	5 2 1 5	6 4 1 6	6 1 6
	B×D	600×1,000		600×1,100		600×900		600×1,000			600×1,000			700×1,100	
	上端筋	8-D29	5-D29	8-D29	5-D29	6-D29		9-D29	7-D29	5-D29	5-D29	5-D29	7-D29	10-D29	6-D29
	下端筋	6-D29	5-D29	6-D29	6-D29	6-D29		7-D29	7-D29	7-D29	5-D29	5-D29	6-D29	7-D29	7-D29
	ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D13@100		□-D13@150		□-D13@100		□-D13@200			□-D13@200			□-D13@100	
	腹筋	4-D10		6-D10		4-D10		4-D10			4-D10			6-D10	
5階	位置	端部	中央	端部	中央	全断面		X5端	中央	X6端	X10端	中央	X11端	端部	中央
	断面	6 4 2 6	6 6	6 4 2 6	6 2 6	5 2 2 5		5 4 2 5	5 2 2 5	5 2 5	5 5	5 5	5 2 1 5	6 5 2 6	6 2 6
	B×D	700×1,000		700×1,100		600×900		600×1,000			600×1,000			700×1,100	
	上端筋	10-D29	6-D29	10-D29	6-D29	7-D29		9-D29	7-D29	5-D29	5-D29	5-D29	7-D29	11-D29	6-D29
	下端筋	8-D29	6-D29	8-D29	8-D29	7-D29		7-D29	7-D29	7-D29	5-D29	5-D29	6-D29	8-D29	8-D29
	ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	◫-D13@100		□-D13@100		◫-D13@100		□-D13@200			□-D13@200			□-D13@100	
	腹筋	4-D10		6-D10		4-D10		4-D10			4-D10			6-D10	

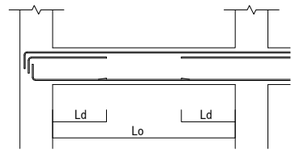
梁主筋配筋要領

ＸＹ方向の梁主筋位置が同レベルになる
場合は、下記の通りとする。



大梁カットオフ長さ

特記なき限りカットオフ長さ（Ld）は Lo/4+15dかつ
表中の数値以上とする。

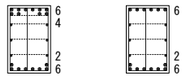
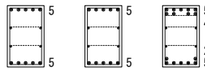
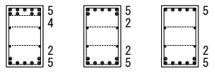
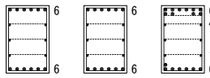
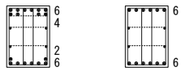
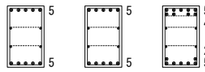
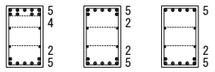
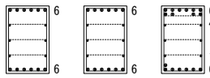
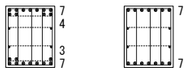
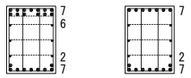
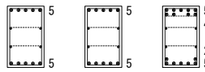
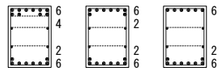
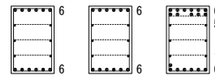
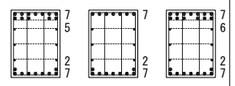
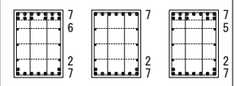
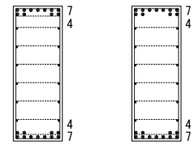


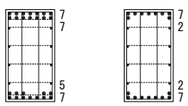
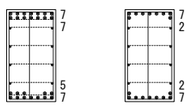
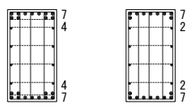
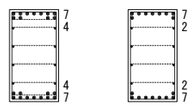
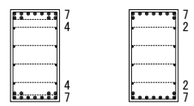
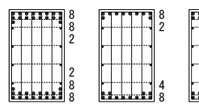
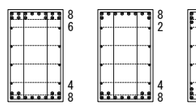
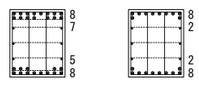
工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）				
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9				
発注機関	沖縄県北部医療組合				
工事年度	令和　7　年度				
摘　要					
検　印	管理建築士	設　計	製　図		

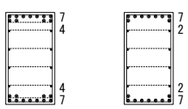
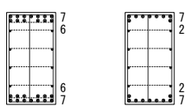
図面名称	大梁リスト（1）			
縮　尺	【A1】1/50　【A3】1/100	図面番号	S - 54	
設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体		
	代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録 第 1-12326 号
	所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16		
	一級建築士	山田　剛	登録番号	登録第310062号
	一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9280号
	一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号

大梁リスト（２）　1/50

特記なき限り下記による
・巾止め筋はD10@1000とする。　・ﾌｰﾌﾟのTは高強度せん断補強筋785N/mm²級を示す。

階	符号	G1		G2		G3	G4			G5			G6			G7		G8			G9			G10	
4階	位置	端部	中央	端部	中央	全断面	X5端	中央	X6端	X5端	中央	X6端	X10,11端	中央	X11,12端	端部	中央								
	断面																							
	B×D	700×1,000		700×1,100		600×900	600×1,000			600×1,000			700×1,100			700×1,100									
	上端筋	9-D32	6-D32	10-D32	6-D32	7-D32	5-D32	5-D32	9-D32	9-D32	7-D32	5-D32	6-D32	6-D32	10-D32	11-D32	6-D32								
	下端筋	8-D32	6-D32	8-D32	8-D32	7-D32	5-D32	5-D32	7-D32	7-D32	7-D32	7-D32	6-D32	6-D32	7-D32	8-D32	8-D32								
	ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	[1]-D13@100		[1]-D13@100		[1]-D13@100	□-D13@200			□-D13@200			□-D13@150			[1]-D13@100									
	腹筋	4-D10		6-D10		4-D10	4-D10			4-D10			6-D10			6-D10									
3階	位置	端部	中央	端部	中央	全断面	X5端	中央	X6端	X5端	中央	X6端	X10,11端	中央	X11,12端	端部	中央								
	断面																							
	B×D	700×1,000		700×1,100		600×900	600×1,000			600×1,000			700×1,100			700×1,100									
	上端筋	10-D32	6-D32	11-D32	6-D32	8-D32	5-D32	5-D32	9-D32	9-D32	7-D32	5-D32	6-D32	6-D32	10-D32	11-D32	6-D32								
	下端筋	8-D32	6-D32	8-D32	8-D32	8-D32	5-D32	5-D32	7-D32	7-D32	7-D32	7-D32	6-D32	6-D32	7-D32	8-D32	8-D32								
	ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	[3]-D13@100		[3]-D13@100		[3]-T13@100	□-D13@200			□-D13@150			□-D13@150			[1]-D13@100									
	腹筋	4-D10		6-D10		4-D10	4-D10			4-D10			6-D10			6-D10									
2階	位置	端部	中央	端部	中央	全断面	X5端	中央	X6端	X5端	中央	X6端	X10,11端	中央	X11,12端	端部	中央	X1,X7端	中央	X2,X8端	X7,X12端	中央	X8,X13端	端部	中央
	断面																									
	B×D	800×1,000		800×1,100		600×900	600×1,000			700×1,000			700×1,100			700×1,100		800×1,100			800×1,100			800×2,200	
	上端筋	11-D32	7-D32	13-D32	7-D32	9-D32	5-D32	5-D32	9-D32	10-D32	8-D32	6-D32	6-D32	6-D32	11-D32	11-D32	6-D32	12-D32	7-D32	13-D32	13-D32	7-D32	12-D32	11-D32	11-D32
	下端筋	10-D32	7-D32	9-D32	9-D32	9-D32	5-D32	5-D32	7-D32	8-D32	8-D32	8-D32	6-D32	6-D32	7-D32	8-D32	8-D32	9-D32	9-D32	9-D32	9-D32	9-D32	9-D32	11-D32	11-D32
	ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	[3]-D13@100		[3]-D13@100		[3]-T13@100	□-D13@150			□-D13@100			□-D13@100			[1]-D13@100		[3]-D13@100			[3]-D13@100			□-D13@150	
	腹筋	4-D10		6-D10		4-D10	4-D10			4-D10			6-D10			6-D10		6-D10			6-D10			12-D10	

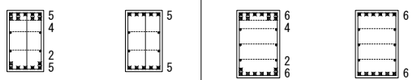
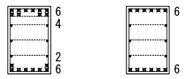
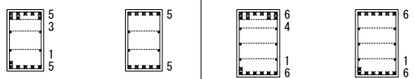
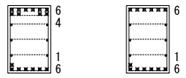
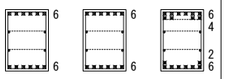
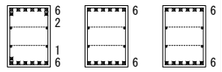
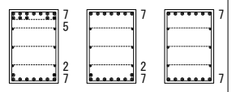
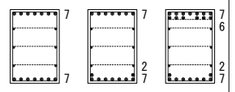
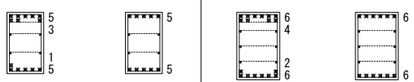
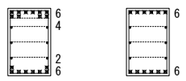
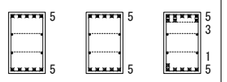
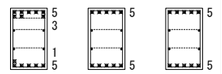
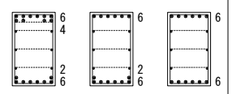
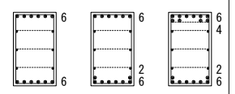
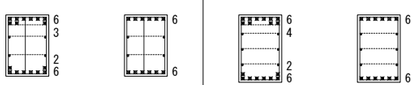
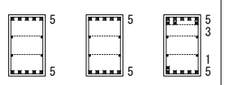
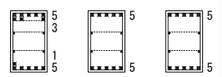
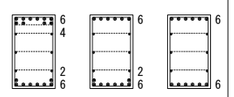
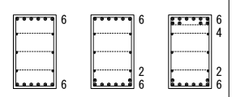
階	符号	G1		G2		G3		G4		G5		G1A			G2A			G2B	
1階	位置	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	X1,3,6,9端	中央	X2,4,7,10端	X4,7,10,12端	中央	X5,8,11,13端	端部	中央
	断面																		
	B×D	800×1,500		800×1,500		800×1,500		800×1,500		800×1,500		900×1,500			900×1,500			900×1,100	
	上端筋	14-D32	9-D32	14-D32	9-D32	11-D32	9-D32	11-D32	9-D32	11-D32	9-D32	18-D32	10-D32	14-D32	14-D32	10-D32	18-D32	15-D32	10-D32
	下端筋	12-D32	9-D32	12-D32	9-D32	11-D32	9-D32	11-D32	9-D32	11-D32	9-D32	18-D32	12-D32	12-D32	12-D32	12-D32	18-D32	13-D32	10-D32
	ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	[3]-D13@100		[1]-D13@100		[3]-D13@100		□-D13@150		□-D13@150		[3]-D13@100			[1]-D13@100			[1]-D13@100	
	腹筋	8-D10		8-D10		8-D10		8-D10		8-D10		8-D10			8-D10			6-D10	

階	符号	G31		G32	
2階	位置	端部	中央	端部	中央
	断面				
	B×D	800×1,500		800×1,500	
	上端筋	11-D32	9-D32	13-D32	9-D32
	下端筋	11-D32	9-D32	13-D32	9-D32
	ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D13@100		[1]-D13@100	
	腹筋	8-D10		8-D10	

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	大梁リスト（２）		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	【A1】1/50　【A3】1/100	図面番号	S - 55
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者 JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体		
工事年度	令和　7　年度	代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘要		所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16		
検印	管理建築士 / 設計 / 製図	一級建築士	山田　剛	登録番号	登録第310062号
		一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9280号
		一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号

大梁リスト（3）　1/50

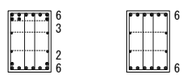
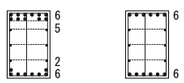
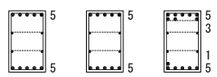
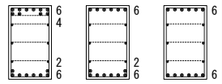
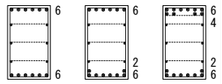
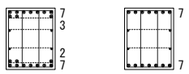
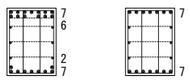
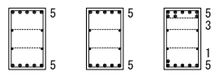
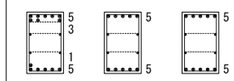
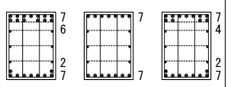
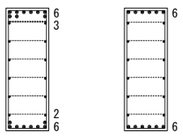
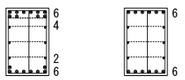
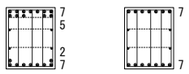
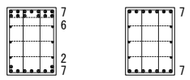
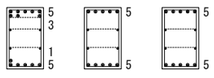
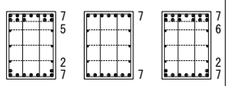
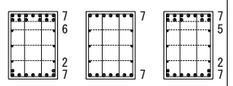
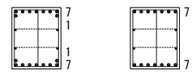
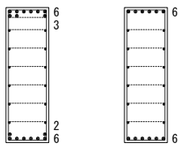
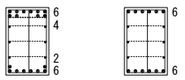
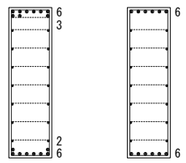
特記なき限り下記による
・巾止め筋はD10@1000とする。　・ﾌｰﾌﾟのTは高強度せん断補強筋785N/mm²級を示す。

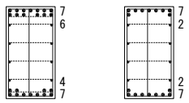
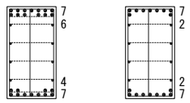
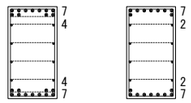
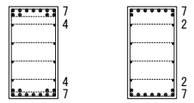
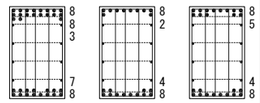
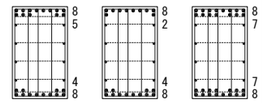
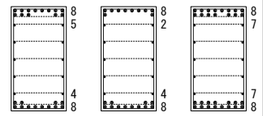
階	符号	G11		G12		G13			G14			G15	G16			G17			G18
R階	位置	端部	中央	端部	中央														
	断面																		
	B×D	600×1,000		600×1,000															
	上端筋	7-D29	5-D29	7-D29	5-D29														
	下端筋	6-D29	5-D29	6-D29	5-D29														
	ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D13@200		□-D13@200															
	腹筋	4-D10		4-D10															
PH2階	位置	端部	中央	端部	中央	全断面													
	断面																		
	B×D	600×1,000		700×1,100		500×600													
	上端筋	9-D29	5-D29	10-D29	6-D29	5-D25													
	下端筋	7-D29	5-D29	8-D29	6-D29	4-D25													
	ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	⊓-D13@100		□-D13@100		□-D13@200													
	腹筋	4-D10		6-D10		2-D10													
PH1階	位置	端部	中央	端部	中央	Y3端	中央	Y4端	Y3端	中央	Y4端		Y1端	中央	Y2端	Y2端	中央	Y3端	
	断面																		
	B×D	600×1,000		700×1,100		700×1,000			700×1,000				800×1,200			800×1,200			
	上端筋	8-D29	5-D29	10-D29	6-D29	6-D29	6-D29	10-D29	8-D29	6-D29	6-D29		12-D32	7-D32	7-D32	7-D32	7-D32	13-D32	
	下端筋	6-D29	5-D29	7-D29	7-D29	6-D29	6-D29	8-D29	7-D29	6-D29	6-D29		9-D32	9-D32	7-D32	7-D32	9-D32	9-D32	
	ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D13@100		□-D13@150		□-D13@150			□-D13@150				□-D13@150			□-D13@150			
	腹筋	4-D10		6-D10		4-D10			4-D10				6-D10			6-D10			
6階	位置	端部	中央	端部	中央	Y3端	中央	Y4端	Y3端	中央	Y4端		Y1端	中央	Y2端	Y2端	中央	Y3端	
	断面																		
	B×D	600×1,000		700×1,100		600×1,000			600×1,000				700×1,200			700×1,200			
	上端筋	8-D29	5-D29	10-D29	6-D29	5-D29	5-D29	8-D29	8-D29	5-D29	5-D29		10-D32	6-D32	6-D32	6-D32	6-D32	10-D32	
	下端筋	6-D29	5-D29	8-D29	6-D29	5-D29	5-D29	6-D29	6-D29	5-D29	5-D29		8-D32	8-D32	6-D32	6-D32	8-D32	8-D32	
	ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D13@100		□-D13@100		□-D13@200			□-D13@200				□-D13@150			□-D13@150			
	腹筋	4-D10		6-D10		4-D10			4-D10				6-D10			6-D10			
5階	位置	端部	中央	端部	中央	Y3端	中央	Y4端	Y3端	中央	Y4端	端部	中央	Y1端	中央	Y2端	Y2端	中央	Y3端
	断面																			
	B×D	700×1,000		700×1,100		600×1,000			600×1,000			700×650		700×1,200			700×1,200		
	上端筋	9-D29	6-D29	10-D29	6-D29	5-D29	5-D29	8-D29	8-D29	5-D29	5-D29	9-D29	6-D29	10-D32	6-D32	6-D32	6-D32	6-D32	10-D32
	下端筋	8-D29	6-D29	8-D29	6-D29	5-D29	5-D29	6-D29	6-D29	5-D29	5-D29	8-D29	6-D29	8-D32	8-D32	6-D32	6-D32	8-D32	8-D32
	ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	⊓-D13@100		□-D13@100		□-D13@200			□-D13@200			□-D13@150		□-D13@150			□-D13@150		
	腹筋	4-D10		6-D10		4-D10			4-D10			2-D10		6-D10			6-D10		

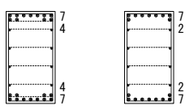
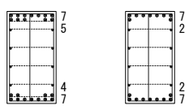
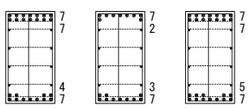
工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	大梁リスト（3）		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	【A1】1/50　【A3】1/100	図面番号	S - 56
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号 福岡県知事登録第 1-12326 号
摘要			所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検印	管理建築士　設計　製図		一級建築士	山田　剛	登録番号 登録第310062号
			一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号 登録第335522号 第9280号
			一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号 登録第173320号 第1058号

大梁リスト（4）　1/50

特記なき限り下記による
・巾止め筋はD10@1000とする。　・ﾌｰﾌﾟのTは高強度せん断補強筋785N/mm²級を示す。

階	符号	G11		G12		G13			G14			G15			G16			G17			G18		G12A		G18A	
4階	位置	端部	中央	端部	中央	Y3端	中央	Y4端							Y1端	中央	Y2端	Y2端	中央	Y3端						
	断面																									
	B×D	700×1,000		700×1,100		600×1,000									700×1,200			700×1,200								
	上端筋	9-D32	6-D32	11-D32	6-D32	5-D32	5-D32	8-D32							10-D32	6-D32	6-D32	6-D32	6-D32	10-D32						
	下端筋	8-D32	6-D32	8-D32	6-D32	5-D32	5-D32	6-D32							8-D32	8-D32	6-D32	6-D32	8-D32	8-D32						
	ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	[III]-D13@100		[II]-D13@100		□-D13@200									□-D13@150			□-D13@150								
	腹筋	4-D10		6-D10		4-D10									6-D10			6-D10								
3階	位置	端部	中央	端部	中央	Y3端	中央	Y4端	Y3端	中央	Y4端	Y11端	中央	Y12端							端部	中央	端部	中央		
	断面																									
	B×D	800×1,000		800×1,100		600×1,000			600×1,000			800×1,100									700×2,000		700×1,100			
	上端筋	10-D32	7-D32	13-D32	7-D32	5-D32	5-D32	8-D32	8-D32	5-D32	5-D32	13-D32	7-D32	11-D32							9-D32	6-D32	10-D32	6-D32		
	下端筋	9-D32	7-D32	9-D32	7-D32	5-D32	5-D32	6-D32	6-D32	5-D32	5-D32	9-D32	7-D32	9-D32							8-D32	6-D32	8-D32	6-D32		
	ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	[III]-D13@100		[III]-D13@100		□-D13@200			□-D13@200			[III]-D13@100									□-D13@150		[II]-D13@100			
	腹筋	4-D10		6-D10		4-D10			4-D10			6-D10									12-D10		6-D10			
2階	位置	端部	中央	端部	中央				Y3端	中央	Y4端	Y1,Y4端	中央	Y2,Y5a端	Y2,Y4端	中央	Y3,Y5端	端部	中央		端部	中央	端部	中央	端部	中央
	断面																									
	B×D	800×1,000		800×1,100					600×1,000			800×1,100			800×1,100			800×1,000			700×2,200		700×1,100		700×2,450	
	上端筋	12-D32	7-D32	13-D32	7-D32				8-D32	5-D32	5-D32	12-D32	7-D32	13-D32	13-D32	7-D32	12-D32	8-D32	7-D32		9-D32	6-D32	10-D32	6-D32	9-D32	6-D32
	下端筋	9-D32	7-D32	9-D32	7-D32				6-D32	5-D32	5-D32	9-D32	7-D32	9-D32	9-D32	7-D32	9-D32	8-D32	7-D32		8-D32	6-D32	8-D32	6-D32	8-D32	6-D32
	ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	[III]-D13@100		[III]-D13@100					□-D13@200			[III]-D13@100			[III]-D13@100			[II]-D13@100			□-D13@150		[II]-D13@100		□-D13@150	
	腹筋	4-D10		6-D10					4-D10			6-D10			6-D10			4-D10			12-D10		6-D10		14-D10	

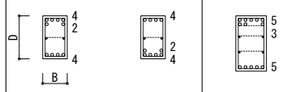
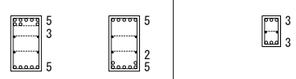
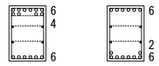
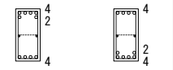
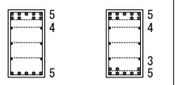
階	符号	G11		G12		G13		G14		G11A			G12A			G13A		
1階	位置	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	Y1端	中央	Y2端	Y5,6,7端	中央	Y6,7,8端	Y4端	中央	Y6端
	断面																	
	B×D	800×1,500		800×1,500		800×1,500		800×1,500		900×1,500			900×1,500			900×1,700		
	上端筋	13-D32	9-D32	13-D32	9-D32	11-D32	9-D32	11-D32	9-D32	19-D32	10-D32	13-D32	13-D32	10-D32	15-D32	13-D32	10-D32	15-D32
	下端筋	11-D32	9-D32	11-D32	9-D32	11-D32	9-D32	11-D32	9-D32	15-D32	12-D32	12-D32	12-D32	12-D32	15-D32	12-D32	12-D32	15-D32
	ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	[II]-D13@100		[II]-D13@100		□-D13@150		□-D13@150		[III]-D13@100			[III]-D13@100			□-D13@100		
	腹筋	8-D10		8-D10		8-D10		8-D10		8-D10			8-D10			10-D10		

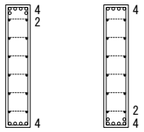
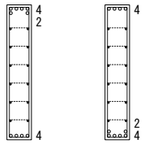
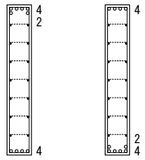
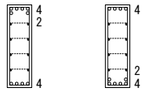
階	符号	G41		G42		G43		
2階	位置	端部	中央	端部	中央	Y11端	中央	Y12端
	断面							
	B×D	800×1,500		800×1,500		800×1,500		
	上端筋	11-D32	9-D32	12-D32	9-D32	14-D32	9-D32	14-D32
	下端筋	11-D32	9-D32	11-D32	9-D32	11-D32	10-D32	12-D32
	ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D13@100		[II]-D13@100		[II]-D13@100		
	腹筋	8-D10		8-D10		8-D10		

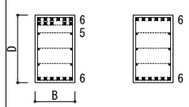
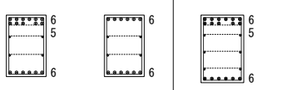
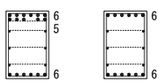
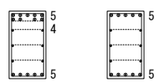
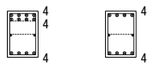
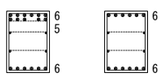
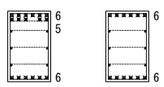
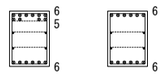
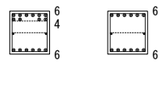
工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）			図面名称	大梁リスト（4）
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9			縮尺	【A1】1/50　【A3】1/100　　図面番号　S - 57
発注機関	沖縄県北部医療組合			設計者	JV名称：内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体
工事年度	令和　7　年度				代表企業：株式会社内藤建築事務所　登録番号：福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘要					所在地：福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16
検印	管理建築士	設計	製図		一級建築士：山田　剛　登録番号：登録第310062号
					一級建築士（構造設計一級建築士）：末吉　謙太郎　登録番号：登録第335522号 第9280号
					一級建築士（設備設計一級建築士）：丸山　茂義　登録番号：登録第173320号 第1058号

小梁リスト　1/50

特記なき限り下記による
・巾止め筋はD10@1000とする。

符号	B1		B2		B3	B4		B5	B6		B7	B8	B9		B10
位置	端部	中央	端部	中央	全断面	端部	中央	全断面	端部	中央	全断面	全断面	端部	中央	全断面
断面															
B×D	400×700		500×900		300×500	600×900		650×1,000	400×850		400×950	500×800	600×1,100		400×450
上端筋	6-D22	4-D22	8-D22	5-D22	3-D22	10-D22	6-D22	11-D25	6-D22	4-D22	6-D22	7-D22	9-D25	9-D25	4-D22
下端筋	4-D22	6-D22	5-D22	7-D22	3-D22	6-D22	8-D22	6-D25	4-D22	6-D22	6-D22	7-D22	5-D25	8-D25	4-D22
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D13@200		□-D13@200		□-D10@200	□-D13@200		□-D13@150	□-D13@200		□-D13@200	□-D13@200	□-D13@150		□-D13@200
腹筋	2-D10		4-D10		2-D10	4-D10		4-D10	2-D10		4-D10	2-D10	6-D10		2-D10

符号	B11		B12		B13		B14		B15
位置	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	全断面
断面									
B×D	400×2,000		400×2,200		400×2,450		400×1,350		650×1,000
上端筋	6-D22	4-D22	6-D22	4-D22	6-D22	4-D22	6-D22	4-D22	11-D29
下端筋	4-D22	6-D22	4-D22	6-D22	4-D22	6-D22	4-D22	6-D22	6-D29
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D13@200		□-D13@200		□-D13@200		□-D13@200		□-D13@150
腹筋	12-D10		12-D10		14-D10		8-D10		4-D10

符号	CG1,CB1		CG2,CB2		CG3		CB3		CG5		CB5		CG6		CG7		CB7		CG8	
位置	基端	先端	基端	先端	基端	先端	基端	先端	基端	先端	基端	先端	基端	先端	基端	先端	基端	先端	基端	先端
断面																				
B×D	650×1,100		650×1,000		700×1,100		600×1,100		500×750		500×750		700×1,000		700×1,150		650×900		650×700	
上端筋	11-D29	6-D29	11-D25	6-D25	11-D32	6-D32	9-D25	5-D25	8-D25	4-D25	8-D22	5-D22	11-D32	6-D32	11-D29	6-D29	11-D25	6-D25	10-D25	6-D25
下端筋	6-D29	6-D29	6-D25	6-D25	6-D32	6-D32	5-D25	5-D25	4-D25	4-D25	5-D22	5-D22	6-D32	6-D32	6-D29	6-D29	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D13@150		□-D13@150		□-D13@150		□-D13@150		□-D13@200		□-D13@200		□-D13@150		□-D13@150		□-D13@150		□-D13@150	
腹筋	6-D10		4-D10		6-D10		6-D10		2-D10		2-D10		4-D10		6-D10		4-D10		2-D10	

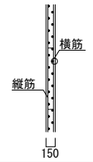
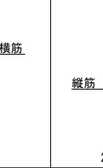
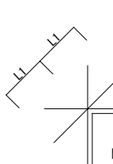
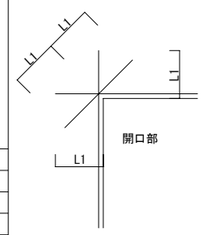
床版リスト

名称	厚さ	位置	短辺（主筋方向）		長辺(配力筋方向)		備考
			端部	中央部	端部	中央部	
S1	150	上端筋	D10D13@200	同左	D10@200	同左	鉄筋トラス付捨て型枠床版の場合[DS1]
		下端筋	D10@200	同左	D10@200	同左	
S1A	150	上端筋	D10D13@200	同左	D10@200	同左	鉄筋トラス付捨て型枠床版の場合[DS1A]
		下端筋	D10@200	同左	D10@200	同左	
S2	150	上端筋	D13@200	同左	D10D13@200	同左	鉄筋トラス付捨て型枠床版の場合[DS2]
		下端筋	D10D13@200	同左	D10@200	同左	
S2A	150	上端筋	D13@200	同左	D10D13@200	同左	鉄筋トラス付捨て型枠床版の場合[DS2A]
		下端筋	D10D13@200	同左	D10@200	同左	
S3	150	上端筋	D13@150	同左	D10D13@200	同左	鉄筋トラス付捨て型枠床版の場合[DS3]
		下端筋	D10D13@150	同左	D10@200	同左	
S4	200	上端筋	D13@150	同左	D10D13@200	同左	鉄筋トラス付捨て型枠床版の場合[DS4]
		下端筋	D13@150	同左	D10@200	同左	
CS1	200	上端筋	D13D16@100	同左	D10@200	同左	
		下端筋	D13@100	同左	D10@200	同左	
CS2	250～200	上端筋	D16@100	同左	D10@200	同左	
		下端筋	D13@100	同左	D10@200	同左	
CS3	200	上端筋	D13@100	同左	D13@100	同左	
		下端筋	D10@100	同左	D10@100	同左	
FS1	250	上端筋	D13@200	同左	D13@200	同左	
		下端筋	D13@200	同左	D13@200	同左	
FS2	250	上端筋	D13@150	同左	D13@150	同左	
		下端筋	D13@150	同左	D13@150	同左	

名称	厚さ	位置	短辺（主筋方向）		長辺(配力筋方向)		備考
			端部	中央部	端部	中央部	
FS30	300	上端筋	D13@150	同左	D13@150	同左	
		下端筋	D13@150	同左	D13@150	同左	
FS35	350	上端筋	D16@200	同左	D16@200	同左	
		下端筋	D16@200	同左	D16@200	同左	
FS50	500	上端筋	D19@200	同左	D19@200	同左	
		下端筋	D19@200	同左	D19@200	同左	
FS55	550	上端筋	D16@200	同左	D16@200	同左	
		下端筋	D16@200	同左	D16@200	同左	
FS55A	550	上端筋	D19@200	同左	D19@200	同左	
		下端筋	D19@200	同左	D19@200	同左	
FS60	600	上端筋	D19@200	同左	D19@200	同左	
		下端筋	D19@200	同左	D19@200	同左	
FS70	700	上端筋	D19@150	同左	D19@150	同左	
		下端筋	D19@150	同左	D19@150	同左	
FS90	900	上端筋	D22@100	同左	D16@150	同左	
		下端筋	D22@100	同左	D16@150	同左	
FS120	1,200	上端筋	D25@200	同左	D19@200	同左	
		下端筋	D25@200	同左	D19@200	同左	
FS150	1,500	上端筋	D25@100	同左	D19@200	同左	
		下端筋	D25@100	同左	D19@200	同左	
CFS55	550	上端筋	D16@100	同左	D16@150	同左	
		下端筋	D16@100	同左	D16@150	同左	
CFS55A	550	上端筋	D19@100	同左	D16@150	同左	
		下端筋	D19@100	同左	D16@150	同左	
CFS90	900	上端筋	D22@100	同左	D16@150	同左	
		下端筋	D22@100	同左	D16@150	同左	
CFS120	1,200	上端筋	D25@100	同左	D19@150	同左	
		下端筋	D25@100	同左	D19@150	同左	
CFS150	1,500	上端筋	D25@100	同左	D19@150	同左	主筋は2段筋とする
		下端筋	D25@100	同左	D19@150	同左	

壁リスト　1/50

巾止め筋　D10@1000

符号		W15	W18	W20	開口補強筋要領
断面					
厚さ		150	180	200	
縦筋		D10@200 ﾁﾄﾞﾘﾀﾞﾌﾞﾙ	D10@200 ﾀﾞﾌﾞﾙ	D10@200 ﾀﾞﾌﾞﾙ	
横筋		D10@200 ﾁﾄﾞﾘﾀﾞﾌﾞﾙ	D10@200 ﾀﾞﾌﾞﾙ	D10@200 ﾀﾞﾌﾞﾙ	
開口補強筋	縦筋	2-D13	2-D13	2-D13	
	横筋	2-D13	2-D13	2-D13	
	斜筋	1-D13	1-D13	1-D13	

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	小梁・床版・壁リスト		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	【A1】1/50　【A3】1/100	図面番号	S － 58
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者 JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体		
工事年度	令和　7　年度	代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録第 1-12326 号
摘要		所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16		
検印	管理建築士　設計　製図	一級建築士	山田　剛	登録番号	登録第310062号
		一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9280号
		一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号

鉄骨柱リスト

特記なき限り下記による
1）使用鉄骨 BCR295

符 号		SC1
6階	鉄骨	□-350x350x16
	備考	
5階	鉄骨	□-350x350x16
	備考	
4階	鉄骨	□-350x350x16
	備考	

鉄骨大梁リスト

特記なき限り下記による
1）使用鉄骨 SN490B　2）ﾄﾙｼｱ形高力ボルト　F8T

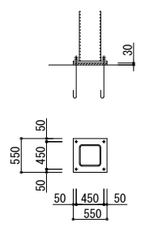
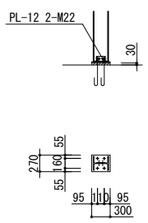
符 号		SG1
PH1階	鉄骨	H-440x300x11x18
	備考	ピン接合 PL-12　HTB 4-M22
6階	鉄骨	H-440x300x11x18
	備考	ピン接合 PL-12　HTB 4-M22
5階	鉄骨	H-440x300x11x18
	備考	ピン接合 PL-12　HTB 4-M22
4階	鉄骨	H-440x300x11x18
	備考	ピン接合 PL-12　HTB 4-M22

鉄骨二次部材リスト

特記なき限り下記による
1）使用鉄骨 SS400　2）ﾄﾙｼｱ形高力ボルト　S10T・F10T

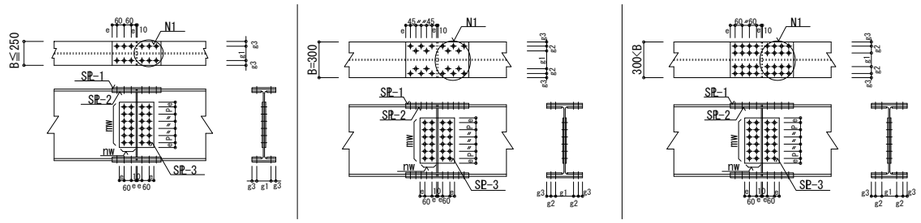
符 号	部材	備考
SB20	H-200x100x5.5x8	PL-6　HTB 2-M16
SB30	H-300x150x6.5x9	PL-9　HTB 3-M20
SP1	H-250x250x9x14	PL-12　HTB 2-M22

柱脚リスト

柱符号	SC1	SP1
	□-350x350x16 (BCR295)	H-250x250x9x14 (SS400)
断面	 A.BOLT 4-M24(ABR490) L=600 ﾌｯｸ付き　ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締め BPL-32×550×550 (SN490C)	 A.BOLT 4-M20(SS400) L=400 ﾌｯｸ付き　ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締め BPL-19×300×270 (SS400)
コンクリート柱断面	700x700	
立上り筋	16-D19(SD345)	
フープ筋	D13@100(SD295)	

梁継手リスト

特記なき限り
1．鉄骨構造標準接合部（ＳＣＳＳ－Ｈ９７）による。
2．部材とＳＰＬの材質は同じとする。



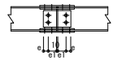
	部材 梁	フランジ				ウェブ			
		H. T. B.		SPL. RL		H. T. B.		SPL. RL	
		径	N1	SR-1	SR-2	径	mw×nw	SR-3	P
SN490B	H-440x300x11x18	M22	6x2	RL - 12x300x620	2RL - 12x110x620	M22	3x3	2RL - 9x320x410	120

共通事項
1．部材接合面に１mmを超えるはだすきが生じる場合には、接合面にフィラープレートを挿入すること。
2．高力ボルトの孔径は公称軸径ｄ１＋２mmとする。
3．

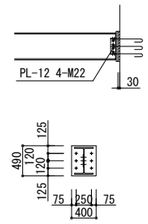
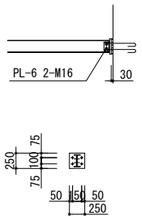
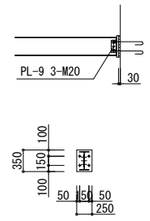
ボルト					
呼び	穴径	B	g1	g2	g3
M16	18	100	56	—	22
		125	75	—	25
		150	90	—	30
M20	22	150	90	—	30
		175	105	—	35
		200	120	—	40
M22	24	200	120	—	40
		250	150	—	50
		300	150	40	35
		350	140	70	35
		400	140	90	40

・フランジ・ウエブは、同径のボルトとする。

4．端あきｅ＝４０とする。但し※印
部材のウェブはｅ1＝７０とする。



梁接合部リスト

SG1	SB20	SB30
H-440x300x11x18 (SN490B)	H-200x100x5.5x8 (SS400)	H-300x150x6.5x9 (SS400)
 A.BOLT 6-M20(SS400) L=400 ﾌｯｸ付き　ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締め BPL-19×400×490 (SN490C)	 A.BOLT 4-M20(SS400) L=400 ﾌｯｸ付き　ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締め BPL-19×250×250 (SS400)	 A.BOLT 4-M20(SS400) L=400 ﾌｯｸ付き　ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締め BPL-19×250×350 (SS400)

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	鉄骨部材リスト		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮　尺	【A1】1/50　【A3】1/100	図面番号	S - 59
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号 福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘　要			所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検　印	管理建築士 / 設　計 / 製　図		一級建築士	山田　剛	登録番号 登録第310062号
			一級建築士 環境設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号 登録第335522号 第9280号
			一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号 登録第173320号 第1058号

プレストレストコンクリート工事特記仕様書

1　総則

1—1　適用の範囲

本工事は、設計図書並びに下記特記仕様書のほかに、

- 日本建築センター　『2009年版プレストレストコンクリート造技術基準解説及び設計・計算例』
- 日本建築センター　『プレストレストコンクリート造設計施工指針1983年版』
- 日本建築学会　『プレストレストコンクリート設計施工規準・同解説』
- 日本建築学会　『プレストレスト鉄筋コンクリート（Ⅲ種ＰＣ）構造設計・施工指針・同解説』
- 日本建築学会　『建築工事標準仕様書・同解説鉄筋コンクリート工事（ＪＡＳＳ５）』

の規定による。また、これらに示されていない事項については、監理者の指示による。

1—2　構造方式

本構造の方式は、鉄筋コンクリート造（ＲＣ造）とプレストレストコンクリート造（ＰＣ造）とを組み合わせた「現場打ち一体式プレストレスト鉄筋コンクリート造」である。

1—3　プレストレス導入方式及び定着工法

プレストレス導入は、ポストテンション方式とする。PC鋼線の定着工法は日本建築センター「プレストレストコンクリート設計施工指針」の規定に従い評定を受けたKTB工法、VSL工法、または評定を受けた同等以上の工法とする。

1—4　ＰＣ工事施工業者

ＰＣ工事の施工については、KTB協会または、PC圧着建築協会の会員であるPC専業者責任施工とする。

1—5　施工計画

施工の順序・方法・工程などの施工計画は工事着手前によく検討し、その計画書を監理者に提出して承認を受ける。

2　材料

a．鉄　筋

鉄筋は、ＪＩＳＧ３１１２の規格品とする。

b．ＰＣ鋼材

ＪＩＳＧ３５３６ＰＣ鋼より線（ＳＷＰＲ７Ｂ）の規格品とする。

（SWPR7B 7本より12．7φストランド）

タイプ	より線本数 n（本）	公称断面積 A(mm2)	単位質量 w(Kg/m)	引張荷重 Pu（kN）	降伏荷重 Py（kN）	備考
1	1	98．71	0．774	183	156	
3	3	296．13	2．322	549	468	
7	5	493．55	3．870	915	780	
	6	592．26	4．644	1098	936	
	● 7	690．97	5．418	1281	1092	
8	8	789．68	6．192	1464	1248	
12	9	888．39	6．966	1647	1404	
	10	987．10	7．740	1830	1560	
	11	1085．81	8．514	2013	1716	
	12	1184．52	9．288	2196	1872	

●印は、使用鋼材を示す。

注：PC鋼より線は“プレストレストコンクリートに使用する防食ストランド” として建設技術審査証明等の認定を取得した防食に優れたエポキシ樹脂全素線塗装鋼線または同等以上品とする。

c．セメント

ＪＩＳＲ５２１０ポルトランドセメントとする。

d．混和材料

コンクリート中に表面活性剤などの混和材料を用いる場合、その品質・使用量については、監理者の指示を受ける。

3　型枠

3—1　組立取り外し

a．型枠は、プレストレス導入時のコンクリートのひずみを、拘束しないような構造とし、かつプレストレス導入に伴う反力分布の変化を、考慮して十分な耐力となるよう留意する。

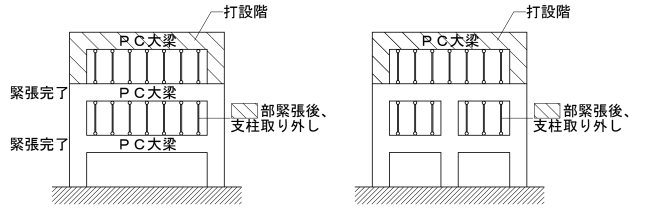
b．コンクリート打ち込みの際セメントペーストが漏れることのないようにする。

c．ＰＣ造部分の型枠組み立て順序についてはＰＣ鋼材の配置に影響され決定することが多いため十分注意する。（梁型枠の片側面または両側面の開放等）

d．ＰＣ大梁のスリーブ貫通は、監理者の指示による。

e．プレストレスを与える梁底の型枠の支柱はプレストレスの導入が完了するまで取り外し及び盛り換えを行なわない。

f．コンクリート打設階の荷重は、その階のプレストレス導入まで直下階２層で受ける。



4　配筋及び配線

4—1　鉄筋

a．鉄筋は正確な配置をし、コンクリート打ちの際にくずれないように強固に組み立てを行う。

b．スターラップは上部開放型を標準とする。

4－2　ＰＣ鋼材

a．緊張の定着具はコンクリート打ち込み前に型枠の内側に正確強固に取り付けることを原則とする。

b．グラウト用孔及び排気管にペーストがつまらないよう十分に養生をしておく。

c．ＰＣ鋼材を露天に放置して錆を出さないようにする。

d．ＰＣ鋼材の加工組み立てを行なう場合、加熱又は溶接を行なわない。

e．ＰＣ鋼材定着部の露出部はプレストレス導入後、速やかに無収縮モルタル等で保護をする。

f．ＰＣ鋼材の配置後、コンクリート打ちに先だち監理者の検査を受ける。

5　コンクリート

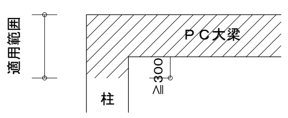
5—1　コンクリートの設計基準強度は、下表による。

設計基準圧縮強度		30　N/mm2	● 33　N/mm2	● 36　N/mm2	39　N/mm2
プレストレス導入時圧縮強度		27　N/mm2	27　N/mm2	30　N/mm2	36　N/mm2
許容圧縮応力度	導入時	13．5　N/mm2	14．85　N/mm2	16．2　N/mm2	17．6　N/mm2
	設計時	10．0　N/mm2	11．0　N/mm2	12．0　N/mm2	13．0　N/mm2
引張強度		2．37　N/mm2	2．46　N/mm2	2．55　N/mm2	2．64　N/mm2
許容引張応力度	導入時	1．80　N/mm2	1．80　N/mm2	1．80　N/mm2	1．80　N/mm2
	設計時	0．79　N/mm2	0．82　N/mm2	0．85　N/mm2	0．88　N/mm2
備考（使用箇所等）			5階以上	2、3、4階	

スランプ：１８cm以下とする。（流動化コンクリート含む。）
（流動化剤使用時のベースコンクリートは、１２cm以下とする。）

5—2　適用範囲

ＰＣ大梁及びそれに接続する梁、スラブ、柱とする。
但し原則として柱部分は、ＰＣ大梁下端より３００mm以上下がった所までとする。



5—3　テストピース

コンクリート強度試験用供試体の採取、及び養生は次による。

	７日	プレストレス導入直前	２８日	予備	合計
現場養生	３本	３本	３本	３本	１２本
標準養生	ー	ー	３本	―	３本

5—4　コンクリート打設

a．ＰＣ鋼材・鉄筋・型枠及び定着具が移動や損傷しないようにする。

b．ＰＣ鋼材のケーブルシース内にセメントペーストが入らないようにする。

c．バイブレーターは定着具及びケーブルシースに直接触れないようにする。

d．定着具近傍は、プレストレス導入により局部応力が発生するのでコンクリートを特に入念に締め固める。

e．コンクリート打ち込みは、打設箇所に出来る限り近づけて垂直に打ち込み「片押し打ち」は避ける。

f．原則としてＰＣ部におけるコンクリートの打ち継ぎは行なわない。

6　緊張

6—1　準　備

緊張装置は前もってキャリブレーションを行なっておき、コンクリートが所定の強度に達したことを確認の上で監理者の指示によりプレストレス導入作業を行う。

6－2　順　序

プレストレス導入順序は、局部的に完了してしまうことなく、構造全体にわたって進める。

6－3　緊張力

現場におけるＰＣ鋼材の導入時緊張力は、所定（断面リストに記載）の緊張力を導入すること。

6－4　導入力の管理

a．ＰＣ鋼材は、特記及び設計図書による緊張力が導入されるように緊張する。

b．緊張管理・引き止め線の決定方法は、日本建築学会『プレストレストコンクリート設計施工規準・同解説』の３１条に規定される方法によるものとする。
但し、ＰＣ鋼材長が１０ｍ以下の場合は、緊張力管理としてもよい。

c．ｂにより作成した緊張管理表及びグラフは、監督員に提出する。
また、緊張力管理とした場合は、圧力計の写真等を監理者に提出する。

7　グラウト

7—1　品質及び施工

a．グラウトの調合・施工方法及びチェックリストは、施工計画書の中に明記し、監理者の承諾を受ける。

b．グラウトの調合は、所定の流動性、圧縮強度が得られるように定める。
水セメント比は、４５%以下とする。

c．グラウトの２８日圧縮強度は、３０Ｎ／ｍｍ２以上とする。

d．グラウトミキサーは、グラウトを練混ぜ規定時間内に十分練り混ぜる事ができうる性能を持つこと。

e．グラウトポンプは、グラウトを徐々に、また空気が混入しないように圧送注入できるものとする。

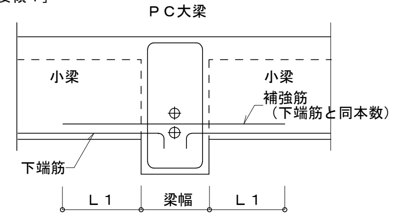
f．グラウトの注入は、ＰＣ鋼材の緊張作業終了後、なるべく早期に行い、ＰＣ鋼材を包み、かつ排出口から一様なコンシステンシーのグラウトが十分流出するまで行うこと。

8　配筋

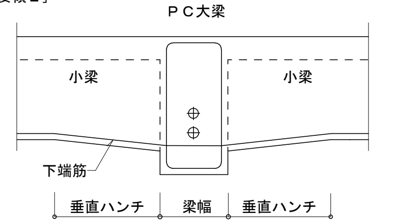
8—1　小梁の下端筋が、ＰＣケーブルにあたる場合

下図のいずれかの要領で対処する。

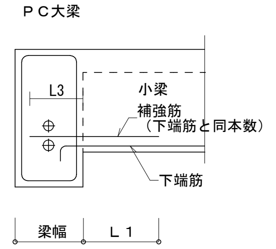
［要領１］



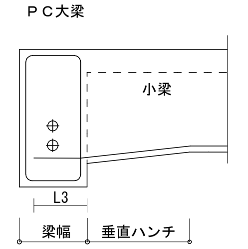
［要領２］



［要領３］



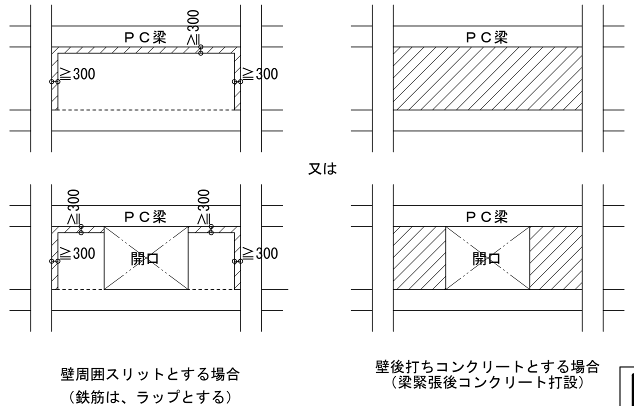
［要領４］



9　後打設壁の取り扱い例

9—1　ＰＣ梁を含む場合あるいはＰＣ梁に平行な耐震壁・雑壁がある場合

監理者と協議の上、所定の軸圧縮力が導入されるよう以下のような配慮を原則とする。



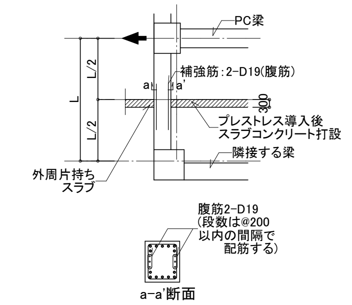
共通事項

1.KEYPLANはPC梁の位置とプレストレス導入に関する補強、必要な施工順序について示したものである。

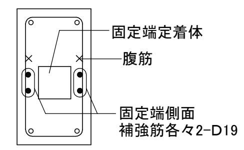
2. ↓ は緊張方向を示す。

3.壁は階下の壁を示し、[破線枠] で囲われた壁はプレストレス導入後のコンクリート打設とする。
このほかにプレストレス導入の妨げとなる壁がある場合は後施工とする。

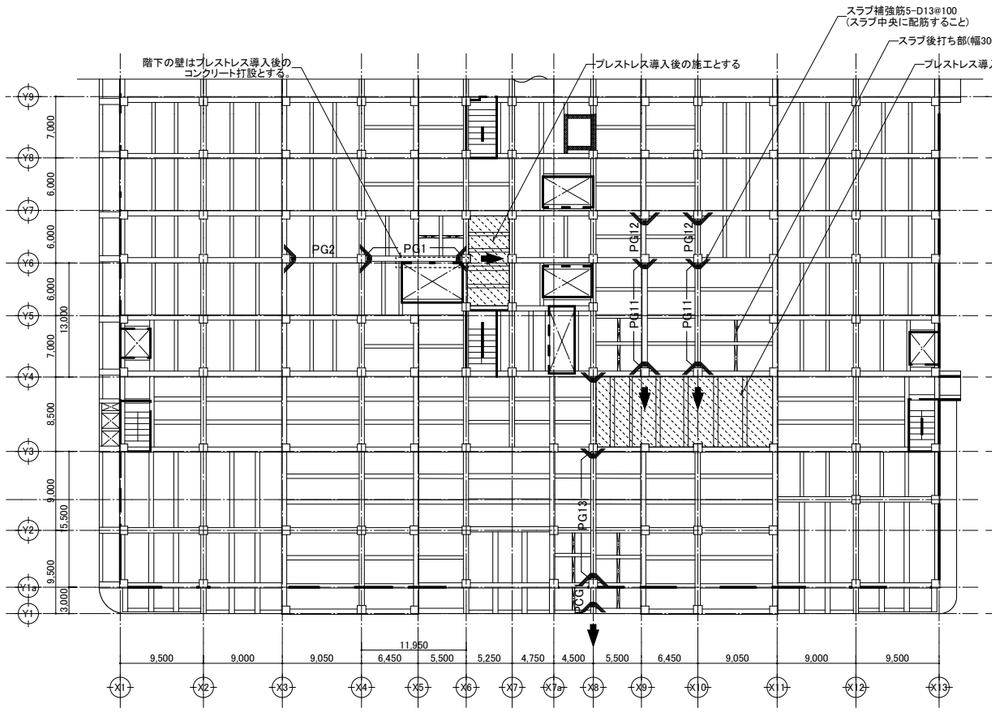
4. ＝ はスラブ後打ち部(幅300)とし、以下の要領で設ける。なお、中間の大梁、小梁は以下の要領に倣い補強すること。後打ち部はラス網等で形成し、緊張完了後スラブコンクリートを打設する。



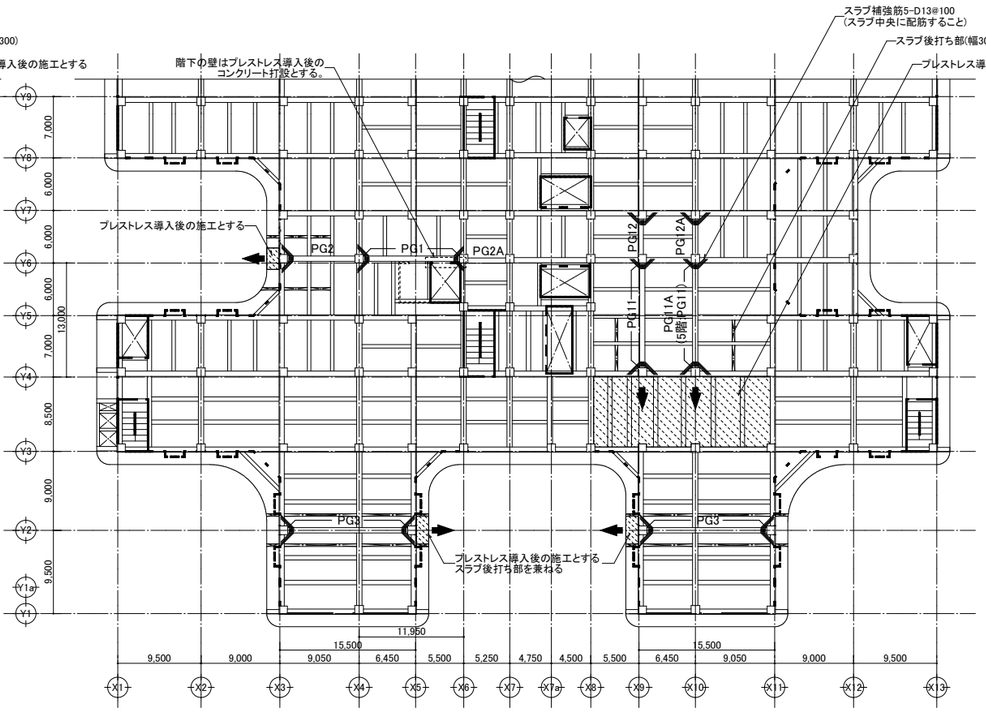
5.固定端定着が梁内にある場合は、下図に倣い、端梁側面を補強する。
補強固定端定着前後40dとし、固定端定着体は梁幅　中央部近傍に寄せて配置。
固定端のプレート補強筋は配線図に倣い別に配筋する。



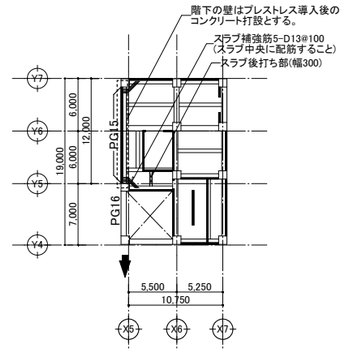
工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）			図面名称	プレストレストコンクリート工事特記仕様書	
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9			縮　尺	【A1】　【A3】	図面番号 S － 73
発注機関	沖縄県北部医療組合			設計者 JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度			代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号 福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘　要				所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検　印	管理建築士	設　計	製　図	一級建築士	山田　剛	登録番号 登録第310062号
				一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号 登録第335522号 第9280号
				一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号 登録第173320号 第1058号



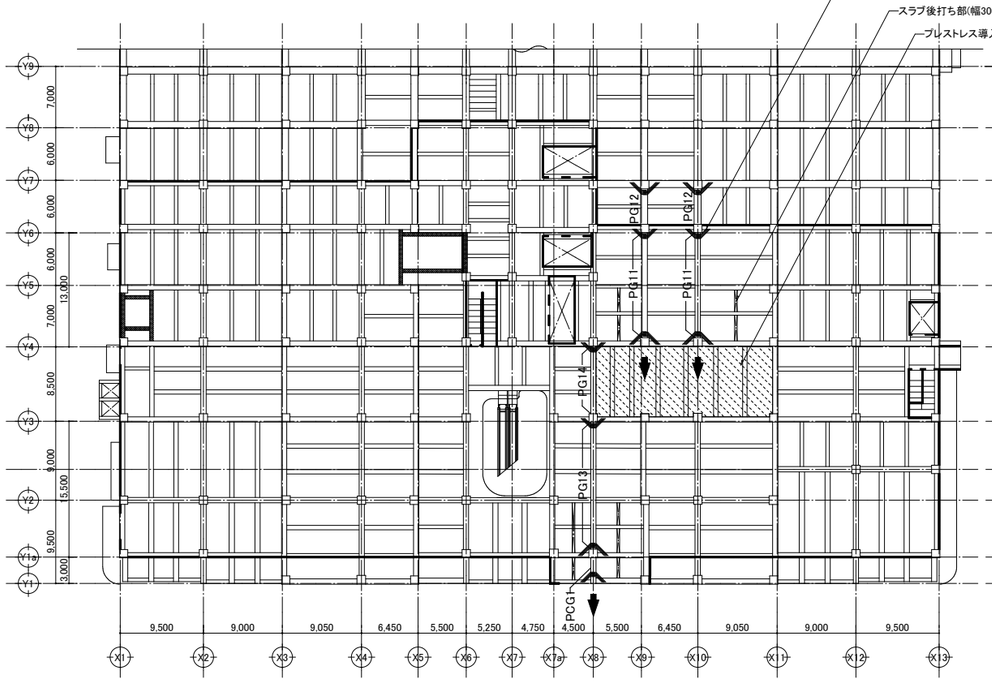
3階PC梁 KEYPLAN S=1/350



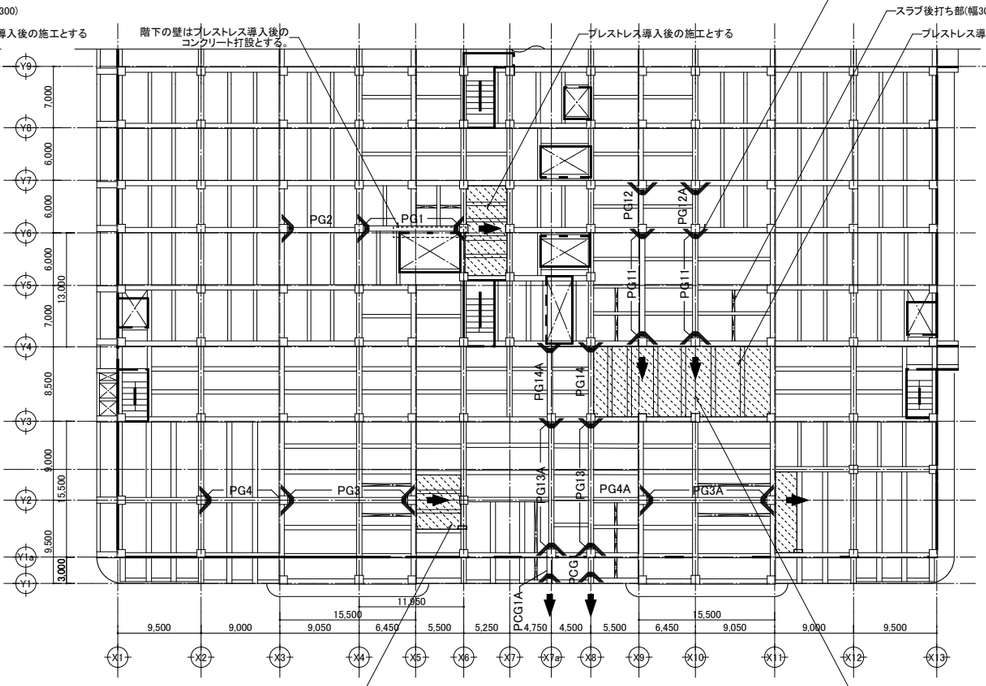
5,6,PH1階PC梁 KEYPLAN S=1/350



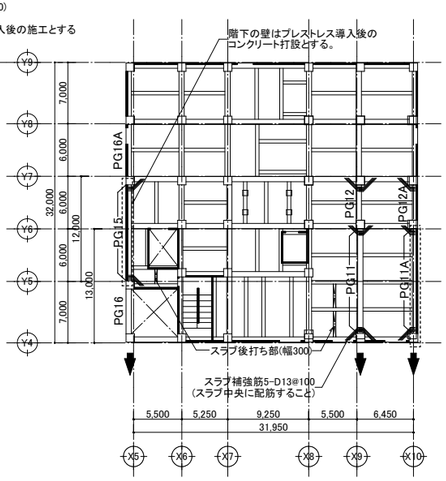
R階PC梁 KEYPLAN S=1/350



2階PC梁 KEYPLAN S=1/350



4階PC梁 KEYPLAN S=1/350



PH2階PC梁 KEYPLAN S=1/350

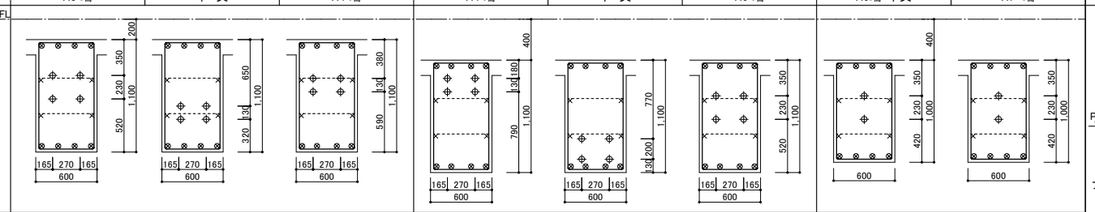
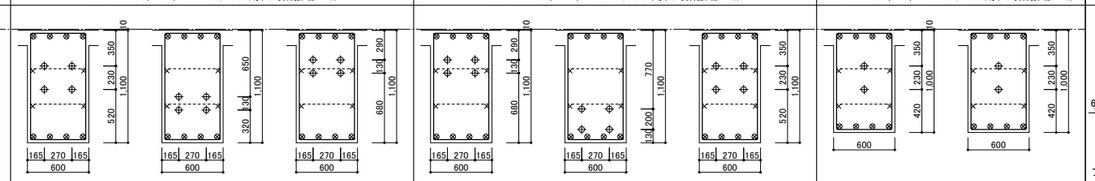
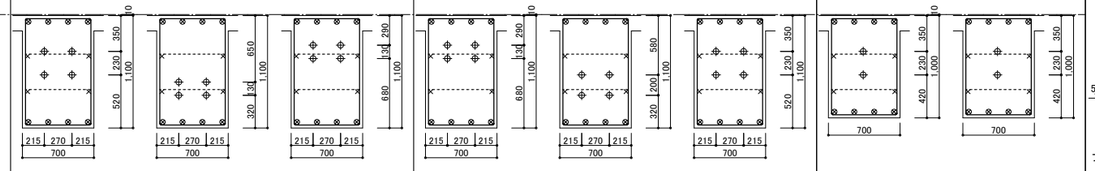
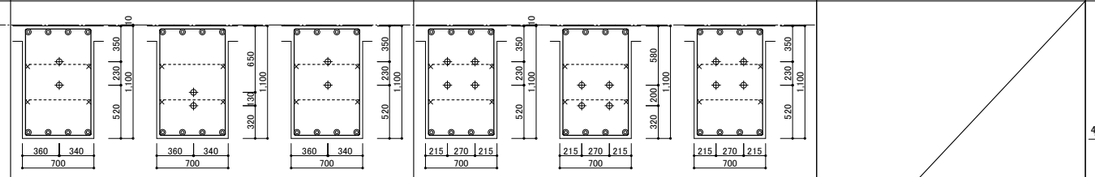
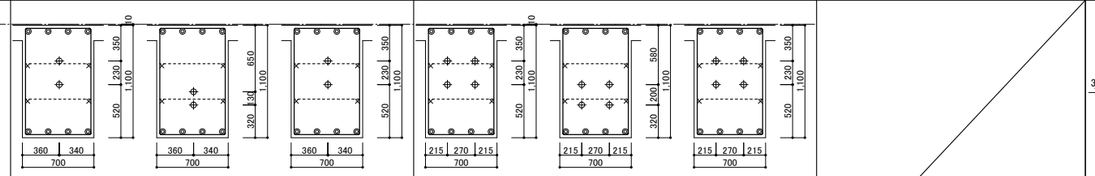
工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	PC梁各階KEYPLAN		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮　尺	【A1】1/350 【A3】1/700	図面番号	S - 74
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号 福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘　要			所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検　印	管理建築士 / 設　計 / 製　図		一級建築士	山田　剛	登録番号 登録第310062号
			一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号 登録第335522号 第9280号
			一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号 登録第173320号 第1058号

PC梁断面リスト1 S=1/30

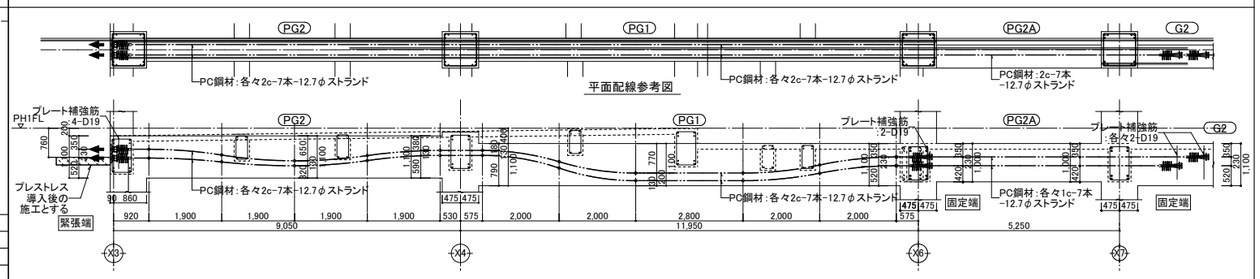
特記なき限り次による　①幅止め筋はD10#600とする。

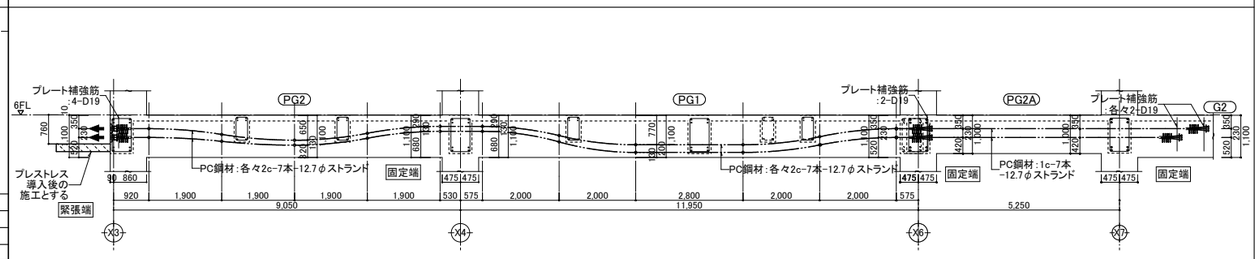
②PC鋼材の縦配置は多段配線の場合、監理者と協議の上、全PC鋼材の図心(偏心)位置が変わらなければ変更可とする。
③PC鋼材の横配置は監理者と協議の上、全PC鋼材の図心(偏心)位置が部材の核を越えない範囲で調整可とする。

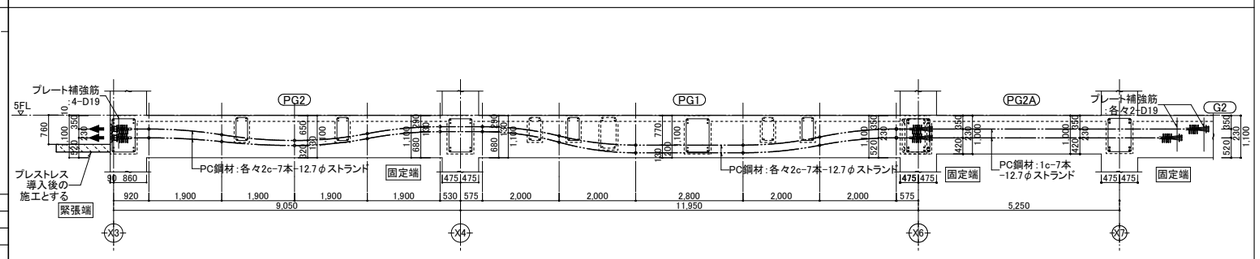
④PC梁直下にプレストレス導入の妨げとなる壁がある場合は、後施工とする。
⑤PC工事範囲についてはPC鋼材の設置、緊張作業、及びグラウト注入に適用する。

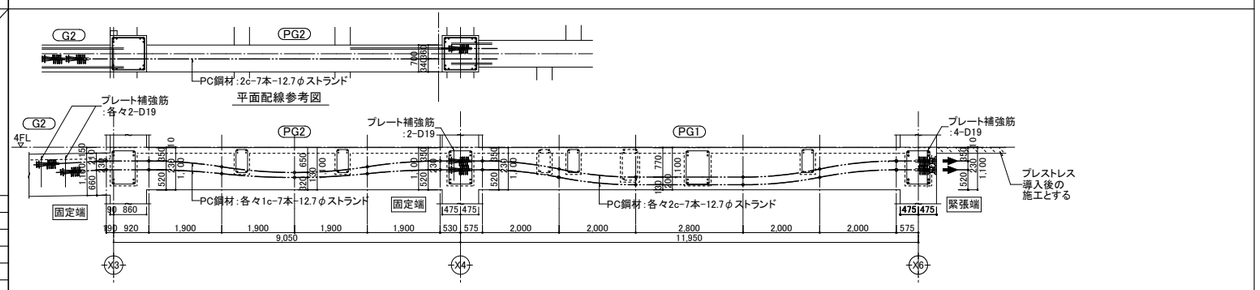
階	符号	PG2			PG1			PG2A	
	位置	X3 端	中央	X4 端	X4 端	中央	X6 端	X6端・中央	X7 端
PH1	断面	▽PH1FL 							
	PC鋼材	⊕:4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)			⊕:4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)			⊕:2C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)	
	上端筋	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29
	下端筋	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29
	スターラップ	□-D13#100	□-D13#150	□-D13#100	□-D13#80	□-D13#100	□-D13#80	□-D13#100	□-D13#100
	腹筋	4-D13			4-D13			4-D13	
	導入力	Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)			Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)			Po＝125kN/本×本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)	
6	断面	▽6FL 							
	PC鋼材	⊕:4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)			⊕:4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)			⊕:2C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)	
	上端筋	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29
	下端筋	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29
	スターラップ	□-D13#100	□-D13#150	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#150	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100
	腹筋	4-D13			4-D13			4-D13	
	導入力	Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)			Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)			Po＝125kN/本×本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)	
5	断面	▽5FL 							
	PC鋼材	⊕:4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)			⊕:4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)			⊕:2C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)	
	上端筋	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29
	下端筋	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29
	スターラップ	□-D13#100	□-D13#150	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#150	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100
	腹筋	4-D13			4-D13			4-D13	
	導入力	Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)			Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)			Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)	
4	断面	▽4FL 							
	PC鋼材	⊕:2C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)			⊕:4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)				
	上端筋	4-D32	4-D32	4-D32	4-D32	4-D32	4-D32		
	下端筋	4-D32	4-D32	4-D32	4-D32	4-D32	4-D32		
	スターラップ	□-D13#100	□-D13#150	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#150	□-D13#100		
	腹筋	4-D13			4-D13				
	導入力	Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)			Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)				
3	断面	▽3FL 							
	PC鋼材	⊕:2C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)			⊕:4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)				
	上端筋	4-D32	4-D32	4-D32	4-D32	4-D32	4-D32		
	下端筋	4-D32	4-D32	4-D32	4-D32	4-D32	4-D32		
	スターラップ	□-D13#100	□-D13#150	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#150	□-D13#100		
	腹筋	4-D13			4-D13				
	導入力	Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)			Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)				

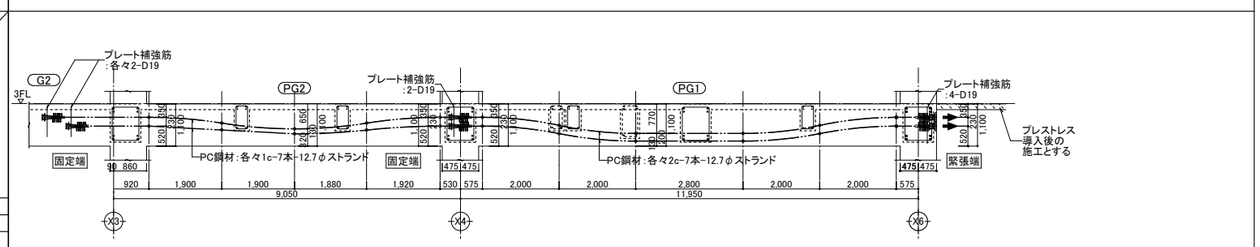
配線図1 S=1/80







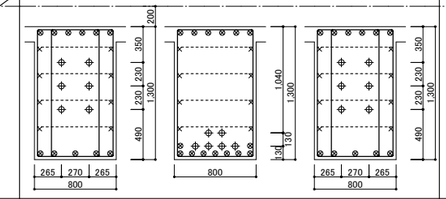
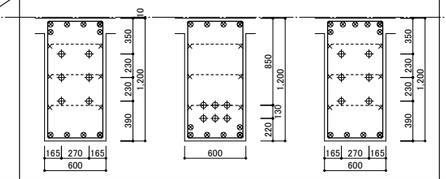
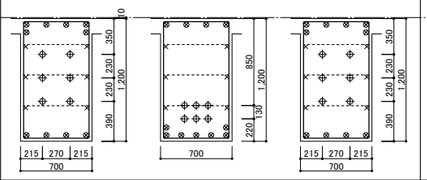


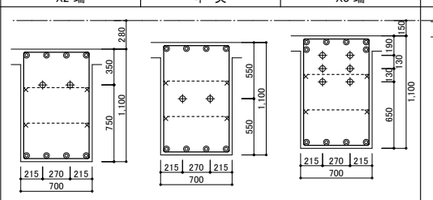
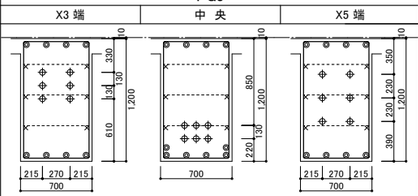
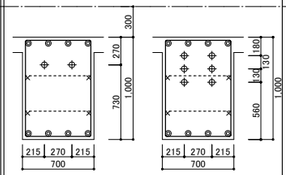
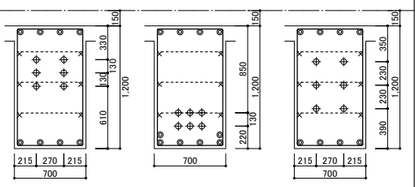


工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	PC梁断面リスト1・配線図1		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	【A1】1/30　【A3】1/60	図面番号	S - 75
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号 福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘要			所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検印	管理建築士　設計　製図		一級建築士	山田　剛	登録番号 登録第310062号
			一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号 登録第335522号 第9280号
			一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号 登録第173320号 第1058号

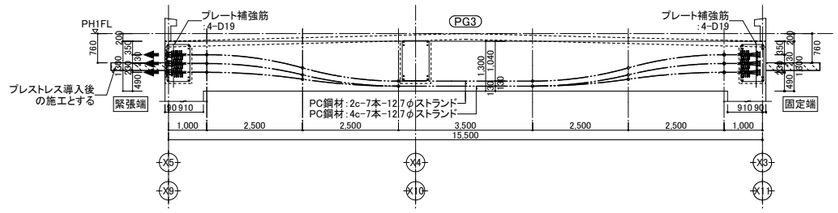
PC梁断面リスト2 S=1/30

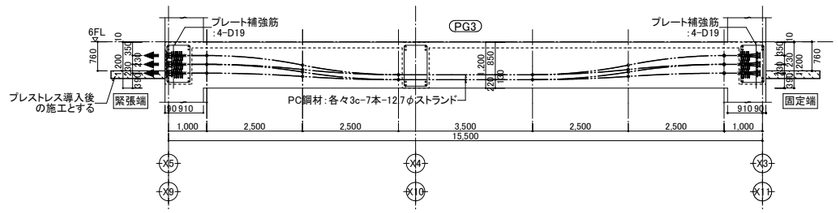
特記なき限り次による　①幅止め筋はD10@600とする。　②PC鋼材の縦配置は多段配線の場合、監理者と協議の上、全PC鋼材の図心(偏心)位置が変わらなければ変更可とする。　③PC鋼材の横配置は監理者と協議の上、全PC鋼材の図心(偏心)位置が部材の核を越えない範囲で調整可とする。　④PC梁直下にプレストレス導入の妨げとなる壁がある場合は、後施工とする。　⑤PC工事範囲についてはPC鋼材の設置、緊張作業、及びグラウト注入に適用する。

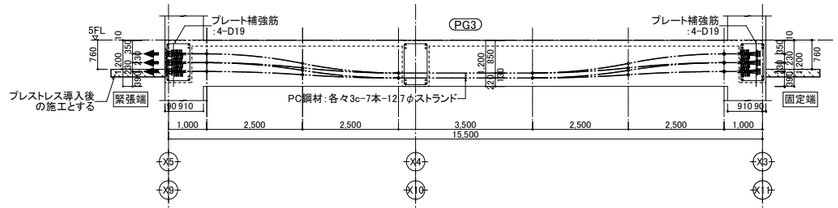
階	符号				PG3				
	位置				X3,X11 端	中 央	X5,X9 端		
PH1	▽PHFL								
	断面								
	PC鋼材				Φ:6C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)				
	上端筋				6-D29	6-D29	6-D29		
	下端筋				5-D29	7/2-D29	5-D29		
	スターラップ				▥-D13@100	□-D13@100	▥-D13@100		
	腹筋				8-D13				
	導入力				Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)				
6	▽6FL								
	断面								
	PC鋼材				Φ:6C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)				
	上端筋				4/2-D29	4-D29	5/2-D29		
	下端筋				4-D29	4/2-D29	4-D29		
	スターラップ				□-D13@80	□-D13@100	□-D13@80		
	腹筋				6-D13				
	導入力				Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)				
5	▽5FL								
	断面								
	PC鋼材				Φ:6C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)				
	上端筋				4/2-D29	4-D29	4/2-D29		
	下端筋				4-D29	5/2-D29	4-D29		
	スターラップ				□-D13@80	□-D13@100	□-D13@80		
	腹筋				6-D13				
	導入力				Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)				

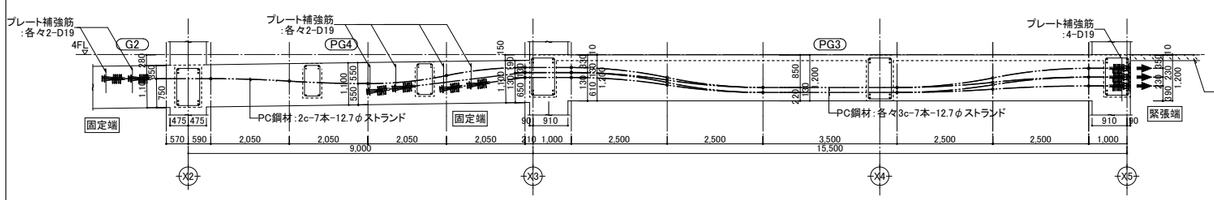
階	符号	PG4			PG3			PG4A		PG3A		
	位置	X2 端	中 央	X3 端	X3 端	中 央	X5 端	X8 端	X9 端	X9 端	中 央	X11 端
4	▽4FL											
	断面											
	PC鋼材	Φ:2～6C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)			Φ:6C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)			Φ:2～6C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)		Φ:6C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)		
	上端筋	4-D32	4-D32	4/2-D32	4-D32	4-D32	4-D32	4-D32	4-D32	4-D32	4-D32	4-D32
	下端筋	4-D32	4-D32	4-D32	4-D32	4/2-D32	4-D32	4-D32	4-D32	4-D32	4/2-D32	4-D32
	スターラップ	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@80	□-D13@100	□-D13@80	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@80	□-D13@100	□-D13@80
	腹筋	4-D13			6-D13			4-D13		6-D13		
	導入力	Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)			Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)			Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)		Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)		

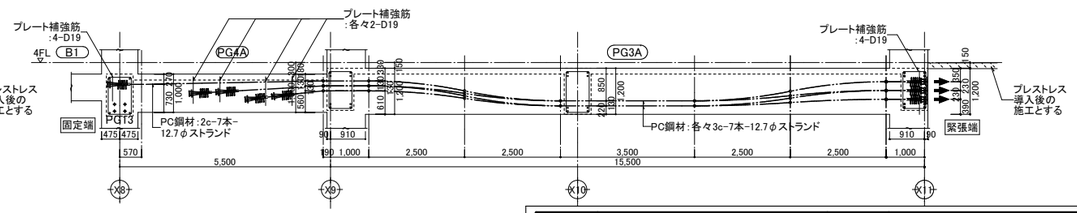
配線図2 S=1/80







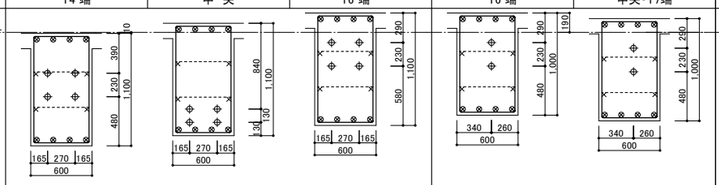
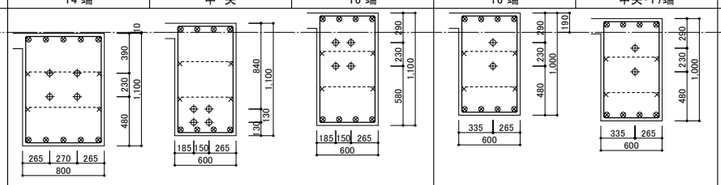
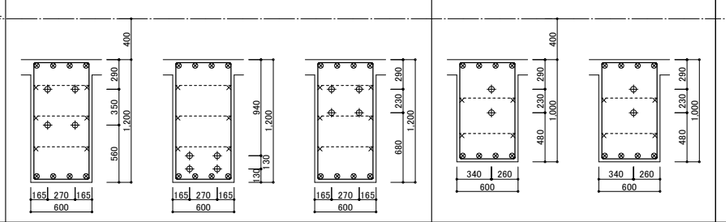
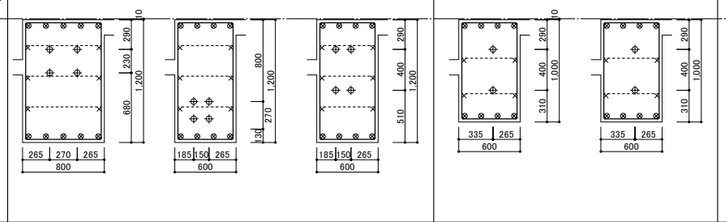
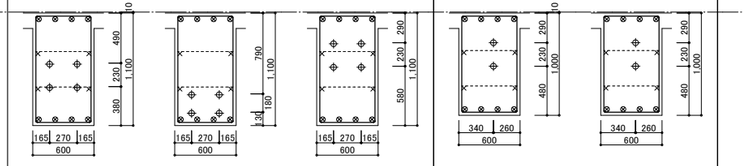
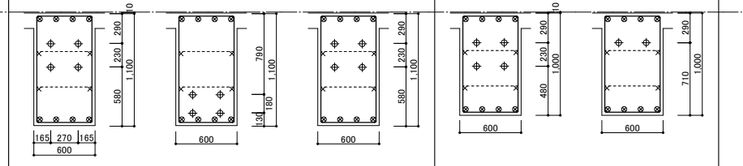


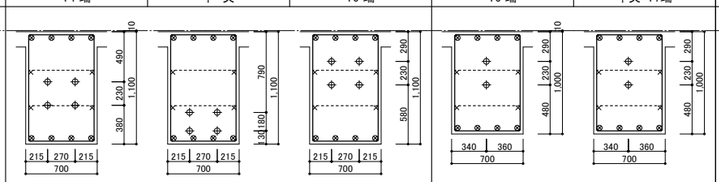
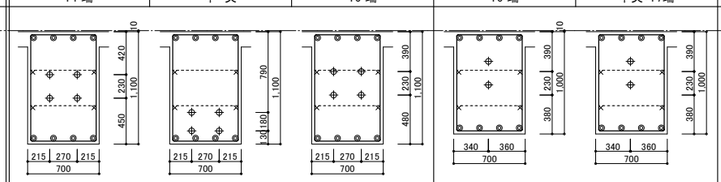


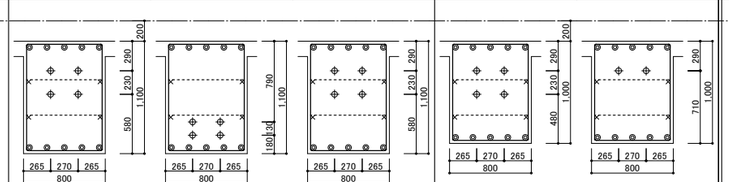
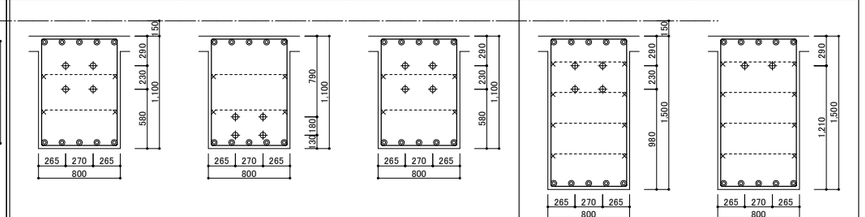
工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	PC梁断面リスト2・配線図2		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	【A1】1/30　【A3】1/60	図面番号	S - 76
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号 福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘要			所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検印	管理建築士 / 設計 / 製図		一級建築士	山田　剛	登録番号 登録第310062号
			一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号 登録第335522号 第9280号
			一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号 登録第173320号 第1058号

PC梁断面リスト3 S=1/30

特記なき限り次による　①幅止め筋はD10@600とする。　②PC鋼材の縦配置は多段配線の場合、監理者と協議の上、全PC鋼材の図心(偏心)位置が変わらなければ変更可とする。　③PC鋼材の横配置は監理者と協議の上、全PC鋼材の図心(偏心)位置が部材の核を越えない範囲で調整可とする。　④PC梁直下にプレストレス導入の妨げとなる壁がある場合は、後施工とする。　⑤PC工事範囲についてはPC鋼材の設置、緊張作業、及びグラウト注入に適用する。

階	符号	PG11			PG12		PG11A			PG12A	
	位置	Y4 端	中 央	Y6 端	Y6 端	中央・Y7端	Y4 端	中 央	Y6 端	Y6 端	中央・Y7端
PH2	▽PH2FL 断面										
	PC鋼材	⊕ :4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)			⊕ :2C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)		⊕ :4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)			⊕ :2C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)	
	上端筋	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	5-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29
	下端筋	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	5-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29
	スターラップ	□-D13@100	□-D13@150	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@150	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100
	腹筋	4-D13			4-D13		4-D13			4-D13	
	導入力	Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)			Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)		Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)			Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)	
PH1	▽PH1FL 断面										
	PC鋼材	⊕ :4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)			⊕ :2C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)		⊕ :4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)			⊕ :2C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)	
	上端筋	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	5-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29
	下端筋	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	5-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29
	スターラップ	□-D13@100	□-D13@150	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@150	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100
	腹筋	6-D13			4-D13		6-D13			4-D13	
	導入力	Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)			Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)		Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)			Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)	
6	▽6FL 断面										
	PC鋼材	⊕ :4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)			⊕ :2C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)		⊕ :4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)			⊕ :2～4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)	
	上端筋	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29
	下端筋	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29
	スターラップ	□-D13@100	□-D13@150	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@150	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100
	腹筋	4-D13			4-D13		4-D13			4-D13	
	導入力	Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)			Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)		Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)			Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)	

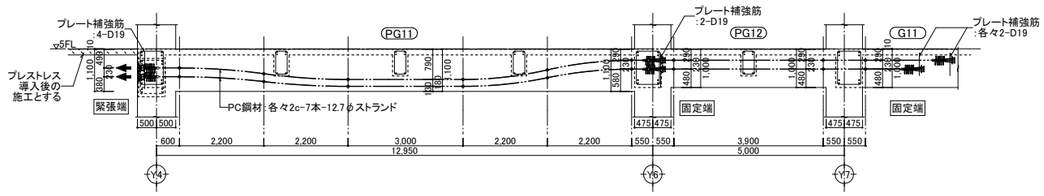
階	符号	5PG11			5PG12		5PG12A		4PG11			4PG12		4PG12A	
	位置	Y4 端	中 央	Y6 端	Y6 端	中央・Y7端	Y6 端	Y7端・中央	Y4 端	中 央	Y6 端	Y6 端	中央・Y7端	Y6 端	中央・Y7端
4・5	4FL ▽5FL 断面														
	PC鋼材	⊕ :4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)			⊕ :2C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)		⊕ :2～4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)		⊕ :4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)			⊕ :2C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)		⊕ :2～4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)	
	上端筋	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D32	4-D32	4-D32	4-D32	4-D32	4-D32	4-D32
	下端筋	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D32	4-D32	4-D32	4-D32	4-D32	4-D32	4-D32
	スターラップ	□-D13@100	□-D13@150	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@150	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100
	腹筋	4-D13			4-D13		4-D13		4-D13			4-D13		4-D13	
	導入力	Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)			Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)		Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)		Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)			Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)		Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)	

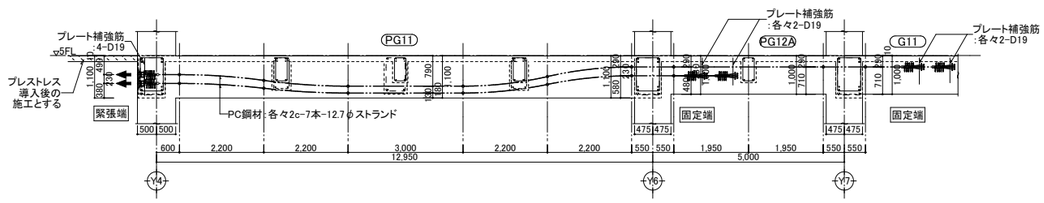
階	符号	3PG11			3PG12		2PG11			2PG12	
	位置	Y4 端	中 央	Y6 端	Y6 端	中央・Y7端	Y4 端	中 央	Y6 端	Y6 端	中央・Y7端
3・2	2FL ▽3FL 断面										
	PC鋼材	⊕ :4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)			⊕ :2～4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)		⊕ :4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)			⊕ :2～4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)	
	上端筋	5-D32	5-D32	5-D32	5-D32	5-D32	5-D32	5-D32	5-D32	5-D32	5-D32
	下端筋	5-D32	5-D32	5-D32	5-D32	5-D32	5-D32	5-D32	5-D32	5-D32	5-D32
	スターラップ	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100
	腹筋	4-D13			4-D13		4-D13			8-D13	
	導入力	Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)			Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)		Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)			Po＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)	

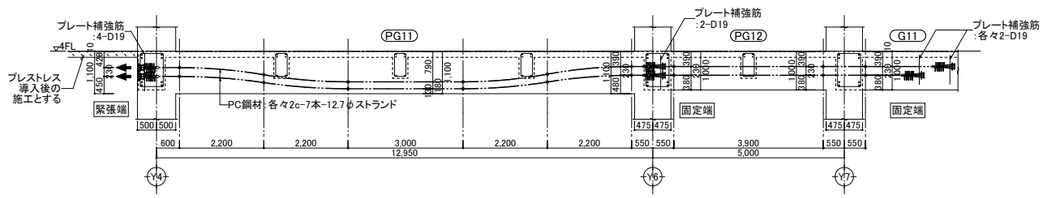
工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	PC梁断面リスト3		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	【A1】1/30　【A3】1/60	図面番号	S－77
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号 福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘要			所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検印	管理建築士 / 設計 / 製図		一級建築士	山田　剛	登録番号 登録第310062号
			一級建築士（構造設計一級建築士）	末吉　謙太郎	登録番号 登録第335522号 第9280号
			一級建築士（設備設計一級建築士）	丸山　茂義	登録番号 登録第173320号 第1058号

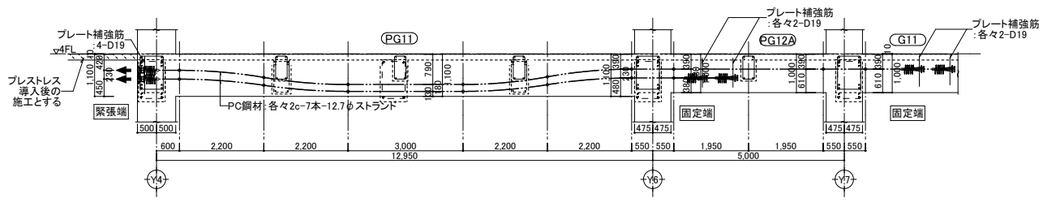
配線図3 S=1/80

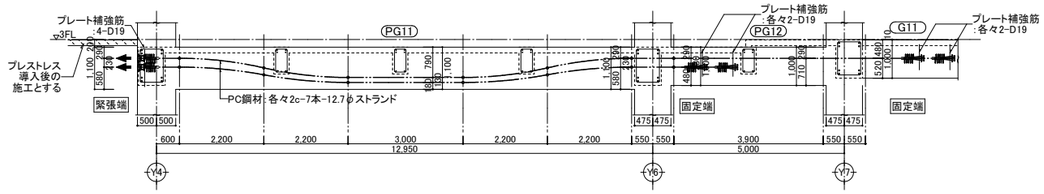
階	通り
5	X9
5	X10
4	X9
4	X10
3	X9
2	X9

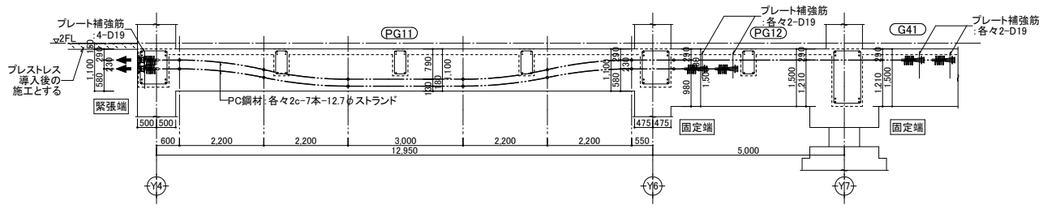






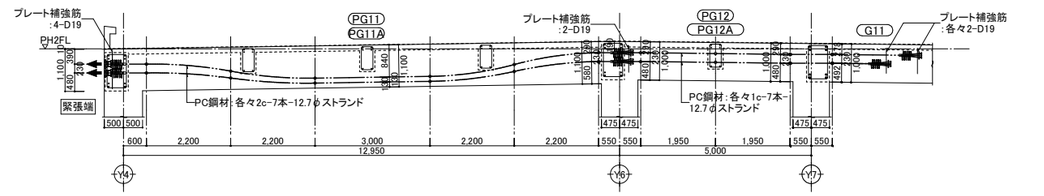


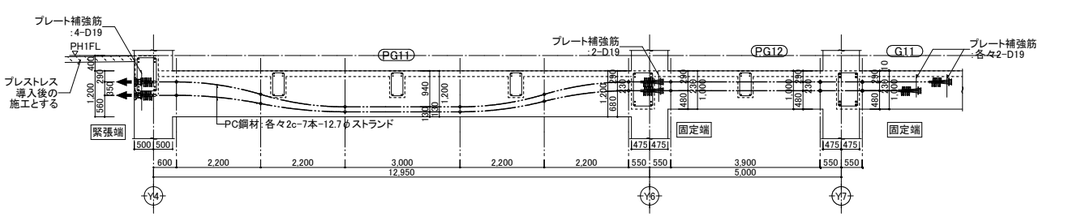


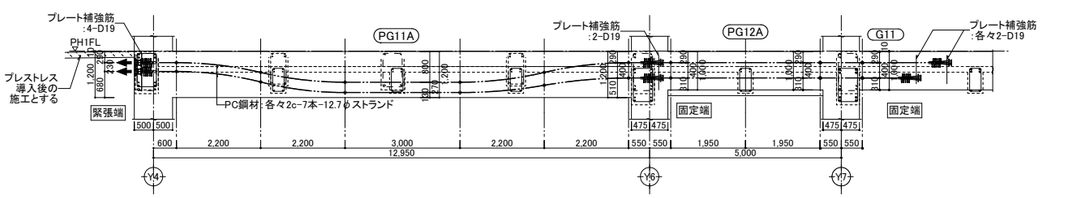


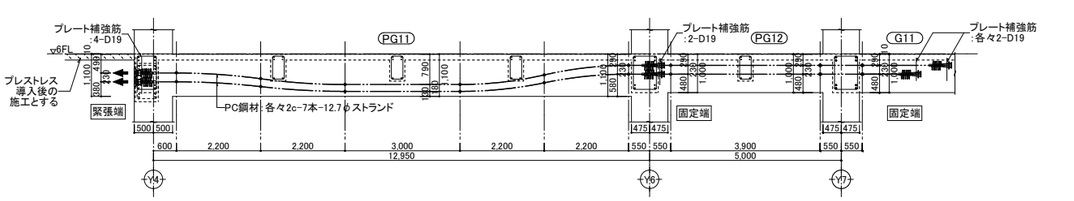
配線図3 S=1/80

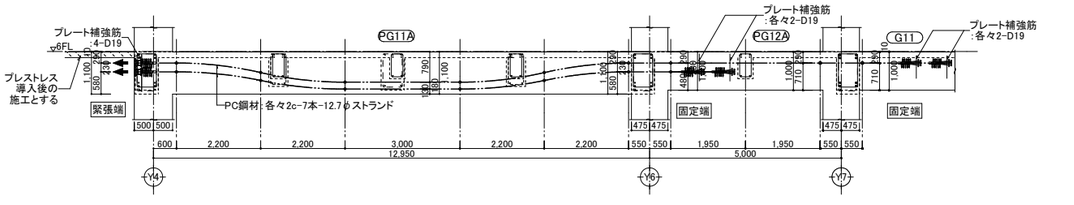
階	通り
PH2	X9
PH1	X9
PH1	X10
6	X9
6	X10







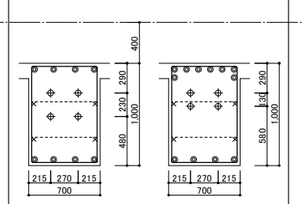
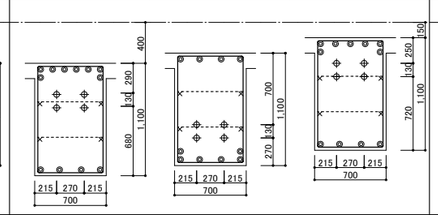
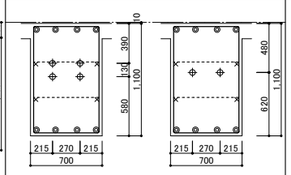


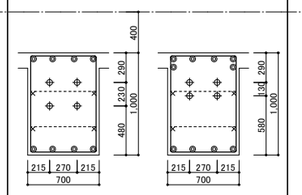
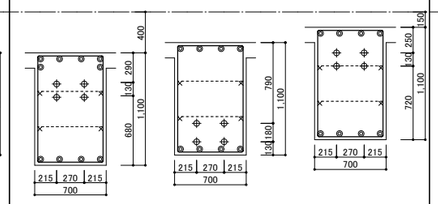
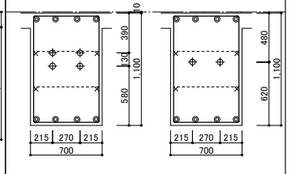


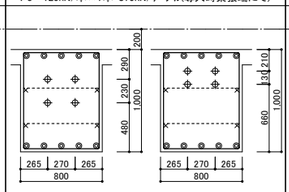
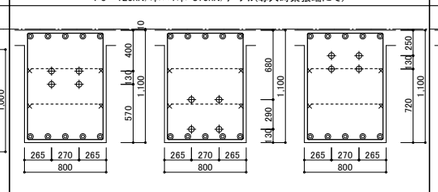
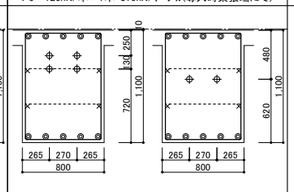
工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	配線図3		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮　尺	【A1】1/80　【A3】1/160	図面番号	S - 78
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号 福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘　要			所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検　印	管理建築士 / 設　計 / 製　図		一級建築士	山田　剛	登録番号 登録第310062号
			一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号 登録第335522号 第9280号
			一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号 登録第173320号 第1058号

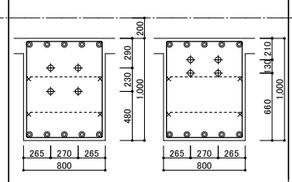
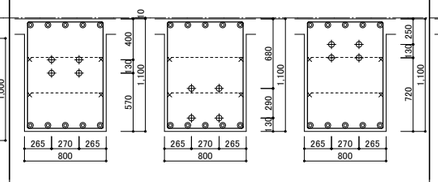
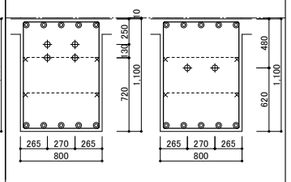
PC梁断面リスト4 S=1/30

特記なき限り次による　①幅止め筋はD10@600とする。　②PC鋼材の縦配置は多段配線の場合、監理者と協議の上、全PC鋼材の図心(偏心)位置が変わらなければ変更可とする。　③PC鋼材の横配置は監理者と協議の上、全PC鋼材の図心(偏心)位置が部材の核を越えない範囲で調整可とする。　④PC梁直下にプレストレス導入の妨げとなる壁がある場合は、後施工とする。　⑤PC工事範囲についてはPC鋼材の設置、緊張作業、及びグラウト注入に適用する。

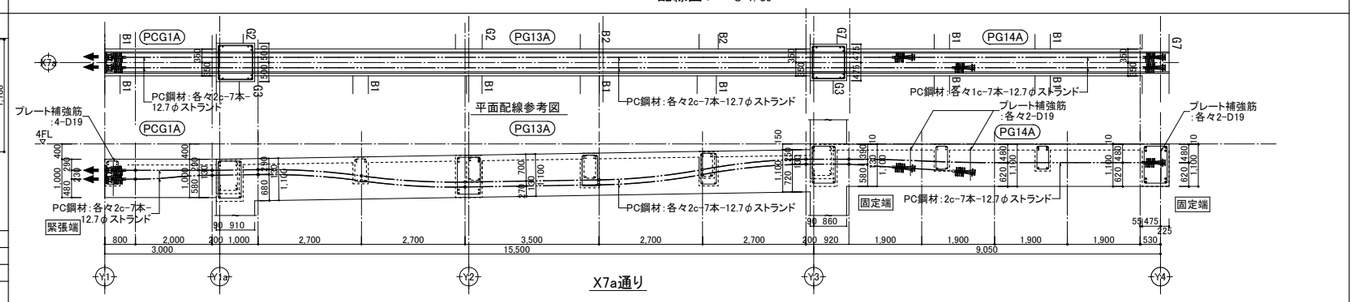
階	符号	PCG1A		PG13A			PG14A	
	位置	先端	基端	Y1a 端	中央	Y3 端	Y3 端	中央・Y4 端
	断面							
	PC鋼材	⊕:4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)		⊕:4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)			⊕:2～4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)	
	上端筋	4-D32	6/2-D32	6/2-D32	4-D32	5/2-D32	4-D32	4-D32
	下端筋	4-D32	4-D32	4-D32	4/2-D32	4-D32	4-D32	4-D32
	スターラップ	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@80	□-D13@100	回-D13@100 (または□-D13@66)	□-D13@100	□-D13@100
	腹筋	4-D13		4-D13			4-D13	
	導入力	P0＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)		P0＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)			P0＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)	

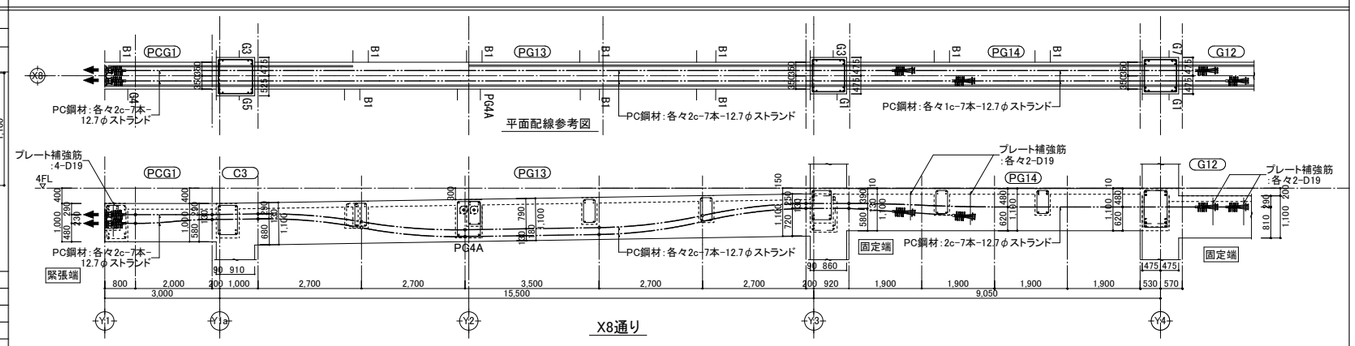
4	符号	PCG1		PG13			PG14	
	位置	先端	基端	Y1a 端	中央	Y3 端	Y3 端	中央・Y4 端
	断面							
	PC鋼材	⊕:4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)		⊕:4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)			⊕:2～4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)	
	上端筋	4-D32	4/2-D32	4/2-D32	4-D32	4-D32	4-D32	4-D32
	下端筋	4-D32	4-D32	4-D32	4-D32	4-D32	4-D32	4-D32
	スターラップ	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@150	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100
	腹筋	4-D13		4-D13			4-D13	
	導入力	P0＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)		P0＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)			P0＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)	

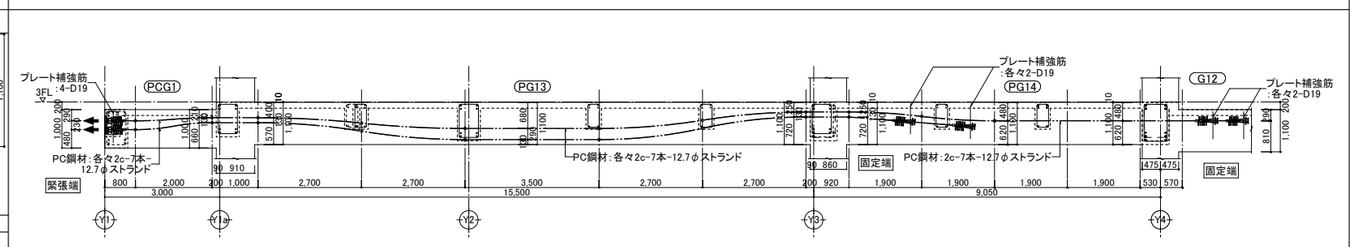
3	符号							
	位置							
	断面							
	PC鋼材	⊕:4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)		⊕:4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)			⊕:2～4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)	
	上端筋	5-D32	5-D32	5-D32	5-D32	5-D32	5-D32	5-D32
	下端筋	5-D32	5-D32	5-D32	5-D32	5-D32	5-D32	5-D32
	スターラップ	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100
	腹筋	4-D13		4-D13			4-D13	
	導入力	P0＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)		P0＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)			P0＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)	

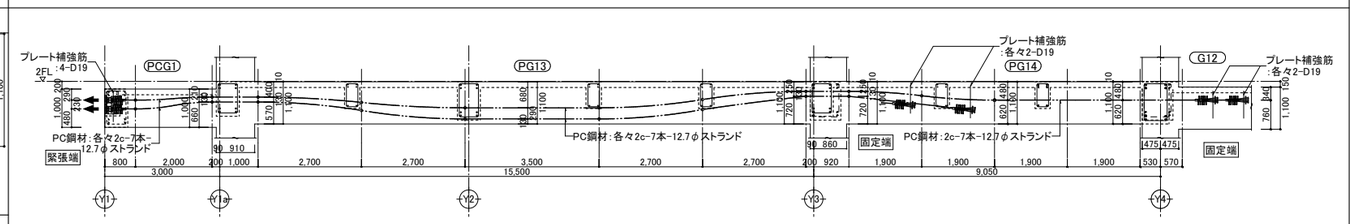
2	符号							
	位置							
	断面							
	PC鋼材	⊕:4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)		⊕:4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)			⊕:2～4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)	
	上端筋	5-D32	5-D32	5-D32	5-D32	5-D32	5-D32	5-D32
	下端筋	5-D32	5-D32	5-D32	5-D32	5-D32	5-D32	5-D32
	スターラップ	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100
	腹筋	4-D13		4-D13			4-D13	
	導入力	P0＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)		P0＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)			P0＝125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)	

配線図4 S=1/80





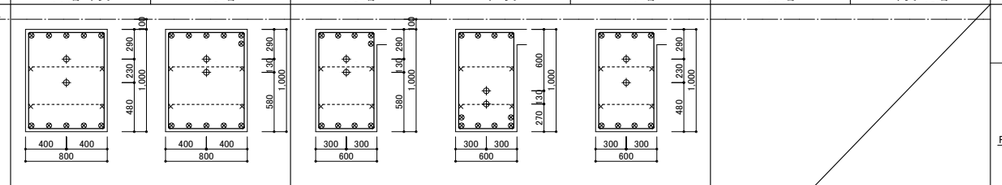
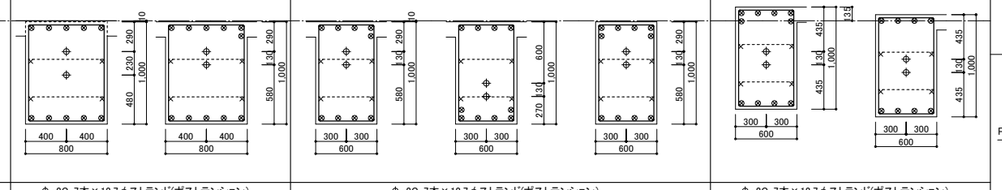




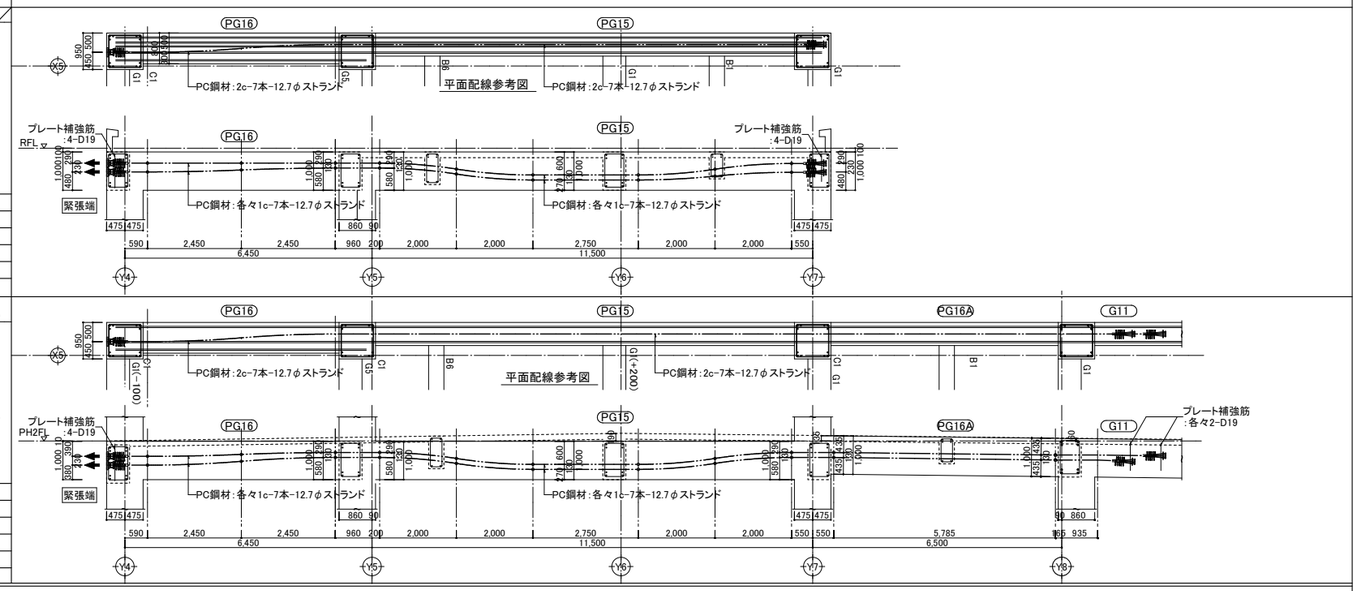
工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	PC梁断面リスト4・配線図4		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	【A1】1/30　【A3】1/60	図面番号	S－79
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号 福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘要			所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検印	管理建築士 / 設計 / 製図		一級建築士	山田　剛	登録番号 登録第310062号
			一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号 登録第335522号 第9280号
			一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号 登録第173320号 第1058号

PC梁断面リスト5 S=1/30

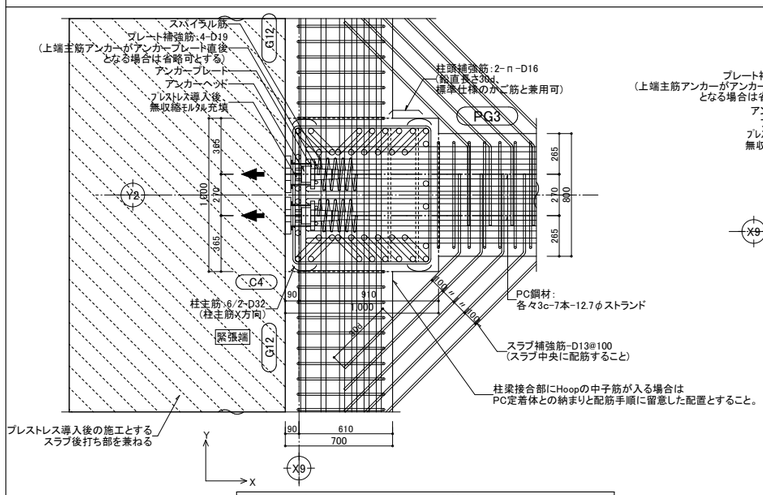
特記なき限り次による ①幅止め筋はD10@600とする。 ②PC鋼材の縦配置は多段配線の場合、監理者と協議の上、全PC鋼材の図心(偏心)位置が変わらなければ変更可とする。 ③PC鋼材の横配置は監理者と協議の上、全PC鋼材の図心(偏心)位置が部材の核を越えない範囲で調整可とする。 ④PC梁直下にプレストレス導入の妨げとなる壁がある場合は、後施工とする。 ⑤PC工事範囲についてはPC鋼材の設置、緊張作業、及びグラウト注入に適用する。

階	符号	PG16		PG15			PG16A	
	位置	Y4 端・中央	Y5 端	Y5 端	中 央	Y7 端	Y7 端	中央・Y8端
R	断面							
	PC鋼材	Φ:2C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)		Φ:2C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)				
	上端筋	5-D29	5/1-D29	4/1-D29	4-D29	4-D29		
	下端筋	5-D29	5-D29	4-D29	4/2-D29	4-D29		
	スターラップ	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@150	□-D13@100		
	腹筋	4-D13		4-D13				
	導入力	P_0=125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)		P_0=125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)				
PH2	断面							
	PC鋼材	Φ:2C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)		Φ:2C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)			Φ:2C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)	
	上端筋	5-D29	5/1-D29	4/1-D29	4-D29	4/2-D29	4/2-D29	4-D29
	下端筋	5-D29	5-D29	4-D29	4/2-D29	4-D29	4-D29	4-D29
	スターラップ	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@150	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100
	腹筋	4-D13		4-D13			4-D13	
	導入力	P_0=125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)		P_0=125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)			P_0=125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)	

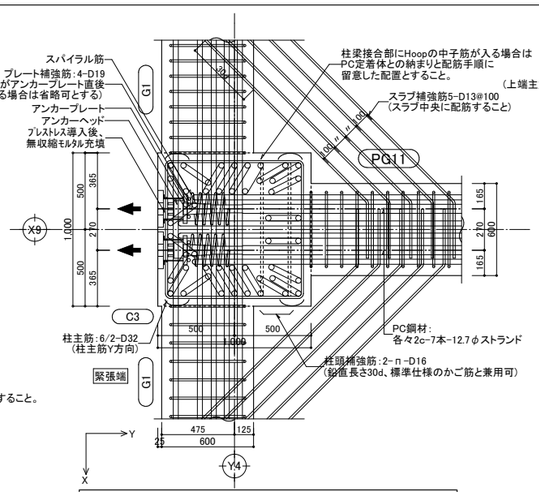
配線図5 S=1/80



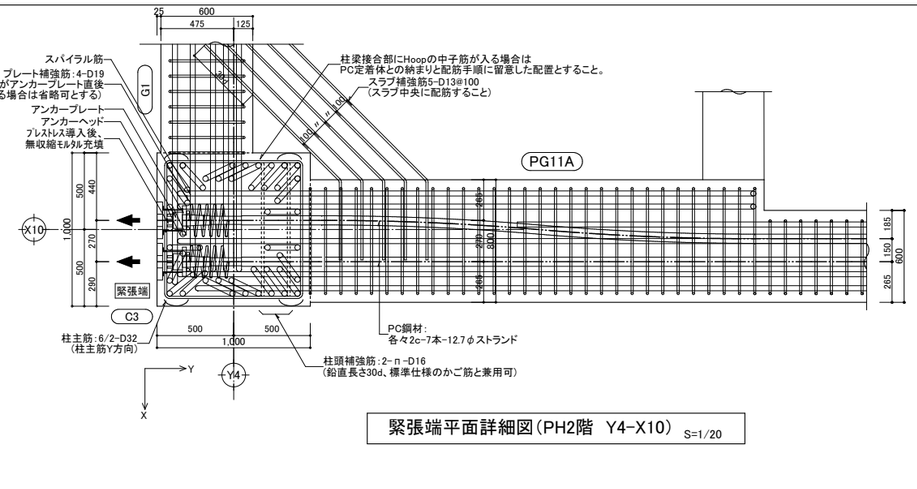
詳細図1 S=1/20



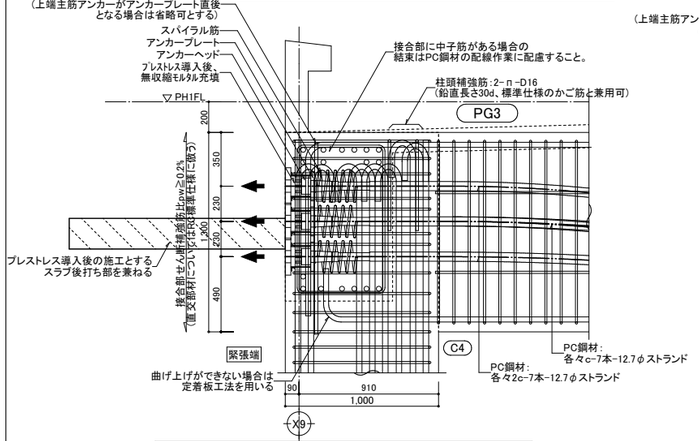
緊張端平面詳細図(PH1階 X9-Y2) S=1/20



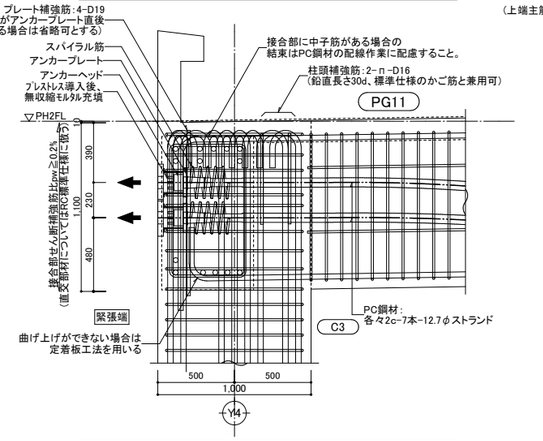
緊張端平面詳細図(PH2階 Y4-X9) S=1/20



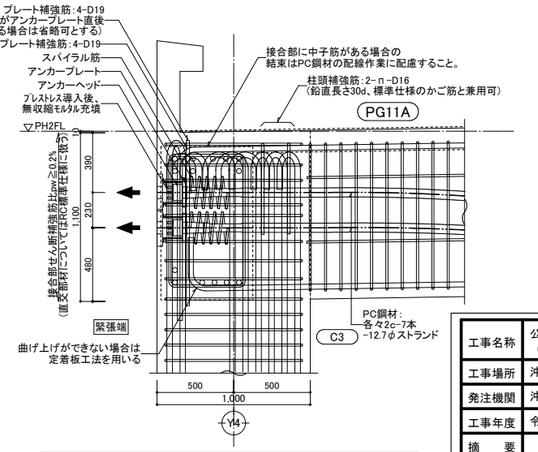
緊張端平面詳細図(PH2階 Y4-X10) S=1/20



緊張端立面詳細図(PH1階 X9-Y2) S=1/20



緊張端立面詳細図(PH2階 Y4-X9) S=1/20



緊張端立面詳細図(PH2階 Y4-X10) S=1/20

詳細図共通事項

特記なき限り以下とする

1.最上階柱主筋の定着はRC標準仕様による。

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事(建築工事)			図面名称	PC梁断面リスト5・配線図5・詳細図1
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9			縮尺	【A1】1/30 【A3】1/60
発注機関	沖縄県北部医療組合			図面番号	S - 80
工事年度	令和 7 年度				
摘要					
検印	管理建築士	設計	製図		

設計者				
JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体			
代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録第 1-12326 号	
所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16			
一級建築士	山田 剛	登録番号	登録第310062号	
一級建築士 構造設計一級建築士	末吉 謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9280号	
一級建築士 設備設計一級建築士	丸山 茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号	

PC梁貫通孔補強材設計・施工標準仕様書

（一財）日本建築総合試験所　ＧＢＲＣ性能証明 第２０ － ０７号

１．一般事項

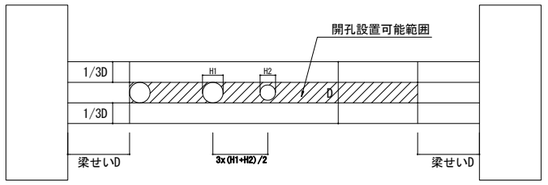
（１）　本仕様書は、ダイヤレンPC工法によって補強されたプレストレストコンクリート（PC）有孔梁に適用する。
（２）　本設計仕様に記載のない事項については、建築基準法・同施行令、（一財）日本建築センター及び（一社）日本建築学会の関連する諸指針や諸規準、ダイヤレンPC工法設計・施工指針、ダイヤレンＮＳ技術マニュアル、公共建築工事標準仕様書による。

２．使用材料の適用範囲

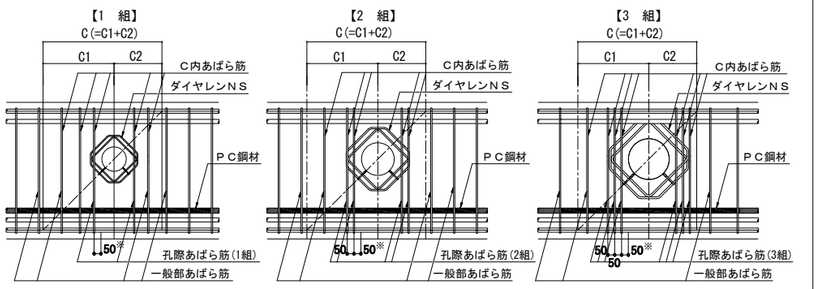
（１）　コンクリート
Fc＝24～60N/mm^2
（２）　PC鋼材
PC鋼材　JIS適合品
（３）　鉄筋
・主筋　：基準強度295～490N/mm^{2}のJIS鉄筋、490を超え685N/mm^{2}以下の大臣認定品
・あばら筋　：基準強度295～490N/mm^{2}のJIS鉄筋、490を超え785N/mm^{2}以下の大臣認定品
・開孔上下部補強筋　：基準強度295～490N/mm^{2}のJIS鉄筋
・開孔上下部水平筋　：基準強度295～490N/mm^{2}のJIS鉄筋
・ダイヤレンＮＳ　：KSS785-K（MSRB-0004）、MK785（MSRB-0067）

３．開孔適用範囲

（１）　開孔径は梁せいの1/3以下かつ400mm以下とする。
（２）　上下方向の開孔中心位置は梁せいの中心付近とし、へりあきは梁せいの1/3以上とする。
（３）　梁端部からD（Dは梁せい）の範囲には開孔は設けられない。
（４）　隣接する開孔の水平方向中心間距離は開孔径の3倍以上とする。また、隣接する開孔の径が異なる場合には、両開孔径の平均の3倍以上とする。
（５）　PC鋼材と開孔のあきは設計上のかぶり厚さを確保しなければならない。
（６）　径が梁せいの1/10以下かつ100mm未満の開孔は補強を省略してよい。
（７）　開孔上下の断面に対する平均軸圧縮応力度はFc/3以下（Fcはコンクリートの設計基準強度）とする。



４．Ｃ（補強有効範囲）内あばら筋の配筋要領

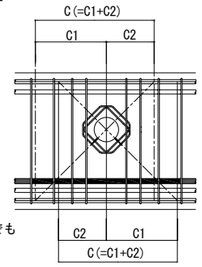


※必要なかぶり厚さを確保した位置とし、標準は50mmとする。

（１）　Ｃ（補強有効範囲）内あばら筋の組数は、開孔が無いとした場合に配置されるあばら筋組数以上とする。
（２）　孔際あばら筋の組数は、下表の標準組数以上とする。

【開孔に対して片側に配置する孔際あばら筋の標準組数】

開孔径	一般部あばら筋比（pw）	
	1%未満	1%以上
H＜150	1組	2組
150≦H＜300	2組	3組
300≦H	3組	3組

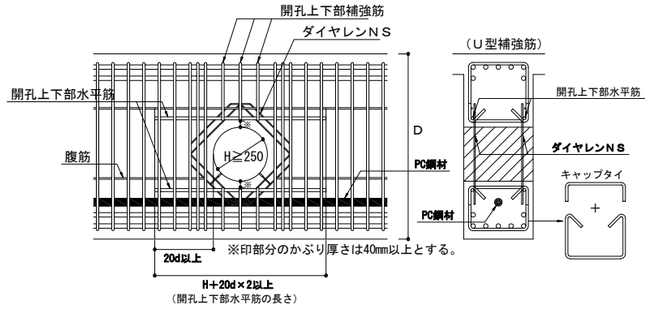


（３）　Ｃ内あばら筋は、正加力時および負加力時を想定したどちらのＣでも満足するように配置する。

５．開孔上下部補強要領

（250φ以上350φ未満で補強設計によって開孔上下部に補強が必要な場合、350φ以上の場合）

開孔上下部の補強筋は、開孔上下部補強筋と開孔上下部水平筋で構成される。
（１）　開孔上下部補強筋
・開孔上下部補強筋は、開孔上下部の主筋と開孔水平筋を拘束する閉鎖型の配筋とし、ロ型、コ型、Ｕ型などの形状とする。
・一般部あばら筋と同径以上かつ同鋼種とし、一般部あばら筋のピッチ以下となるように配筋する（丸鋼及びインデントは不可）。
・梁幅が400mm未満もしくはコ型補強筋の梁主筋側重ね長さが25d（dは鉄筋の呼び径）以下の場合はロ型、Ｕ型などの形状で補強を行う。
（２）　開孔上下部水平筋
・開孔上下部水平筋は、開孔上下部補強筋と開孔とのかぶり厚さが確保される位置に配筋する。
・開孔際からの定着長さは20d以上とする。



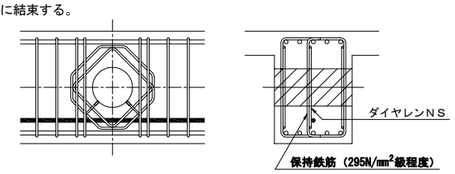
開孔上下部分の補強要領（Ｕ型補強筋で補強する場合の例）

６．施工要領例

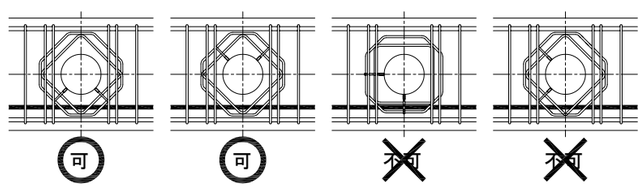
（１）　型枠上に開孔の位置と開孔径等を墨出しする。
（２）　補強設計上必要な孔際あばら筋と一般部あばら筋を配筋する。孔際あばら筋は、1組目は必要なかぶり厚さを確保した所定の位置に配置し、2組目以降はそれぞれ50mmピッチで配筋する。孔際あばら筋と一般部あばら筋の間隔は、設計ピッチ以下とする。
（３）　ダイヤレンＮＳを左右の孔際あばら筋の間から挿入し、孔際あばら筋等に4か所以上結束する。
（４）　スリーブをダイヤレンＮＳのスリーブ受け筋にセットし、針金等で固定する。
（５）　孔際あばら筋を配筋するのが困難な場合は、束ね配筋にすることができる。
（束ね配筋は、2組までは束ねることができるが、3組以上は束ねてはならない。）
（６）　開孔部周囲のそれぞれの鉄筋のかぶり厚さが適正に確保されていることを確認する。

７．施工における注意事項

（１）　補強設計によってダイヤレンＮＳが3枚以上になった場合で中子筋が無い場合は下図のように保持鉄筋等に結束する。



（２）　ダイヤレンＮＳはあばら筋に対して斜め45度の傾きをもって必要な耐力が期待できるため、下図の「可」のように施工すること。



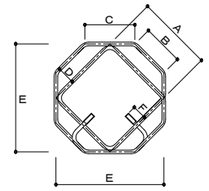
８．ダイヤレンＮＳ標準製品寸法表

（特記外単位：mm）

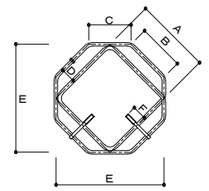
スリーブ径（対応径）	型	サイズ	寸法 A	B	C	D	E	F	形状	重量 (kgf/枚)	Ho
100φ (H≦115)	Ⅰ	6	205	115	127	45	289	45	①	0.55	204
	Ⅱ	8	205	115	127	45	289	45	①	0.85	205
	Ⅲ	10	205	95	155	55	289	45	②	1.14	206
	Ⅳ	13	210	80	183	65	296	48	②	2.01	211
	Ⅴ	16	230	100	183	65	325	55	③	3.46	227
	Ⅴ-3R	16	230	154	237	65	455	57	⑤	6.14	292
125φ (H≦141)	Ⅰ	6	230	140	127	45	325	45	①	0.60	222
	Ⅱ	8	230	140	127	45	325	45	①	0.94	223
	Ⅲ	10	235	125	155	55	332	48	②	1.27	227
	Ⅳ	13	240	110	183	65	339	50	②	2.26	232
	Ⅴ	16	240	110	183	65	339	50	③	3.57	234
	Ⅴ-3R	16	240	164	237	65	469	49	⑤	6.31	299
150φ (H≦166)	Ⅰ	6	255	165	127	45	360	45	①	0.66	239
	Ⅱ	8	255	165	127	45	360	45	①	1.03	240
	Ⅲ	10	260	150	155	55	367	47	②	1.38	245
	Ⅳ	13	260	130	183	65	367	47	②	2.41	246
	Ⅴ	16	265	135	183	65	374	50	③	3.88	251
	Ⅴ-3R	16	265	189	237	65	504	49	⑤	6.78	316
175φ (H≦191)	Ⅰ	6	280	190	127	45	395	45	①	0.71	257
	Ⅱ	8	280	190	127	45	395	45	①	1.12	258
	Ⅲ	10	285	175	155	55	403	47	②	1.50	263
	Ⅳ	13	285	155	183	65	403	47	②	2.61	264
	Ⅴ	16	290	160	183	65	410	50	③	4.19	269
	Ⅴ-3R	16	290	214	237	65	540	49	⑤	7.25	334
200φ (H≦216)	Ⅰ	6	305	215	127	45	431	45	①	0.77	275
	Ⅱ	8	305	215	127	45	431	45	①	1.20	276
	Ⅲ	10	310	200	155	55	438	47	②	1.61	280
	Ⅳ	13	310	180	183	65	438	47	②	2.81	282
	Ⅴ	16	320	190	183	65	452	50	③	4.57	290
	Ⅴ-3R	16	320	244	237	65	582	52	⑤	7.82	355
250φ (H≦270)	Ⅰ	6	360	270	127	45	509	45	①	0.89	314
	Ⅱ	8	360	270	127	45	509	45	①	1.40	315
	Ⅲ	10	360	250	155	55	509	45	②	1.83	316
	Ⅳ	13	370	240	183	65	523	50	②	3.29	324
	Ⅴ	16	370	210	226	80	523	50	②	5.31	326
	Ⅴ-3R	16	370	276	292	80	683	50	④	9.11	406
300φ (H≦320)	Ⅰ	6	410	320	127	45	579	45	①	1.01	349
	Ⅱ	8	410	320	127	45	579	45	①	1.57	350
	Ⅲ	10	410	300	155	55	579	45	②	2.05	351
	Ⅳ	13	420	290	183	65	593	50	②	3.69	359
	Ⅴ	16	420	260	226	80	593	50	②	5.93	361
	Ⅴ-3R	16	420	326	292	80	753	50	④	10.04	441
350φ (H≦370)	Ⅰ	6	460	370	127	45	650	45	①	1.12	384
	Ⅱ	8	460	370	127	45	650	45	①	1.75	385
	Ⅲ	10	460	350	155	55	650	45	②	2.28	386
	Ⅳ	13	470	340	183	65	664	50	②	4.09	395
	Ⅴ	16	470	310	226	80	664	50	②	6.55	396
	Ⅴ-3R	16	470	376	292	80	824	50	④	10.98	476
400φ (H≦400)	Ⅰ	8	510	420	127	45	721	45	①	1.92	421
	Ⅱ	10	510	400	155	55	721	45	②	2.50	422
	Ⅲ	13	520	390	183	65	735	50	②	4.48	430
	Ⅳ	16	530	370	226	80	749	55	②	7.31	439
	Ⅳ-3R	16	530	436	292	80	909	55	④	12.11	519

※対応径は、スリーブ面とダイヤレンＮＳ内リング筋の内側面までのかぶり厚さを40mmとした場合の開孔外径
※表中Hoは、かぶり厚さ40mm、あばら筋16mmとした場合のコンクリート面から開孔中心までの距離
※寸法は、鉄筋の芯－芯間とする

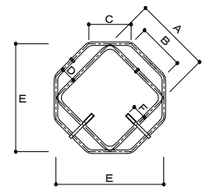
【ダイヤレンＮＳ　標準形状】



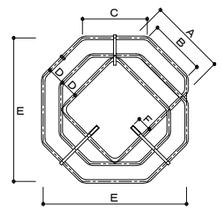
①一筆型
(2重リング)



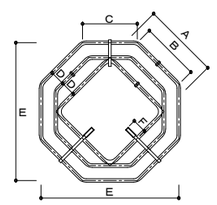
②1箇所溶接型
(2重リング)



③2箇所溶接型
(2重リング)



④1箇所溶接型
(3重リング)



⑤3箇所溶接型
(3重リング)

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	PC梁貫通孔補強材設計・施工標準仕様書		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮　尺	【A1】－　【A3】－	図面番号	S － 94
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和　7　年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号　福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘　要			所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検　印	管理建築士　設　計　製　図		一級建築士	山田　剛	登録番号　登録第310062号
			一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎	登録番号　登録第335522号 第9280号
			一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義	登録番号　登録第173320号 第1058号

梁貫通孔補強材　**梁貫通孔補強材設計・施工標準仕様書**　BCJ評定-RC0124-08，BCJ評定-SS0056-01

2023.11.1作成

1．一般事項

（1）　本仕様書は、ダイヤレンＮＳの標準仕様を定めるものであり、各設計における特記仕様は、本仕様書に優先して適用する。

（2）　本設計仕様に記載のない事項については、建築基準法・同施行令、（一財）日本建築センター及び（一社）日本建築学会の関連する諸指針や諸規準、ダイヤレンＮＳ技術マニュアルによる。

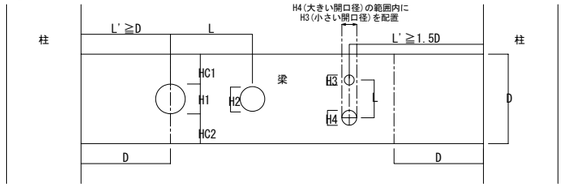
2．使用材料・貫通孔の適用範囲

（1）　各評定の適用範囲

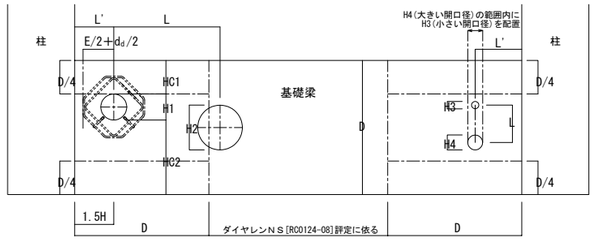
	ダイヤレンＮＳ	ダイヤレンＮＳを用いた基礎梁端部小開口補強
評定番号	[RC0124-08]	[SS0056-01]
対象とする部材	ＲＣ造及びＳＲＣ造の梁	有効な柱梁接合部に接続する非降伏のＲＣ造の基礎梁
コンクリート	Fc＝21N/mm²～100N/mm²	Fc＝21N/mm²～45N/mm²
鉄筋	主筋　：基準強度295～490N/mm²のJIS鉄筋、490を超え685N/mm²以下の大臣認定品 あばら筋　：基準強度295～490N/mm²のJIS鉄筋、490を超え1275N/mm²以下の大臣認定品 ダイヤレンＮＳ：KSS785-K（MSRB-0004）、MK785（MSRB-0067）	
梁せい（D）	－	D≧750mm
開口形状	円形または多角形とする（多角形の場合はその外接円を開口とみなす）	
開口径(外径)（H）	H≦750mm　かつ　H≦D/3	H＜350mm　かつ　H≦D/5
上下に複数開口を設ける場合の合計径（ΣH）	ΣH≦D/3	ΣH≦D/3.75
柱際から開口中心までの距離（L'）	L'≧D 上下に複数開口を設ける場合はL'≧1.5D	L'＜D　かつ　L'≧1.5H　かつ L'≧E/2+d_d/2
隣接する開口の水平及び鉛直方向中心間距離（L）	隣接する開口径の平均値の3倍以上	
へりあき（HC1,HC2）	HC1,HC2≧(E-H)/2+d_d/2+d_w+t_c	HC1,HC2≧(E-H)/2+d_d/2+d_w+t_c　かつ HC1,HC2≧D/4

E：ダイヤレンＮＳのE寸法　　d_w：あばら筋の呼び径
d_d：ダイヤレンＮＳの鉄筋の呼び径　　t_c：コンクリートのかぶり厚さ(40mm以上)

【RC0124-08】



【SS0056-01】



3．開口部あばら筋の配筋要領

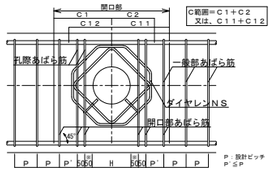
（1）　開口部に配筋されるあばら筋の組数は、開口が無いとした場合に配置されるあばら筋組数以上とする。

（2）　孔際あばら筋は、一般部あばら筋と同径以上かつ同鋼種とする。［SS0056-01］

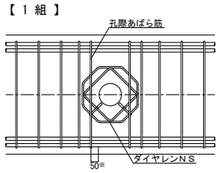
（3）　孔際あばら筋の組数は、下表の標準組数以上とする。

【開口に対して片側に配置する孔際あばら筋の標準組数】

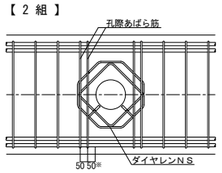
開口径	一般部あばら筋比（pw）	
	1%未満	1%以上
H＜150	1組	2組
150≦H＜300	2組	3組
300≦H	3組	3組



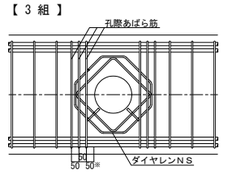
【１組】



【２組】



【３組】

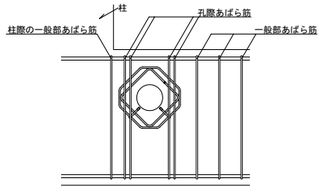


※必要なかぶり厚さを確保した位置とし、標準は50mmとする。

4．仕様規定

（1）　ダイヤレンＮＳの使用枚数は、開口１箇所当たり２枚以上とする。

（2）　柱際には、孔際あばら筋の他、少なくとも１組の一般部あばら筋（第一あばら筋）を配筋する。［SS0056-01］



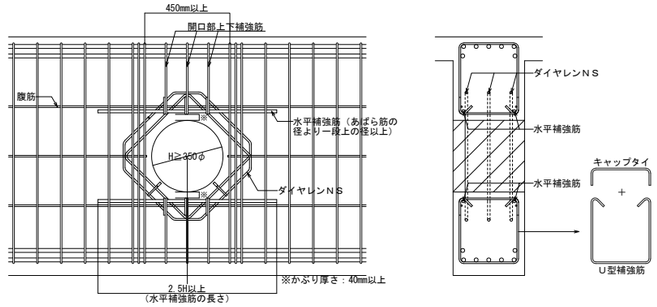
5．開口部上下補強要領（350φ以上の場合）

（1）　開口の左右に配筋する1組目の孔際あばら筋の間隔が梁せいの1/2以上または450mm以上（開口径で350mm以上）になる場合は、開口部上下補強筋と水平補強筋により主筋を拘束するための補強を行う。
ただし、水平力による応力を負担しない梁（小梁等）の場合は梁せいの1/2は考慮しなくともよい。

（2）　開口部上下補強筋は、一般部あばら筋と同径以上かつ同鋼種とし、一般部あばら筋のピッチ以下となるように配筋する。（丸鋼及びインデントは不可）

（3）　形状にはコ型・Ｕ型・Π型等があり、コ型補強筋の梁主筋側の重ね長さは「梁幅-2×かぶり厚さ」または35d以上とし、水平補強筋側（梁内側）の重ね長さは12d以上とする。ただし、梁幅が400mm未満もしくはコ型補強筋の梁主筋側重ね長さが25d（dは鉄筋の呼び径）以下の場合は、Ｕ型またはΠ型の形状で補強を行う。

（4）　水平補強筋は、一般部あばら筋より1段上の径以上とし（SD295A程度）、開口径の2.5倍以上の長さとする。



【開口上下部分の補強要領（Ｕ型補強筋で補強する場合の例）】

6．施工要領例

（1）　型枠上に開口の位置と開口径等を墨出しする。

（2）　補強設計上必要な孔際あばら筋と一般部あばら筋を配筋する。孔際あばら筋は、1組目は必要なかぶり厚さを確保した所定の位置に配置し、2組目以降はそれぞれ50mmピッチで配筋する。孔際あばら筋と一般部あばら筋の間隔は、設計ピッチ以下とする。

（3）　孔際あばら筋を配筋するのが困難な場合は、束ね配筋にすることができる。
（束ね配筋は、2組までは束ねることができるが、3組以上は束ねてはならない。）

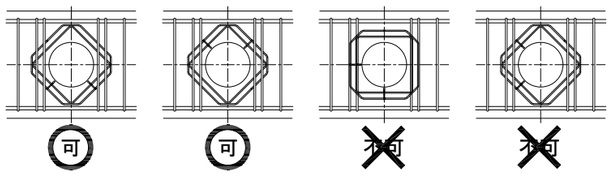
（4）　ダイヤレンＮＳを左右の孔際あばら筋の間から挿入し、孔際あばら筋等に4か所以上結束する。

（5）　スリーブをダイヤレンＮＳのスリーブ受け筋にセットし、針金等で固定する。

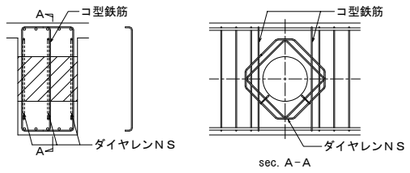
（6）　開口部周囲のそれぞれの鉄筋のかぶり厚さが適正に確保されていることを確認する。

7．施工における注意事項

（1）　ダイヤレンＮＳはあばら筋に対して斜め45度の傾きをもって必要な耐力が期待できるため、下図の「可」の向きになるように施工すること。



（2）　補強設計によって中子筋が無い梁に対して3枚以上のダイヤレンＮＳが必要になった場合は、下図のようにコ型鉄筋等を開口の左右にそれぞれ1本以上配筋し、この鉄筋にダイヤレンＮＳを結束して固定する。



8．ダイヤレンＮＳ標準製品寸法表

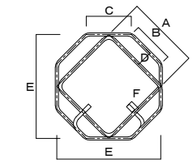
（特記外単位：mm）

スリーブ径（対応径）	型	サイズ	寸法 A	B	C	D	E	F	形状	重量 (kgf/枚)	Ho
100φ (H≦115)	Ⅰ	6	205	115	127	45	289	45	①	0.55	204
	Ⅱ	8	205	115	127	45	289	45	①	0.85	205
	Ⅲ	10	205	95	155	55	289	45	②	1.14	206
	Ⅳ	13	210	80	183	65	296	48	②	2.01	211
	Ⅴ	16	230	100	183	65	325	55	③	3.46	227
	Ⅴ-3R	16	230	154	237	65	455	57	⑤	6.14	292
125φ (H≦141)	Ⅰ	6	230	140	127	45	325	45	①	0.60	222
	Ⅱ	8	230	140	127	45	325	45	①	0.94	223
	Ⅲ	10	235	125	155	55	332	48	②	1.27	227
	Ⅳ	13	240	110	183	65	339	50	②	2.26	232
	Ⅴ	16	240	110	183	65	339	50	③	3.57	234
	Ⅴ-3R	16	240	164	237	65	469	49	⑤	6.31	299
150φ (H≦166)	Ⅰ	6	255	165	127	45	360	45	①	0.66	239
	Ⅱ	8	255	165	127	45	360	45	①	1.03	240
	Ⅲ	10	260	150	155	55	367	47	②	1.38	245
	Ⅳ	13	260	130	183	65	367	47	②	2.41	246
	Ⅴ	16	265	135	183	65	374	50	③	3.88	251
	Ⅴ-3R	16	265	189	237	65	504	49	⑤	6.78	316
175φ (H≦191)	Ⅰ	6	280	190	127	45	395	45	①	0.71	257
	Ⅱ	8	280	190	127	45	395	45	①	1.12	258
	Ⅲ	10	285	175	155	55	403	47	②	1.50	263
	Ⅳ	13	285	155	183	65	403	47	②	2.61	264
	Ⅴ	16	290	160	183	65	410	50	③	4.19	269
	Ⅴ-3R	16	290	214	237	65	540	49	⑤	7.25	334
200φ (H≦216)	Ⅰ	6	305	215	127	45	431	45	①	0.77	275
	Ⅱ	8	305	215	127	45	431	45	①	1.20	276
	Ⅲ	10	310	200	155	55	438	47	②	1.61	280
	Ⅳ	13	310	180	183	65	438	47	②	2.81	282
	Ⅴ	16	320	190	183	65	452	50	③	4.57	290
	Ⅴ-3R	16	320	244	237	65	582	52	⑤	7.82	355
250φ (H≦270)	Ⅰ	6	360	270	127	45	509	45	①	0.89	314
	Ⅱ	8	360	270	127	45	509	45	①	1.40	315
	Ⅲ	10	360	250	155	55	509	45	②	1.83	316
	Ⅳ	13	370	240	183	65	523	50	②	3.29	324
	Ⅴ	16	370	210	226	80	523	50	②	5.31	326
	Ⅴ-3R	16	370	276	292	80	683	50	④	9.11	406
300φ (H≦320)	Ⅰ	6	410	320	127	45	579	45	①	1.01	349
	Ⅱ	8	410	320	127	45	579	45	①	1.57	350
	Ⅲ	10	410	300	155	55	579	45	②	2.05	351
	Ⅳ	13	420	290	183	65	593	50	②	3.69	359
	Ⅴ	16	420	260	226	80	593	50	②	5.93	361
	Ⅴ-3R	16	420	326	292	80	753	50	④	10.04	441
350φ (H≦370)	Ⅰ	6	460	370	127	45	650	45	①	1.12	384
	Ⅱ	8	460	370	127	45	650	45	①	1.75	385
	Ⅲ	10	460	350	155	55	650	45	②	2.28	386
	Ⅳ	13	470	340	183	65	664	50	②	4.09	395
	Ⅴ	16	470	310	226	80	664	50	②	6.55	396
	Ⅴ-3R	16	470	376	292	80	824	50	④	10.98	476
400φ (H≦420)	Ⅰ	8	510	420	127	45	721	45	①	1.92	421
	Ⅱ	10	510	400	155	55	721	45	②	2.50	422
	Ⅲ	13	520	390	183	65	735	50	②	4.48	430
	Ⅳ	16	530	370	226	80	749	55	②	7.31	439
	Ⅳ-3R	16	530	436	292	80	909	55	④	12.11	519
450φ (H≦470)	Ⅰ	8	560	470	127	45	791	45	①	2.10	456
	Ⅱ	10	560	450	155	55	791	45	②	2.73	457
	Ⅲ	13	570	440	183	65	806	50	②	4.88	466
	Ⅳ	16	580	420	226	80	820	55	②	7.94	474
	Ⅳ-3R	16	580	486	292	80	980	55	④	13.04	554
500φ (H≦520)	Ⅱ	10	610	500	155	55	862	45	②	2.95	492
	Ⅲ	13	620	490	183	65	876	50	②	5.28	501
	Ⅳ	16	630	470	226	80	890	55	②	8.56	509
	Ⅳ-3R	16	630	536	292	80	1050	55	④	13.98	589
550φ (H≦570)	Ⅱ	10	660	550	155	55	933	45	②	3.17	528
	Ⅲ	13	670	540	183	65	947	50	②	5.68	536
	Ⅳ	16	680	520	226	80	961	55	②	9.18	545
	Ⅳ-3R	16	680	586	292	80	1121	55	④	14.92	625
600φ (H≦630)	Ⅱ	10	720	610	155	55	1018	45	②	3.44	570
	Ⅲ	13	730	600	183	65	1032	50	②	6.16	579
	Ⅳ	16	750	590	226	80	1060	60	②	10.07	594
	Ⅳ-3R	16	750	656	292	80	1220	60	④	16.24	674
650φ (H≦680)	Ⅱ	10	770	660	155	55	1088	45	②	3.67	605
	Ⅲ	13	780	650	183	65	1103	50	②	6.55	614
	Ⅳ	16	800	640	226	80	1131	60	②	10.69	630
	Ⅳ-3R	16	800	706	292	80	1291	60	④	17.17	710
700φ (H≦730)	Ⅱ	10	820	710	155	55	1159	45	②	3.89	641
	Ⅲ	13	830	700	183	65	1173	50	②	6.95	649
	Ⅳ	16	850	690	226	80	1202	60	②	11.32	665
	Ⅳ-3R	16	850	756	292	80	1362	60	④	18.11	745
750φ (H≦750)	Ⅱ	10	870	760	155	55	1230	45	②	4.11	676
	Ⅲ	13	880	750	183	65	1244	50	②	7.35	685
	Ⅳ	16	900	740	226	80	1272	60	②	11.94	700
	Ⅳ-3R	16	900	806	292	80	1432	60	④	19.05	780

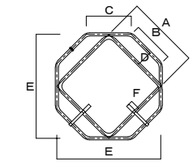
※対応径は、スリーブ面とダイヤレンＮＳ内リング筋の内側面までのかぶり厚さを40mmとした場合の開口外径
※表中Hoは、かぶり厚さ40mm、あばら筋16mmとした場合の梁上下端から開口芯までの距離
※寸法は、鉄筋の芯－芯間とする

【ダイヤレンＮＳ　標準形状】

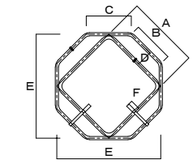
①一筆型（2重リング）



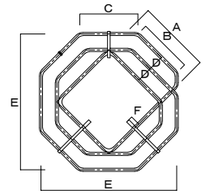
②1箇所溶接型（2重リング）



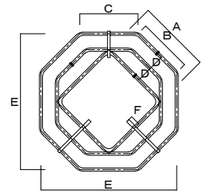
③2箇所溶接型（2重リング）



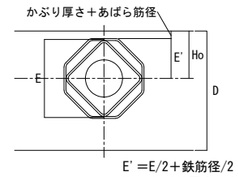
④1箇所溶接型（3重リング）



⑤3箇所溶接型（3重リング）



【へりあきの最小寸法】
ダイヤレンＮＳを使用した場合の梁上下端から開口芯までの距離（Ho）を左表に示す。
（かぶり厚さ40mm、あばら筋径を16mmと仮定した数値）



E'＝E/2＋鉄筋径/2
Ho＝かぶり厚さ＋あばら筋径＋E'

【型式の表記について】
Ⅴ-3R　⇒　Ⅴ（型式）-3R（リング形状※）
※リング形状は「2R（2重リング）」と「3R（3重リング）」
（上記の形状①～⑤）があり、3Rの表記以外は2Rとする。

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）		図面名称	梁貫通孔補強材設計・施工標準仕様書	
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9		縮　尺	【A1】－　【A3】－	図面番号　S － 95
発注機関	沖縄県北部医療組合		設計者	JV名称	内藤・ＡＲＧ・設備研究所設計共同体
工事年度	令和　7　年度			代表企業	株式会社内藤建築事務所　登録番号　福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘　要				所 在 地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16
検　印	管理建築士	設　計	製　図	一級建築士	山田　剛　登録番号　登録第310062号
				一級建築士 構造設計一級建築士	末吉　謙太郎　登録番号　登録第335522号 第9280号
				一級建築士 設備設計一級建築士	丸山　茂義　登録番号　登録第173320号 第1058号